

ヤチスギラン *Lycopodiella inundata* (L.) Holub

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。愛知県の湧水湿地を特徴づける寒冷地性植物の一つで、分布域の南限に近い。生育地に対する開発圧力も高い。

【形態】

ほとんど夏緑性の多年生シダ植物。ヒカゲノカズラの類であるが、茎も葉もやわらかい。匍匐茎は地表をはい、まれに分岐し、長さ 20cm 以下、葉を含めて直径 4~6mm、まばらに根を出す。葉はらせん状にやや密につき、線形、長さ 5~6.5mm、幅 0.5~0.7mm、先端は鋭尖頭である。直立茎は高さ 4~13cm、胞子のう穂は直立茎の先端に通常 1 個つき、長さ 2~4cm、胞子葉はやや開出し、狭線形、基部は広く、先は細くとがる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 83152, 2008-9-6）、11 作手（芹沢 53218, 1989-9-9）。西：23 藤岡（塚本威彦 1624, 1995-8-16）。尾：37a 瀬戸（芹沢 75876, 1999-7-4）、45 犬山（芹沢 57002, 1990-9-12）。27 みよし（黒笹, 芹沢 52537, 1989-8-1）にもあったが絶滅した。他にもすでに絶滅した区画があるかもしれない。大原・千賀（1985）によれば 30 岡崎南部（池金町）にもあったというが、裏付けの標本はない。

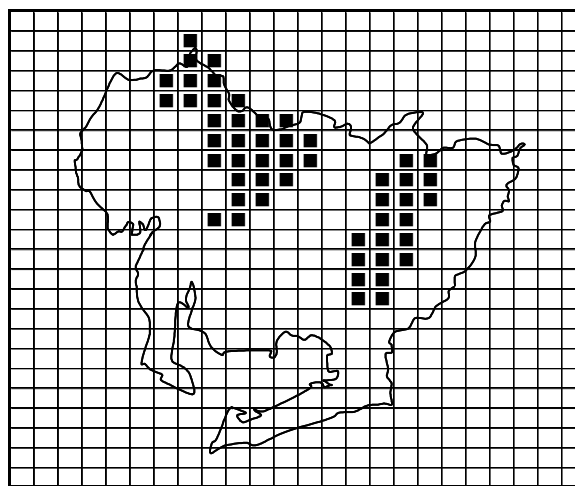
【国内の分布】

北海道および本州（近畿地方中部以北）に分布する。温暖な東海地方の低地に、ミズスギのような熱帯系の植物と並んで生育しているのは、特に注目される。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養の湿地に生育する植物で、愛知県では湧水湿地の裸地状の場所に見られることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

旧作手村と瀬戸市には比較的多いが、他の場所では生育地も個体数も極めて少ない。開発の影響がない場所では良好に生育しているが、設楽西部の 1 カ所（標本：芹沢 56866）では生育地の湿地が埋め立てられて絶滅し、みよし市でも湿地の水源部が工場用地として造成され、湿地が乾燥して絶滅した。瀬戸市でも、一部の自生地は国道工事等のため破壊された。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。

【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市植物目録. 新編岡崎市史 14 p.428. 岡崎市.

【関連文献】

保シダ p.14, 平シダ p.48, 学シダ I p.263, SOS 旧版 p.35+図版 18, SOS 新版 p.99,100.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 68-71. 東京大学出版会, 東京.

エゾノヒメクラマゴケ *Selaginella helvetica* (L.) Spring

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 3、総点 15。愛知県では極めて希少な寒冷地性の植物で、分布域の南限にあたり、しかも標高 1000m 以下の場所に生育している。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。主茎は匍匐し、長さ 5~10cm、よく分岐してマット状になり、幅は葉を含めて約 3mm、黄緑色でやわらかい。葉は 4 列に並び、卵形で鈍頭の腹葉と、狭卵形で鋭頭の背葉の 2 形があり、腹葉の長さは 1~1.5mm である。直立茎は高さ 2~8cm になり、卵形の葉がまばらにつく。胞子のうは直立茎先端部の葉腋につき、胞子のう穂はあまりはつきりしない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (芹沢 76208, 1999-8-29)。  
1 カ所に小群落がある。

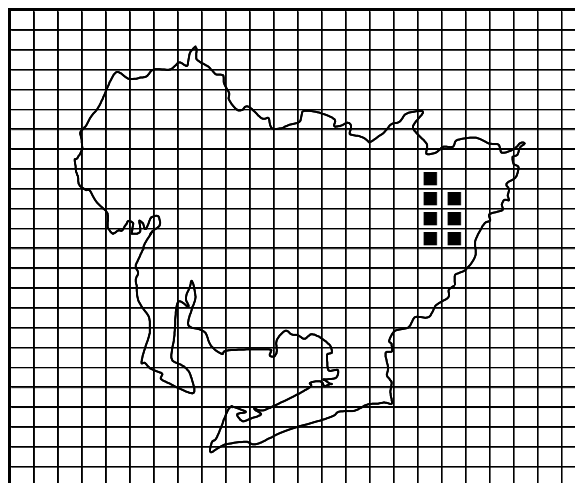
【国内の分布】

北海道、本州 (静岡県、長野県以北) に分布し、滋賀県、京都府、鳥取県にもある。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は亜高山帯、高山帯の湿った岩かげに生育しているが、愛知県での生育地はやや乾燥した岩上である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

急峻な地形のため十分に調査されていないが、確認できたのは 20cm 四方ほどの小群落にすぎなかった。当面開発が想定される場所ではないが、何かの事情があれば容易に絶滅してしまう。

【保全上の留意点】

遊歩道の改修などに際しては、特に注意が必要である。

【特記事項】

愛知県のものは、本種としては葉が比較的大きい。

【関連文献】

保シダ p.18, 平シダ p.53, 学シダ I p.273.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 134-138. 東京大学出版会, 東京.

シチトウハナワラビ *Sceptridium atrovirens* Sahashi

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。本州南部～九州に分布するシダ植物で、愛知県は分布域の北限に当たる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く直立する。葉は年に 1 枚、秋に出て翌夏まで残存する。共通柄は長さ 3.5～7cm、栄養葉は長さ 5～12cm の柄があり、葉身は五角形、長さ 9～13cm、幅 11～18cm、3 回羽状浅裂～4 回羽状中裂、オオハナワラビより鮮やかな緑色である。孢子葉は長さ 13～15cm の柄があり、葉身は長さ 6～7cm、幅 4cm 程度、2～3 回羽状に切れ込む。孢子は 10 月下旬～11 月に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部 (芹沢 83802, 2008-11-2)。  
尾：37b 尾張旭 (芹沢 85210, 2009-10-18)。  
尾張旭のものは、葉の切れ込みが深く葉縁の鋸歯が鋭い、モトマチハナワラビと呼ばれている型である。

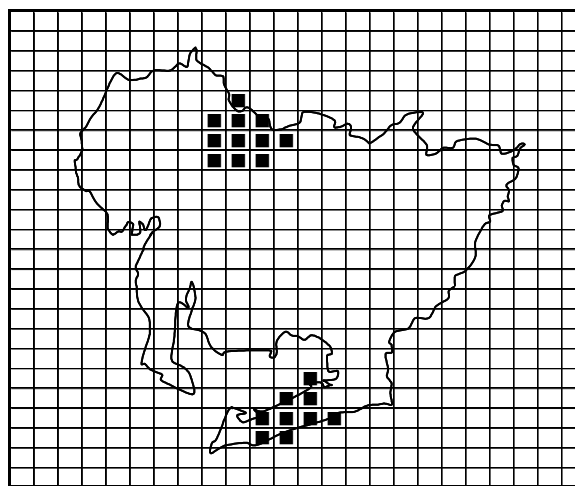
【国内の分布】

本州 (伊豆諸島、愛知県、紀伊半島)、四国および九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

尾張旭の生育地はやや平坦な二次林内である。田原東部では沢沿いの造林地内に生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

尾張旭では、森林公園内の 1 カ所に、オオハナワラビと混生して、約 20 株の小群落がある。何かが植栽されている場所ではないので、本来の自生と思われる。田原では数株が生育していただけである。

【保全上の留意点】

田原は社寺境内、尾張旭は森林公園内なので、生育地は将来とも保全されると思われる。

【特記事項】

オオハナワラビに似ているが、葉の共通柄が長いことで区別される。

【関連文献】

平シダ p.67 (*Botrychium atrovirens* として), 学シダ I p.293.

**チチブホラゴケ** *Crepidomanes schmidtianum* (Zenker ex Taschner.) K.Iwats.

**【評価理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。日本から中国大陸南部にかけての湿潤な山地に分布の中心をもつ、いわゆる日華区系の植物。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

**【形態】**

小型の常緑性多年生草本。根茎は長くはい、褐色の毛を密につけ、根をまばらに生じる。葉身は 2 回羽状深裂し、形や大きさは変異が大きく、小さいものは三角状の卵形、大きいものは卵状披針形、長さ 1.5~7cm、幅 1~3cm、裂片の幅は 1.5mm 程度で隣接のものと重なり合うことが多い。胞子のう群は基部近くの短い側羽片に頂生し、包膜はコップ状である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：3 東栄 (小林 56444, 1995-4-27)、4 津具 (小林 83652, 2004-10-27)。各 1 カ所に小群落があるという。

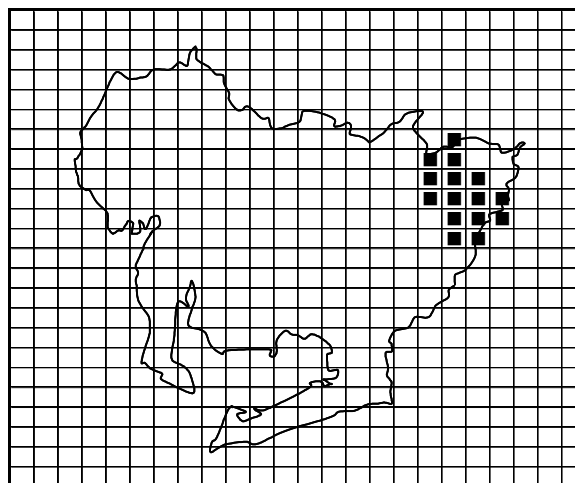
**【国内の分布】**

本州 (福島県、関東地方北部および西部、中部地方中部、紀伊半島)、四国 (徳島県、高知県)、九州 (中部)。

**【世界の分布】**

日本、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

深山の沢沿いの林内にある陰湿な岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

愛知県の 2 産地はどちらも生育状況が悪く、ほとんど胞子のう群をつけていないらしい。森林の伐採や土石流による消滅が危惧される。

**【保全上の留意点】**

沢沿いの森林を保全し、空中湿度の高い状態を維持しなければ、本種の存続は望めない。

**【特記事項】**

一見したところアオホラゴケに似ており、最近まで日本固有種と考えられていた。

**【関連文献】**

保シダ p.46, 平シダ p.87, 学シダ I p.313.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 66-69. 東京大学出版会, 東京.

タキミシダ *Antrophyum obovatum* Baker

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 15。全国的に見て、もともと希少な上に減少傾向の著しい植物である。愛知県でも個体数が少なく、また園芸目的の採取圧が高い。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は暗緑色～暗褐色で長さ 2～8cm、葉身は倒卵形～楕円形で単葉、通常長さ 5cm 以下だが稀には 15cm に達し、革質で緑色、先端は鈍頭～鋭頭、時に浅く 2～3 裂し、基部はくさび形、葉脈は網状に結合し、葉の中肋ははっきりしない。胞子のう群は脈のくぼみに線状につき、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部（芹沢 59897, 1991-8-24）、8 鳳来北東部（村松正雄 27078, 2013-9-22）、9 鳳来南部（小林 49303, 1993-11-3）。西：20 足助（堀田喜久 2243, 1991-7-24）、24 豊田東部（芹沢 76632, 1999-11-10）。15 豊橋北部（嵩山町, 芹沢 42795, 1985-10-27）にもあったが、消失した。12 新城（鳥原, 加藤等次 s.n., 1966-1-6）で採集された標本もある。

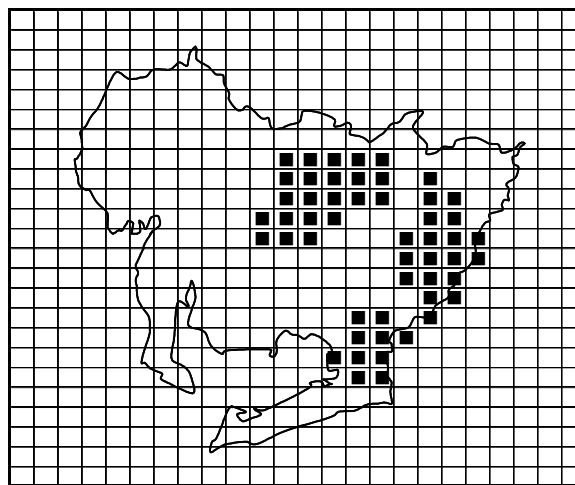
【国内の分布】

本州（富山県、千葉県以西）、四国、九州に生育するが、もともとあまり多くない上に園芸目的で集中的に採取され、どの場所でもほとんど絶滅状態である。

【世界の分布】

日本、中国大陸からインドシナ半島、マレーシアにかけて広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの薄暗い岩上。空中湿度の高い場所に生育しているが、岩そのものは湿潤でないことも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内でも希少な種類であるが、それでも全国的に見れば、愛知県は本種の主要な産地の一つである。葉長 35cm に達する大形の個体が発見されたこともあるが、大部分は葉長 10cm 以下である。森林伐採の影響も皆無ではないが、それよりはるかに深刻なのは園芸目的の採取である。豊橋北部では道沿いに 1 株だけ生育しており、古い葉を 1 枚採取しただけで見守っていたが、何者かに採取されて消失した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

タキミシダ属は旧世界の熱帯を中心に約 40 種が知られており、本種は其中で最も北まで分布している。

【関連文献】

保シダ p.168, 平シダ p.128, 学シダ I p.389, 環境庁 p.198, SOS 旧版 p.37, SOS 新版 p.27,28.  
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 744-747. 東京大学出版会, 東京.

ミカワイワガネ *Coniogramme* sp.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。現在のところ愛知県と岐阜県に固有の未記載のシダ植物。県内では 3 区画の各 1 カ所に生育しているだけで、個体数も少ない。

【形態】

夏緑性または半常緑生の多年生草本。根茎は横にはい、直径 5~7mm である。葉は 1~3cm 間隔で出て、葉柄は帯緑色で長さ 35~70cm、葉身は広三角状卵形、長さ 60~80cm、幅 45~65cm、2 回羽状に切れ込むが、最下羽片の下側第 1 小羽片は時に 1 個の側裂片をつけることもある。葉片は切れ込まず、披針形、長さ 10~30cm、幅 1.8~5cm、先端は鋭尖頭でやや尾状に伸び、辺縁は細鋸歯縁、中~下部の葉片は基部が広くさび形~切形でしばしば両側に小突起を出す。葉脈はまばらに結合する。胞子のう群は葉縁部 1~5mm を除く葉脈上に長くつき、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：19 旭（芹沢 87222, 2011-8-7）、21 下山（芹沢 86043, 2010-7-27）、25 豊田北西部（芹沢 86431, 2010-10-6）。

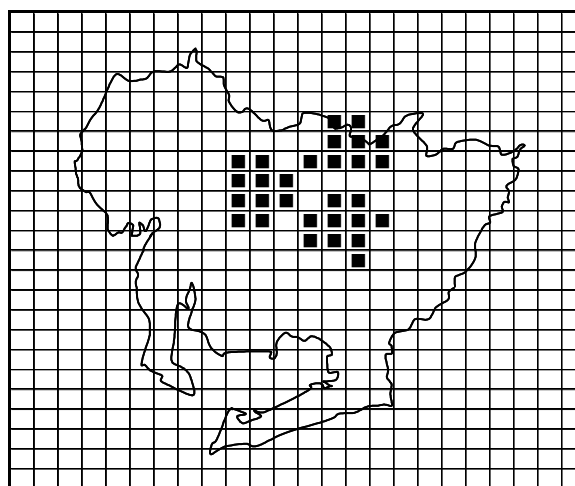
【国内の分布】

本州（愛知県と岐阜県南東部）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿い斜面の、腐植質の多いやや湿った林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊田北西部では一つの沢の上流部に点在しているが、多いものではない。旭では 300m ほど離れた 2 カ所、下山では 1 カ所に生育しているだけである。

【保全上の留意点】

現在の生育地の多くは造林地であるが、さしあたりその林を保全することが必要である。

【特記事項】

葉脈がまばらに結合する点でイワガネソウとイワガネゼンマイの雑種とされるイヌイワガネソウ *C. × fauriei* Hieron. に似ているが、胞子は正常で、雑種性の植物ではない。現在のところ豊田市の 3 カ所と岐阜県多治見市の 1 カ所で確認されているだけであるが、ていねいに探索すれば新しい産地が追加される可能性はある。

【関連文献】

阿萬朱未・加藤淳太郎・芹沢俊介. 2011. 日本産イワガネソウ属の再検討(2)イヌイワガネソウの核 DNA 含量. シデコブシ 2:41-46.

ナカミシシラン *Haplopteris fudzinoi* (Makino) E.H.Crane

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。日本から中国大陸南部にかけての湿潤な山地に分布の中心をもつ、いわゆる日華区系の植物。愛知県では生育地が少なく、また自然度の高い場所に限定されている。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く匍匐し、線状披針形、灰褐色～暗褐色で格子状の鱗片を密につける。葉は接近してつき、葉柄ははっきりせず、葉身は線形の単葉、先端に向けて次第に狭くなり、長さ 25～45cm、幅 3～5mm、厚くて肉質、葉の表面の中肋両側には 2 本の明瞭な溝がある。胞子のう群は葉縁と中肋の中間の浅い溝につく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 80173, 2005-8-28）。  
西：5 稲武（芹沢 30773, 1979-10-28）、19 旭（日比野修 1314, 1993-6-12）。ただし稲武と旭はほぼ絶滅状態である。

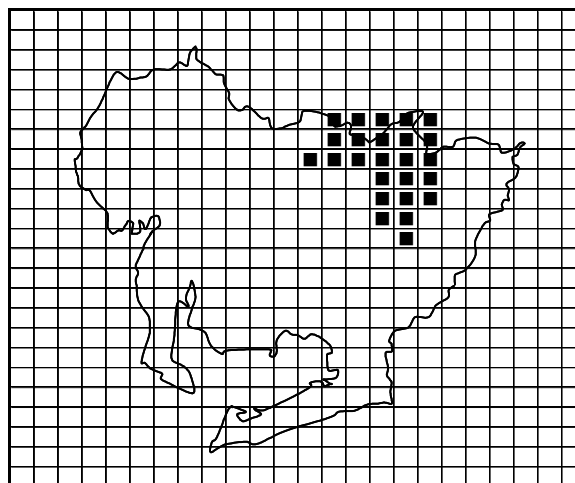
【国内の分布】

本州（東京都奥多摩および中部地方以西）、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本および中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの、岩上や樹幹に着生する。通常は深山の空中湿度の高い場所に限られている。愛知県では岩上に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

一般に小群落を作っている。稲武には大きな群落があったが、森林が伐採されたため、ほとんど絶滅状態になってしまった。

【保全上の留意点】

渓谷林の保全に、特に配慮する必要がある。

【特記事項】

シシランに比べ、葉は細くて厚く、表面に 2 本の溝がある。和名は、胞子のう群が葉縁の内側につくからである。

【関連文献】

保シダ p.169, 平シダ p.130, 学シダ I p.389, SOS 旧版 p.38.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 766-769. 東京大学出版会, 東京.

マツザカシダ *Pteris matsuzaka* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。分布域の北限になる植物で、愛知県では集団数も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。胞子のう群をつけない葉の葉柄は長さ 10~30cm、葉身は単羽状複葉、側羽片は 1~3 対、頂羽片は長さ 10~15cm、幅 2~2.5cm、表面には顕著な白斑があり、長さ 5~7mm の柄がある。胞子のう群をつける葉はより大きく、側羽片、頂羽片は幅が狭い。胞子のう群は葉縁に沿って長くつき、膜質の偽包膜で覆われる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部 (小林 43433, 1993-11-7)。  
西：25 豊田北西部 (芹沢 92662, 2017-7-19)。

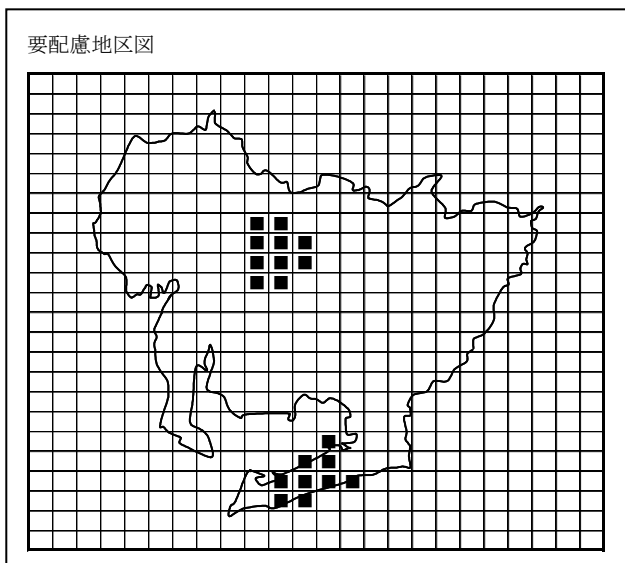
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州、琉球 (徳之島、沖縄本島)。

【世界の分布】

日本固有種。ただし園芸植物として広く植栽されているため、他に逸出帰化している場所もあるらしい。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

琉球では石灰岩地に生育するが、九州本土以北では石灰岩地のほか、やや乾いた林床や路側の崖状地などにも生育している。特別な環境に生育するわけではないが、それでいてあまり見かけない植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

田原東部は小群落があったという話だが、近況は確認されていない。豊田北西部は 1 株あっただけで、やや偶産的である。林の伐採や園芸目的の採取が危惧される。

【保全上の留意点】

現況確認が先決だが、おそらくは個別的な保全が必要である。

【特記事項】

琉球列島のものと日本本土のものは、多少形態が異なる。上記の形態は、愛知県の材料についてのものである。和名は白斑の入った葉を松坂帯に見たてたもので、松阪市 (「まつさか」と読む) の地名に直接由来するものではない。ナカガワシダ *P. nipponica* Shieh (和名はあと一步で松阪という意味で、上記のことを承知の上での冗談である) は頂羽片に長い柄があり、葉表の白斑が顕著でないもので、愛知県では東：3 東栄 (芹沢 84300, 2009-6-27)、8 鳳来北東部 (芹沢 54845, 1991-8-24)、9 鳳来南部 (芹沢 83825, 2008-11-6)、12 新城 (芹沢 87146, 2011-7-3)、15 豊橋北部 (村松正雄 26356, 2012-5-3)、尾：44b 南知多 (芹沢 87536, 2011-10-25) などで採集されている。

【関連文献】

保シダ p.58, 平シダ p.68, 学シダ I p.378.



**エビラシダ** *Gymnocarpium oyamense* (Baker) Ching

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に見ても希少な深山性の植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少なく、しかも伐採等の影響で減少傾向にある。

**【形態】**

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、横走する。葉柄は細く、淡緑色またはわら色で長さ 12~25cm、葉身は葉柄に傾いてつき、三角状卵形で単羽状深裂、長さ 10~20cm、幅 6~15cm、先端は鋭頭、葉質は草質で淡黄緑色、羽片は最下のものが最も大きく、長さ 4~7cm、幅 1.2~2cm、下側は羽状に浅裂~中裂する。孢子のう群は円形~楕円形で、包膜はない。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：1 富山 (芹沢 82084, 2007-8-25)。2 カ所に少数株が生育しているだけである。西：5 稲武 (大野瀬, 村松正雄 19883, 2000-8-27) にもあったが絶滅した。

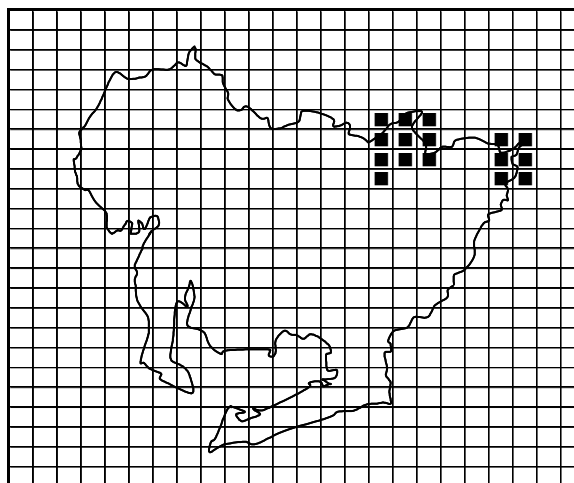
**【国内の分布】**

本州 (関東地方~近畿地方) および四国の深山に生育するが、稀である。

**【世界の分布】**

日本からヒマラヤ、ニューギニア、フィリピンにかけて分布する。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

沢沿いの湿った岩崖地などに生育することが多い。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

2 カ所とも個体数は少ない。川岸のものは岩場の崩壊や増水による流出、川岸からやや離れた場所のものは森林の伐採により失われるおそれがある。岩の下部に生育しているものは、ニホンジカによる食害も懸念される。稲武では、生育していた崖が崩落して絶滅した。

**【保全上の留意点】**

流域全体の森林の保全が必要である。園芸目的で採取されるおそれがあるため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**

葉身が葉柄に対して直角に近い角度でつくので、ジクオレシダと呼ばれることがある。

**【関連文献】**

保シダ p.114, 平シダ p.229, 学シダ I p.405, SOS 旧版 p.41.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 660-664. 東京大学出版会, 東京.

カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Baker

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。愛知県は本種が初めて発見された場所であり、岐阜県と共に太平洋側の分布の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 2~8cm、紫~茶褐色で光沢があり、繊細で折れやすい。葉身は線形~狭披針形、単羽状に切れ込み、長さ 7~20cm、幅 1.5~3.5cm、羽片は無柄で、基部前側に耳状突起があるため、三角状長楕円形になる。羽片の辺縁は羽状に中~深裂する。胞子のう群は長楕円形~線形で、各羽片に数個つく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 77538, 2003-1-3)、尾：45 犬山 (芹沢 44807, 1986-9-26)。2 カ所に少数個体が生育しているだけである。岐阜県南部には点在している。

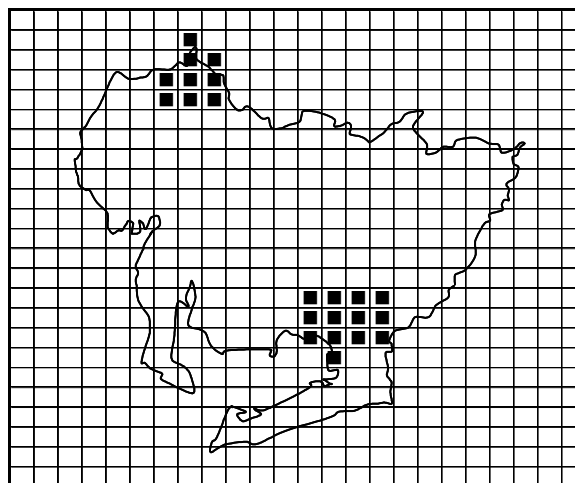
【国内の分布】

本州 (新潟県、岐阜県以西)、四国、九州、琉球 (徳之島) に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は林内の岩上に生育し、葉の先端につく無性芽で栄養的に繁殖して群落を作る。豊川では、ヒノキ林の地上に生育していたという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

各 1 カ所に小群落があるだけで、個体数も少ない。犬山では周辺が採石場として開発されており、それによる林内の乾燥が、衰退の主要因と思われる。近縁のヌリトラノオ *A. normale* D. Don との自然雑種と推定されるアイヌリトラノオは、周辺に比較的多く生育している。

【保全上の留意点】

採石場を拡大せず、生育地の森林を保全することが必要である。よく知られた場所であるが、歴史的に重要な生育地であり、マニアに採集されるおそれもあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、京都の上賀茂に因む。愛知県の発見地に因む名もあるが、一般には使用されない。

【関連文献】

保シダ p.148, 平シダ p.149, 学シダ I p.413, SOS 旧版 p.38, SOS 新版 p.34,36.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 120-123. 東京大学出版会, 東京.

## ヒノキシダ *Asplenium prolongatum* Hook.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は緑色、長さ 5~10cm、基部に早落性の鱗片をつける。葉身は狭長楕円形から披針形、2~3 回羽状複生、長さ 10~20cm、幅 2~3cm、葉軸の先端はつる状に伸びて先端に芽をつける。羽片は 10~15 対、小羽片は単生か 2~3 個に切れ込む。裂片は線形、鈍頭で幅 1.5mm 程度である。孢子のう群は各裂片に 1 個ずつつく。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (加藤等次 s.n., 1992-3-7)。1 カ所に小群落がある。

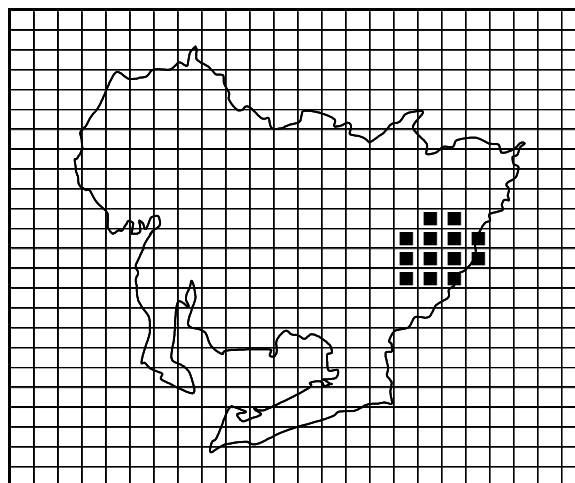
#### 【国内の分布】

本州 (伊豆半島、静岡県西部、愛知県、紀伊半島)、四国南部、九州。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国、ベトナムから、インド、スリランカにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内の岩上に生育する。つるを伸ばして無性的に繁殖するため、しばしば群落を作る。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県のは小群落で、葉は大きいもので葉柄を含め 25cm 程度。現地は当面開発の心配はなさそうだが、園芸目的で採取される可能性は高い。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【関連文献】

保シダ p.150, 平シダ p.145, 学シダ I p.410, SOS 旧版 p.39.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 134-138. 東京大学出版会, 東京.

コタニワタリ *Asplenium scolopendrium* L.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。温帯性で日本海側に多い植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 3~12cm、褐色~暗褐色でやや密に鱗片がある。葉身は単葉で披針形、長さ 12~50cm、幅 3~6cm、先端は鋭頭、下部はやや狭くなり、基部は心形で両側に耳片をつくる。葉質はやや多肉質で緑色、下面に鱗片がある。葉脈は遊離し、先端は辺縁に達しない。胞子のう群は線形で長さ 4~18mm、中肋の両側にならんでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 76237, 1999-8-30）、  
11 作手（加藤等次 4527, 1994-2-8）。

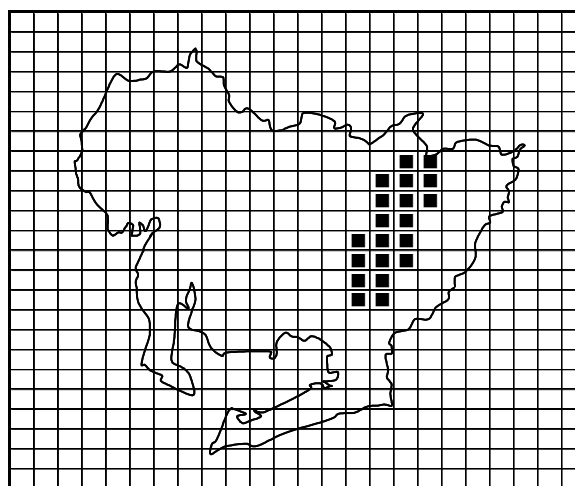
【国内の分布】

北海道から九州までの温帯域に生育するが、本州中部以西の太平洋側では少ない。日本海側では比較的多く見られる種類である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内の地上や岩上に生育する。愛知県では 2 カ所とも古い石垣に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

作手は小群落だが、設楽西部は小株が 1 株あっただけで偶産的である。現在のところ特に減少しているわけではないが、道路の拡幅等により石垣が改修されれば絶滅する。また、園芸目的の採取、伐採、鉄砲水などで消滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

道路の改修に際しては、特に注意が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保シダ p.153, 平シダ p.142, 学シダ I p.409, SOS 旧版 p.39.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 174-183. 東京大学出版会, 東京.

テンリュウヌリトラノオ *Asplenium shimurae* (H.Ito) Nakaike

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。分布域の東限に近い植物で、愛知県では集団数も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 2~6cm、紫褐色である。葉身は線形、長さ 10~20cm、幅 1.5~3cm、単羽状複葉、側羽片は 20~40 対で、長さ 8~15mm、幅 3~5mm、ほとんど無柄、基部前側はやや耳状になり、辺縁には鈍鋸歯がある。中軸は紫褐色で、先端近くに 2~数個の無性芽をつける。無性芽をつけない小さい葉の先端は、やや頂羽片状になる。胞子のう群は各羽片上半部の中肋と辺縁の中間に 1~3 対つき、長さ 1.5~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（芹沢 93815, 2017-11-20）。

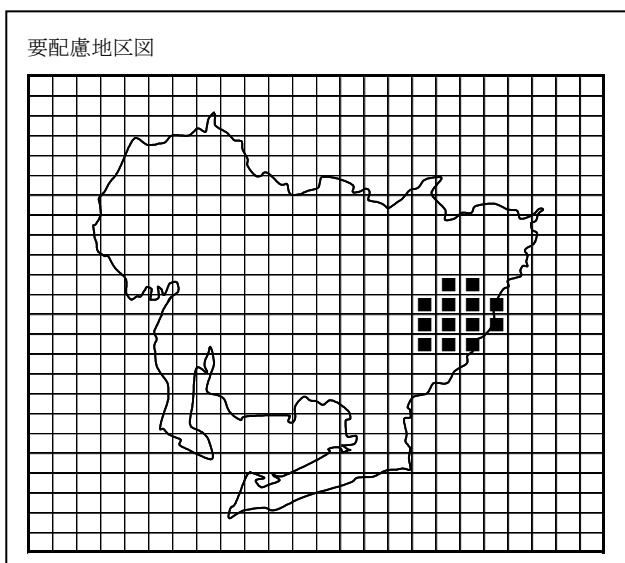
【国内の分布】

本州（静岡県、福井県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸、ネパール。ハワイにも近縁種（同種という見解もある）があるという。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿い林内の湿った岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2019 年の調査では、1m<sup>2</sup>ほどの範囲に葉長 15~18cm の胞子のう群をつけた株が数株、幼株を含めると約 20 株（個体数階級は繁殖可能な個体だけを数えるので 4）が生育していた。ただし現地は急峻な地形の場所なので、他にも集団があるかもしれない。また近くの間所からは、「3 群落数十株が生育していた」（小林 2019）という報告もある。しかし、多少他の集団が見つかったとしても、また報告の同定が正しかったとしても、繁殖可能な個体が 100 を越えることはない（この範囲なら個体数階級 3、総点 14 で、絶滅危惧 I B 類という評価は変わらない）と思われる。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

県境近くの静岡県側では以前から知られていて、愛知県内にも生育していないかと探していた植物である。

【引用文献】

小林元男. 2019. 愛知県民の森の植物 p.24. 愛知公園協会, 新城.

【関連文献】

平シダ p.150, 学シダ I p.413.

ヨコグラヒメワラビ *Thelypteris hattorii* (H.Ito) Tagawa

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 14。西南日本の深山に生育する日華区系の種で、三河山地は木曾谷の下部とともに、分布域の東限にあたる。県内の生育地も少ない。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短くはい、先端に少数の葉をつける。葉柄は長さ 17~35cm、わら色か淡緑色で、全面に単細胞の短毛がある。葉身は三角状卵形、3 回羽状中~深裂、長さ 20~40cm、幅 15~30cm、最下羽片には通常ははっきりした柄がある。胞子のう群はやや辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 83429, 2004-10-23)、4 津具 (芹沢 74837, 1998-8-22)、6 設楽西部 (芹沢 89591, 2014-9-6)。鳳来 (区画不明) と 11 作手にもあるという (小林 2000)。どの区画でも生育地は 1~2 カ所である。

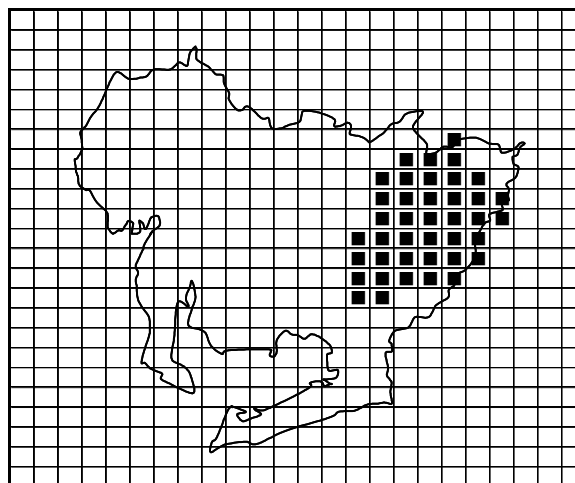
【国内の分布】

本州 (長野県西部、愛知県以西)、四国、九州に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の腐植質の多い林床。生育地のほとんどは、自然度の高い森林である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

一般に群落を作らず、少数の個体がまばらに生育しているだけである。よく育った個体が全くないわけではないが、大部分は葉身の長さが 20cm 程度かそれ以下の個体である。第二次大戦後の自然林が広範囲に伐採された時代に激減したものと思われ、現在でも森林の伐採により減少傾向にある。ニホンジカによる食害も深刻で、津具ではほとんど消失してしまったらしい。

【保全上の留意点】

山地の自然林やよく発達した二次林の保全が必要である。

【特記事項】

和名は最初の発見地である高知県横倉山に因む。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.71. 愛知県, 名古屋.

【関連文献】

保シダ p.112, 平シダ p.213, 学シダ I p.434, SOS 旧版 p.40.  
倉田 悟・中池敏之 (編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 578-581. 東京大学出版会, 東京.

**オオカグマ** *Woodwardia japonica* (L.f.) J.Sm.

**【評価理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。西日本系のシダ植物で、愛知県は分布域の東限になる。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

常緑性のシダ植物。根茎は太くて短く、横にはうか斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 50cm に達し、基部に褐色、披針形で長さ 2cm 以上になる大形の鱗片を密生するが、上部では鱗片は小さく、またややまばらになる。葉身は長楕円形～細い卵形、長さ 75cm、幅 30cm に達し、2 回羽状中裂して革質、葉身の先端部は急に狭くなってやや頂羽片状になる。側羽片は 15～18 対、幅 2～3cm、先端は鋭尖頭、基部は無柄、裂片は斜三角状で鈍頭、葉脈は網状である。胞子のう群は裂片の中肋に沿った葉脈に内向きにつき、長さ 2～4mm、蓋状の包膜がある。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

西：23 藤岡 (芹沢 84747, 2009-8-23)。発見者は畑佐武司氏である。

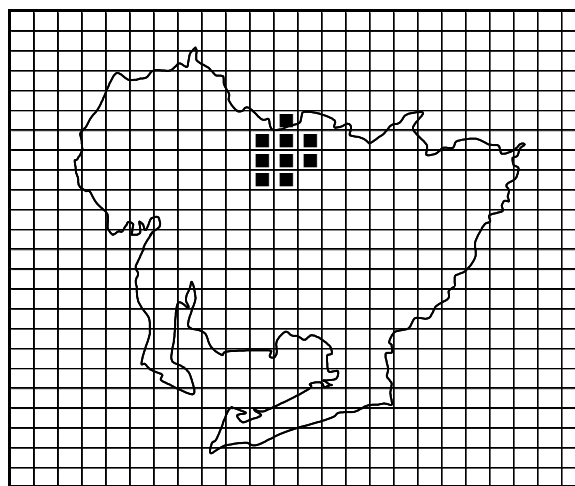
**【国内の分布】**

本州 (愛知県以西)、四国、九州に分布するが、山口県、高知県西部と九州以外では稀である。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島 (済州島)、台湾、中国大陸、インドシナ、ミャンマー。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

愛知県での生育地は、どこにでもありそうなやぶ状の若い二次林内である。九州でも造林地や人里周辺のやぶ状の場所などにも生育していて、特殊な環境でなければ生育できない植物ではない。沢近くから尾根筋まで見られるが、あまり湿潤な場所には生育しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

1カ所に4株 (ただし、もともとは1株だったかもしれない) がまとまって生育している。現在のところ周辺に子株は見られない。比較的近年になって愛知県に分布を拡大してきた植物と思われ、そのため特に減少要因となるようなものは見当たらない。

**【保全上の留意点】**

個体数が少なく、また道路に近い場所に生育しているので、偶然の変動や道路の拡幅で失われる可能性がある。個別的な配慮が必要である。

**【特記事項】**

コモチシダと異なり、林床性の植物である。

**【関連文献】**

保シダ p.145, 平シダ p.156, 学シダ I p.460.  
倉田悟・中池敏之 (編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 706-713. 東京大学出版会, 東京.

ニセコクモウクジャク *Diplazium conterminum* H.Christ

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 14。暖地性の植物で、愛知県は分布域の東限に近い。愛知県では個体数が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は横走し、少数の葉をつける。葉柄は長さ 30~50cm、下部に黒褐色の鱗片がつく。葉身は三角形~卵状三角形、2回羽状複生し、長さ、幅ともに 30~75cm、下部の羽片には長い柄がある。小羽片は披針形~三角状披針形、基部は切形のものが多く、短い柄があり、羽状に浅裂~中裂する。裂片は円頭で小脈は分岐しない。胞子のう群は長楕円形~短い線形、裂片の辺縁よりにつき、包膜は胞子のう群を包みこむ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 77453, 2002-12-22)、15 豊橋北部 (芹沢 90885, 2015-11-7)。西：31 幸田 (村松正雄 26734, 2013-3-26)。各 1カ所に少数株が生育している。

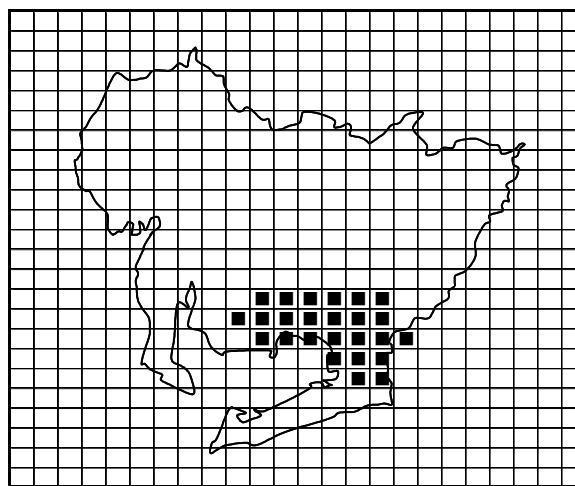
【国内の分布】

本州 (伊豆半島、愛知県、紀伊半島)、四国南西部、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸南部、ベトナム、タイ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の低山地の、沢沿いの林内に生育する。愛知県の生育地は、沢沿いの造林地内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があるだけで、森林の伐採、土石流等による消滅が懸念される。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

コクモウクジャクからは、胞子のう群がやや辺縁寄りにつき、包膜が胞子のう群を包みこむことにより区別される。紀伊半島でも、コクモウクジャクに比べればずっと少ない植物である。

【関連文献】

保シダ p.138, 平シダ p.255, 学シダ II p.330, SOS 旧版 p.41.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 216-219. 東京大学出版会, 東京.



ヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* Blume

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。暖地性の大型のシダ植物で、愛知県は分布域の北限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎ははじめ横にはう(愛知県のものはこの状態)が、よく育った株では立ち上がって高さ 20cm 程度になる。葉柄は長さ 60~80cm、基部に線形、長さ 1~1.5cm で褐色~黒褐色の鱗片を密生する。葉身は卵状三角形、大きいものは長さ、幅とも 1m 以上になり、2 回羽状に切れ込み、小羽片は三角状披針形、鋸歯縁または羽状に浅裂する。胞子のう群は線形で長く、裂片の中肋に接してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部(芹沢 87194, 2011-8-3)。

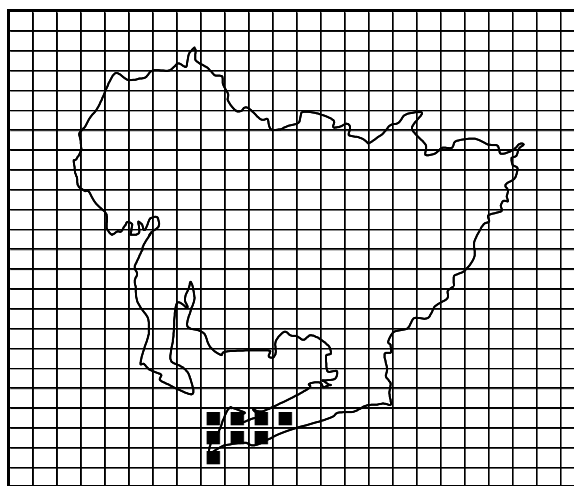
【国内の分布】

本州(愛知県、紀伊半島南部)、四国(南部)、九州(南部と五島列島)、琉球。屋久島以南では普通に見られるがそれより北では少なく、紀伊半島南部でも稀である。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、マレーシア、サモアなど。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

林床に生育する。沢沿いにもあるが、屋久島以南では里近くの平坦地の林内に群生することも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1カ所に小群落(3株)がある。葉柄は長さ 65cm、葉身は長さ 80cm に達し、生育状態は比較的良好である。

【保全上の留意点】

生育地は社寺林で、当面伐採されるおそれは少ない。ただし歩道のわきなので、境内整備等によって失われる可能性がある。

【関連文献】

保シダ p.137, 平シダ p.254, 学シダ II p.328.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 92-95. 東京大学出版会, 東京.

シマシロヤマシダ *Diplaziumdoederleinii* (Luer. & S. Wats.) Makino

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。暖地性の大型のシダ植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

半常緑性または夏緑性の多年生草本。根茎は横にはい、先端に少数の葉を束生する。葉柄は長さ 30~70cm、基部の鱗片は目立たない。葉身は卵状三角形、長さ、幅とも 50~75cm、2 回羽状に切れ込み、小羽片は三角状広披針形、羽状に中~深裂する。胞子のう群は線形、長さ 5mm に達し、裂片の中肋に接してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (芹沢 90935, 2015-11-28)。

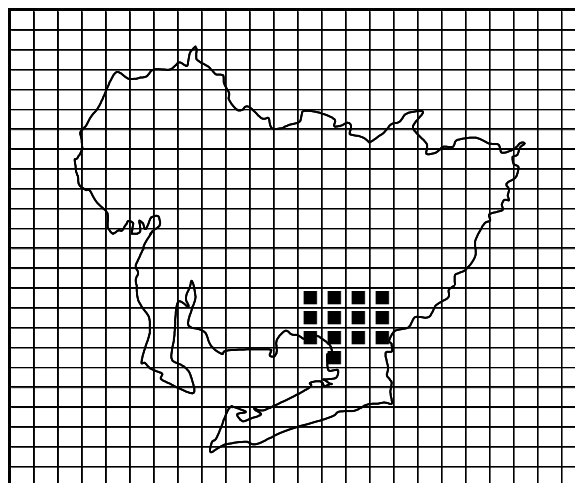
【国内の分布】

本州 (愛知県、福井県以西)、四国、九州、琉球。岐阜県美濃地方北部の山地には点在する。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、フィリピン。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿潤な林内に生育する。愛知県の自生地は沢からやや離れた造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1 カ所に小群落があるが、2019 年の調査では葉が以前に比べやや小さくなっていた。空中湿度の高い場所に生育する植物なので、林が伐採されれば存続できないと思われる。

【保全上の留意点】

生育地はどうということのない造林地で、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

屋久島以南のものは常緑性で 3 倍体であるが、九州本土以北のものは夏緑性で 4 倍体であることが知られている (高宮 2006)。4 倍体の核 DNA 含量は 3 倍体の 4/3 よりやや少ないため何か異質のゲノムが入っている可能性が高く、将来種の階級で区別される可能性がある。

【引用文献】

高宮正之. 2006. 鳥瞰だけでなく地域情報を活かした虫瞰の植物分類学—ノコギリシダ属を例として. 分類 6: 1-24.

【関連文献】

保シダ p.139, 平シダ p.255, 学シダ II p.329.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 96-99. 東京大学出版会, 東京.

ハチジョウベニシダ *Dryopteris caudipinna* Nakai

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。全国的にあまり多くないシダ植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 30～50cm、基部に披針形～狭披針形、長さ 15～20mm、黒褐色の鱗片をつけ、中上部にもより小さい鱗片をつける。葉身は卵形～長卵形、長さ 50～70cm、幅 23～35cm、2 回羽状複生～3 回羽状深裂、先端はやや急に狭くなって鋭尖頭となる。羽片は 10～15 対、披針形～広披針形で長さ 10～22cm、幅 2.5～10cm、小羽片は 15～22 対、特に大きいもの以外は線状楕円形であり鎌状に曲がらない。胞子は 6 月に熟し、胞子のう群は中肋寄りまたは中肋と辺縁の中間につき、包膜は円腎形、若時紅色を帯びることが多いが、帯びない個体もある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (芹沢 87618, 2012-6-17)。  
1 カ所で確認されているだけである。発見者は犬飼 清氏である。

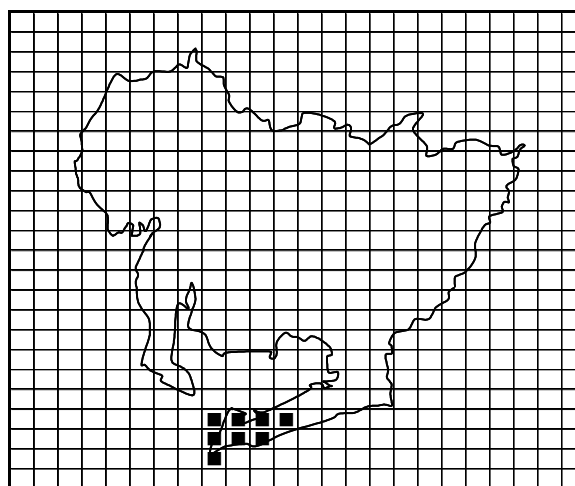
【国内の分布】

本州 (関東地方以西、伊豆諸島には特に多い)、四国、九州 (鹿児島県本土まで)。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部の離島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

比較的自然度の高い照葉樹林内の、沢沿いや沢沿い斜面下部に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

他のベニシダ類と混生して、少数株が生育している。

【保全上の留意点】

当面は現状のまま存続すると思われるが、自生地が 1 カ所だけなので、それなりに注意していく必要がある。

【特記事項】

Yamamoto et al. (2010)により、愛知県に生育することが報告された。近縁のベニシダが 3 倍体で無融合生殖を行うのに対し、本種は 2 倍体で有性生殖を行う。

【引用文献】

Yamamoto, K., N.Murakami and A.Ebihara. 2010. The distribution of *Dryopteris caudipinna* (Dryopteridaceae), a sexually reproducing counterpart of the apogamous *D. erythrosora*, in Japan. Acta Phytotax. Geobot. 61:109-114.

【関連文献】

平シダ p.199, 学シダ II p.368.

タカサゴシダ *Dryopteris formosana* (Christ) C.Chr.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。日本では隔離的に分布している希少種で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。なお、ここで絶滅危惧 I B 類としたのは典型的なものに限定しての評価であり、トウゴクシダ *D. nipponensis* Koidz. との中間型は対象外である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は斜上し、先端に少数の葉を束生する。葉柄は長さ 30~60cm、下部に黒褐色の鱗片がつく。葉身は卵状三角形または五角形、3 回羽状深~全裂し、長さ 30~50cm、幅 25~35cm、最下羽片は柄が短く非相称の三角形で、下向き第 1 小羽片は長くのびる。羽軸や小羽軸には小さな袋状の鱗片が多い。胞子のう群は小羽片の辺縁と小羽軸の中間につき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：45 犬山 (芹沢 44810, 1986-9-26)。典型的なものは、愛知県内では 1 カ所に小群落があるだけである。

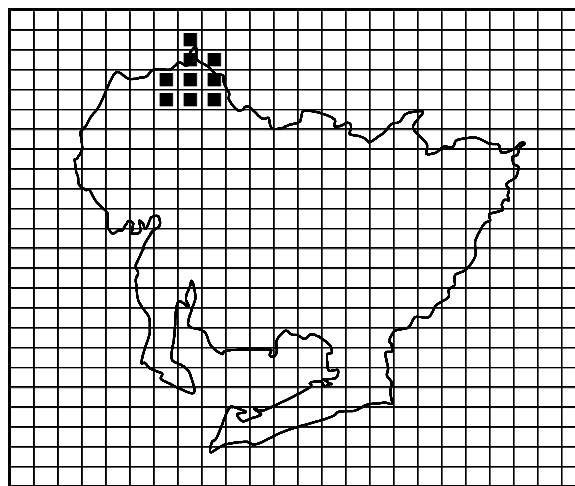
【国内の分布】

本州 (東海地方、近畿地方、山口県)、九州に分布し、屋久島には多いが、他の場所では稀である。愛知県は、静岡県小笠山に次ぐ東限の自生地である。

【世界の分布】

日本、台湾、フィリピンに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いのやや乾燥した林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なく、生育状態もあまりよくない。周辺部の開発による森林の乾燥化が、衰退の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

自生地の森林を保全する必要がある。

【特記事項】

ベニシダ類は日本列島西南部で多様に分化し、無融合生殖複合群を作っているが、本種はその中で基本的な種の一つと考えられている。トウゴクシダとの中間型は、15 豊橋北部 (芹沢・瀧崎 230, 1979-10-1)、23 藤岡 (村松正雄 26871, 2013-6-8) で採集されている。トウゴクシダ (名古屋市東谷山に因む名で、東国シダではない) 自体も、本種とホコザキベニシダまたはハチジョウベニシダとの中間型である。

【関連文献】

保シダ p.104, 平シダ p.196, 学シダ II p.368.  
倉田 悟・中池敏之 (編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 444-447. 東京大学出版会, 東京.

サクライカグマ *Dryopteris gymnohylla* (Baker) C.Chr.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。全国的に見てもそれほど多くない種類である。愛知県ではほとんどの生育地が人里近くで、人為的影響を受けやすく、近年急激に減少している。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、先端に少数の葉をつける。葉柄は淡緑色からわら色、基部だけに鱗片があり、長さ 40cm に達する。葉身は五角状広卵形、3 回羽状深～全裂、長さ 20～40cm、幅 15～30cm、最下羽片は大きく、非相称の三角状長楕円形で長い柄がつき、下向き第 1 小羽片は長くのびる。第 2 羽片より上は急激に小さくなり、葉身の先端は長い鋭尖頭となる。中軸や羽軸には鱗片が残らない。孢子のう群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 62947, 1992-8-30）。  
西：19 旭（芹沢 62486, 1992-8-22）、20 足助（村松正雄 24387, 2008-8-6）、24 豊田東部（芹沢 68885, 1993-10-22）。ただしほとんどの場所で、最近確認できない。5 稲武（川手, 芹沢 30755, 1979-10-28）、25 豊田北西部（猿投山, 岡本英一 51, 1958-4-1）で採集された標本もある。

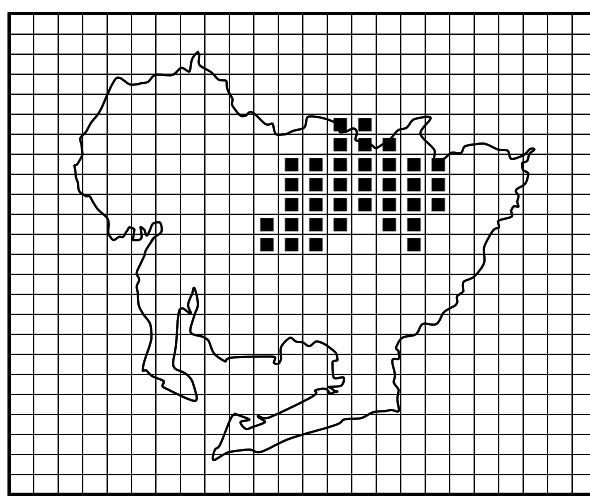
【国内の分布】

本州（東北地方南部～近畿地方）に点在し、中国地方（広島県）と九州（大分県）にも稀産する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

道路わきなどの、やや乾燥した林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数はもともとそれほど多くなかった。比較的人里近くの路傍に多いため、おそらくは道路の拡幅などの影響で著しく減少しており、最近ではほとんど見かけない植物になっている。上記の集団数階級、個体数階級は見込み値である。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。道路の改修に際しては、特に注意を要する。

【特記事項】

和名は、発見者の桜井半三郎氏に因む。

【関連文献】

保シダ p.99, 平シダ p.191, 学シダ II p.365.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 448-451. 東京大学出版会, 東京

ワカナシダ *Dryopteris kuratae* Nakaike ex Hoshiz. et K.A.Wilson

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 13。日本列島で多様に分化しているイワヘゴ群の 1 種で、愛知県では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は補正項を加えても 13 であるが、減少傾向が著しいことを考慮し、絶滅危惧 I B 類と評価する。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立して葉を束生する。葉柄は長さ 25~40cm、基部の鱗片は黒褐色~褐色で辺縁に突起がある。葉身は単羽状、倒披針形から長楕円状倒披針形、長さ 40~80cm、幅 15~25cm、先端は鋭尖頭で、下部の羽片はやや短くなる。羽片は中裂し、裂片の間は逆三角状に開き、葉脈の表面はややくぼむ。胞子のう群は裂片のやや中肋よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (芹沢 62419, 1992-8-15)、13 豊川 (瀧崎吉伸 17867, 2000-8-10)、15 豊橋北部 (小林 69134, 2000-5-27)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 5401, 2002-6-28)。

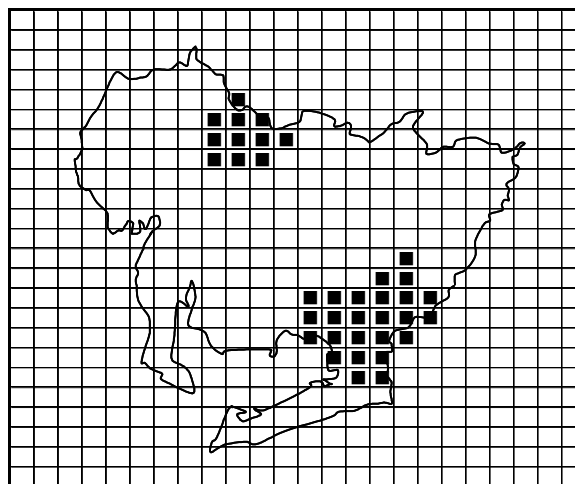
【国内の分布】

本州 (群馬県以西)、四国、九州に生育するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湿度がよく保たれた造林地、二次林などの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

シカの食害や砂防工事などにより、大きな影響を受けている。豊川宝飯の自生地のうち 1 カ所はシカ食害によりほぼ全滅し、他の 1 カ所も砂防ダム建設により激減した。他の場所は最近の状況が確認されていない。上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【関連文献】

平シダ p.187, SOS 旧版 39, 学シダ II p.363.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 478-481. 東京大学出版会, 東京.

## ホソイノデ *Polystichum braunii* (Spenn.) Fée

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立し、葉を叢生する。葉柄は葉身よりはるかに短く、長さ数 cm、鱗片は単褐色で膜質である。葉身は倒披針形で 2 回羽状複生、長さ 30~60cm、幅約 20cm、下部の羽片は次第に短くなり、最下のものはしばしばほとんど耳状になる。小羽片は独立し、鈍頭~円頭、基部は不相称で、前側は耳垂状になる。胞子のう群は小羽片の中肋寄りにつき、包膜は円形である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：6 設楽西部（村松 15904, 1994-8-28）、  
8 鳳来北東部（芹沢 81639, 2007-6-27）。2 豊根（茶臼山, 芹沢 28108, 1978-5-31）で採集された標本もあるが、ここでは現存が確認できない。

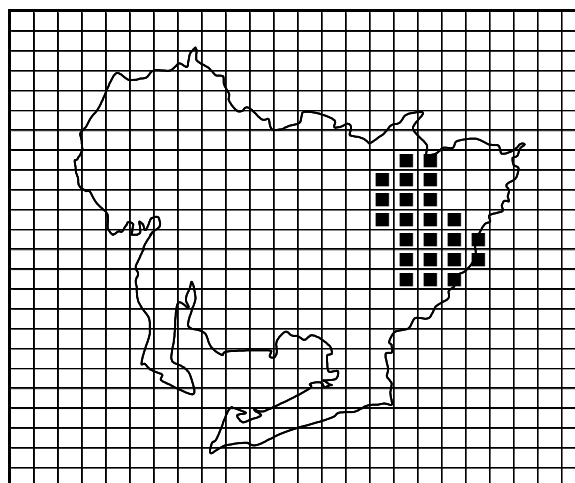
#### 【国内の分布】

北海道と本州（中部地方以北）の山地に多く、鳥取県大山、および山口県笠山の風穴近くに隔離分布する。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内。愛知県の場合、鳳来北東部は風穴の近くに生育しており、温帯性植物が低標高地に生育する例として貴重なものである。設楽西部は沢沿いの岩上、豊根は温帯林の平坦な林床に生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来北東部では葉長 50cm ほどのものが十数個体生育している。設楽西部は最近の状況が確認されていないが、当時でも葉長 10cm ほどの小さい個体が少数生育していただけで、胞子のう群もつけていなかった。

### 【保全上の留意点】

生育地の沢沿いの森林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

イノデ類の中では数少ない温帯性の種である。和名は、下部の羽片が短くなるため、葉身下部が細まることによる。葉身全体が他のイノデ類に比べて特に細いわけではない。

### 【関連文献】

保シダ p.83, 平シダ p.171, 学シダ II p.409.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 318-324. 東京大学出版会, 東京.

ヌカボシクリハラン *Lepidomicrosorium superficiale* (Blume) Li Wang

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。暖地性のシダ植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。総点は 13 であるが、栄養的に繁殖して個体数階級が 3 になっていることを考慮し、絶滅危惧 I B 類と評価する。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は長くはい、しばしば樹幹（細い木のこともある）にはい上がり、赤褐色の鱗片でおおわれる。葉は 1~3.5cm の間隔で出て長さ 3~12cm の柄があり、葉身は薄い革質、披針形~線状楕円形で長さ 12~40cm、幅 1.5~3.5cm、先端に向かって次第に細くなり、基部は先端と同様に細くなることもそれより急に細くなることもある。葉脈は目立たない。胞子のう群は円形で、葉裏全体に散在してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（芹沢 81247-ツノダシ型, 81248, 2007-5-5）。

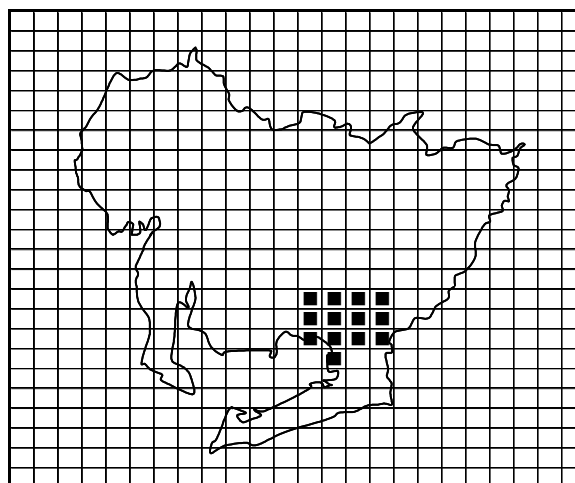
【国内の分布】

本州（千葉県以西の太平洋側と山口県）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内に生育し、地上や岩上に群生するほか、樹幹に高くはい上がる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

山麓の造林地内 2 カ所に小群落がある。現在のところ生育状況は良好であるが、林が伐採されれば存続できないと思われる。

【保全上の留意点】

生育地はどうということのない造林地で、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

愛知県のものは、どちらの群落もツノダシ型の葉身下部に小突起の出る葉が混じる。

【関連文献】

保シダ p.161, 平シダ p.269, 学シダ II p.465.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 492-497. 東京大学出版会, 東京.



ミカワノキシノブ *Lepisorus mikawanus* Sa.Kurata

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 14。愛知県とその周辺に固有のシダ植物で、個体数が極めて少ない。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎はやや長くは、直径 2~3mm、広披針形で長さ 3~4mm、黒褐色の鱗片におおわれる。葉は 3~10mm の間隔で出て、葉柄は長さ 1~4cm、黒褐色を帯びる。葉身は長さ 8~25cm、幅 8~20mm、中央部または中央より下で最も幅広くなり、両端に向かって次第に狭くなり、先端は鋭尖頭でやや鈍端となり、革質~厚い革質、裏面にはまばらに小鱗片が残る。新葉は秋に展開し、胞子のう群はほぼ円形、中肋と辺縁の間またはやや中肋寄りに 1 列に並び、若時円形の小鱗片におおわれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 87398, 2011-9-24)。西：28 額田 (芹沢 86637, 2010-11-24)。尾：45 犬山 (芹沢 86590, 2010-10-31)。正基準標本は 12 新城 (日吉、鳥居栄一 s.n., 1962-3, 東京大学農学部) で採集されたものだが、「この場所は最近破壊の憂き目にあった」(倉田 1965) と書かれている。8 鳳来北東部 (芹沢 40758, 1984-9-23)、24 豊田東部 (芹沢 36655, 1983-5-1) で採集された標本もある。

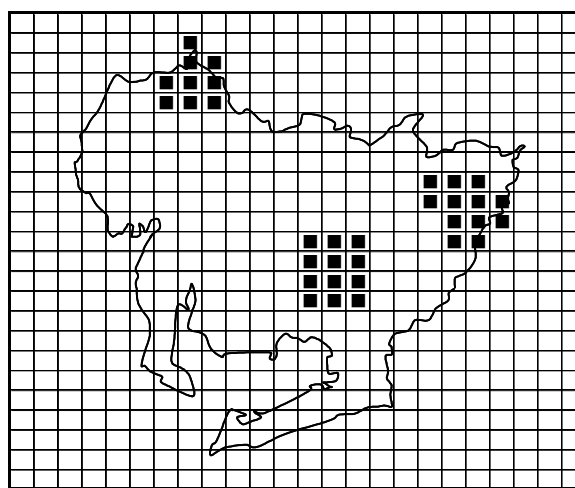
【国内の分布】

本州。愛知県とそれに隣接する静岡県、岐阜県の一部に生育している。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

今まで確認されている場所は、ほとんどが山地の川に沿った道路わきの岩上である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ところどころに生育しているが、どこも個体数は極めて少ない。鳳来北東部と豊田東部はどちらもかなり前に採集したもので、倍数性は確認しておらず、最近の状態も確認していない。

【保全上の留意点】

どこも個体数が少なく、保全策を立てにくい。保全の対象となりそうなある程度まとまった集団を探索する必要がある。

【特記事項】

クロノキシノブによく似ているが、フジノキシノブと共通のゲノムを含む 6 倍体 (クロノキシノブは 4 倍体) で葉幅が広い。本種とフジノキシノブの雑種と推定される 5 倍体植物は、37a 刈谷 (芹沢 86644, 2010-12-1) と 45 犬山 (芹沢 86592, 2010-10-31) で確認されている。

【引用文献】

倉田悟. 1965. 日本のノキシノブ属. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学) (11):20-40.

【関連文献】

芹沢俊介・阿萬朱未. 2011. ノキシノブの 2 型. シデコブシ 2:11-22.

**クラガリシダ** *Lepisorus miyoshianus* (Makino) Fraser-Jenk.

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 15。全国的に見ても希少な、自然度の高い森林に依存する植物で、伐採などの影響を受けやすく、園芸目的の採取圧も高い。愛知県においても減少傾向が著しい。

**【形態】**

常緑性のシダ植物。根茎は短くはう。葉は狭線形で長さ 30~50cm、幅 2.5~4mm。先端に向かって次第に細くなり、下方も次第に細くなり、ごく短い柄がある。葉質は厚く、中肋は表面がくぼんで 1 条の溝となり、下面は広く隆起する。胞子のう群は連なって線形となる。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：1 富山 (芹沢 46826, 1987-8-30)、2 豊根 (村松正雄 15157, 1994-5-8)、3 東栄 (芹沢 79352, 2004-8-22)。西：5 稲武 (芹沢 81985, 2007-8-5)、19 旭 (芹沢 84928, 2009-9-19)。設楽 (八橋, 加藤等次 s.n., 1968-10-6) で採集された標本もある。

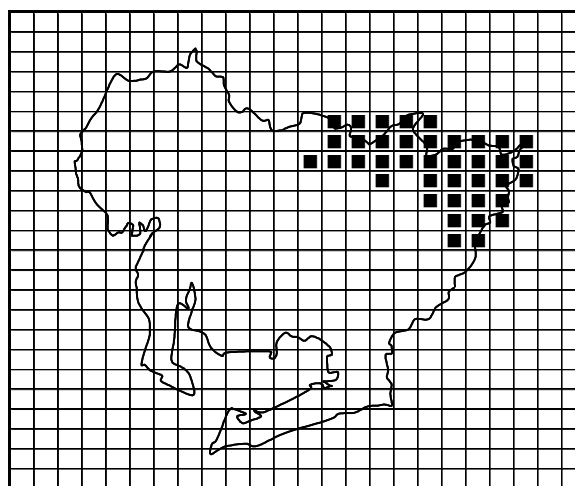
**【国内の分布】**

本州 (石川県、静岡県以西)、四国 (愛媛県)、九州 (大分県) に分布するが、稀である。

**【世界の分布】**

日本、台湾、中国大陸中~南西部。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

深山の沢沿いの、老木の樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

かつては比較的個体数の多い場所もあったというが、森林の伐採と園芸目的の採取によって、現在ではあまり見られない植物になってしまった。しかし、それでもなお全国的に見れば、愛知県は本種の主要な生育地の一つである。

**【保全上の留意点】**

沢沿いの森林の保全が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**

和名は、最初の発見地である岐阜県小坂町暗がりの坂に因む。

**【関連文献】**

保シダ p.158, 平シダ p.268, 学シダ II p.464, 環境省 p.269, SOS 旧版 p.42.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 342-345. 東京大学出版会, 東京.

イワオモダカ *Pyrrhosia hastata* (Houtt.) Ching

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。東アジアの固有種で、園芸目的の採取と開発により激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く横走し、接近して葉をつける。葉柄は長さ 12~25cm である。葉身は 3 裂し、側裂片は通常更に 2 裂して全体として細長い掌状になり、長さ 5~15cm、幅 3.5~12cm。中央の裂片は三角状披針形~披針形で、基部が中央が最も幅広く、先端に向けて狭くなる。葉裏は褐色の星状毛で密に覆われる。胞子のう群は主側脈の間に 3~7 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 61305, 1997-5-25)、7 設楽東部 (芹沢 44624, 1986-8-31)、8 鳳来北東部 (小林 58169, 1995-5-30)。西：5 稲武 (芹沢 62159, 1992-7-25)、22 小原 (日比野修 3273, 1995-10-28)。尾：45 犬山 (芹沢 38809, 1988-10-16)。12 新城 (桜淵, 加藤等次 s.n., 1966-1-6)、19 旭 (伊熊, 大原準之助 s.n., 1964-8-26) で採集された標本もある。

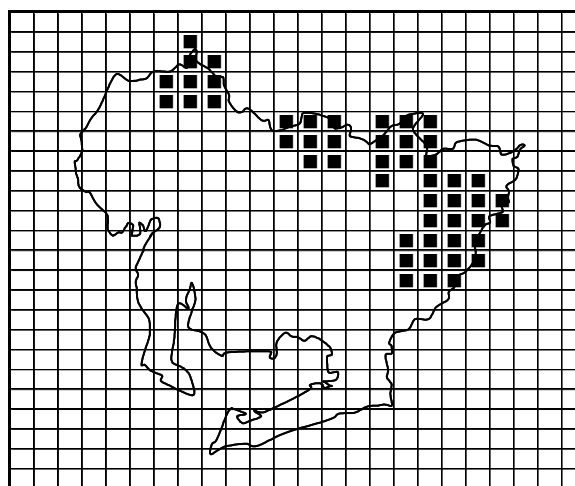
【国内の分布】

北海道から九州まで広く分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

岩崖地に着生したり、森林の樹幹に着生したりする。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

古くから園芸栽培の対象となっている植物で、愛知県ではもともとあまり多くない上に、採取により減少している。森林の伐採により消失した事例もある。犬山ではかなり個体数が多かったが、多量に持ち去られた上、開発により地形が改変され、ほぼ消失した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所については、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒトツバ属の中で葉が掌状に切れ込む種は、本種と台湾のモミジヒトツバだけである。本種とビロードシダとの自然雑種であるヤツシロヒトツバ *P. × nipponica* Beppu et Seriz. は旧鳳来町で初めて発見され、中国大陸のイワダレヒトツバにあてられたことがある。この植物は今のところ愛知県内で現存を確認できず、県内では絶滅したものと思われる。

【関連文献】

保シダ p.161, 平シダ p.263, 学シダ II p.456.  
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 624-629. 東京大学出版会, 東京.

ビャクシン *Juniperus chinensis* L.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。海岸部の自然植生を特徴づける種である。愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

常緑性の高木または大型の低木。幹は直立し、通常はねじれ、高さ 15~20m になるものもあるが、たいていはそれより小さい。樹皮は赤褐色で、縦に裂け、薄くはがれる。葉は鱗片状のものと針形のもの 2 型があるが、鱗片葉の方が多い。鱗片葉は十字対生し、葉身は卵状菱形で長さ 1.5mm、茎に密着する。針形葉は長さ 5~10mm で、上部が開出する。雌雄異株で、花期は 4 月、雄花は楕円形で長さ約 3~4mm。毬果は翌年の秋に熟し、球形で肉質、直径 6~8mm、成熟したものは黒紫色で粉白をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：44b 南知多（芹沢 62647, 1992-8-25）。愛知県では、南知多町師崎の羽豆神社社叢に生育している。園芸的に植栽されることが多い樹種で、この場所のものも植栽起源である可能性は否定しきれないが、少なくとも現状は自生状態である。篠島にも自生の可能性がある個体（標本：芹沢 82132, 2007-8-30）がある。他所のものは明らかに植栽である。

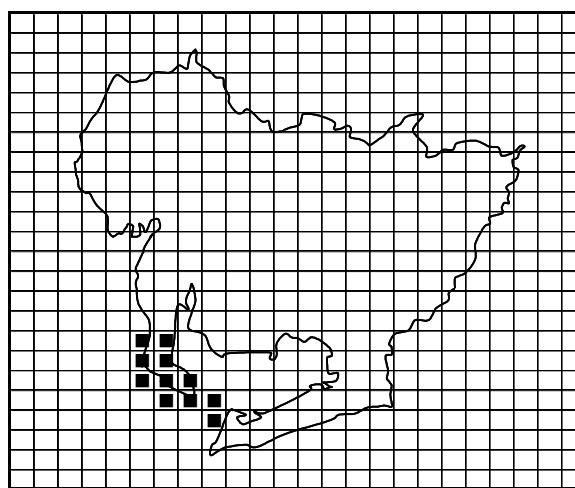
【国内の分布】

本州（岩手県以南）、四国、九州。主として太平洋側の海岸沿いに、散在的に分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常、海岸の岩崖地に生育している。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現地は国指定天然記念物として保全されているが、駐車場に隣接して排気ガスの影響を受けるためか、一部衰弱している個体がある。

【保全上の留意点】

遺伝的な攪乱を避けるため、社叢内はもちろんのこと、近傍にも本種を植栽しない配慮が必要である。現地ではつる植物がからみついている個体もあるが、現状では性急に排除する必要はないと思われる。

【特記事項】

イブキ、イブキビャクシンとも呼ばれる。上述の羽豆神社社叢のほか、自生でないものも含め知立市、常滑市、安城市などに県の天然記念物に指定されているものがある。本種の自生集団は、園芸植物としての遺伝子資源の確保という意味でも重要である。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.406, 平木本Ⅰ p.17, 平新版Ⅰ p.39, SOS 旧版 p.43, SOS 新版 p.146,148.

イチイ *Taxus cuspidata* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 15~20m、直径約 1m になる。樹皮は赤褐色で浅く縦に裂ける。若枝は緑色で無毛、後に淡褐色~灰褐色になる。葉は線形、長さ 5~20mm、幅 1.5~3mm、表面は深緑色、裏面には 2 条の淡緑色の気孔帯があり、先端はとがるが、触れても痛くない。雌雄異株で、花期は 3~4 月、雄花は葉腋に 1 個ずつつき、球形で鱗片に覆われ、長さ 4mm、雌花も葉腋に 1 個ずつつき、長さ 2.5mm である。種子は卵状球形で緑褐色、成熟すれば赤い液果状の仮種皮で囲まれるが、仮種皮の上端は閉じずに開口する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44821, 1993-6-27)、2 豊根 (芹沢 67256, 1993-9-2)。自生と思われるものは、県東北部の山地にわずかに生育しているだけである。足助などでは、山中に植栽されたものがある。社寺などにはしばしば植栽されている。

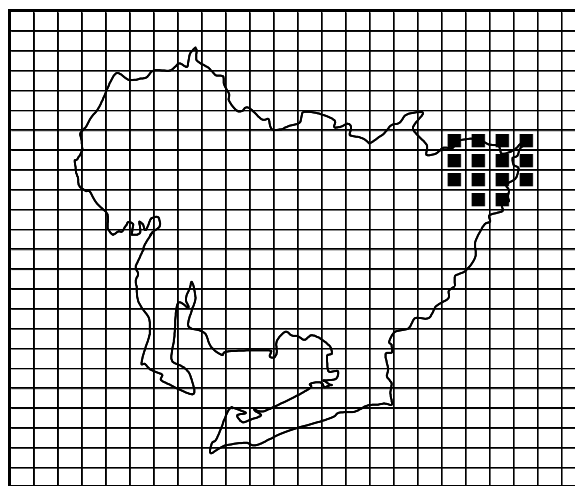
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するが、自然林は全国的に見てもほとんど残存していない。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いや尾根などに点在する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

大形の樹木だけに、成木の個体数は少ない。極めて上質の材が得られるため、過去には相当伐採されたものと思われる。現在においても、伐採 (盗伐を含む) のおそれがある。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。本種の場合は有用樹であるため、他種以上に個別的な保護が必要である。

【特記事項】

イチイの名は、材が上質で高位の人の笏に使われたからである。アララギ、オンコなどとも呼ばれる。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.451, 平木本Ⅰ p.24, 平新版Ⅰ p.43, SOS 旧版 p.44.

コウホネ *Nuphar japonicum* DC.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。平野部や丘陵地の代表的な水草であるが、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水上に出て、葉身は長卵形、長さ 20~30cm、幅 7~12cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は 6~9 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 4~5cm、がく片は通常 5 枚で、花後に緑色が強くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (小林 57226, 1995-6-17)、12 新城 (内藤宇佐彦 s.n., 1996-8-17)。西：29 岡崎北部 (杉田一記 2097, 2011-7-28)。尾：58b 弥富 (芹沢 81744, 2007-7-13)。24 豊田 東部 (芹沢 58653, 1991-5-28) にもあるが、植栽起源と思われる。11 作手 (井波一雄 s.n., 1953-9-6, CBM198129) で採集された標本もある。

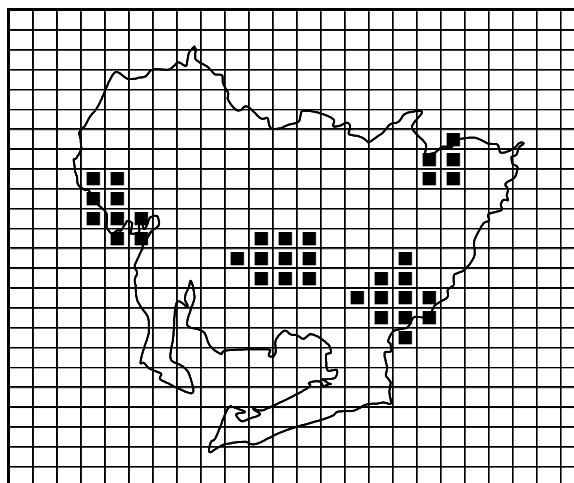
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分況】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼、あるいは水路に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

全国的には比較的多いが、愛知県では極めて少ない植物である。近年減少したのか、もともと少なかったのかははっきりしない。いずれにしても、ため池の改修や水の汚れによって存続の危機にさらされている。濃尾平野の岐阜県側には、大きな群落がある。

【保全上の留意点】

生育地の現状を変えず、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、白い根茎が水底の骨のようだからである。しかし、根茎が見えるほど澄んだ水域は、愛知県平野部ではほとんどなくなってしまった。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.252, 平草本Ⅱ p.94, 平新版 1 p.47, SOS 旧版 p.52.

イワタカンアオイ *Heterotropa kurosawae* (Sugim.) F.Maek.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 4、総点 15。日本列島で多様に分化しているカンアオイ類の 1 種で、本地域の固有種である。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は地上を短くはひ、葉の落ちたあとが節になり、多肉質で暗紫色、芳香がある。葉は円形～卵状楕円形、長さ 6～8cm、幅 5～7cm、基部は深い心形、表面には淡色の斑紋がある。花期は 3～4 月、花は暗紫色で直径 2～2.5cm、がく筒は長さ 1cm 程度で、内面に 30 本前後の縦の隆起線と約 10 本の横の隆起線があり、細密な格子状模様になる。がくの上葉は 3 裂して開出し、裂片は卵状 3 角形で細毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（龍川良克・郁子 55, 1992-4-29）、16 豊橋南部（芹沢 86611, 2011-2-16）。生育範囲は狭いが、その範囲では点在している。

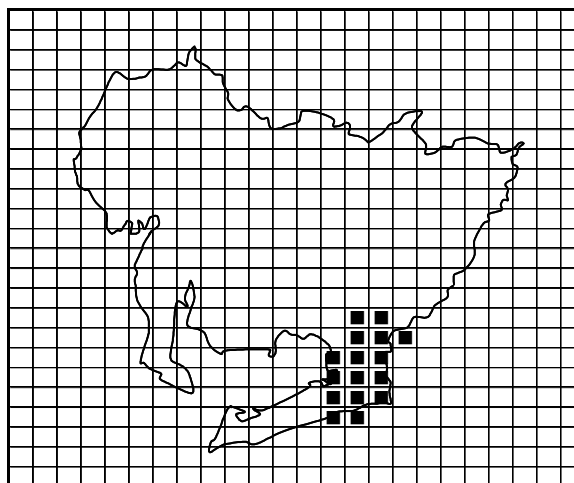
【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県東部）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところある程度の個体数はあるが、カンアオイ類は園芸目的の採取によって全国で多くの種が絶滅の危機に瀕しており、特に注意が必要である。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花が大きく、がく裂片に毛があることがよい特徴である。なお、カンアオイ属のうちスズカカンアオイとヒメカンアオイは、愛知県内では比較的多く生育しており、県全体としては特に絶滅が危惧されるような状態ではない。

【関連文献】

平草本Ⅱ p.108, 平新版 1 p.69, 環境省 p.419, SOS 旧版 p.53, SOS 新版 p.71,73.

ヤマトテンナンショウ *Arisaema longilaminum* Nakai

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。分布域の狭い植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 30~100cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 7~17 個、葉軸はよく発達し、長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁のことが多い。花期は 6 月、仏炎苞は葉より著しく遅れて展開し、葉より高い位置につき、筒部は緑紫色を帯びた白色、長さ 4~6.5cm、口辺は狭く開出し、舷部は濃紫色、長三角形、長さ 6~15cm、やや下向きにまっすぐ伸び、内面の脈が著しく隆起する。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い円柱状で上部は前に曲がり、先端は直径 2~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 91240, 2016-7-2)、19 旭 (芹沢 88518, 2013-7-6)。

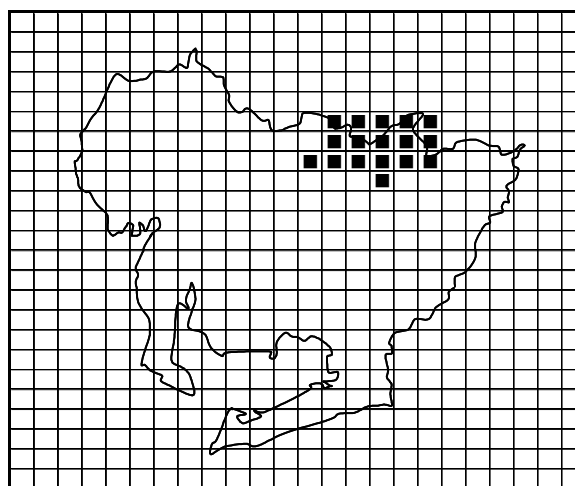
【国内の分布】

本州 (長野県、岐阜県、愛知県、三重県、奈良県) に分布するが、生育地はとびとびで、不連続的である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。散在して生育しているので 1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の自然環境を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

日本産の本属の中では、開花期が最も遅い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.207, 平新版 1 p.105, SOS 旧版 p.102.



ユモトマムシグサ *Arisaema nikoense* Nakai

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2。温帯～亜高山性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、周りにいくつかの子球をつけ、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 8～30cm、緑色または紫色で雲状紋はなく、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は通常 5 個、葉軸が短いので互いに接近してつき、長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の鋸歯がある。花期は 5～6 月、仏炎苞は緑色で、葉よりやや早く開き、葉より高い位置につき、筒部は長さ 3.5～8cm、口辺はあまり開出せず、舷部は卵形、長さ 4.5～13cm、先端は鋭頭で、白糸は目立たない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は棍棒状、先端は直径 4～12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 51353, 1989-4-30）。茶臼山周辺に生育するだけである。

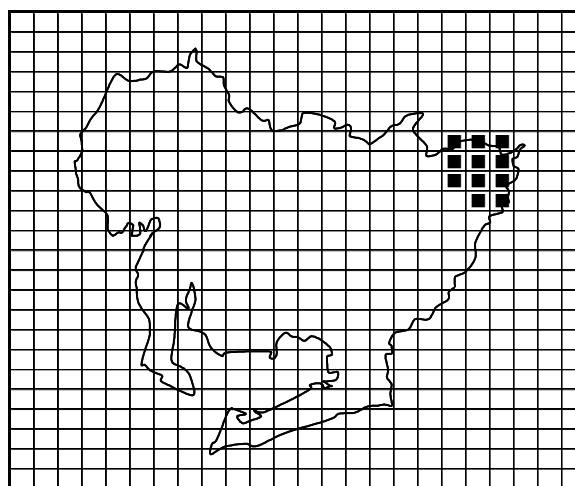
【国内の分布】

本州中北部に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

仏炎苞が紫色系の亜・変種は、愛知県には分布していない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.208, 平草本 I p.133, 平新版 I p.98, SOS 旧版 p.102.

## ヒロハテンナンショウ *Arisaema ovale* Nakai var.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3。総点 15。温帯性で日本海側に多い植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、まわりに多数の子球をつけ、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 1 個、葉鞘は長さ 20~40cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は通常 5 個、稀に 7 個、葉軸が短いため互いに接近してつき、長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色、葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ 3.5~6cm で縦の隆起条が目立ち、口辺は狭く開出し、舷部は卵形、長さ 4~9cm、中央部はあまりふくらまない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は円柱形、先端は直径 2~7mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 51690, 1989-5-27)。茶臼山周辺に生育するだけである。

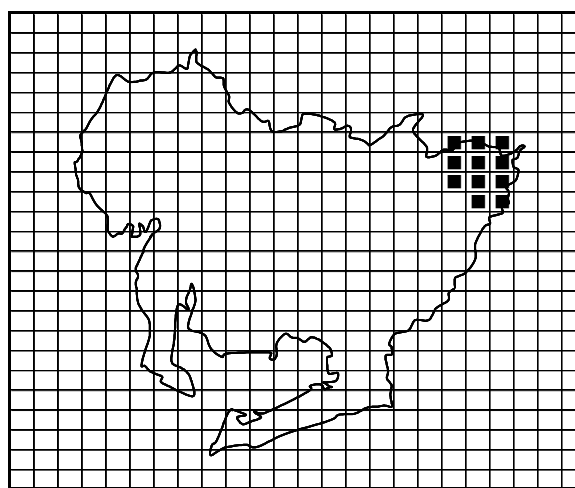
#### 【国内の分布】

北海道、本州 (日本海側に多い)、九州北部。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

### 【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

### 【特記事項】

本種は一般に  $n=52$  の 4 倍体植物であるが、愛知県産の本種は 3 倍体である (芹沢 1981)。そのため、固有性階級が 3 と評価されている。ヒロハテンナンショウと名づけられているが、他種に比べ小葉が特に広いことはない。アシウテンナンショウ var. *ovale* から変種の階級で区別した場合、学名は未考証である。

### 【引用文献】

芹沢俊介, 1981. 日本産テンナンショウ属の再検討(4) ヒロハテンナンショウ群とシコクヒロハテンナンショウ群. 植物分類地理 32: 22-30.

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.201, 平草本 I p.132, 平新版 I p.97, SOS 旧版 p.102.

ミクニテンナンショウ *Arisaema planilaminum* J.Murata

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。分布域の狭い植物で、愛知県はその南西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 25~40cm、葉身は鳥足状に分かれ、葉軸は発達し、小葉は 7~13 個、狭長楕円形から披針形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色で、葉よりやや遅れて開き、葉とほぼ同じ高さにつき、筒部は長さ 5~7cm、口辺はやや広く開出し、舷部は卵形、長さ 6~9cm、平面的でほとんどふくらまず、白糸も目立たない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は円柱状、先端は直径 3~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：20 足助 (芹沢 95121, 2019-5-11)。県内では旧足助町中心部周辺の狭い範囲だけに生育している。

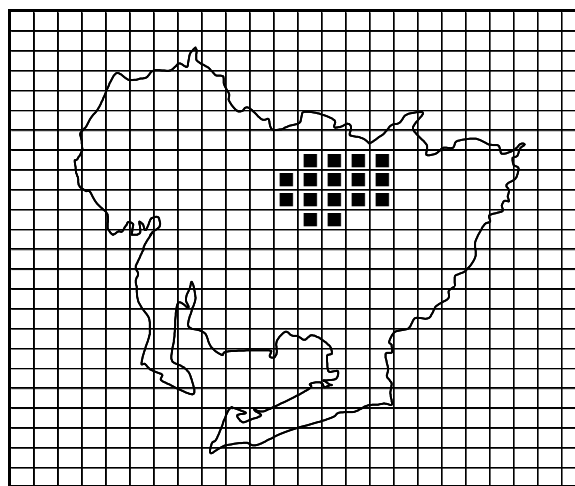
【国内の分布】

本州 (関東地方~愛知県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭いが、個体数は比較的多い。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

地域の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

愛知県のものは、仏炎苞舷部がやや長い個体が多い。

【関連文献】

平新版 1 p.104, SOS 旧版 p.102.

ミヤママムシグサ *Arisaema pseudoangustatum* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。山地性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 35~80cm、葉身は鳥足状に分かれ、葉軸は発達するがマムシグサ群としては比較的短く、小葉は 9~15 個、狭長楕円形から披針形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の細鋸歯がある。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色で、葉より遅れて開き、葉よりやや高い位置につき、筒部は長さ 5.5~7.5cm、口辺はやや広く開出し、舷部は卵形、長さ 7~10cm、先端は鋭尖頭となる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い棒状、先端は直径 1.5~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15276, 1994-6-5)。  
西：25 豊田北西部 (猿投山, 芹沢 36656, 1983-5-5)でも 1 回採集されたことがあるが、ここではその後確認できない。

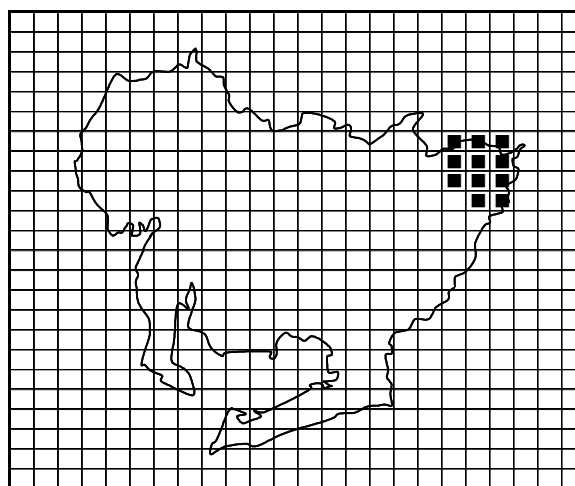
【国内の分布】

本州 (中部地方太平洋側の深山) に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊根でも個体数は極めて少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度にすぎない。牧場等として開発される前は、もう少し多かったのではないと思われる。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

この群の中では最も深山性の植物である。

【関連文献】

平新版 1 p.104.  
芹沢俊介. 2013. 日本産マムシグサ群の分類(1)ミヤママムシグサ. シデコブシ 2:99-109.

ヤシユウハナゼキショウ *Tofieldia nuda* Maxim. var. *furusei* Hiyama

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。岩崖地性の植物で、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。根出葉は 2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形で長さ 5~25cm、先は長くとがり、全縁である。花茎は高さ 10~30cm、2~3 個の小型の葉がつき、平滑である。花期は 7~8 月、花茎の先端に長さ 3~12cm の総状花序をつけ、それぞれの苞の腋に 1 個の花をつける。花は斜め上向きに咲き、長いもので長さ 9~15mm の柄があり、花被片は 6 個で白色、線状長楕円形、長さ 3~4mm である。果実は蒴果で卵状楕円形、種子には尾状付属物がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 39929, 1992-10-10)、8 鳳来北東部 (加藤等次 1685, 1992-8-15)。

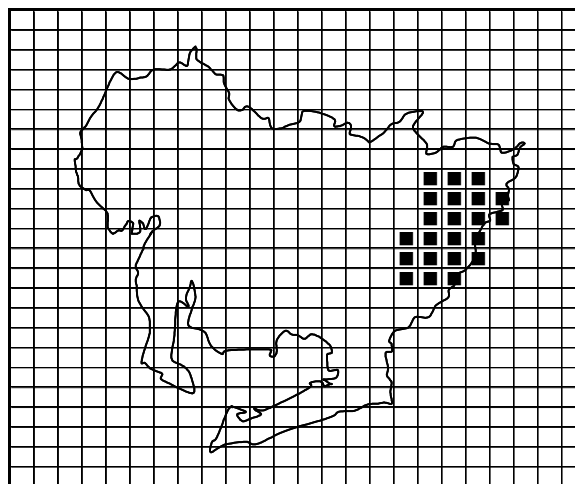
【国内の分布】

本州 (栃木県、愛知県、和歌山県)。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ももとはそれほど少ない植物でなかったが、園芸目的の採取による減少が著しい。手が届く場所のものは、ほとんど消失している。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2009 植物編では、ハナゼキショウとして掲載した。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.155, 平草本 I p.27, 平新版 1 p.113, SOS 旧版 p.95.

マルバオモダカ *Caldesia parnassifolia* (Bassi ex L.)Parl.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

浮葉性または挺水性の多年生草本。茎は短く、葉は束生し、長い葉柄がある。葉身は卵円形または腎形、直径 5~10cm で、先はとがらず、基部は心形、辺縁は全縁である。花期は 8~9 月、花茎は水の深さによって異なるが長さ 30~100cm になり、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する大きな円錐花序をつくる。花はそれぞれの枝に 3~5 個ずつ輪生し、両性、がく片は 3 個、花弁は 3 個で白色、卵円形で長さ約 4mm、上部の辺縁には小さい歯状の欠刻がある。水中にある花序にはむかごができ、これが脱落して栄養繁殖と越冬のための器官となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：37a 瀬戸 (村松正雄 27900, 2014-9-23)。  
西：23 藤岡 (深見, 日比野修 802, 1992-9-9) にもあったが絶滅した。東：12 新城 (旧八名村庭野, 鳥居喜一 9232, 1952-9-1, HNSM) と西：32a 刈谷 (牛池, 加藤潤子 129, 1978-8-11) で採集された標本もある。

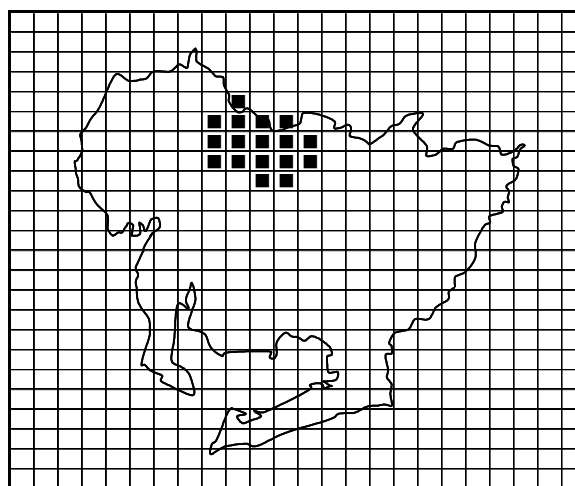
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸、インド、オーストラリア、マダガスカルなど。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水のきれいなため池や湖沼に生育する。水田に生育することもあるという。愛知県の生育地は、いずれも丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

瀬戸では 2 地点で生育が確認されている。そのうち 1 カ所ではよく生育しており、個体数も数十株あるが、他の 1 カ所ではもともとの生育地が埋め立てられ、下流の水路沿いに僅かに残存しているだけである。藤岡では、生育地が干上がり絶滅した。刈谷 (牛池) では、大学統合移転のためにその用地にあった畜舎が移転し、その排水が洲原池に流入して過栄養化を引き起こし、更にその水が下流の牛池に流入して、絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、本種が生育できるような生活排水の流入しない位置にあるため池は、一方で管理放棄により水がなくなっているものも多い。現在本種が生育しているため池を現状のまま維持するだけでなく、潜在的な生育地である良好な状態のため池をできるだけ多く保全することが必要である。また、大学統合移転の事例でもわかるように、一つの開発事業は、玉突き的に他の環境破壊を招くことがある。事業者の直接責任が及ばない間接的な環境影響についても、「未必の故意」が予測されるものについては、しっかりした評価が必要である。

【特記事項】

「日本の野生植物」I の 2 図版には、刈谷市で 1974 年に撮影された写真が掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.399, 平草本 I p.2, 平新版 1 p.116, 環境省 p.540, SOS 旧版 p.89, SOS 新版 p.123,125.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.17. 文一総合出版, 東京.

**トチカガミ** *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。低地性の水草で、愛知県では減少傾向が著しい。

**【形態】**

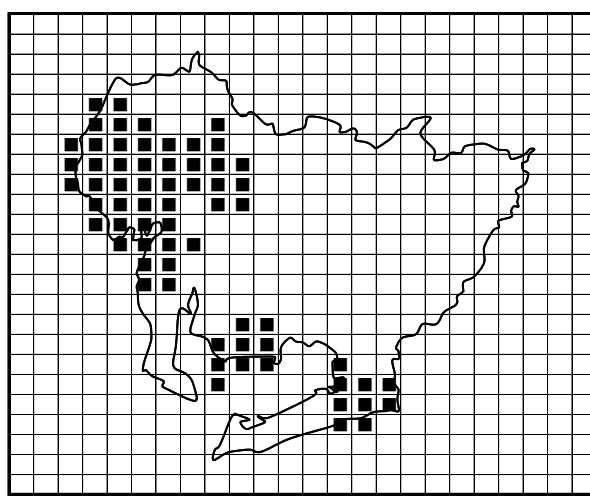
水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ 4～20cm の柄があり、柄の基部に 2 個の托葉がある。葉身は円心形、直径 4～7cm、全縁で、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花期は 8～10 月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約 5 個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が 1 個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は 3 個で白色、長さ 10～13mm である。冬には水中茎の先端が長さ 2～4cm の殖芽となり、水中に沈んで越冬する。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

比較的最近では東：16 豊橋南部（小林 53162, 1994-8-17）、西：36 西尾南部（中根 幸司 1729, 2007-9-28）、尾：38a 長久手（半田 多美子 3387, 2002-9-21）、41a 東海（岡島 錦也 612, 1987-8-2）、50 名古屋北部（西部めぐみ s.n., 2019-10-3, NBC）、52 名古屋南西部（高木 順夫 446, 1992-9-6）、54 一宮西部（渡辺 幸子 4970, 2001-10-23）、55 稲沢（渡辺 幸子 3212, 1997-9-4）、57a 津島（山田 茂貴 1156, 1996-9-2）、58b 弥富（芹沢 70843, 1994-9-15）で確認されているが、減少傾向が著しく、かなりの区画ですでに絶滅したと思われる。集団数階級は推定値である。56a あま（旧甚目寺町坂牧）にもあったが、標本を採取しないで行ううちに絶滅してしまった。15 豊橋北部（下地町、鳥居喜一 9278, 1942-9-6, HNSM）で採集された標本もある。

要配慮地区図



**【国内の分布】**

本州、四国、九州、琉球。

**【世界の分布】**

日本から南アジア、オーストラリアにかけて分布する。

**【生育地の環境／生態的特性】**

平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

**【現在の生育状況／減少の要因】**

以前はあちこちにあった水草らしい。平野部の開発や湿田の減少により、生育可能地そのものが減少していることに加えて、除草剤の使用や生活排水の流入による水の汚染が減少要因である。

**【保全上の留意点】**

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

**【特記事項】**

「トチ」は、スッポンのことである。

**【関連文献】**

保草本Ⅲ p.396, 平草本Ⅰ p.4, 平新版Ⅰ p.121, SOS 旧版 p.90+ 図版 22.  
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.

ムサシモ *Najas ancistocarpa* A.Br. ex Magnus

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。全国的に減少傾向の著しい低地性の水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

沈水性の 1 年生草本。茎は細く、よく分枝し、折れやすい。葉は多少なりとも反り返り、細く線形、長さ 1~2cm、辺縁には細かい鋸歯がある。葉の基部は長さ約 1.5mm の葉鞘となり、葉鞘の先端は円くて小刺がある。花期は 7~9 月、雌雄同株で、花は葉腋につく。果実は 1 個の種子があり、種子は長さ約 2.5mm、三日月形に湾曲し、表面にはやや縦に長い不明瞭な網目がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（浜島繁隆 1093, 1997-8-7）、18 田原西部（芹沢 78185, 2002-10-3）、尾：43 常滑（中井三従美 18, 1994-9-24）。40b 東浦（緒川, 村松正雄 19816, 2000-8-13）、50 名古屋北部（千種区, 滝川正子 1, 2014-9-29, NBC）にも生育しているが、これらは非意図的に移入されたものと思われる。

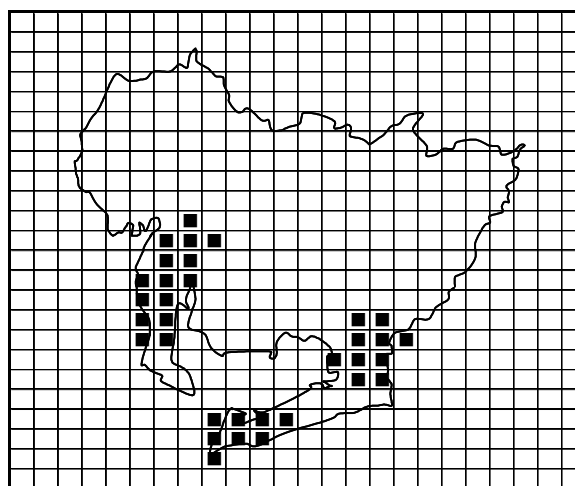
【国内の分布】

本州（関東地方以西）および四国。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部や浅い丘陵地のため池に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部と常滑は水が濁っていて、量や生育状況はよくわからないが、水の汚染により危篤的状況であることは明らかである。田原西部は放棄された養魚場跡地、東浦は人工的な池で、どちらも本種の永続的な生育地ではない。田原西部では 2008 年にはハスが植栽されており本種は確認できなかったが、再出現の可能性は残されている。

【保全上の留意点】

愛知県の水草はほとんど全てが危機的であるが、その中でも本種のような平地性の種は、まさに風前の灯火である。本種に関しては、生育地のため池の水質を現在以上に悪化させないよう細心の注意を払うと共に、保険的措置として、人為的な系統保存を図る必要がある。

【特記事項】

茎葉はイトトリゲモに似ているが、やや小型である。種子があれば著しく湾曲しているため、識別は容易である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.409, 平草本 I p.18, 平新版 1 p.122, 環境省 p.306.  
角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.



## ササバモ *Potamogeton wrightii* Morong

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。低地性の大型の水草で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

沈水性、時に一部浮葉性の多年生草本。地下茎は横にはい、1節おきに水中茎を出す。水中茎は分枝し、長さ 3m を超えることもある。葉は互生し、通常は全て沈水葉、長さ 2~7cm の葉柄があり、葉身は線状楕円形、長さ 8~15cm、幅 1~2.5cm、先端は急に細まって芒状に突出し、葉縁は波打って不明瞭な細鋸歯があり、7~13本の葉脈がある。浮葉は沈水葉に比べてやや厚いが、二型性はあまりはっきりしない。花期は 7~9月、葉腋から長さ 4~8cm の花茎を出し、その先に長さ 3~5cm の穂状花序をつける。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：49d 清須 (鈴木幸子 678, 1994-10-14)、56b 大治 (芹沢 71174, 1994-10-2)、57b 愛西 (芹沢 74716, 1998-7-4)。東：15 豊橋北部 (石巻小野田町牟呂用水, 恒川敏雄 s.n., 1960-6-12, TMNH) で採集された標本もある。濃尾平野の岐阜県側には、大きな群落がある。

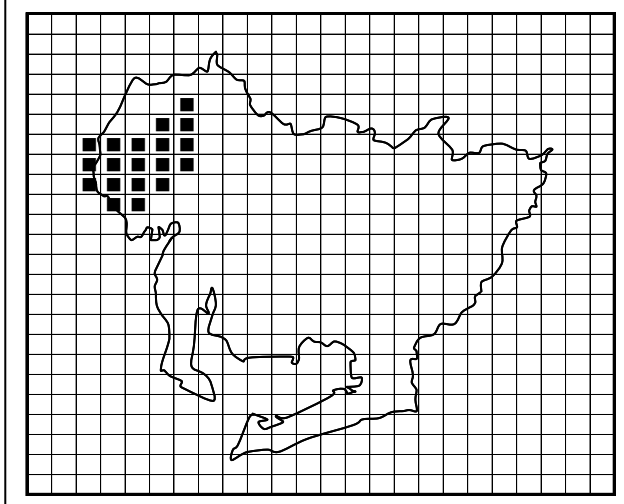
#### 【国内の分布】

北海道 (稀)、本州 (東北地方南部以南)、四国、九州、琉球に生育する。

#### 【世界の分布】

日本からインド、ニューギニアにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

河川に生育することが多いが、池沼でも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

### 【現在の生育状況／減少の要因】

大治では一度採集されただけで、その後確認できない。愛西の標本は木曾川の岸に打ち上げられたもので、どこかに群落があると思われるが、その場所はまだ確認できていない。清須は、最近の状況が確認されていない。個体数と集団数は見込み値である。

### 【保全上の留意点】

継続的に生育している安定した自生地を確認することが先決である。

### 【特記事項】

本種とヒルムシロの自然雑種であるアイノコヒルムシロ *P. × malainoides* Miki は、東：16 豊橋南部 (小林 64416, 1998-6-27)、尾：46b 大口 (福岡義洋 4665, 1999-9-23)、47 小牧 (福岡義洋 4713, 1999-10-11)、49c 北名古屋 (福岡義洋 4716, 1999-10-11)、49d 清須 (福岡義洋 4707, 1999-10-11)、50 名古屋北部 (福岡義洋 4326, 1998-10-18)、52 名古屋南西部 (高木順夫 8903, 2000-9-9)、56a あま (芹沢 71296, 1994-10-13) などの小河川に比較的多く生育している。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.415, 平草本Ⅰ p.11, 平新版Ⅰ p.132.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.37. 文一総合出版, 東京.

チャボシライトソウ *Chionographis koidzumiana* Ohwi

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。葉は束生し、長さ 2~8cm、葉身は卵形~狭卵形、先端は鈍頭、辺縁の下部は細波状となり、基部は細まって柄状になる。花茎は高さ 12~30cm で、分枝せず、線状披針形の茎葉がある。花期は 5 月、花茎先端の穂状花序にややまばらに花をつけ、花被片は 4 個、白色または淡緑色、糸状で長さ 9~15mm、先は幅広くならない。下方 2 個の花被片は退化する。果実は蒴果で長楕円形、長さ 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 43450, 1993-5-29)、2 豊根 (芹沢 87067, 2011-6-5)。

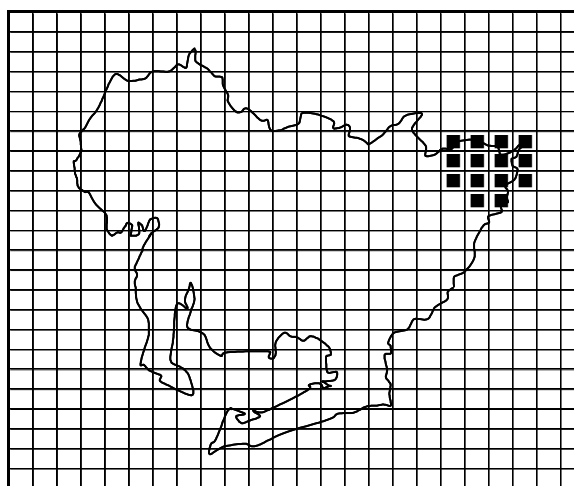
【国内の分布】

本州 (愛知県、紀伊半島)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や沢沿いの岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があるだけで、しかも一昔前に比べ、個体数の減少が著しい。園芸目的の採取が減少の最大の要因と思われる。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン・観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

愛知県のもは本種としては大型で、ミカワシライトソウ var. *mikawana* Ohwi et Okuyama として区別されることもあり (大井・奥山 1953)、グリーンデータブックではこの名で収録したが、区別しないという見解 (村田 1954) もあるので、ここではチャボシライトソウとして評価しておく。ミカワシライトソウを区別するならば、固有性階級は 4 になり、評価は絶滅危惧 I A類になる。なお、日本の野生植物 I 18 図版にはチャボシライトソウとして愛知県産の写真が掲載されているが、この写真はシライトソウである。

【引用文献】

村田 源, 1954. チャボシライトソウとミカワシライトソウ. 植物分類地理 15: 157-158.  
大井次郎・奥山春季, 1953. 新変種ミカハシライトソウ. 植物研究雑誌 28: 304.

【関連文献】

保草本Ⅲp.153, 平草本 I p.27 (写真を除く), 平新版 I p.159, 環境省 p.549, SOS 旧版 p.92.

## エンレイソウ *Trillium apetalon* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。温帯性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は太く短く、丈夫な根を出す。地上茎は高さ 20~40cm で、先端に 3 枚の葉を輪生する。葉は無柄、葉身は卵状菱形、長さ・幅ともに 6~17cm、先は急に短くとがり、基部は広くさび形で、網状脈がある。花期は 4~5 月、花は 3 枚の葉の中央に 1 個、やや横向きにつき、長さ 2~4cm の柄があり、外花被片は 3 個、緑色または紫褐色、卵状長楕円形で長さ 12~20mm、宿存性、内花被片は通常ない。果実は液果で、3 稜のある球形、直径 1~2cm、黒紫色に熟す。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 36382, 1992-4-11)。2 豊根 (塩瀬, 加藤等次 2084, 1968-4-14) で採集された標本もある。

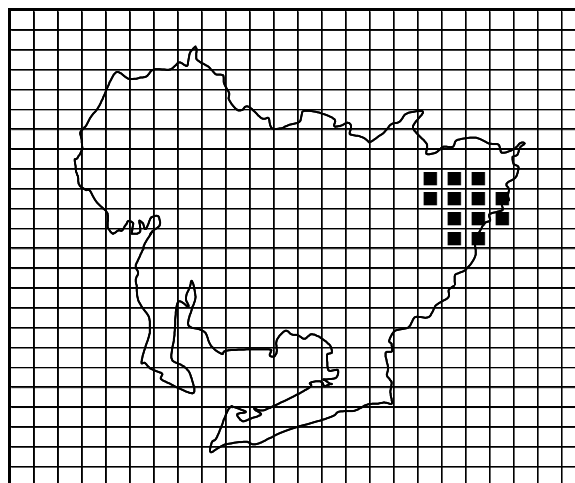
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

サハリン、千島列島南部、日本。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

全国的には比較的多い植物であるが、どういうわけか愛知県では極めて少なく、1 カ所に小群落があるだけである。「スギ林の手入れ不足とニホンカモシカなど大形獣類の食害のため(?)、…衰退が著しく絶滅のおそれが高い」と報告されている (小林 2006)。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

「延齡草」という優雅な名がつけられているが、語源はよくわからない。北海道のオオバナエンレイソウなどと異なり、それほど花が美しいわけではない。

### 【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.78. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.102, 平草本 I p.44, 平新版 1 p.160, SOS 旧版 p.96.

ミカワバイケイソウ *Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。本地域の湧水湿地を特徴づける寒冷地性植物の一つで、本地域の固有分類群とされている。

【形態】

大型の多年生草本。太く短い地下茎がある。地上茎は高さ 90~150cm、茎葉は互生し、基部につくものは鱗片状、中部以上につくものは 10~14 枚あって長楕円形~楕円形、長さ 20~35cm、幅 8~15cm、先端は鋭頭、基部は鞘になって茎を包み、裏面に短毛がある。花期は 5 月、茎の先端に長さ 20~40cm で 2~9 本の枝がある大きい円錐花序をつけ、多数の花をつける。花は両性花と雄花があり、主軸上のは両性花、他は雄花のことが多いが、ほとんど全部が両性花のこともある。花被片は 6 個、白色、長楕円形で長さ 5~8mm、通常縁に著しい歯状の欠刻があるが、ほとんど全縁のものもある。雄ずいは 6 本、花被片よりやや長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 55563, 1990-6-19)、11 作手 (芹沢 55065, 1990-5-23)、12 新城 (芹沢 65010, 1993-5-14)、15 豊橋北部 (芹沢 58545, 1991-5-18)。西：23 藤岡 (鳥居ちゑ子 2618, 2008-4-25)、24 豊田東部 (山田 弘 3, 1995-6-7)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 54779, 19905012)、45 犬山 (山田果与乃 673, 2001-4-30)。22 小原 (北永太郎, 井波一雄 s.n., 1961-6-4, CBM70861) で採集された標本もある。

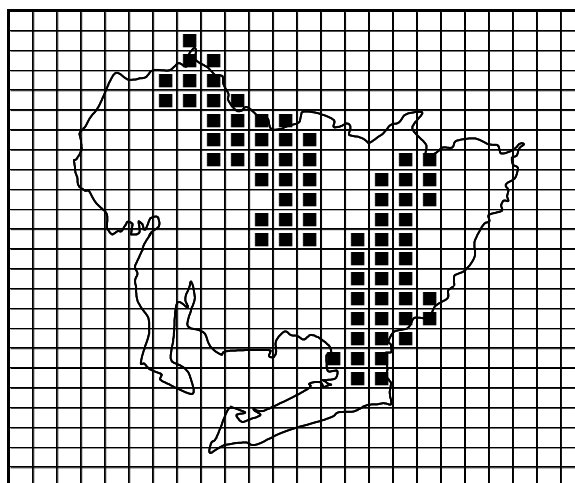
【国内の分布】

本州 (長野県南部、静岡県西部、岐阜県、愛知県)。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地や、その下流部の林内に生育する。時には谷戸田のあぜに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

設楽西部、藤岡、瀬戸には比較的多い場所があるが、他は小群落が点在しているにすぎない。本来は陽性の植物と思われるが、現在では周囲の樹木が生長し、生育地が林内になってしまっていることが多い。林内に生育しているものはしばしば花付きが悪く、中にはほとんど開花しない群落もある。作手では、かつては湿原に多く生育していたというが、開拓により激減し、現在では僅かに残存しているにすぎない。犬山では明治村の建設に伴い絶滅したと思われていたが、他の場所で生育が確認された。明治村敷地内にも僅かに残存している。

【保全上の留意点】

湧水湿地とその周辺の地形を保全すると共に、場所によっては上層の樹木を伐採し、群落の光条件を回復させることが必要である。物見高い自称自然愛好家の殺到を避けるため、分布情報を公表する際には注意を要する。

【特記事項】

基準変種のコバイケイは亜高山の湿原に生育し、丈が低く、葉が密につく。花の大きさや雄ずいと花被片の長さの比は変異が大きく、はっきりした区別点にはならない。変種とされているが、分化の程度は小さい。ヤチヤナギと共に愛知県に産する寒冷期の遺存植物の代表的なもので、新城市で鳥居喜一氏が発見した当初は、「そんなものがあるはずがない。何を寝ぼけたことを言っているか」と笑われたそうである。彩色画は、2009 年版図版 5 に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.149, 平草本 I p.28, 平新版 1 p.161, 環境省 p.555, SOS 旧版 p.95, SOS 新版 p.98,100.

ヒロハノアマナ *Amana erythronioides* (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。全国的に減少傾向の著しい早春植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下深くに、卵形で長さ 3~4cm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は暗褐色である。葉は花茎の下部に 2 個つき、根出葉のように見え、線形で長さ 15~20cm、幅 7~15mm、全縁、中央に明瞭な白線がある。花期は 4~5 月、花茎は直立し、地上部の高さ 15~20cm で、通常 3 個の苞があり、先端に 1 個の花をつける。花被片は 6 個、白色で暗紫色の脈があり、披針形、18~24mm、先端は鈍頭である。蒴果は円形で 3 稜があり、長さ約 1.2cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (芹沢 68994, 1994-3-20)、13 豊川 (加藤等次 4357, 1994-4-9)、15 豊橋北部 (芳山朋子 311, 1984-4-15)。

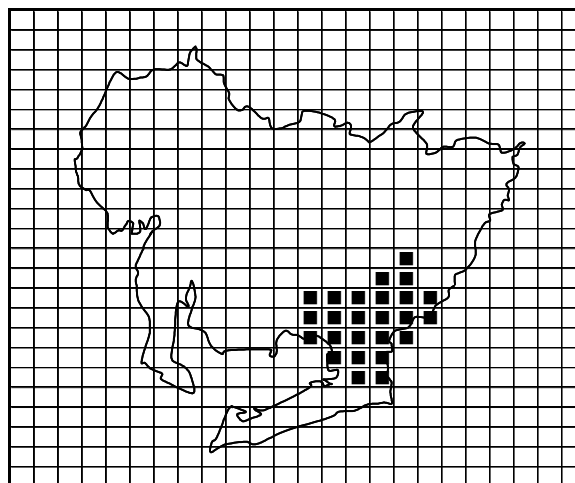
【国内の分布】

本州 (関東地方~近畿地方)、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の草地、疎林内などに生育する。春早く、上層の樹木や他の草本が葉を展開させる前に葉を伸ばして光合成を行い、初夏には地上部が枯れてしまう年生活環を持つため、常緑性の植物が茂ると生育できなくなる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少なく、またどの場所でも個体数が少ない。里山が利用されなくなりどの場所も遷移が進行したため、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地のネザサや常緑低木を除去し、早春期の光条件を確保する必要がある。園芸目的の採取やカメラマン・観察者による踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

チューリップ属 *Tulipa* とされることもある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.119, 平草本 I p.38, 平新版 1 p.177, 環境省 p.547, SOS 旧版 p.92.

ミノコバイモ *Fritillaria japonica* Miq.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。分布域の狭い早春植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。鱗茎は球形で直径 7~12mm、半球形の 2 個の鱗片葉からなる。茎は 1 本だけ出て高さ 7~20cm、無毛である。葉は 5 枚つき、下方で対生、上方で 3 輪生、無柄、葉身は披針形~広線形で長さ 3.5~9cm、先端は鋭~鈍頭である。花期は 3~4 月、花は茎の先端に 1 個つき、下向きに開き、鐘形、花被片は 6 個、長楕円形、長さ 15~22mm、淡黄色で暗紫色の網目模様があり、辺縁は全縁である。葯は白色、染色体は  $2n=22$  と報告されている。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (石川静雄 286, 2000-3-20)、  
15 豊橋北部 (加藤等次 5544, 1997-3-18)。

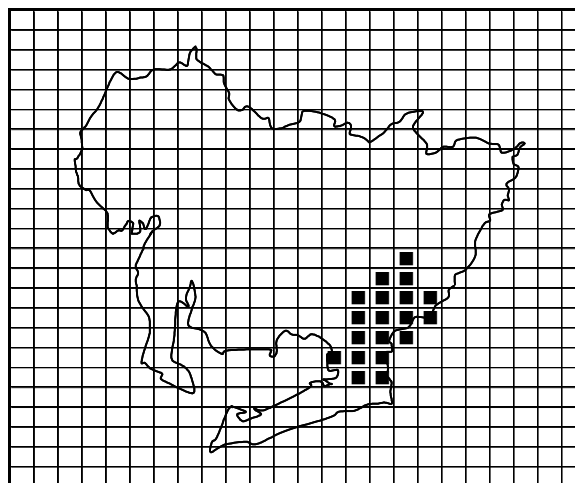
【国内の分布】

本州中部 (岐阜県、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地 (愛知県の場合は山すそ) の落葉広葉樹林内に生育する。春早く、上層の樹木や他の草本が葉を展開させる前に葉を伸ばして光合成を行い、初夏には地上部が枯れてしまう年生活環を持つため、常緑性の植物が茂ると生育できなくなる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の 3 カ所で生育が確認されている。そのうち 1 カ所では道路の拡幅工事のため絶滅したと思われるが、最近になって僅かに残存しているのが確認された。3 カ所とも開発の可能性がある場所であるが、その一方で場所を公表すれば園芸目的の採取にあう可能性が高く、板挟み状態である。

【保全上の留意点】

生育地のネザサや常緑低木を除去し、早春期の明るさを確保する必要がある。園芸目的の採取や物見高い自称自然愛好家の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

四国東部に分布するアワコバイモ *F. muraiana* Ohwi は、葯が紫色、染色体数が  $2n=24$  と報告されている。

【関連文献】

平新版 1 p.170, 環境省 p.549, SOS 旧版 p.93+図版 11.

キバナノアマナ *Gagea lutea* (L.) Ker Gawl.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に卵形で直径 1cm ほどの鱗茎がある。根出葉は 1 個、線形でやや厚く、長さ 15～30cm、幅 5～10mm、はじめ軟毛が少しあるが、後に無毛となる。花期は 4～5 月、花茎は高さ 15～25cm で、その先端に 4～10 個の花が散形状につく。花柄は長さ 1～5cm、花被片は 6 個で黄色、線状長楕円形で長さ 12～15mm、先端は鈍頭、雄ずいは花被片より短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15045, 1994-4-17)、8 鳳来北東部 (芹沢 87558, 2012-4-7)。3 東栄 (本郷高校裏, 鳥居喜一 11840, 1956-4-8, HNSM) で採集された標本もある。

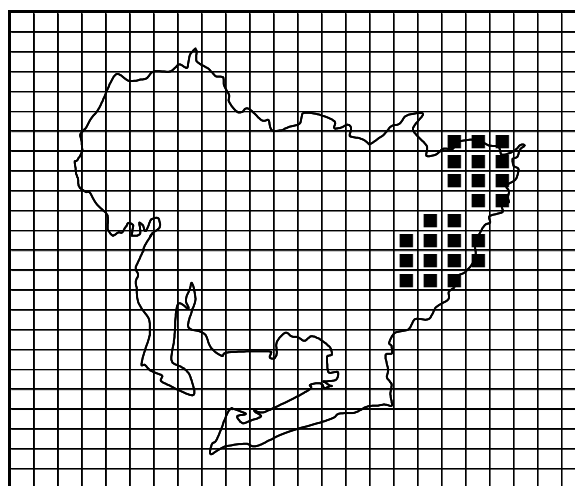
【国内の分布】

北海道、本州、四国。ただし本州西部と四国では少ない。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地や林縁、明るい林内などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 1 カ所で確認されているが、どちらも個体数が少なく、また減少傾向も著しい。草地の利用停止に伴う被陰と園芸目的の採取が、減少の主要な要因である。

【保全上の留意点】

生育地の草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.118, 平草本 I p.35, 平新版 1 p.171, SOS 旧版 p.93.

ホソバノアマナ *Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地、個体数共に極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に広卵形で長さ 6~10mm の鱗茎がある。根出葉はふつう 1 個、線形で長さ 10~20cm、幅 1.5~3mm、平滑で 3 稜がある。花茎は高さ 10~25cm、中部以上に 5~8 個の葉をつけ、大きいものは披針形、長さ 2~7cm、上部のものほど小さく、線形になる。花期は 5~6 月、花茎の先端に 1~5 個の花つけ、花被片は 6 個、白色で線状長楕円形、長さ 11~15mm、先端は鈍頭、雄ずいは 6 本で、花被片の 1/2~3/5 の長さである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 86759, 2011-4-24)。

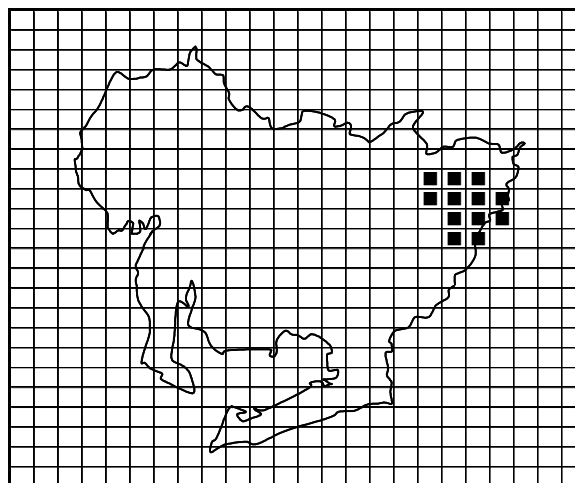
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア、サハリン、千島列島、カムチャッカ、北アメリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草原や林縁、時に明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

確認されている生育地は 1 カ所だけで、個体数も少ない。道路沿いのため、改修工事等で失われる可能性がある。園芸目的の採取も危惧される。

【保全上の留意点】

道路の拡幅に際しては、注意が必要である。園芸目的の採取やカメラマン・観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.120, 平草本 I p.38, 平新版 1 p.174, SOS 旧版 p.94.



ムカデラン *Cleisostoma scolopendrifolium* (Makino) Garay

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。暖地性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は硬く、長くはってまばらに分枝する。葉は互生して開出し、左右 2 列に並び、線状楕円形、長さ 7~10mm でやや曲がり、革質で表面に溝があり、先端は鈍頭、基部は鞘となって茎を被う。花期は 6~8 月、葉腋から長さ 2~3mm の花茎を出し、その先端に淡紅色の花を 1 個つける。苞は 3 角形で小さい。がく片と側花弁はほぼ同形、楕円形で長さ約 2mm、先端は鈍頭、唇弁は肉質で、白色、船形、基部はふくらんで短い距となり、先端は 3 裂し、側裂片は耳状、中裂片は 3 角状卵形で鈍頭である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (村松正雄 27755, 2014-7-6)、18 田原西部 (小林 46015, 1993-8-6)。

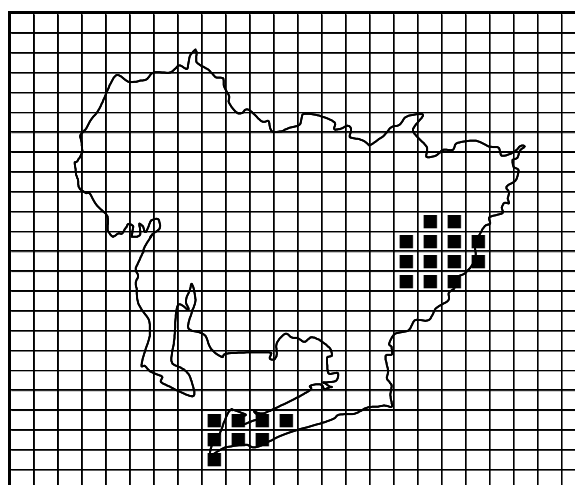
【国内の分布】

本州 (関東地方以西の太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

岩壁や樹幹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

数カ所に生育しており、うち鳳来町川合は県の天然記念物に指定されている。変わった形態のランであり、園芸目的の採取が憂慮される。一部の場所では、周囲の樹木が生長して自生地の岩場が暗くなり、やや衰退している。

【保全上の留意点】

旧鳳来町の自生地は県の天然記念物に指定されている。園芸目的の採取を防止するため、保護されている場所以外では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.63, 平草本 I p.234, 平新版 1 p.219, 環境省 p.596, SOS 旧版 p.115.

コアツモリソウ *Cypripedium debile* Rchb.f.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはう。地上茎は高さ 10~20cm、無毛である。葉は 2 枚が対生し、無柄、葉身は広卵形、長さ 2.5~5cm、幅 2~5cm、3~5 本の脈があり、先端は鋭頭、辺縁は波うって毛状突起があり、表面には光沢がある。花期は 5~6 月、花茎は葉の間から出て細く、花はその先端に 1 個、垂れ下がって隠れるようにつき、淡黄緑色、直径約 2cm、苞は線形、長さ 1.5~3cm である。背がく片は卵状披針形、側がく片は 2 枚が合着して楕円状披針形、側花弁は狭披針形、いずれも長さ 1~1.5cm、唇弁は袋状、長さ約 1cm で暗紅紫色の条斑がある。花茎は果期には直立する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (加藤等次 4454, 1994-5-17, 鳥居・高柳 1988, 小林 1992 参照)、7 設楽東部 (芹沢 85913, 2010-6-26)。

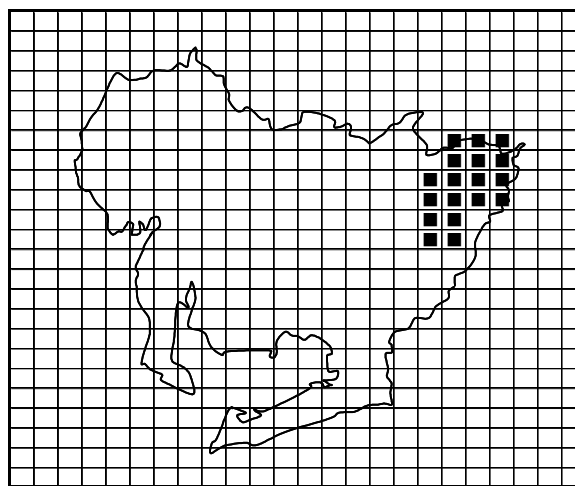
【国内の分布】

北海道西南部、本州中北部、四国 (高知県)、九州 (熊本県)。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画とも生育範囲は狭い。豊根では以前はかなりの個体数が見られたようだが、園芸目的の採取のために激減した。

【保全上の留意点】

現在以上の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花は下向きにつくため、自然状態では目立ちにくい。

【引用文献】

鳥居喜一・高柳久和. 1988. 愛知県豊根村からコアツモリの報告. レポート日本の植物 35:144.  
小林元男. 1992. 三河地方の植物について第 2 報. レポート日本の植物 40:202.

【関連文献】

保草本Ⅲp.6, 平草本 I p.191, 平新版 1 p.193, SOS 旧版 p.110.

マツラン *Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎ははい、長さ 1~3cm になる。葉は互生して 2 列に並び、長楕円形~線状楕円形、長さ 7~20mm、幅 3~5mm、多少湾曲し、先端は鈍頭、革質で暗紫色の斑紋があり、基部は短い鞘となって茎を被う。花期は 7~8 月、下部の葉腋から長さ 8~10mm の花序を出し、2 個の鱗片葉と 1~4 個の淡緑色で平開する花をつける。苞は 3 角形、長さ 0.5~1mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形、長さ 3~3.5mm、先端は鈍頭、暗紫色の斑点があり、唇弁は基部が大きくふくらみ、舷部は腎形、先端は鈍頭または切形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 85939, 2010-7-3)、7 設楽東部 (夏目一平 s.n., 2009-4-28)。2 豊根 (加藤等次 s.n., 1966-6-19)、8 鳳来北東部 (加藤等次 s.n., 1963-8-3)、西：19 旭 (大原準之助 1384, 1951-7-8) で採集された標本もある。

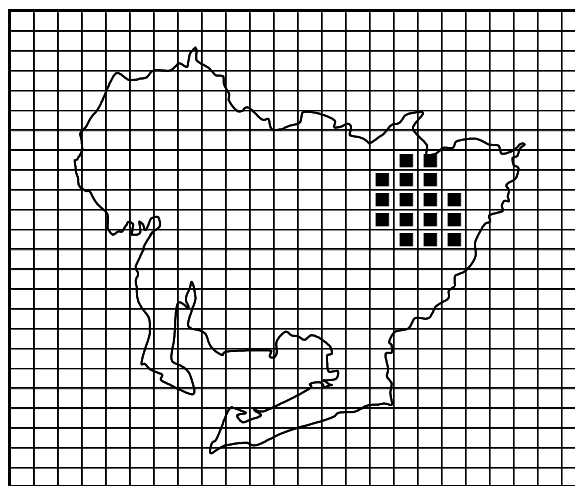
【国内の分布】

本州 (岩手県以南の太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の、主としてモミ、ツガなどの樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

伐採された木についていたものが、偶然採集されただけである。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

ベニカヤランとも呼ばれる。モミラン *G. toramanus* (Makino) Schltr. も愛知県 (鳳来町川合) にあると報告されている (大原 1984) が、写真が不鮮明でよくわからない。確実な標本資料がないため、今回のリストには掲載されていない。

【引用文献】

大原準之助. 1984. 植物新分布報告(13). 植物研究集録, 21: 62-66+表紙写真.

【関連文献】

保草本Ⅲp.67, 平草本 I p.235, 平新版 1 p.202, 環境省 p.600, SOS 旧版 p.115.

オオミヤマウズラ *Goodyera tsukamotoi* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。本地域の湧水湿地を中心に分布する未記載のラン科植物。かつては比較的多い場所もあったが、近年激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は横にはい、先端は直立して高さ 25~40cm になる。葉は直立部の基部に数個が互生し、長さ 0.5~1.2cm の柄があり、葉身は長卵形~楕円形、大きいもので長さ 4~6.5cm、幅 2~2.5cm、先端は鋭頭、表面は全体緑色のことが多いが白斑が入ることもある。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 9 月、花は茎の上部に 0.7~2cm の間隔で 8~14 個つき、白色で平開せず、花被片は長さ 10~13mm、苞は広披針形で長さ 6~17mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (小林 73668, 2001-9-24)。  
西：19 旭 (芹沢 62497, 1992-8-22)、25 豊田北西部 (芹沢 82210, 2007-9-10)、31 幸田 (金子律子 12751995-9-22)、36 西尾南部 (岡田速 28, 1991-3-11)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 82214, 2007-9-10)、37b 尾張旭 (村松正雄 27088, 2013-9-23)、47 小牧 (小林 60932, 1997-4-29)、48 春日井 (山田果与乃 1256, 2005-9-19)、50 名古屋北部 (芹沢 92748, 2017-7-29)。

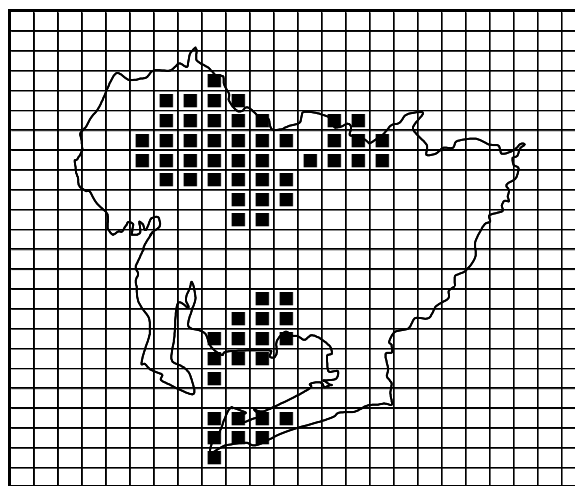
【国内の分布】

本州~九州。関東地方南部から屋久島までの範囲に点在しているらしい。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湧水湿地周辺に成立する湿地林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地に点在しており、以前はかなり個体数の多い場所もあったが、近年激減してどこも僅かに残存しているという状態になってしまった。環境がほとんど変化していない場所でも減少していることから、原因としては園芸目的の採取が疑われるが、確証はない。名古屋北部では、以前あった場所は林の伐採により消失してしまったが、最近別の場所で見つかった。しかしここでは、開花個体が確認されていない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミヤマウズラに似ているが、全体に大型、葉は白斑が入らないことが多く、花は大きくて平開せず、互いにやや離れてつき、花期も半月以上遅い。一部の場所ではミヤマウズラと混生しているが、形態的な差は明瞭で中間型は出現しない。

## ギボウシラン *Liparis auriculata* Blume

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。山地性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は高さ 15~30cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は広卵形、長さ 5~12cm、幅 3~8cm、先端は急鋭頭、基部は円形~浅い心形でやや鞘状に茎を抱き、葉脈はくぼむ。花期は 7~8 月、花は花茎の上部に十数個つき、通常白色、苞は披針状 3 角形、長さ約 2mm である。がく片は線状楕円形、長さ 5~6mm、先端は鋭頭、側花弁は線形で鈍頭、唇弁は倒卵状くさび形、がく片とはほぼ同長で円頭、舷部中央に暗紫色の着色部がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52809, 1994-7-23)、2 豊根 (小林 38398, 1992-7-25)。

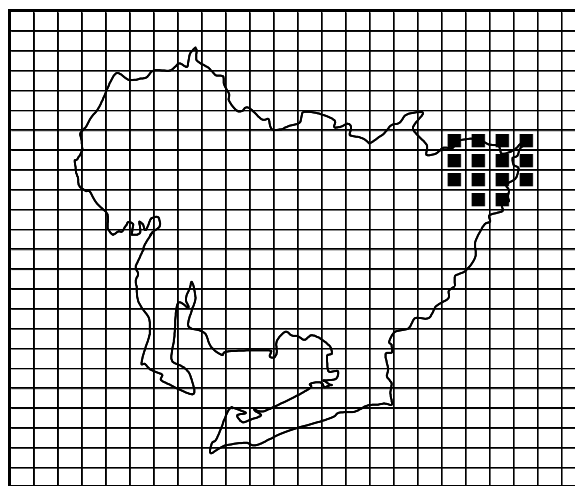
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地	○			
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ、2 カ所で少数株が確認されている。他にも 1 カ所あったが、山草愛好家に持ち去られたらしく、消滅した。

### 【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

和名は、葉の脈がくぼんで、ギボウシの葉に似ているからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.50, 平草本 I p.219, 平新版 1 p.212, 環境省 p.354, SOS 旧版 p.112.

セイタカスズムシソウ *Liparis japonica* (Miq.) Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。山地性のラン科植物で、県内では個体数が少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20~40cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は楕円形、長さ 6~12cm、幅 3~5cm、先端は鈍頭、基部はくさび形でやや鞘状に茎を抱く。花期は 7~8 月、花は花茎の上部に多数がややまばらにつき、多少なりとも紫を帯びた緑色、苞は卵状 3 角形、長さ 1~1.5mm である。がく片は線状披針形、長さ 8~10mm、先端は鈍頭、側花弁は糸状である。唇弁は倒卵形、長さ 7~8mm、幅約 5mm、先は円頭で凸端、辺縁には細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44863, 1993-6-27)、2 豊根 (小林 52365, 1994-6-26)、3 東栄 (小林 38228, 1992-7-11)、4 津具 (小林 44247, 1993-6-13)。ただし一部の区画では、すでに消滅しているかもしれない。

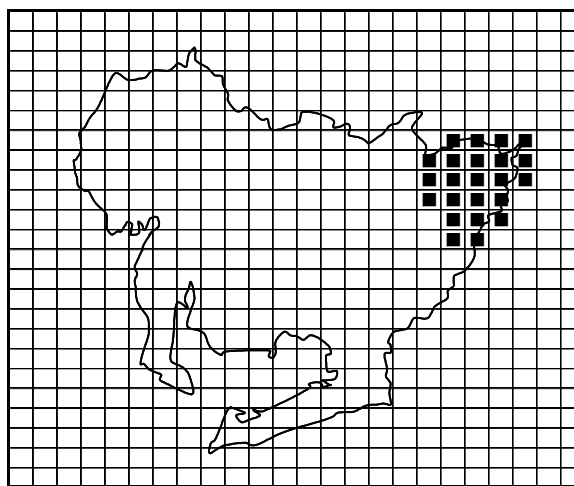
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

数カ所で確認されているが、どの場所でも個体数は少なかった。最近の状況は十分確認されていないが、山草愛好家に発見されれば消滅の可能性が高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

スズムシソウに比べ、植物体は大きく、花は小さい。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.51, 平草本 I p.219, 平新版 1 p.212.

フウラン *Neofinetia falcata* (Thunb.) Hu

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。広く観賞用に栽培される植物で、園芸目的の採取圧が高い。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は短く、古い葉の基部に覆われる。葉は 2 列に密に互生し、2 つに折れて断面が V 字形となり、湾曲して開出し、広線形、長さ 5~10cm、幅 7~8mm、革質で硬い。花期は 6~7 月、下部の葉腋から 3~10cm の花茎を出し、その先端に白色の花を 2~5 個つける。苞は卵状披針形、長さ 4~7mm である。がく片と側花弁は同形、線状披針形、長さ約 10mm、先端は鋭頭、唇弁は舌状、長さ 7~8mm、中部で 3 裂し、側裂片は半円形、中裂片は狭卵形である。距は長く、線形で湾曲し、長さ約 5cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (小林 63085, 1998-1-10)、12 新城 (小林 48912, 1993-10-19)、13 豊川 (小林 47292, 1993-9-4)。西：29 岡崎北部 (杉田一記 2113, 2011-8-2)。名古屋市内にもあるという話を聞いたが、まだ標本が確認できていない。

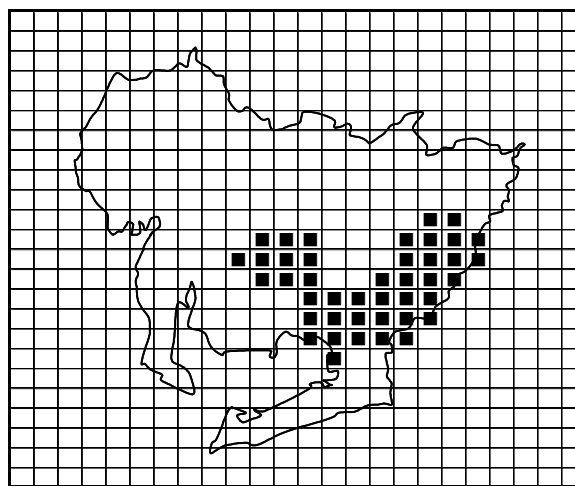
【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹の樹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なく、しかも手が届く範囲にはほとんどない。昔から観賞用に広く栽培される植物で、よほど高い位置に着生していない限り、すべて持ち去られてしまう。手が届かない位置にあるものも、近年の気候の乾燥化により、衰退傾向にあるのではないかとと思われる。

【保全上の留意点】

本種が着生しているような老樹を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.62, 平草本 I p.233, 平新版 1 p.229, 環境省 p.605, SOS 旧版 p.113.

ノビネチドリ *Neolindleya camtschatica* (Cham.) Nevski

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 15。寒冷地性のラン科植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。根は一部円柱状に肥厚する。茎は直立し、やや太く、高さ 30~60cm になる。葉は 5~10 個が互生し、楕円形~狭長楕円形、長さ 7~15cm、幅 2~6cm、先端は下部の葉では鈍頭、上部の葉では鋭頭、基部は茎を抱いて葉鞘となり、辺縁は波状に縮れ、脈は裏面に隆起する。花期は 5~7 月、花は茎の上部に穂状となって多数つき、淡紅紫色、苞は披針形、花と同長かそれよりやや長い。がく片は狭卵形で長さ約 5mm、側花弁は斜卵形でがく片より短い。唇弁はくさび状広卵形、がく片よりやや長く、先端は 3 浅裂し、中裂片は側裂片より短い。距は湾曲して前を向き、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15206, 1994-5-17)、  
4 津具 (小林 45467, 1993-7-18)。6 設楽西部  
(名倉市ノ瀬, 鳥居喜一 12262, 1957-6-2,  
HNSM)、5 稲武 (井山峠, 鳥居喜一 12261,  
1961-5-18, HNSM) で採集された標本もある。

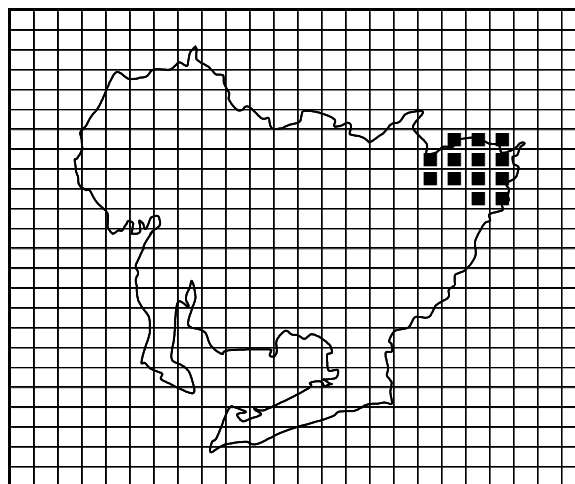
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカ、サハリン、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の明るい林内や林縁の草地に生育する。時に林道わきの草地などにも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

散発的に生育しているだけで、個体数は極めて少ない。紅紫色の花をつけるため、園芸目的で採取されることも多い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んではいないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【特記事項】

和名は根が円柱状に伸びるからで、テガタチドリに対する名である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.15, 平草本 I p.201, 平新版 1 p.214, SOS 旧版 p.111.



イヌマムカゴ *Platanthera iinumae* (Makino) Makino

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。全国的に希少な植物で、県内でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎はやや肥厚し、背側に芽をつける。地上茎は直立し、高さ 25~40cm になる。葉は互生し、中部の 2 枚は大型、葉身は長楕円形、長さ 8~15cm、幅 2~4cm、先端は鈍~円頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、披針形の鱗片状になる。花期は 7~8 月、花は茎の上部に多数穂状につき、黄緑色、苞は線状披針形で長さ 5~7mm である。背がく片は卵形、長さ 1.5~2mm、側がく片は長楕円形、側花弁は狭卵形で、背がく片に接してかぶと状となる。唇弁は卵形、長さ約 3mm、白色、基部の左右に小さい側裂片があり、先端は鋭頭、距は楕円形で、長さ 1~1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (夏目一平 s.n., 2009-8-1)。  
西：5 稲武 (小林 39988, 1992-10-2)。3 東栄 (振草村小林、採集者不明, 1945-8-5, TMNH) で採集された標本もある。

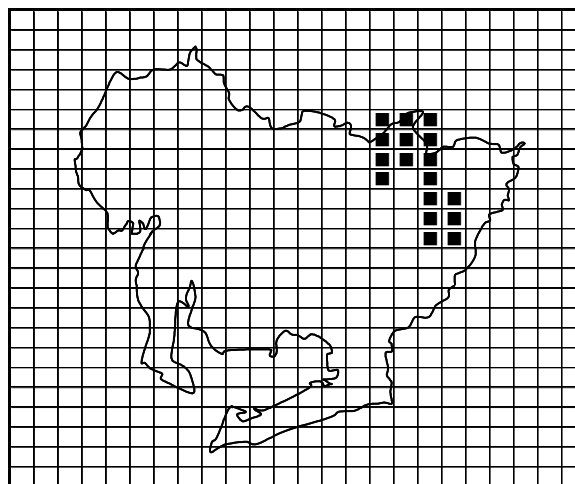
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

設楽東部では、道路わきに数株が生育していたという。稲武でも 1 カ所にごく少数の個体が生育していただけらしい。

【保全上の留意点】

全国的に希少な植物であり、生育地の個別的な保全が必要である。花が美しい種類ではないが、希少ということで好事家に採取されるおそれがあり、カメラマンや観察者による攪乱も懸念される。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、本草書「草木図説」の著者である飯沼欲齋のムカゴソウという意味である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.15, 平草本 I p.193, 平新版 1 p.221, 環境省 p.360, SOS 旧版 p.115.

トキソウ *Pogonia japonica* Rchb.f.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 14。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

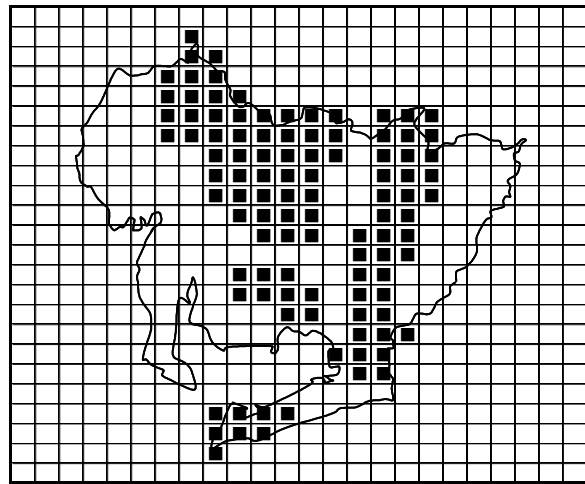
多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、長く横にはう。地上茎は直立し、高さ 10~30cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、無柄、葉身は披針形~線状長楕円形で、長さ 4~10cm、幅 7~12mm、先端は通常鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘をつくらない。花期は 5~7 月、花は茎の先端に 1 個つき、横向きを開いて淡紅色、苞は葉状で披針形、長さ 2~4cm である。背がく片は長楕円状倒披針形、長さ 1.5~2.5cm、幅 3~5mm、先端は鈍頭、側がく片はやや幅が狭く、側花弁は長楕円形、がく片よりやや短い。唇弁はがく片と同長、3 裂し、側裂片は 3 角形で翼状、中裂片は大きく、内面や辺縁に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 55562, 1990-6-19)、11 作手 (芹沢 56040, 1990-7-26)、15 豊橋北部 (瀧崎吉伸 9419, 1987-6-14)、18 田原西部 (芹沢 58623, 1991-5-26)。西：5 稲武 (日比野修 4013, 1997-6-24)、22 小原 (日比野修 3669, 1996-7-28)、23 藤岡 (日比野修 2900, 1995-6-16)、24 豊田東部 (芹沢 58678, 1991-5-28)、25 豊田北西部 (芹沢 54943, 1990-5-17)、30 岡崎南部 (芹沢 51606, 1989-5-25)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 429, 1992-6-26)、38b 日進 (渡辺昌代 s.n., 2000-6-18)、45 犬山 (芹沢 55634, 1990-6-20)、48 春日井 (芹沢 55630, 1990-6-20)。ただし設楽西部は湿地の埋め立て、岡崎南部と犬山は園芸目的の採取により絶滅した。12 新城 (有海原, 鳥居喜一 6465, 1968-6-22, HNSM)、19 旭 (八幡牧場, 大原準之助 s.n., 1966-6-6)、50 名古屋北部 (守山市前池, 飯尾俊介 35, 1964-5-31)、51 名古屋南東部 (緑区滝ノ水, 浜島繁隆 s.n., 1971-6-20) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。

【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつては本地域の湿地にかなり普通に見られたらしいが、花が美しいため集中的に乱獲され、激減した。どの湿地でも、人が入れば最初に消失するのは本種であると言ってよいほどである。長く横走する根茎の途中から新株を出すため、繁殖力がそれほど弱いとは思えないが、採取圧はそれをはるかに上回っている。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

一方、春日井市の築水池北岸は容易に人が接近できないため本種が安心して生育できる数少ない場所の一つであったが、遊歩道が整備され、誰にもすぐ目につくようになった。一度作ってしまった遊歩道を閉鎖できないとすれば、後は多くの人の目で監視していくほかない (山田・芹沢 2001)。このような場所は、本来は自然の聖域として、遊歩道の設置を避けるべきであった。自然とのふれあいのための施設を整備する際には、十分な事前調査と長期的保全のための配慮が必要である。

【引用文献】

山田果与乃・芹沢俊介. 2001. 野山を歩こう① 築水池・弥勒山の植物. 愛知県植物誌調査会, 刈谷. 32pp.

【関連文献】

保草本Ⅲp.25, 平草本 I p.205, 平新版 1 p.225, SOS 旧版 p.114.

ウチョウラン *Ponerorchis graminifolia* Rehb.f.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。根は球状に肥厚する。茎は斜上し、高さ 7~20cm。葉は 2~3 個が互生し、線形~広線形、長さ 7~12cm、幅 3~8mm、上方はやや湾曲し、先端は鋭尖頭、基部はやや茎を抱いて葉鞘となる。花期は 6~8 月、花は茎の上部に数個が一方に傾いてつき、紅紫色、苞は狭披針形、長さ 7~12mm である。背がく片は卵円形、側がく片と側花弁は斜卵形で、長さ 5~6mm、唇弁は深く 3 深裂して開出し、長さ幅ともに約 13mm、中裂片の先端は円頭または微凹頭となる。距は長さ 10~15mm、先端は湾曲して前方を向く。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 84333, 2009-6-27)、6 設楽西部 (小林 44945, 1993-7-4)、7 設楽東部 (山崎玲子 1616, 1997-7-6)、8 鳳来北東部 (芹沢 90296, 2015-7-4)。2 豊根 (佐久間ダム下、加藤等次 s.n., 1968-8-2) で採集された標本もある。

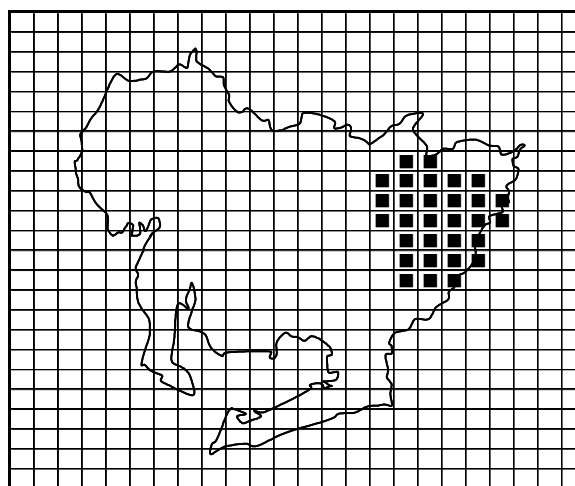
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の湿った岩壁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

全国的には、山草業者による商業的採取が問題とされることが多い。しかし、山草業者による採取は、個体数があるレベル以下にまで減少すれば、採算がとれないため停止される。愛知県の状況は、すでにそのレベルを割り込んでいる。ここまで減少させたという点で商業的採取の責任は大きい。現在僅かに残存している集団に対する最大の脅威は、むしろ好事家の手で絶滅するまでくり返される、非商業的採取である。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒナチドリ *P. chidori* (Makino) Ohwi も愛知県 (設楽町段戸山、稲武町舟山) にあると報告されている (大原 1971) が、確実な標本資料がないため、今回のリストには掲載されていない。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.152. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.11, 平草本 I p.200, 平新版 1 p.225, 環境省 p.606, SOS 旧版 p.114.

コキンバイザサ *Hypoxis aurea* Lour.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。小型の草  
地性植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

多年生草本。地下茎は塊状で、直径 6~10mm である。葉は束生し、線形、長さ 10~25cm、幅 2  
~4mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、平行脈があり、全体に長い毛が多い。花期は 4~6 月、葉の間  
から長さ 5~10cm の細い花茎が出て、その先に 1~2 個の花をつける。花被片は 6 個で黄色、披針  
状長楕円形、長さ 4~6mm、平開する。外花被片の先端背面には、長い毛が多い。果実は蒴果で長  
楕円形、長さ 8~10mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (小林 69426, 2000-7-5)、13 豊川 (小林 38530, 1992-8-7)、15 豊橋北部 (芹  
沢 85764, 2010-6-7)。西：23 藤岡 (日比野修 598, 1992-8-1)、28 額田 (福岡義洋 924,  
1990-7-24)。ただし豊橋北部以外ではごく最近の状況が確認されておらず、一部ではすで  
に消失した可能性がある。

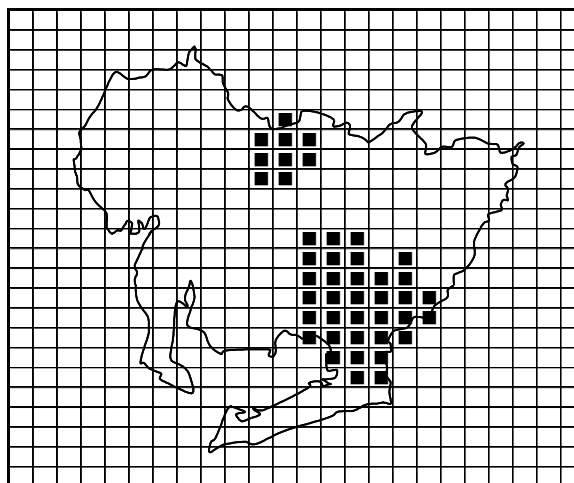
【国内の分布】

本州 (宮城県以南)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、マレーシア、  
インド。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の山すその草地に生育する。愛知県では、谷戸田周辺の、  
頻繁に草刈りが行われる場所などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。小型の植物なので、草刈りの頻度が低くなると、他の植物におお  
われ消滅してしまう。過度の草刈りにより絶えてしまったと思われる例も皆無ではないが、それよ  
りも谷戸田の放棄による草地の消失が、減少の最大の要因である。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺  
産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう配慮  
する、あるいはそれが不可能なら代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持  
する努力が必要である。

【特記事項】

目立たない植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査の際には  
特に注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.86, 平草本 I p.55, 平新版 I p.232, SOS 旧版 p.96.

## ヒオウギ *Iris domestica* (L.) Goldblatt et Mabb.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。総点は 13 であるが、人為圧としてはマイナス評価にしかない管理放棄によって草地が減少していることを考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立して上部で分枝し、高さ 50~120cm になる。葉は互生し、2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、広い線形、長さ 30~50cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、緑色で多少粉白をおびる。花期は 8~9 月、分枝した枝先に数個の膜質の苞をつける。花は苞の中に 3~4 個つき、直径 4~5cm、長さ 1~4cm の柄があり、花被片は 6 枚、橙色で内面に暗赤色の斑点があり、狭長楕円形である。果実は蒴果で倒卵状楕円形、長さ約 3cm。種子は光沢のある黒色、球形で直径約 5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46836, 1993-8-21)、3 東栄 (小林 38919, 1992-8-23)、7 設楽東部 (小林 54703, 1994-10-22)、8 鳳来北東部 (小林 40116, 1992-10-24)、11 作手 (小林 62484, 1997-9-27)、15 豊橋北部 (芹沢・芳山 172, 1984-7-27)。西：23 藤岡 (日比野修 3696, 1996-8-8)、28 額田 (小林 49218, 1993-10-30)。12 新城にもあるという (小林 2000)。標本は採取しなかったが、9 鳳来南部でも見たことがある。ただしこれらの区画のうちいくつかでは、すでに絶滅している可能性が高い。2 豊根 (下黒川新井, 鳥居喜一 324, 1958-9-22, HNSM)、14 蒲郡 (西浦町, 鳥居喜一 12221, 1949-7-17, HNSM)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 275, 1958-7-24) で採集された標本もある。

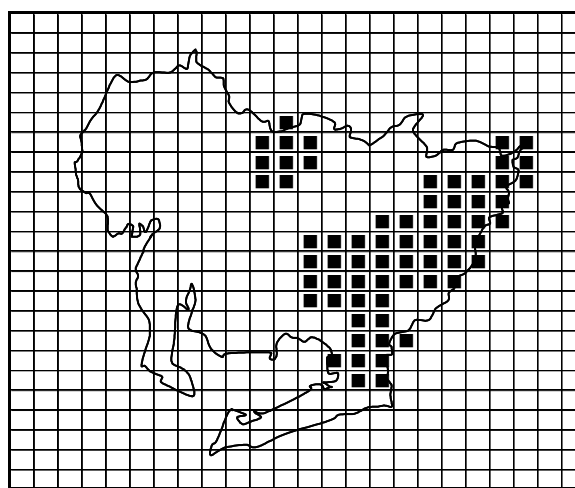
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、インドなど。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の草原に生育する。谷戸田周辺の里草地にはあまり見られず、尾根すじのカヤ場に多い。岩棚などに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

東三河には点在するが、個体数は少ない。西三河では極めて稀で、尾張ではまだ確認されていない。採草地としての利用の停止に伴う草地の減少により、近年著しく減少している。全国的にも、似たような状況にあると思われる。

### 【保全上の留意点】

尾根筋の草地は防火帯としても重要であり、定期的に草刈りを行って草地状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

観賞用として、しばしば栽培される。和名は、葉の並び方が檜扇に似ているためである。種子は黒くてうば玉、あるいはぬば玉と呼ばれ、古来黒、夜、あるいはそれに関連した語の枕詞とされた。

### 【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.163. 愛知県, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.74, 平草本 I p.62, 平新版 1 p.234, SOS 旧版 p.96.

アヤメ *Iris sanguinea* Hornem.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。山地の草地に生育する植物で、愛知県では本来の自生と思われるものは生育地、個体数ともに極めて少ない。栽培起源の逸出品は平野部のところどころで見られるが、これらは評価の対象外である。

【形態】

多年生草本。地下茎は分枝して褐色の繊維に被われる。葉は根生して互生し、2列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形、長さ 30~50cm、幅 5~10mm、中脈はあるが目立たない。花期は 5~7 月、花茎は高さ 30~60cm で、先端に鞘状の苞をつけ、その中に 2~3 個の花がつく。花は紫色で直径 8cm 程度、外花被片は 3 枚、拡大部は広倒卵形で、斜めに垂れ、中央部は黄色、そのまわりは白色で、紫色の細脈がある。内花被片は楕円状倒披針形、長さ約 4cm で直立する。蒴果は長楕円形で長さ約 4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 43235, 1993-5-23)、18 田原西部 (小林 44488, 1993-6-19)。2 豊根 (老平, 加藤等次 s.n., 1967-5-21) で採集された標本もある。これ以外の区画のものは、栽培品の逸出と思われる。

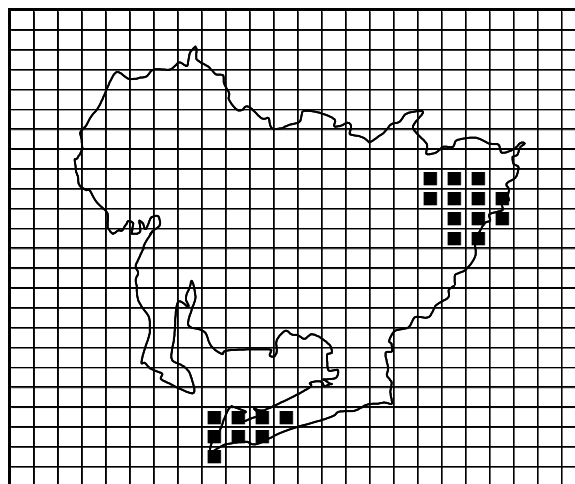
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草原に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東栄は「10 株単位で生育していたが、2004 年に訪れたところ豊根側でわずかに余命を保っているだけで、東栄側では林内が暗く消滅したよう」と報告されている (小林 2006)。田原西部は小群落で、現在は植栽状だが、昔からあったものらしい。

【保全上の留意点】

生育地の草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

同属の他種と異なり、湿地には生育しない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.79. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.79, 平草本 I p.61, 平新版 1 p.235, SOS 旧版 p.97.

## ゼンテイカ

*Hemerocallis dumortierii* Morr. var. *esculenta* (Koidz.) Kitam. ex M.Matsuoka et M.Hotta

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。山地性の植物で、愛知県は分布域の南西限に近い。県内では生育地、個体数ともに少ない。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は短く、太く、通常ふくらみのない根を出す。葉は束生し、2列に重なり合い、長さ 60~70cm、幅 16~20mm、無毛である。花期は亜高山帯では 7~8 月だが低地ではより早く、花茎は高さ 60~80cm、先端部の花序は短く、長さ 1.5~6cm、2 分枝し、3~10 個の花を総状につける。花柄は長さ 0.5~3cm、花筒は長さ 15~20mm、花被片は 6 個で橙黄色、長さ 6.5~8cm である。果実は蒴果で広楕円形、長さ 20~25mm になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 87053, 2011-6-5)、6 設楽西部 (小林 44089, 1993-6-12)、10 鳳来北西部 (小林 51994, 1994-6-5)。2 豊根 (萩太郎山の野草園) にもあるが、これは植栽されたものである。

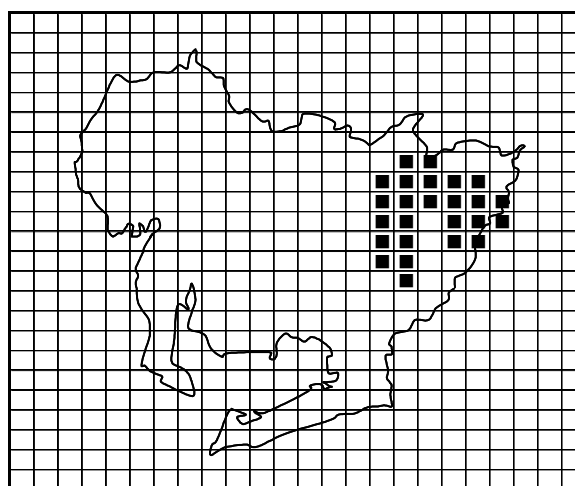
#### 【国内の分布】

北海道、本州 (中部以北)。

#### 【世界の分布】

サハリン、千島列島南部、日本。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地に群生するが、標高の低い場所では川岸や岩場、明るい林内などに生育する。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

3 カ所とも小群落で、そのうち 1 カ所はすぐ近くまで採石が行われている。別の 1 カ所は道路沿いで、園芸目的の採取により減少している。

### 【保全上の留意点】

採石場の拡大や道路の改修の際には、注意が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。萩太郎山のものは生物多様性の観点からは保全の対象にならず、むしろ除去が望ましい。

### 【特記事項】

ニコウキスゲとも呼ばれ、初夏の高原を飾る花として有名である。変種小名は「食べられる」という意味で、若葉、つぼみ、花は食用になる。基準変種のヒメカンゾウは、原産地不明の栽培品である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.142, 平草本 I p.30, 平新版 1 p.238, SOS 旧版 p.94+図版 9 (ニコウキスゲとして) .

ステゴビル *Allium inutile* Makino

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。全国的に希少な植物で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下に球形で直径 1~1.5cm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は膜質で淡褐色である。根出葉は束生し、扁平な線形で長さ約 30cm、晩秋に出て冬を越し、夏に枯れ、その後に花茎が出る。花期は 9~10 月、花茎は高さ 15~30cm で、先端に数個の花を散形状につけ、花被片は 6 個で白色、線状披針形、長さ 7~8mm、下部は合着し、上部は開出する。雄ずいは 6 個、花被片より短く、基部が花被に付着する。果実は蒴果で扁円形、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (芹沢 83354, 2008-9-20)、  
18 田原西部 (芹沢 73285, 1996-9-29)。各 1  
カ所で確認されている。

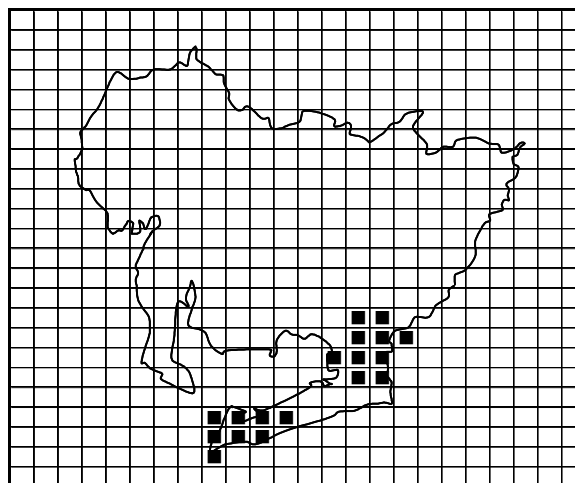
【国内の分布】

本州 (茨城県、埼玉県、愛知県、岐阜県、  
京都府など) に稀に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部 (石巻山) は昔からよく知られた自生地であるが、現在ではごく少数の個体が残存しているにすぎない。渥美は比較的大きい群落であった。マニアによる採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしが最も危惧される。

【保全上の留意点】

どちらの自生地も当面開発が想定される場所ではなく、なるべく人に知られないことが最善の保全策である。

【特記事項】

「日本の野生植物」I 28 図版には、石巻山で撮影された写真が掲載されている。ネギ属の大部分の種と異なり、臭気がなく、花被片は中部以下で合着する。

【関連文献】

保草本Ⅲp.125, 平草本 I p.37, 平新版 p.241, SOS 旧版 p.92+図版 11, 環境省 p.547.



## ヒメマイヅルソウ *Maianthemum bifolium* (L.) F.W.Schmidt

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。寒冷地系の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。細く長い根茎がある。地上茎は高さ 8~15cm になる。茎葉は 2 個あって互生し、葉身は卵形、長さ 3~5.5cm、幅 2~3.5cm、先端は鋭頭、基部は心形、葉縁には微小な毛状で半透明の鋸歯があり、葉の裏面や茎の上部に毛が多い。花期は 5~7 月、茎の先端に 1 個の総状花序をつけ、花被片は 4 個、白色、楕円形で長さ約 2mm、平開して先は反り返り、雄ずいも 4 個である。果実は液果で球形、赤色に熟す。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：7 設楽東部 (小林 51701, 1994-5-28, 小林 1987 参照)。1 カ所で確認されているだけである。

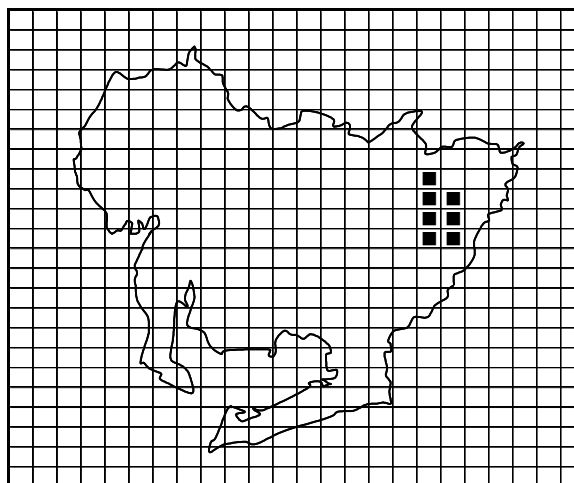
#### 【国内の分布】

北海道、本州 (中部地方以北)。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア、サハリン、カムチャッカ。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

通常、亜高山帯の針葉樹林内に生育する。愛知県の生育地は、落葉広葉樹の二次林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があるだけで、生育状態もあまりよくなく、開花する個体はごく僅かであった。当面開発が想定される場所ではないが、伐採や、希少性につられての園芸目的の採取が懸念される。

### 【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

マイヅルソウに似ているが、葉がやや細長く、葉縁に微小な鋸歯があり、葉裏や茎の上部に毛がある。

### 【引用文献】

小林元男. 1987. 愛知県下のヒメマイヅルソウの新産地. レポート日本の植物(32):111

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.107, 平草本 1 p.48, 平新版 1 p.254, SOS 旧版 p.95.

ワニグチソウ *Polygonatum involucratum* (Franch. et Sav.) Maxim.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。山地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。地下茎は細く、節間は長くて横走り、先端から 1 本の地上茎を出す。地上茎は高さ 20~40cm、下部は直立し、上部は斜めに傾く。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ 4~10cm、幅 2~4cm、先端は急に狭くなって鈍頭、基部は広くさび形、辺縁は全縁、裏面はやや粉白色となる。花期は 5~6 月、花柄は葉腋から下垂し、先端に 2 個の苞をつけ、その内側に 2 個の花がつく。苞は卵形、長さ 15~25mm、葉状で平滑、花筒は白緑色で長さ約 25mm、先端は 6 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 31351, 1987-5-4)。西：5 稲武 (小林 38037, 1992-6-28)。

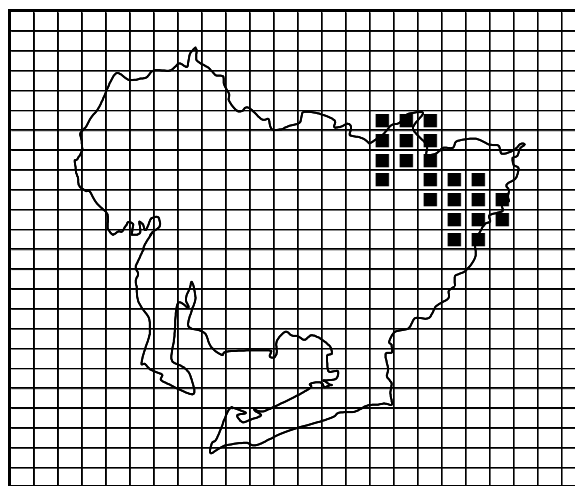
【国内の分布】

北海道西南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズベキスタン。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。愛知県の生育地は、落葉広葉樹の二次林とヒノキ造林地内であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小林 (1992) によって愛知県産が報告された植物で、2 区画の各 1 カ所に小群落があるという。「個体数は 2 カ所で 50 株以下と少なく、しかも間伐などの手入れ不足で開花個体はほとんど見られない (そのため個体数階級は 4 になる) 危機的な状況にある」(小林 2006) と報告されている。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れを行う必要がある。二次林については、当面生育地の林を保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、2 枚の苞葉の形状を神社の拝殿に下がる鰐口に見立てたものである。

【引用文献】

小林元男. 1992. 三河地方の植物について第 2 報. レポート日本の植物(40):202.  
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.77. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.112, 平草本 I p.47, 平新版 1 p.257, SOS 旧版 p.96.

ミクリ *Sparganium erectum* L. (図版 2)

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。低地性のやや大型の水草で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

挺水性の多年生草本。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、高さ 60～150cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、長さ 50～120cm、幅 7～20mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角形になり、下部は葉鞘となる。花期は 6～8 月、雌雄同株、茎の上部の葉腋から枝を出し、各枝の下部に 1～3 個の雌性頭状花序を、上部に多数の雄性頭状花序をつける。雌性花序は無柄、球形、果期に直径 2～3cm になり、果実は通常紡錘形、長さ 6～9mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：39b 豊明 (芹沢 76841, 2000-7-1)、48 春日井 (芹沢 78015, 2002-8-27)、50 名古屋北部 (芹沢 82963, 2008-7-16)。

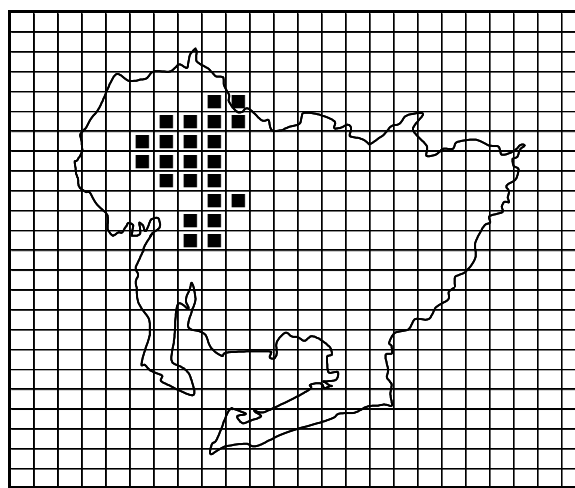
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼、河川、水路などの浅い水中に群生する。愛知県の場合、豊明はため池、春日井は小河川、名古屋北部は水路である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況／減少の要因】

各 1 カ所に小群落がある。周辺が住宅地化されているので、生活排水の流入による水質の汚濁が最も懸念される。豊明ではため池の改修により、水辺植生が消失する可能性もある。長期的には、埋め立てられてため池そのものが消失するおそれもある。名古屋北部は個体数が多かったが、大半が埋め立てられて消失した。

【保全上の留意点】

生育地のため池や水路を保全し、水質を維持することが必要である。特に庄内川左岸の山すそにある崖泉は、水の恵みを象徴するような場所であるにもかかわらず、水源部に産業廃棄物処分場が設置されるなど、その重要性がよく認識されていない。地形的にも貴重な場所であり、その価値を再確認する必要がある。

【特記事項】

他にも生育地がある可能性があり、多くの人の目で探索する必要がある。和名は、果序の形状がクリに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.419, 平草本 I p.142, 平新版 I p.278.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.77. 文一総合出版, 東京.

ミカワイヌノヒゲ *Eriocaulon mikawanum* Satake et T.Koyama

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 14。本地域の固有種とされる植物で、生育地が狭い範囲に限られている。

【形態】

1年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、線形、長さ 2~9cm、幅 1~2mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 8~9月、花茎は多数つき、長くても 15cm 程度、基部に 1~5cm の鞘があり、密に生育している個体でなければ中央の 1 本だけが直立し、他は外側に開曲し、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は小さく、直径 1~3mm、総苞片は披針形で、頭花の 1.3~2 倍である。小花には多少なりとも白色の短毛がある。子房と蒴果は通常 2 室が退化し 1 室となるが、稀に 2 室が発達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (芹沢 94667, 2018-10-2)。西：28 額田 (小林 53452, 1994-9-3)。作手では旧村内の 3 カ所の湿地で確認されている。

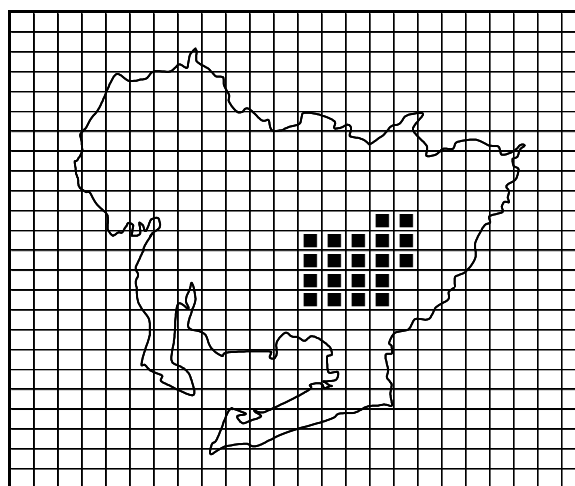
【国内の分布】

本州 (愛知県)。

【世界の分布】

日本固有種とされている。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の湧水のある湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は良好な自然湿地に限られているが、そこでは個体数は多い。過去の湿原開拓の際には大きな影響を受けたと思われるが、近年に限れば小康状態である。

【保全上の留意点】

旧作手村には多数の湿地があったが、その多くは開拓等により埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。現在残存している湿地は、大小を問わず、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

愛知県の固有種とされているが、イヌノヒゲ *E. miquelianum* Koernicke は形態の変異が著しく、本種の特徴とされる形質は全てその変異内に収まってしまう (芹沢 1992)。おそらくはイヌノヒゲの極端型にすぎない。ただし、全形質の組み合わせがミカワイヌノヒゲと同じものは、作手村とその周辺以外では発見されていない。

【引用文献】

芹沢俊介. 1992. 愛知県および岐阜県東濃地方の丘陵・低山地における湿地性植物の現状 p.110-114. 愛知教育大学生物学教室, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲp.181, 平草本 I p.79, 平新版 1 p.284, 環境省 p.559, SOS 旧版 p.98, SOS 新版 p.63,65.

クロホシクサ *Eriocaulon parvum* Koern.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも生育地が少ない。小型の 1 年生草本で年変動も大きいため、個体数は 1 桁少なく見積もられている。

【形態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して通常ロゼット状に広がり、線形、長さ 2~4cm、幅 0.5~1.8mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 9~10 月、花茎は多数つき、高さ 8~15cm、5~6 本の肋があって少しねじれ、先端に球形の頭花をつける。頭花は直径 4~5mm、藍黒色、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、倒卵形、小花には白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (瀧崎吉伸 24930, 2008-10-26)。西：24 豊田東部 (山崎玲子 2102, 1999-10-13)。尾：48 春日井 (芹沢 76592, 1999-10-9)、50 名古屋北部 (鳥居ちよ子 1497, 1998-10-10)。ただし豊田東部では、貧弱な 1 個体が確認されただけである。13 豊川 (一宮町足山田, 鳥居喜一 7177, 1962-9-30, HNSM)、15 豊橋北部 (岩崎町長尾池、恒川敏雄 s.n., 1970-9-26, TMNH)、25 豊田北西部 (猿投村加納, 井波一雄 s.n., 1960-10-23, CBM193593) で採集された標本もある。

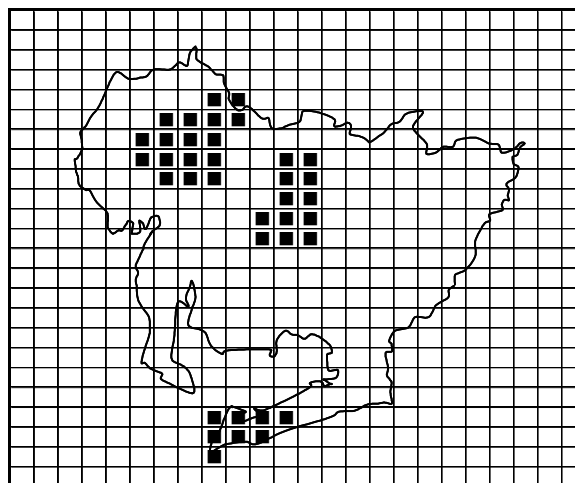
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺や水田などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

田原西部では一つの貯水池 (初立ダム)、春日井では隣接した 2 つのため池 (大泉寺池、鉄小池)、名古屋北部では 1 つのため池 (大久手池) に生育している。ただし、個体数は年による変動が著しく、水が引かない年には全く出現しないこともある。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されている池沼 (特に初立ダム、大泉寺池、大久手池) は、他の植物も多く生育しており、水辺地形や水質を注意して保全することが必要である。

【特記事項】

ホシクサ *E. cinereum* R.Br. と混生していることが多く、全体の形状はそれによく似ているが、頭花が黒く、小花に白色の短毛がある。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 10 に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.179, 平草本 I p.78, 平新版 1 p.282, 環境省 p.560, SOS 新版 p.119,121.

オオタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. et Sav. var. *rouyana* (Franch.) Kük.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 30~50cm、3稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、時に一部のみ赤紫色、後に繊維状になる。葉は細い線形、幅 3~6mm である。果期は 4~6 月、小穂は 3~4 個、互いに離れてつき、頂小穂は雄性、披針形~線形で長さ 1~2cm、側小穂は雌性でまばらに 3~5 個の果胞をつけ、長さ 1.5~2.5cm、下部のものは長い柄があって下垂する。苞は葉状で、最下のものの基部は長い鞘となる。果胞は紡錘状卵形、長さ 6~7mm、無毛、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：23 藤岡 (芹沢 81440, 2007-6-2)。尾：45 犬山 (芹沢 51246, 1989-4-26)。

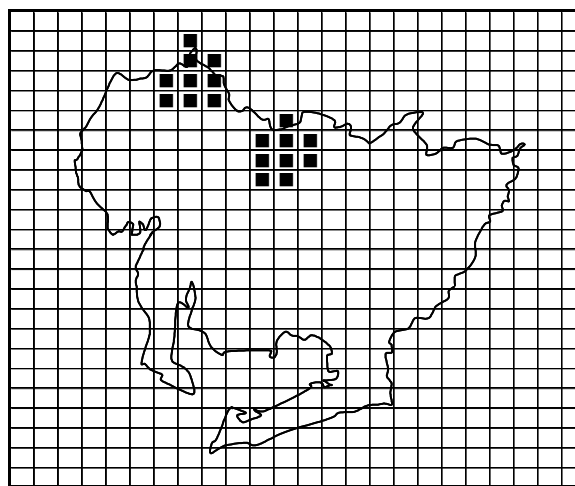
【国内の分布】

本州中部に生育する。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の、林内の明るくやや湿った場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落がある。踏みつけや道路の拡幅により消失する可能性がある。

【保全上の留意点】

目立たない植物なので、遊歩道の整備などに際しては注意が必要である。

【特記事項】

タマツリスゲ var. *filipes* に似ているが、全体にやや大きく、茎の基部の葉鞘は淡色、頂小穂に長い柄があり、小穂につく果胞は多く、またやや大型である。なお、ヒロハノコジュズスゲ *C. jackiana* Boott subsp. *tsukudensis* T.Koyama は愛知県旧作手村産の標本をもとに記載された植物で、コジュズスゲに比べ全体に大型で葉の幅が広く、果胞の嘴が短いとされる。しかし、コジュズスゲとの差違は明確でなく、分類群としての独立性について更に検討が必要なので、今回は評価を保留しておく。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.293, 平草本 I p.154, 平新版 1 p.326, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.310. 文一総合出版, 東京.

## サツマスゲ *Carex ligulata* Nees ex Wight

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。木質の短い地下茎があり、匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 40~70cm、3稜があり、基部の葉鞘は赤紫褐色で、繊維に分解しない。葉は茎上に互生し、線形、幅 4~8mm、白緑色である。果期は 6~7 月、小穂は 5~7 個が茎の上部に総状にやや離れてつき、頂小穂は雄性、線形で長さ 1~3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5~4cm、直径約 4.5mm、柄はほとんど苞鞘の中にあり、ほぼ直立する。苞は葉状で、長い鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ 4~5mm、密に灰白色の短毛があり、やや長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (小林 52136, 1994-6-14)。

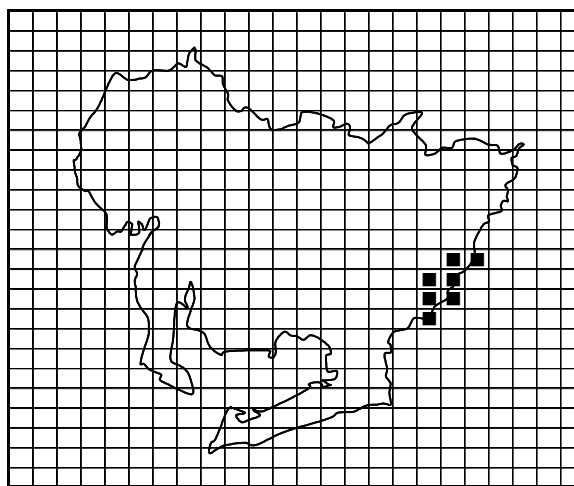
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インド。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林内や林縁に稀に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

「標高 400m ほどのスギ 20 年生林林縁に群生」(小林 1983) と報告されている。その後の調査では、林縁に少数株が生育していたという。

### 【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な管理が必要である。また、造林地はいつか伐採されるはずで、その時の林地の攪乱には注意が必要である。

### 【特記事項】

スゲ属としては珍しく茎が高くなり、多数の葉をつける。

### 【引用文献】

小林元男. 1983. 愛知・静岡県境の浅間山 (521m) の植物. レポート日本の植物(19):176.

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.284, 平草本 I p.150, 平新版 I p.323, SOS 旧版 p.104.

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.284. 文一総合出版, 東京.

**アオミヤマカンスゲ** *Carex multifolia* Ohwi var. *pallidisquama* Ohwi

**【評価理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、補正+1 (シカ食害)、総点 15。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。愛知県産のものでは茎は高さ 8~18cm、基部の葉鞘は褐色で、後に多少繊維状になる。葉は細い線形、幅 1.5~3mm である。果期は 4 月下旬~5 月上旬、小穂は通常 3 個で互いに離れてつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 7~12mm、鱗片は灰白色で中央は緑色となり、褐色を帯びない。側小穂は雌性で長さ 5~12mm、少数の果胞をつける。苞は長い鞘があり、葉身は短い。果胞は長さ 3~4mm、表面には毛があり、先端は次第に細くなって短い嘴状になる。雌花の柱頭は 3 個である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

西：28 額田 (村松正雄 s.n., 2012-4-29)。

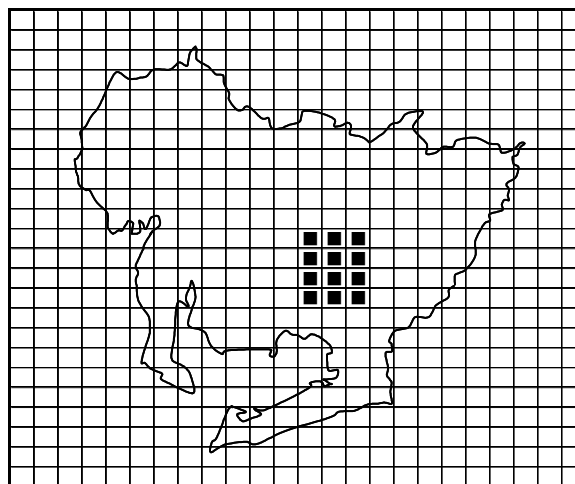
**【国内の分布】**

本州、四国、九州 (トカラ列島黒島まで)。

**【世界の分布】**

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

沢沿いの砂がたまった場所に生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

小群落で、しかもニホンジカに食害されており、小さい株しか見当たらなかった。

**【保全上の留意点】**

シカ食害の防止が必要であるが、道のないところを降りてきてたまたま行き当たった植物なので、現実問題としては難しい。

**【特記事項】**

ミヤマカンスゲに比べ、葉は細くてやわらかく、雄鱗片は褐色を帯びない。発育のよくない標本しか得られていないが、勝山氏の同定に従い、本変種にあてておく。

**【関連文献】**

平新版 1 p.318.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.205. 文一総合出版, 東京.



タカネマスキサ *Carex planata* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。県内では生育地が少なく、また開発の影響を受けやすい所に生育している。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は束生し、高さ 30~60cm、3稜があり、基部の葉鞘は褐色である。葉は細い線形、幅 1.5~2.5mm である。果期は 5~6 月、小穂は 2~5 個、下方のものはやや離れてつき、無柄、卵形~卵円形、長さ 6~10mm、直径 4~6mm、いずれも雌雄性で、基部に少数の雄花、その上にやや多数の雌花をつける。苞は葉状で長く、鞘はない。果胞は扁平で長卵形、広い翼があり、長さ約 4mm、無毛、先端の嘴は短い。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52057, 1994-6-11)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 77893, 2002-7-1)。48 春日井 (外之原町, 日比野修 2278, 1994-6-18) にもあったが絶滅した。

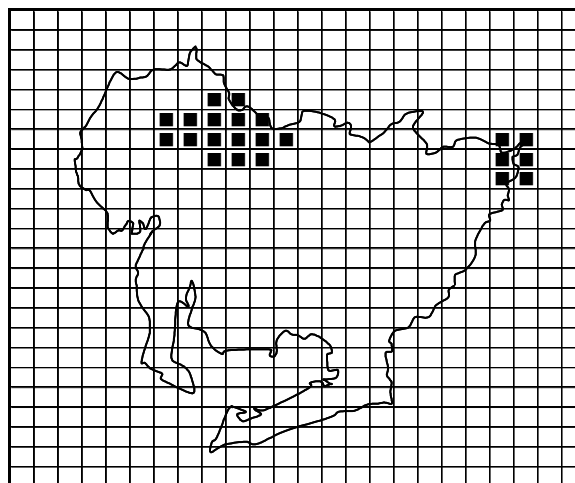
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の沢沿いの林内などに生育する。どうということのない場所にあるが、それでいて生育地が少ない植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの場所も点在している程度で、個体数は少ない。開発による生育地の破壊が危惧される。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名はタカネマスキサであるが、高山性の植物ではない。ヤブスゲ (266 頁) に似ているが、小穂が短く、果胞に広い翼がある。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.261, 平草本 I p.166, 平新版 1 p.305, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.66. 文一総合出版, 東京.

ヤブスゲ *Carex rochebrunii* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。やや低湿地性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は束生し、高さ 40~60cm、3稜があり、基部の葉鞘は黒褐色である。葉は細い線形、幅 2~4mm である。果期は 5 月、小穂は 8~10 個、無柄、長楕円形、長さ 8~15mm、いずれも雌雄性で、基部に少数の雄花、その上にやや多数の雌花をつける。苞は葉状で長く、鞘はない。果胞は扁平で長卵形、長さ 4~4.5mm、無毛、先端は次第に細まり、やや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 87076, 2011-6-5)。

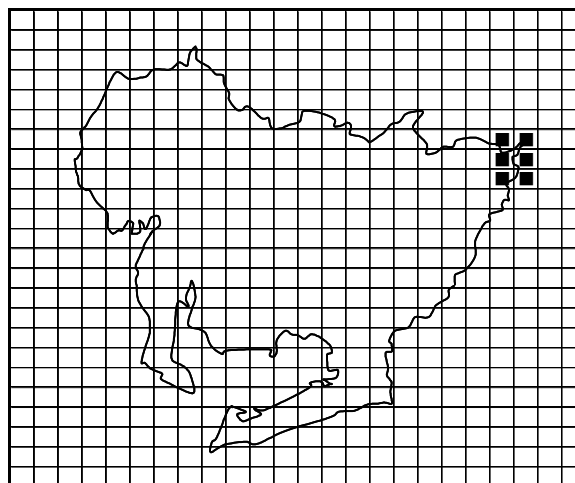
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本、中国大陸中南部、ヒマラヤ、マレーシア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低湿地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所に、小群落がある。このような環境はダムができる前、あるいはできた直後にはなかったものであり、本種は同所に生育するタコノアシ、ヌマガヤツリなどと共に、比較的近年になって侵入・定着したものであると思われる。ただし、現地は近年シカの食害が著しく、不嗜好植物であるナガバヤブマオの群落と化している。この状況を考慮すれば、補正項+1 (シカ食害) を加え、総点 16、絶滅危惧 I A類と評価する方が適切かもしれない。

【保全上の留意点】

ニホンジカの食害は、近年生物多様性に対する最大の脅威の一つになっている。個体数調整を急ぐ必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.260, 平草本 I p.166, 平新版 1 p.305, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.64. 文一総合出版, 東京.

ツルカミカワスゲ *Carex sabynensis* Less. var. *rostrata* (Maxim.) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。温帯域の湿水性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝があり、株を作る。茎は高さ 20~50cm、3稜があり、基部の葉鞘は茶褐色~暗褐色で、著しく繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2~3mm である。果期は 5~7 月、小穂は 2~3 個、茎の上部に互いに接近してつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 1~1.5cm、側小穂は雌性で卵形~長楕円形、長さ 0.5~1.5cm、ほとんど無柄である。苞は刺状で、長さ 3~10mm の鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ約 3mm、まばらに短毛があり、先端の嘴はやや短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：28 額田 (小林 56737, 1995-5-14)。東：11 作手 (鴨ヶ谷, 鳥居喜一 s.n., 1955-5-29, TNS) で採集された標本もある。

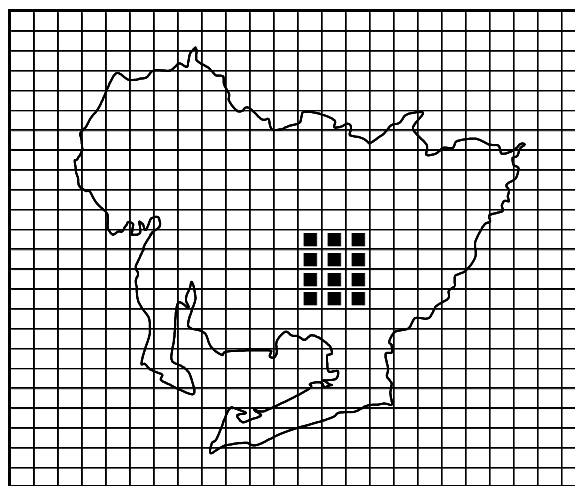
【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方)、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草原や湿原に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少ない。湿地にはイヌツゲ等の低木が侵入しており、被陰により衰退するおそれがある。また近くまで林道が伸びており、土砂の流入によって湿地が埋没するおそれもある。

【保全上の留意点】

低木を除去し、湿草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

目立たない植物なので、他に自生地がないか、更に探索する必要がある。基準変種のカミカワスゲ var. *sabynensis* は匍匐枝の出ない型で、愛知県では確認されていない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.276, 平草本Ⅰ p.160, 平新版Ⅰ p.321, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.251. 文一総合出版, 東京.

ヌマハリイ *Eleocharis mamillata* Lindb.f. var. *cyclocarpa* Kitag.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は長くはい、1~2.5cm 間隔で数本の地上茎を束生する。地上茎は高さ 30~60cm、直径 1.5~3mm、軟らかく円柱形で平滑、基部の鞘は赤褐色~淡赤褐色である。葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、緑色または淡褐色である。花期は 6~7 月、小穂は茎の先端に 1 個つき、卵状長楕円形~広披針形で直立し、長さ 7~14mm、直径 3~4.5mm、鱗片は長卵形、鈍頭~円頭、中肋は淡緑色でその周辺は濃褐色になり、辺縁部は淡褐色である。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ 1.5~2mm、柱基は小さく、刺針状花被片は 5~6 個で果実のほぼ倍長、逆向きの小刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 87648, 2012-6-22)。

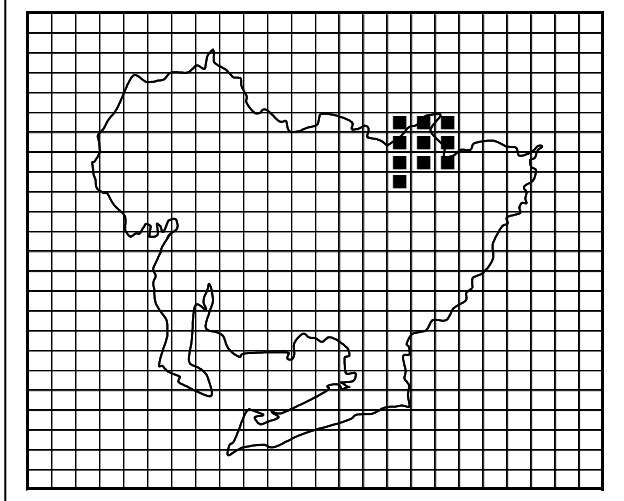
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズリ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の湿地に小群落となって生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1m×50cm ほどの範囲に群生しているが、他では発見されていない。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

今まで愛知県内での生育が期待されながら、なかなか見つけることができなかった植物である。オオヌマハリイとも呼ばれる。

【関連文献】

保草Ⅲ p.229, 平草Ⅰ p.173 (オオヌマハリイとして), 平新版Ⅰ p.344 (オオヌマハリイとして).  
星野卓二・正木智美・西本眞理子. 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜 pp.634-635. 平凡社, 東京 (オオヌマハリイとして).

トラノハナヒゲ *Rhynchospora brownii* Roem. et Schult.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。暖地の湧水湿地に生育する植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は少数が束生し、細くて斜めに伸び、先端は垂れて長さ 50~90cm になる。葉は叢生し、細い線形、幅 1.5~2.5mm、やや硬い。花期は 8~10 月、花序は茎の先端部に 2~3 個やや離れてつき、密に枝分かれした散房状、長さ 3~5cm、幅 2~4cm で、多数の小穂をやや分散してつける。小穂は楕円形、長さ 3~4.5mm、褐色~暗赤褐色、1 個の花がある。果実は倒卵形~ほぼ円形、長さ約 2mm、刺針状花被片は 6 個で果実とほぼ同長、上向きの短刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (小林 49482, 1993-11-12)、12 新城 (小林 54649, 1994-10-19)、13 豊川 (芹沢 53591, 1989-9-27)、15 豊橋北部 (芹沢 81657, 2007-6-30)、16 豊橋南部 (芹沢 56310, 1990-8-9)、17 田原東部 (芹沢 56697, 1990-8-28)、18 田原西部 (芹沢 59783, 1991-8-18)。西：25 豊田北西部 (芹沢 62624, 1992-8-23)。尾：42c 武豊 (小林 33807, 1989-8-23)。ただしこのうちいくつかの区画では、すでに消滅している可能性が高い。集団数階級は見込み値である。

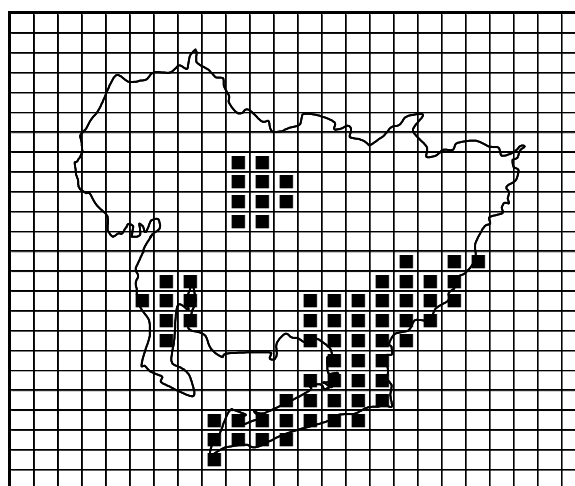
【国内の分布】

本州 (静岡県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、マレーシア、インド、アフリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地の縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河南部には点在するが、西三河と尾張では極めて稀で、各 1 カ所で確認されているにすぎない。どの生育地も小群落で、イヌノハナヒゲのように群生することはない。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。西三河と尾張の生育地は、特に保全が必要である。

【特記事項】

イヌノハナヒゲ類に比べ、小穂はやや分散してつき、短くて幅広い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.253, 平草本Ⅰp.170, 平新版Ⅰp.354.

## シズイ *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Sojak

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。水のきれいなため池に生育する植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。根茎は細く、先端に小さい塊茎をつける。地上茎は単生または少数が束生し、高さ 40~60cm、幅 2~4mm、3 稜形、下部に 3~5 個の葉をつける。葉は線形、茎よりやや短く、幅 2~3mm、平滑で、断面は三角形となる。花期は 7~10 月、花序は散房状で、枝は 2~3 本、分枝しないか 1~2 回分枝し、長いものは 4cm に達し、まばらに 5~8 個の小穂をつける。花序の基部につく苞は 1 個で、茎に続いて直立し、長さ 10~20cm、そのため花序は側生状に見える。小穂は長楕円形、長さ 1~1.7cm、幅 5~7mm、先端は鋭頭、黄褐色、鱗片は狭卵形で、長さ 4~5mm である。果実は倒卵形、レンズ状で長さ約 2mm、暗褐色で光沢はなく、刺針状花被片は 4 個で、果実のほぼ 2 倍の長さがある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：4 津具 (芹沢 78745, 2003-8-24)、11 作手 (小林 53302, 1994-8-21)。尾：37a 瀬戸 (大谷敏和 72, 2000-8-23)、38a 長久手 (芹沢 75999, 1999-8-1)。27 みよし (黒笹, 芹沢 53101, 1989-9-7) にもあったが絶滅した。このほか、12 新城 (富岡, 加藤等次 s.n., 1963-9-8)、32a 刈谷 (井ヶ谷町, 加藤潤子 125, 1978-7-3)、50 名古屋北部 (守山区上志段味, 飯尾俊介 85, 1964-8-31)、51 名古屋南東部 (桶狭間, 稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109995) で採集された標本もある。

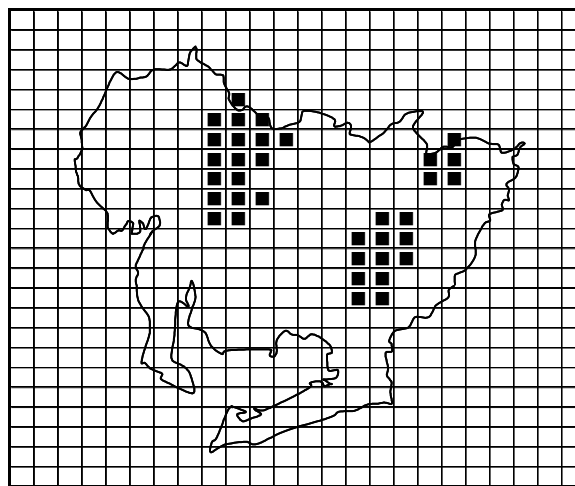
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の池沼の、浅い水中に生育する。愛知県では丘陵地の奥や山間部にある小規模なため池に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

### 【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。刈谷では、水質汚濁により絶滅した (ミスミイの項参照)。みよしでは、生育地の丘陵が宅地造成で削られ、絶滅した。また瀬戸市の自生地の一つは、東海環状自動車の建設により埋め立てられた。

### 【保全上の留意点】

生育地のため池を保全することが必要である。特に改修の際には、配慮が必要である。

### 【特記事項】

テガヌマイとも呼ばれる。この名は、千葉県の手賀沼に因むものである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.217, 平草本 I p.179, 平新版 1 p.357, SOS 旧版 p.108.

## ノグサ *Schoenus apogon* Roem. et Schult.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。暖地性の植物で、愛知県では湧水湿地の周辺部に生育する。総点は 13 であるが、遷移の進行による生育地の減少傾向が特に著しいので EN と評価する。

### 【形態】

1 年生草本。根茎はない。茎は束生して直立し、平滑で無毛、高さ 10~25cm になる。葉は根生するほか茎の中部にも 1~2 個つき、細い線形、幅約 0.5mm、葉鞘は長さ 1~2cm で一部赤紫色になる。花期は 6~8 月、花序は 2~3 個に分かれ、散状または頭状で、長さ幅ともに 0.8~1.5cm、数個の小穂をつける。小穂は披針形、長さ 4~6mm、扁平で一部赤褐色をおびる。果実は球形、長さ約 1mm、白色、刺針状花被片は 6 個で、長さ約 2mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 63712, 1998-5-1)、15 豊橋北部 (小林 63697, 1998-4-29)、16 豊橋南部 (芹沢 58593, 1991-5-26)、17 田原東部 (芹沢 58604, 1991-5-26)、18 田原西部 (芹沢 58222, 1991-4-29)。西：36 西尾南部 (芹沢 86899, 2011-5-14)。尾：42c 武豊 (芹沢 87606, 2012-6-7)。以前はあちこちにあった植物らしく、50 名古屋北部 (東山, 井波一雄 s.n., 1940-4-30, CBM70351)、51 名古屋南東部 (鳴海町, 井波一雄 s.n., 1941-5-18, CBM70352) で採集された標本もある。

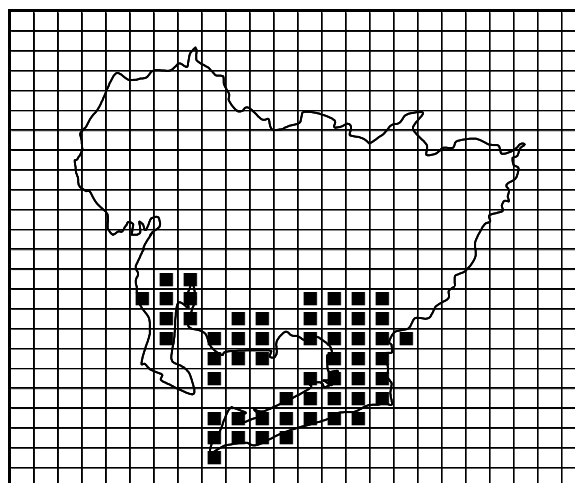
#### 【国内の分布】

本州 (千葉県以西)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、マレーシア、オーストラリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の、日当たりのよい、やや湿った半裸地に生育する。愛知県での生育地は、ほとんどが湧水湿地周辺部である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

東三河南部には点在していたが、本種が生育するような場所は概して遷移が進行し、コシダや低木等が侵入して、存続が困難な状況になりつつある。ほとんどの生育地は最近現地を訪れていないが、おそらく危機的な状況で、一部では既に絶滅した可能性が高い。上記の集団数階級は見込み値である。

### 【保全上の留意点】

湧水湿地の保全が必要である。湿地周辺の樹木を伐採して持ち出し、やせ山状態を維持することも必要である。武豊の生育地は、特に保全上の配慮が望ましい。

### 【特記事項】

目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.251, 平草本 I p.171, 平新版 1 p.358, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.107,109.

ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) Beauv. var. *formosensis* Ohwi

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。雑草的な植物であるが、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

あまり大きい株にならない 1 年生草本。稈は直立し、高さ 50~60cm になる。葉身は斜上し、線形、長さ 8~15cm、幅 5~7mm、先端は鋭尖頭、鮮緑色で縁に狭い白色部がある。花期は愛知県では 10 月、花序は長さ 5~7cm、幅 1~3cm、枝は 3~5 本で、密に小穂をつける。小穂は淡緑色、卵形で長さ 2~3mm、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：51 名古屋南東部（芹沢 89062, 2013-10-16）。愛知県では 2013 年に初めて確認された種類で、現在のところ生育地は 1 カ所だけである。ただし、特殊な環境に生育する植物ではないので、注意して探索すれば他にも発見できる可能性はある。

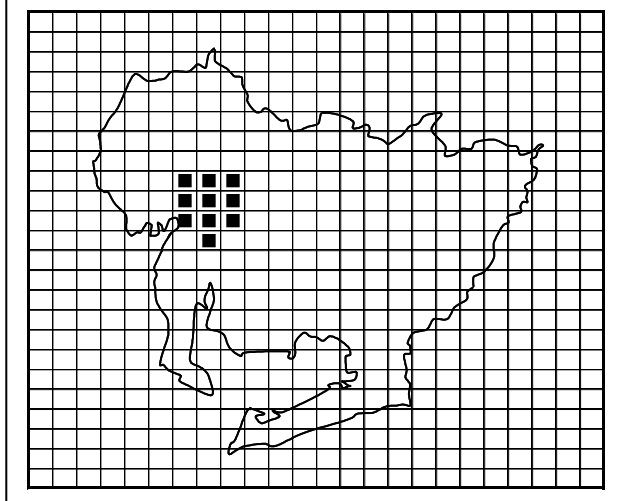
【国内の分布】

本州（関東以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水湿地に生育する。名古屋市の自生地は人工的に整備され、ハナショウブが植栽された湿地であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1m 四方ほどの範囲に、イヌビエと混生して生育していた。過去からの増減は不明である。

【保全上の留意点】

雑草的な植物であるから、現実問題として保全は難しい。まずは愛知県での分布状況を正確に把握する必要がある。場合によっては、生育地外での系統保存を考えてもよい。

【特記事項】

イヌビエやタイヌビエに比べ植物体は全体に細く、鮮緑色である。ヒメイヌビエからは水湿地に生育することで異なる。名古屋市のレッドデータブックでは、地域固有性の代わりに県内分布（階級 4 になる）を使用しているため、総点 16 で絶滅危惧 I A 類と評価されている。

【関連文献】

平新版 2 p.84.  
長田武正.1989. .日本イネ科植物図譜 p.574-575. 平凡社, 東京.



ウキガヤ *Glyceria depauperata* Ohwi var. *infirmata* (Ohwi) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。水生のイネ科植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、開発等により消滅するおそれ大きい。

【形態】

多年生の水草。稈の基部は長く水底をはい、節から根を出し、上部は水面に浮くか水面から立つ。葉は互生し、葉身は狭線形、長さ 5~10cm、幅 2~4mm、葉鞘はほとんど平滑で、葉舌は長さ 2~5mm ある。花期は 5~7 月、円錐花序は細く、長さ 10~25cm、枝は直立し、そのためほとんど穂状に見える。小穂は円柱状、長さ 10~25mm、淡緑色、7~15 個の小花からなり、苞穎は膜質で小さい。小花の護穎は長さ 3~5mm、7 脈があり、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (小林 52749, 1994-7-17)。2 カ所に生育しているというが、最近の状況は確認されていない。

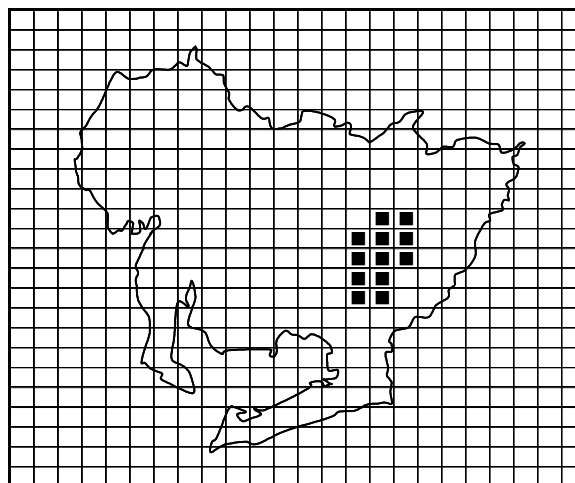
【国内の分布】

北海道、本州。

【世界の分布】

日本および中国大陸北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

池沼や水路などの水辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○			

【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所のうち 1 カ所は水田の畔のわき、他の 1 カ所は小水路の縁らしい。以前には相当数が生育していたが、農地整備や河川改修により激減し、現在では僅かに残存しているにすぎないという。

【保全上の留意点】

イネ科植物は目立たないため、希少性に気づかぬまま工事等が行われてしまう可能性が高い。河川改修などの際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

小花の護穎が長さ 3mm 程度のものをヒメウキガヤ、長さ 5mm 程度のものをウキガヤ var. *infirmata* (Ohwi) Ohwi として区別することがある。区別した場合、愛知県のはウキガヤである。36 西尾南部 (旧幡豆町) には、よく似た帰化植物のセイヨウウキガヤが生育している。イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.327, 平草本 I p.110, 平新版 2 p.54, SOS 旧版 p.100.  
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.210-211. 平凡社, 東京.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.64. 文一総合出版, 東京.

**タキキビ** *Phaenosperma globosum* Munro ex Benth.

**【評価理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

大形の多年生草本。根茎は短くはう。稈は束生し、高さ 120～200cm になる。葉は稈の基部に叢生すると共に稈上に 4～5 個つき、稈上の葉の葉身は広線形、長さ 30～50cm、幅 2～4.5cm、基部でねじれて表裏が逆転する。葉鞘は長さ 15～20cm、葉舌は葉鞘と同質で長さ 7～15mm ある。花期は 6 月、円錐花序は長さ 35～50cm、枝は各節に単生するが花序の基部では 2 節が極めて接近してつき、また枝の基部で 3～5 本の枝を出すため、輪生状に見える。小穂はまばらにつき、淡緑色、長さ 3.5～4mm、1 小花からなる。果実期の小花は下向きになり、果実は球形で直径 2.5～3mm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：12 新城 (加藤等次 18450, 2009-6-4)。

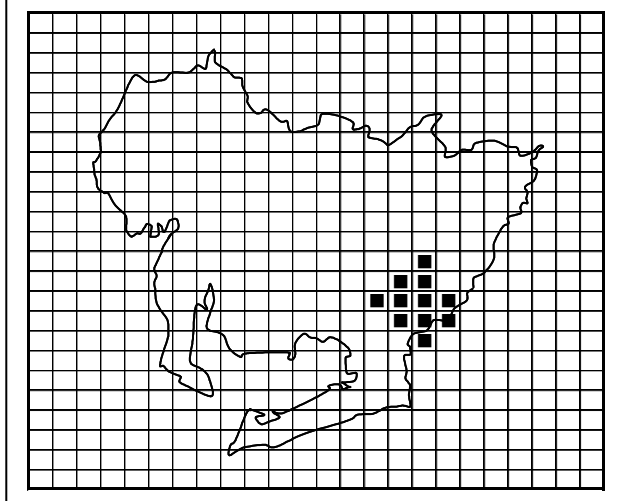
**【国内の分布】**

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

山麓部の水がしみ出す道沿いの崖状地に、小群落となって生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

高さ 2m 近くになり、現在のところ生育状況は良好であるが、将来的には遷移の進行によって被圧される可能性がある。

**【保全上の留意点】**

生育地の個別的な保全が必要である。道路の拡幅などの際には、特に注意が必要である。

**【特記事項】**

カシマガヤの別名があり、この名は蒲郡市鹿島町に由来すると言われている。しかし、蒲郡産の資料は未確認である。

**【関連文献】**

保草Ⅲ p.330-331, 平草Ⅰ p.107, 平新版 2 p.58.  
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.74-75. 平凡社, 東京.

ムカゴツヅリ *Poa tuberifera* Faurie ex Hack.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。深山性の植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。稈は少数が束生し、高さ 20~40cm、基部の 2~3 節間は数珠状に肥厚し、暗紫褐色になる。葉は互生し、葉身は細い線形、長さ 5~15cm、幅 2~4mm、両面平滑で柔らかく、葉鞘は背に稜があり、葉舌は長さ 1~2mm である。花期は 5~6 月、円錐花序は長さ 8~15cm、枝はまばらに出て糸状、先はまたまばらに分枝して、1~3 個の小穂をつける。小穂は楕円形、長さ 5~6mm、2~4 個の小花からなり、第 1 苞穎は長さ 2.5~3mm、第 2 苞穎は長さ 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (小林 37067, 1992-5-10)、  
8 鳳来北東部 (小林 50696, 1994-4-24)。

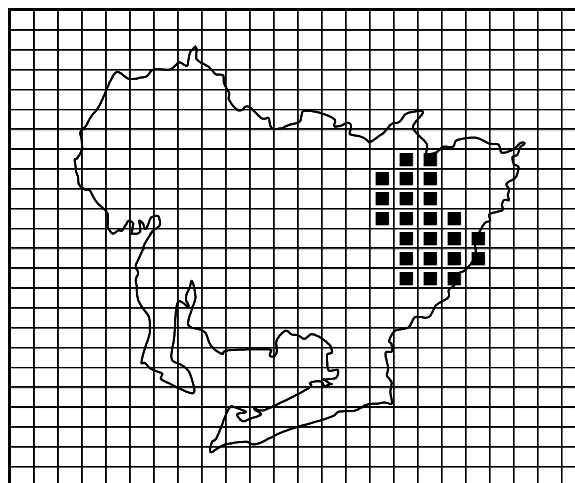
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。しばしば岩上に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に生育しており、設楽西部は個体数が比較的多いが、鳳来北東部はごく少量らしい。伐採や林道工事により林地が荒れ、減少している。三重県藤原岳には比較的多かったがシカの食害により激減しており、愛知県のものも同様の状態になっている可能性が高い。

【保全上の留意点】

イネ科植物は目立たないものが多く、希少性に気づかないまま工事等が行われる可能性が高い。本種の場合も、希少性を認識することが先決である。

【特記事項】

和名は、稈の基部が数珠状にふくらむからである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.324, 平草本 I p.111, 平新版 2 p.61, SOS 旧版 p.100.  
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.170-171. 平凡社, 東京.

## ハネガヤ *Stipa pekinensis* Hance

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。稈は束生し、高さ 80～150cm になる。葉は叢生し、葉身は線形、長さ 30～60cm、幅 7～15mm、葉鞘は上端部だけに毛があり、葉舌は小さい。花期は 8～9 月、円錐花序は大きく、全体として卵形、長さ 20～40cm、枝は半輪生状、斜めに開出して長く、まばらに枝を分けて 10 個内外の小穂をつける。小穂は長さ 8～12mm、白緑色、1 小花からなり、苞穎は膜質、3 脈があり、2 個はほぼ同長である。小花の護穎は苞穎より短く、長さ約 8mm で短毛があり、長さ 2～2.5cm の芒がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (小林 62565, 1997-10-12) と尾：37a 瀬戸 (日比野修 5312, 2001-9-27) の 2 区画で確認されている。8 鳳来北東部に 1978 年に採集された標本もあるという (小林 2000)。

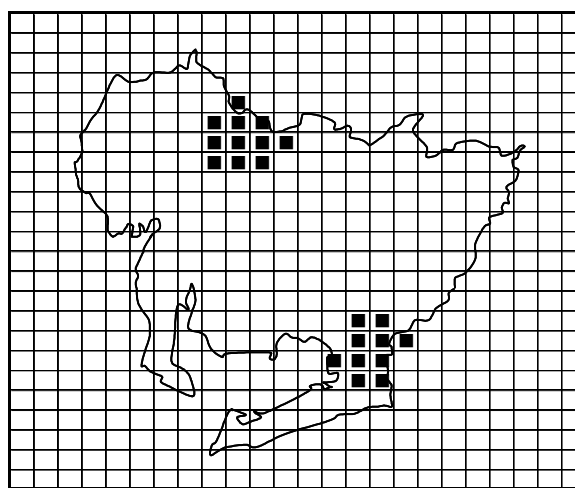
#### 【国内の分布】

北海道、本州。長野県まで行けば、比較的多い植物である。

#### 【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸北部、シベリア東部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の明るい林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画に各 1 カ所小群落があるだけで、個体数も少なかった。瀬戸では、周囲の樹木の生長により被陰されて消滅したと思われていたが、他の場所で再発見された。しかしその場所でも、最近の状況は確認されていない。

### 【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。

### 【特記事項】

和名は属の基準種である *S. pennata* L. の形態に由来するもので、本種の特徴とは無関係である。

### 【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.17. 愛知県, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.360, 平草本 I p.119, 平新版 2 p.39, SOS 旧版 p.101.  
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.94-95. 平凡社, 東京.

ゴハリノマツモ *Ceratophyllum platyacanthum* Cham. subsp. *oryzetorum* (Kom.) Les

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に希少な水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

沈水性の水草。冬に植物体は枯れるが、枝の先端に越冬芽が残り、翌春発芽する。根はなく、枝の変化した仮根によって水底に固着する。茎は長さ 20～80cm、もろく、折れて浮遊することもある。葉は数枚が輪生し、無柄、細長い裂片に 2 又状に分裂し、長さ 1.5～2.5cm、裂片には細い刺状の鋸歯がある。花期は 6～8 月、花はごく小さく、単性で雌雄同株、葉腋に 1 個ずつつき、柄はない。果実は楕円形で長さ 4～5mm、基部に 2 本、先端に 1 本の長い刺があり、上部にも 2 本のやや短い刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部 (芹沢 78723, 2003-8-6)。

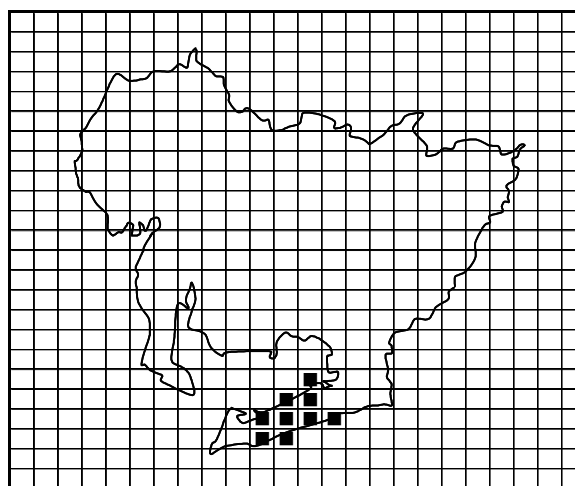
【国内の分布】

本州中部。九州にもあるという。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼に生育する。愛知県の生育地は海岸近くの養魚場跡地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

【現在の生育状況／減少の要因】

一つの放棄された養魚場に、量的にはたくさん生育していた。しかし隣接した同じような場所では確認できなかった。現状のままならば存続すると思われるが、そのうちに埋め立てられて消滅する可能性は大きい。

【保全上の留意点】

ウナギ養殖の衰退に伴って一時的に形成された環境に生育しているので、長期的な保全は困難と思われる。人為的な系統保存を考える必要がある。

【特記事項】

果実がなければマツモと区別不能であるが、大部分のマツモ集団では果実が確認できない。そのような集団はとりあえずマツモ *C. demersum* として扱ったが、その中に本種が混在している可能性もある。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.250, 平草本Ⅱ p.97, 平新版 2 p.101.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.117. 文一総合出版, 東京

ヤマキケマン *Corydalis ophiocarpa* Hook. et Thomson

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。多少不安定な、それでいて自然度の高い場所に生育しており、全国的に見ても希少な植物である。愛知県においても、生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は叢生して斜上し、高さ 40～80cm になる。葉は有柄、葉身は卵形～狭卵形で、長さ 10～15cm、幅 5～8cm、1～2 回羽状に切れ込み、小葉は更に卵形の裂片に分かれ、欠刻がある。花期は 5～7 月、枝の先端に総状花序を伸ばし、密に淡黄緑色の花をつける。花は長さ 8～13mm で短い距があり、もとに披針形で小さく、先端が糸状に細まる苞がある。果実は線形で著しく屈曲し、長さ約 3cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (小林 51677, 1994-5-28)。

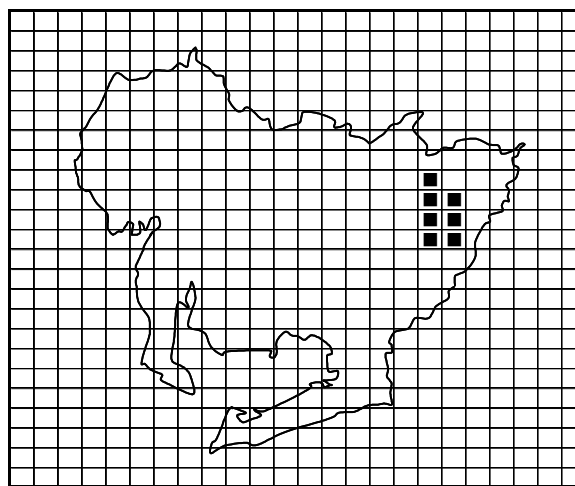
【国内の分布】

本州 (関東地方以西) および四国。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インド北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の半日陰の礫地や岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少ないが、よく発育した個体もあったという。生育地は山地で当面開発が想定されるような場所ではなく、治山事業などで手を加えなければ、当分はそのまま存続すると思われる。長期的には、土地の安定化に伴う遷移の進行によって衰退する可能性がある。

【保全上の留意点】

崩壊地のような不安定な場所も、自然の重要な一部であることを認識する必要がある。また、遊歩道などを整備する際には注意が必要である。

【特記事項】

淡黄緑色の花と著しく屈曲する果実がよい特徴である。

【関連文献】

保草本 II p.192, 平草本 II p.125, 平新版 2 p.106, SOS 旧版 p.54.

ナガミノツルケマン *Corydalis raddeana* Regel

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。大陸系の植物で、分布域は広いが、個体数は少ない。愛知県においても、生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

夏型または冬型の1年生草本。茎は斜めによく伸びて分枝し、長さ1mくらいになる。葉は互生し、有柄、葉身は3角形で長さ幅ともに7~12cm、2~3回3出複葉となり、小葉は長楕円形~倒卵形で多くは3深裂し、裂片は長さ10~15mmである。花期は8~10月、枝の先に総状花序を出し、淡黄色の花をつける。花は長さ10~15mm、距は先端が少し湾曲し、もとに卵形で長さ1~1.5cmの苞がある。果実は細長く線状倒披針形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武(芹沢 86224, 2010-9-19)。1カ所に小群落があるだけである。

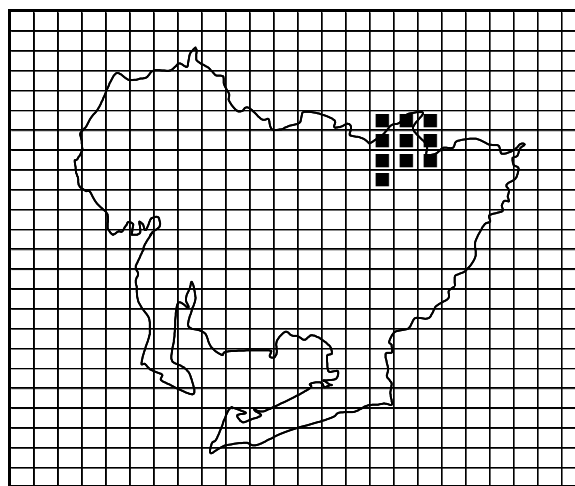
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山中の林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育状況には年による変動があり、ほとんど見られないこともある。やや攪乱された場所なので、特に破壊行為がなくても将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

絶滅危惧種は自生地において野生状態で保全することが原則であり、移植や栽培は本来なら保全策にはならない。しかし、本種のようにやや不安定な立地に生育する絶滅危惧植物の場合は、保険的措置として、現地での保全と平行して人為的な系統保存も行う必要がある。

【特記事項】

環境省のレッドデータブックでは、「ナガミノツルケマン」とされている。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.192, 平草本Ⅱ p.125, 平新版 2 p.106.

## ヤマブキソウ *Hylomecon japonica* (Thunb.) Plantl et Kundig

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 4、固有性階級 1、総点 14。愛知県では生育地が少ない。

### 【形態】

多年生草本。高さ 30～40cm になる。根出葉は長い柄があり、葉身は羽状複葉、小葉は 5～7 個で広卵形または楕円形、先端はとがり、さらに切れ込みと細かい鋸歯がある。茎葉は茎の上端近くに少数つき、小葉は 3～5 個である。花期は 4～6 月、茎の上部の葉腋に、直径 3～4cm の黄色の花を 1～2 個ずつつける。花弁は 4 枚、倒卵円形で長さ 2～2.5cm である。果実は細長く、長さ 3～5cm になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 82848, 2008-5-3)、20 足助 (芹沢 69056, 1994-5-2)。

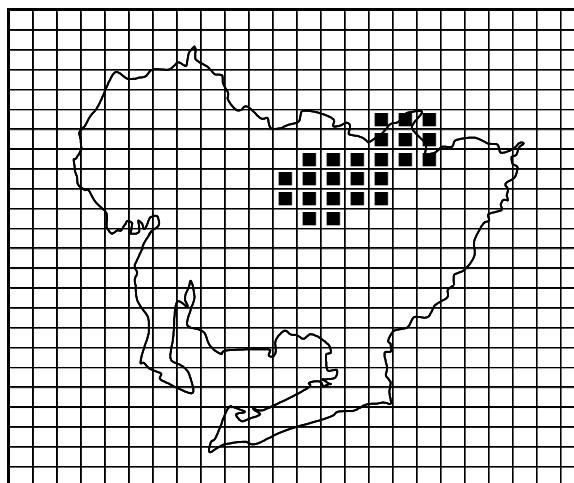
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。隣接地では鈴鹿山脈に多く見られる場所があったが、ニホンジカによる食害でかなり減少してしまった。

#### 【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内、林縁に生育する。通常は沢沿いに生育している。河川の岸の竹林内などにも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

林の手入れ不足により光条件が悪化し、全体的に衰退傾向にある。園芸的価値が極めて高い植物とは思えないが、園芸目的らしい採取もかなり目立つ。

### 【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。葉形は変異が大きく、ホソバヤマブキソウやセリバヤマブキソウが区別されることもあるが、愛知県のものは普通のヤマブキソウの型である。

### 【関連文献】

保草Ⅱ p.195、平草Ⅱ p.123、平新版 2 p.107.



ヤマトリカブト *Aconitum japonicum* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。日本列島で多様に分化しているトリカブト属 4 倍体種の中の 1 つで、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は下部が直立し、上部は曲がって多少とも分枝し、高さ 80~180cm になる。根は紡錘形に肥厚する。茎の中部につく葉は円心形、長さ 7~15cm、幅 8.5~19cm、基部は広い心形か切形、またはくさび状となり、3~5 深裂し、裂片には披針形または卵状披針形の欠刻状鋸歯がある。花期は 8~9 月、総状花序を茎の先端と葉腋につける。花は長さ 35~40mm、花柄には曲がった毛があり、花の外面や内面の縁に近い部分にも毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15948, 1994-9-4)、4 津具 (芹沢 67412, 1993-9-3)。

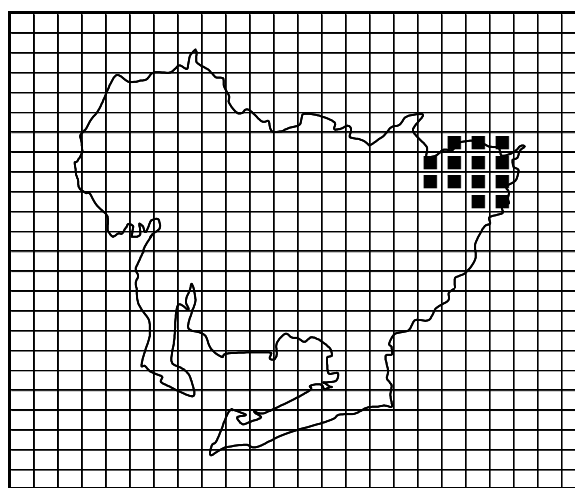
【国内の分布】

本州 (東北地方南部~中部地方)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は極めて少ない。多少攪乱された場所にも生育しており、現在のところ特に減少しているわけではないが、牧場化などの大規模な改変があれば消滅する。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発は避けるべきである。とりわけ、沢の源頭部に僅かに残る自然林は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

トリカブト類は有毒植物として有名である。愛知県のトリカブトは大部分が花柄に毛のないカワチブシ *A. grossedentatum* (Nakai) Nakai で、ヤマトリカブト型のものはずかしくない。毛の量には変化があり、今後更に詳細な検討が必要である。

【関連文献】

平草 II p.67, 平新版 2 p.128, SOS 新版 p.19,21.

ルイヨウショウマ *Actaea asiatica* H.Hara

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、補正+1 (シカ食害)、総点 15。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は分枝せず、高さ 40~70cm になる。茎葉は 2~3 枚で大きく、葉身は 2~4 回 3 出複葉、小葉は卵形または狭卵形、鋭尖頭、長さ 4~10cm、ときに 3 裂し、不ぞろいのあらい鋸歯がある。葉質は薄く、脈上に細い毛がある。花期は 5~6 月、茎の先端に短い総状花序をつける。花は白色、がく片は倒卵形で長さ約 3mm、花弁はへら形で基部は狭まり、長さ 2~3mm である。果序は長さ約 6~8cm、果柄は太く、長さ 12~17mm、開出または水平に開く。果実は黒色に熟し、球形で直径約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (加藤等次 4445, 1994-5-17)。4 津具にもあるという (小林 2006)。

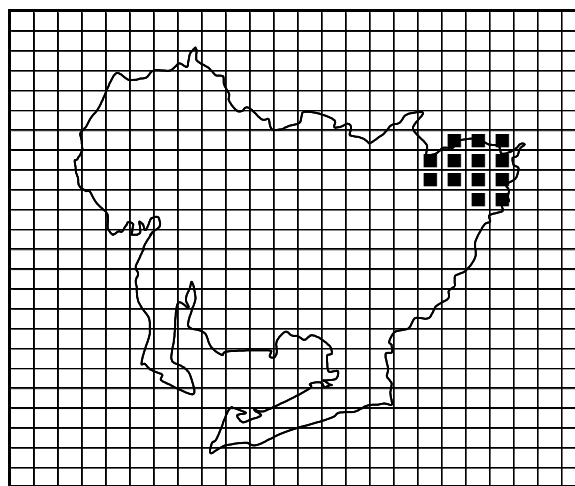
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリーに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なく、過去の自然林が広範囲に伐採された時代に大きな影響を受けたものと思われる。最近ではニホンジカの食害によりほとんど見られなくなっているという (小林 2006)。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発は避けるべきである。とりわけ、沢の源頭部に僅かに残る自然林は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、葉がユキノシタ科のショウマ類に似ているからである。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.138. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.205, 平草Ⅱp.61, 平新版 2 p.131.

レンゲショウマ *Anemonopsis macrophylla* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、補正+1 (シカ食害)、総点 14。温帯域の林内に生育する日本特産の 1 属 1 種の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は上部で枝を分け、高さ 40~80cm になる。根出葉と下部の茎葉は大型で、2~4 回 3 出複葉、小葉は卵形で長さ 4~8cm、鋭尖頭、ときに 3 浅~中裂し、不ぞろいのあらく鋭い鋸歯がある。花期は 7~8 月、茎と枝の先端に直径 3~3.5cm の花を下向きに数個~十数個つけ、全体としてまばらな円錐花序となる。がく片は長楕円形、長さ 1.5~2cm、淡紫色、花弁は倒卵形、長さ約 1.2cm、開出せず、淡紫色で先の方はしばしば濃色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (小林 34301, 1990-8-18)。西：5 稲武 (芹沢 83531, 2008-10-11)。

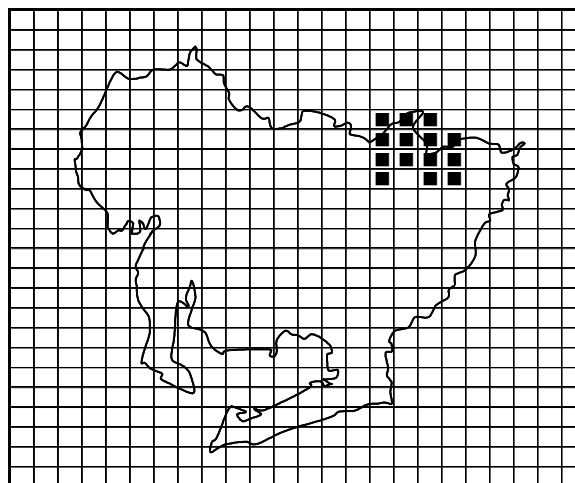
【国内の分布】

本州 (福島県~奈良県) の主として太平洋側の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は落葉広葉樹林の林内に生育する。愛知県では造林地内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

場所によっては比較的多かったが、シカの食害により深刻な影響を受けている。林の伐採により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

良好な群落については、防護柵を設置する必要がある。その一方で、園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は花がハスに、葉がユキノシタ科のショウマ類に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱ p.213, 平草Ⅱ p.59, 平新版 2 p.137, SOS 旧版 p.49.

キケンシヨウマ *Cimicifuga japonica* (Thunb.) Spreng. var. *peltata* (Makino) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 14。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 40~120cm になる。根出葉は 1 回 3 出複葉、小葉は円心形、長さ 7~20cm、5~9 に浅~中裂し、裂片の辺縁にはふぞろいな鋸歯があり、小葉柄は楕状につく。茎葉は苞状に退化する。花期は 8~9 月、花序は穂状で、単一または下部で分枝し、花は白色、がく片は広楕円形、長さ 4~6mm、花弁も長さ 4~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 90668, 2015-9-24)、19 旭 (日比野修 1736, 1993-9-6)。

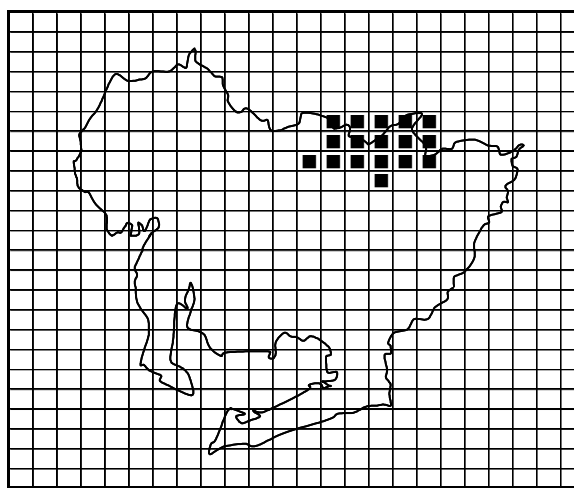
【国内の分布】

本州中部 (長野県西部~滋賀県)。オオバシヨウマ var. *macrophylla* (Koidz.) H.Hara は小葉が楕状にならないもので、本州、四国、九州に分布している。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境/生態的特性】

山地の沢沿いの、落葉広葉樹林内やスギ造林地内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況/減少の要因】

小群落があるだけで、個体数は少なく、伐採や沢筋の小崩壊などにより失われるおそれがある。造林地内にあるものは、手入れ不足で林床の光条件が悪化しており、衰退傾向が著しい。ニホンジカによる食害の影響も深刻である。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。ニホンジカの個体数調整など、食害対策も急ぐ必要がある。

【特記事項】

和名は鬼臉升麻で、近縁種の漢名を音読みにしたものである。オオバシヨウマにあたると思われる植物は 5 稲武 (芹沢 86291, 2010-9-25) などで採集しているが、同所に生育するキケンシヨウマやそれとイヌシヨウマとの雑種 (キケンなイヌなら猛犬だということでモウケンシヨウマと呼んでいるが、猛犬飢鹿に敵わず、この植物も相当ニホンジカの食害を受けている) との関係について更に検討が必要と思われるので、今回は評価を保留しておく。

【関連文献】

保草Ⅱ p.219, 平草Ⅱ p.60, 平新版 2 p.141, SOS 旧版 p.50.

**カザグルマ** *Clematis patens* C.Morren et Decne.

**【評価理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 14。湿地周辺の自然を象徴する植物の一つで、開発圧力の高い場所に生育しており、園芸目的の採取も無視できない。

**【形態】**

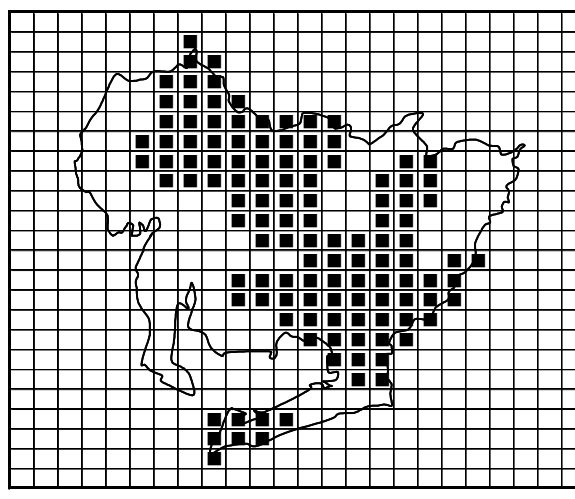
つるになる落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は 3~5 枚、卵形で先はとがり、基部は円形または浅い心形、長さ 4~8cm、ときに 3 裂するが鋸歯はない。花期は 5~6 月、1~3 対の葉をつけた枝の先に 1 個の花を頂生する。花は上向きに平開し、直径 7~12cm、がく片は通常 8 枚、淡紫色のものもあるが愛知県ではすべて白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急に細まって鋭尖頭になる。そう果は広卵形で長さ 5mm、残存花柱は 3~4cm で強く曲がり、黄褐色の長毛がある。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：6 設楽西部 (小林 37815, 1992-6-14)、9 鳳来南部 (芹沢 58522, 1991-5-18)、11 作手 (芹沢 79778, 2005-6-10)、12 新城 (芹沢 65009, 1993-5-14)、15 豊橋北部 (芹沢 58540, 1991-5-18)、18 田原西部 (芹沢 58628, 1991-5-26)。西：22 小原 (芹沢 66070, 1993-6-18)、23 藤岡 (塚本威彦 585, 1993-5-24)、24 豊田東部 (山崎玲子 1407, 1996-5-25)、25 豊田北西部 (芹沢 51443, 1989-5-13)、28 額田 (福岡義洋 629, 1990-5-23)、30 岡崎南部 (芹沢 69084, 1994-5-6)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 3014, 2002-5-4)、45 犬山 (塚本威彦 1500, 1995-6-1)、48 春日井 (山田果与乃 146, 1996-5-27)、50 名古屋北部 (鳥居ちゆ子 19312001-5-7)。13 豊川にもあるという (小林 2004)。51 名古屋南東部 (緑区滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-5-18) で採集された標本もある。丘陵地~低山地に広く分布するが、渥美半島には少なく、知多半島からは知られていない。

要配慮地区図



**【国内の分布】**

本州、四国、九州北部。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

**【生育地の環境／生態的特性】**

湿地周辺の林縁、湿った土手などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

最近までは生育地も個体数も多かったが、開発により生育地が破壊されたり、園芸目的で採取されたりして、次第に減少している。その一方で、丘陵地の二次林の利用が停止されたため、遷移が進行し、被陰されて衰退している集団も少なくない。

**【保全上の留意点】**

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**

園芸的には、遺伝子資源の確保という点で重要である。園芸植物のクレマチスは、本種などから交配により作出されたものである。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 4 に掲載されている。

**【引用文献】**

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.39, 115. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

**【関連文献】**

保草Ⅱp.226, 平草Ⅱp.73, 平新版 2p.145, SOS 旧版 p.50 (シロバナカザグルマとして), SOS 新版 p.103,105.

ミノシロカネソウ *Dichocarpum* sp.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 14。ハコネシロカネソウ (4倍体が多いが2倍体もある) とコウヤシロカネソウ (2倍体) の中間的な形態を持ち、新種として記載する必要がある4倍体植物。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。根茎は短く横にはい、大きな鱗片をつける。茎ははじめ高さ 10cm 程度であるが、花の終わる頃には伸長して 20cm くらいになり、基部にふつう 1 枚の根出葉をつける。茎葉は 2 枚が対生し、葉鞘は合着し、短い柄がある。葉身は 1~2 回三出し、小葉は卵形~広卵形、花の終わる頃には長さ 2~4cm、幅 1.5~3cm になり、先端は鋭頭~鈍頭、基部はくさび形、辺縁に欠刻状の鋸歯がある。花期は 4~5 月、花は白色で直径 10~13mm、上向きまたはやや横向きに咲き、5 枚の花弁状のがく片がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 94225, 2018-6-18)。

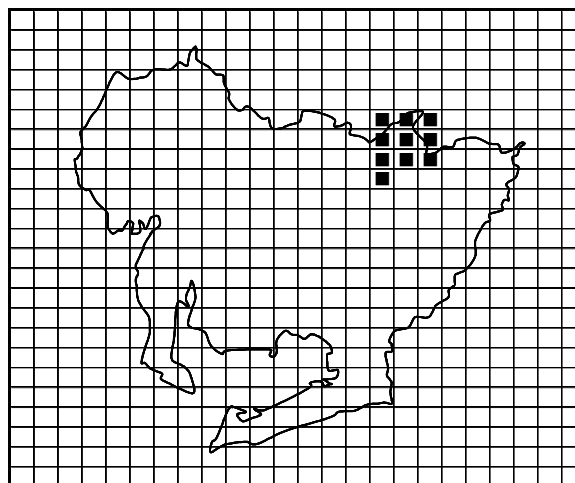
【国内の分布】

本州 (長野県南部、岐阜県、愛知県) に分布する。伊豆半島のものも本種らしいが、自生地を確認できていない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内の自生地は 1 か所だけで、生育範囲も狭いが、個体数は比較的多い。現在のところ特に減少しているわけではないが、自生地は造林地なのでいつかは伐採されるものと思われ、その時に大きな影響を受けるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

当初ミカワシロカネソウと仮称していたが、同じ型の植物は岐阜県下呂市、七宗町、旧串原村、長野県根羽村などに生育しており、「岐阜県の方が主産地だぞ！」と言われたので、ミノシロカネソウと呼ぶことにする。2009 年版では、ハコネシロカネソウとして掲載した。

【関連文献】

SOS 新版 p.30,32 (ハコネシロカネソウとして) .

ヤマビワ *Meliosma rigida* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。暖地性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。生育環境、人為圧、固有度の階級が低く総点は 13 にしかならないが、開花個体も確認できない状況なので、絶滅危惧 I B 類と評価する。

【形態】

常緑性の小高木。高さ 10m、直径 30cm に達する。葉は互生し、長さ 2~4cm の柄があり、葉身は狭倒披針形または倒披針形、長さ 12~22cm、幅 3~7cm、先はやや急に鋭尖頭、基部は次第に細くなって葉柄に続き、革質、辺縁には通常粗い鋸歯があり、表面はほぼ無毛であるが、裏面には葉柄、若枝とともに褐色の綿毛が密生する。花期は 6 月、枝の先端に大きな円錐花序をつけ、花は白色、直径 4~6mm である。果実は球形で直径約 6mm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (小林 49977, 1994-2-11)、  
18 田原西部 (名倉智道 99, 1992-8-21)。

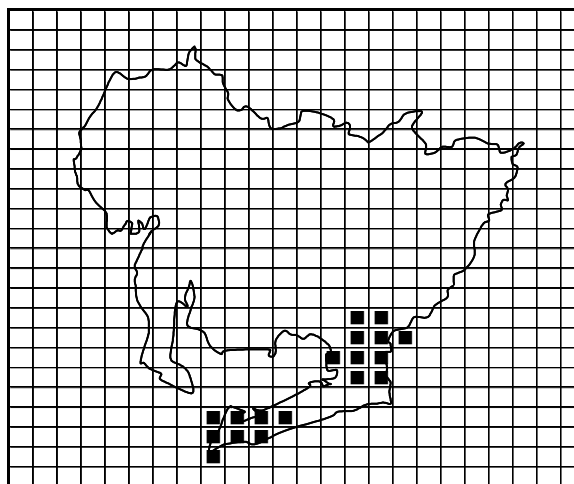
【国内の分布】

本州 (伊豆半島以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部ではヒノキの若い造林地に少数株が生育している。田原西部は林道沿いに 1 株が生育しているだけである。現在のところ開花するような個体は確認されておらず、生育状況はやや偶産的である。希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

個体数が少なく、また特別な環境の場所に生育しているものではないので、保全には造林地の下層木を除去する際切り残すなど、個別的な施策が必要である。

【特記事項】

和名は、葉がビワに似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.280, 平木本 II p.24, 平新版 2 p.172, SOS 旧版 p.63.

ベニバナヤマシャクヤク *Paeonia obovata* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 14。ただし個体数と集団数は各階級の下限に近い。花が大きく、保全の必要性が高い植物で、園芸目的の採取により激減している。

【形態】

多年生草本。高さ 40~60cm になる。根茎は横にのび、太い根を出す。茎には 3~4 枚の茎葉を互生し、基部には数枚の鱗片葉がある。葉は 2 回 3 出複葉、小葉は楕円形~倒卵形、先は狭まってとがり、裏面は白色を帯びる。花期は 5 月、花は茎の先端に 1 個つき、直径 4~5cm で上を向いて開き、がく片は緑色、花弁は 5~7 枚で倒卵形、淡紅色で互いに重なり合っつく。めしべの花柱はやや長く、著しく外側に曲がる。葉裏は通常有毛であるが、ときに無毛のものがあり、ケナシベニバナヤマシャクヤク form. *glabra* (Makino) Kitam. と呼ばれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (小林 49314-ケナシ型, 1992-4-29)、10 鳳来北西部 (小林 46363, 1993-8-9)、11 作手 (芹沢 79803, 2005-6-10; 小林 59657-ケナシ型, 1996-6-15)。西：5 稲武 (芹沢 82934-ケナシ型, 2008-7-5)。3 東栄からも記録されている (小林 2006)。

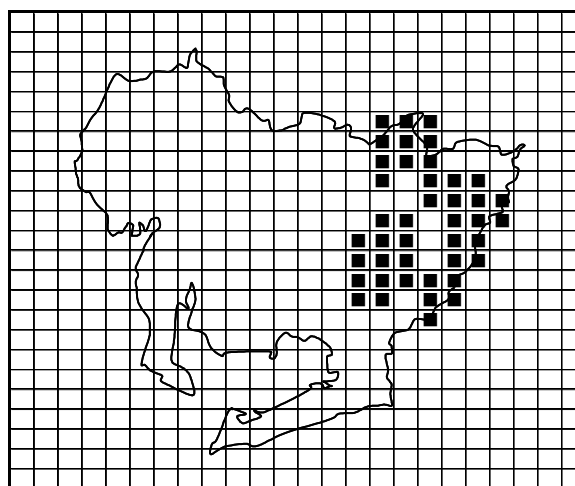
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ヤマシャクヤクと異なりやや草地性で、林縁などに生育することが多い。しかしある程度は耐陰性があり、造林地の中などに残存していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとあまり多くない上に、園芸目的の採取により著しく減少している。山草愛好家に見つかれば、まず即刻絶滅である。ある場所では、山草愛好家の目を引かないよう、地元の人がつぼみをすべて摘みとっている。致し方ないことであるが、これでは植物は繁殖できない。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

本書のベニバナヤマシャクヤクは、ケナシベニバナヤマシャクヤクを含むものである。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.45,142. 愛知県林業試験推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 II p.217, 平草本 II p.111, 平新版 2 p.181, 環境省 p.422, SOS 旧版 p.53, SOS 新版 p.18,20.



ヤシャビシヤク *Ribes ambiguum* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 14。自然度の高い森林に依存する植物で、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

落葉性の小低木。根は他の樹木の幹上をはう。幹はよく分枝し、高さ 30～50cm、枝は長枝と短枝がある。葉は互生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は腎円形または丸みを帯びた五角形、直径 3～5cm、掌状に 3～5 浅裂し、先端は円形、基部は心形、辺縁には浅い欠刻状の鈍鋸歯があり、両面に短毛がある。花期は 4～5 月、花は各短枝の先端の葉間に 1～2 個ずつつき、がくは 5 裂、がく片は淡緑白色で花弁より大きく、長さ 5～8mm である。果実は秋に熟し、球形で熟しても緑色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46896, 1993-8-22)、2 豊根 (小林 42359, 1993-5-4)、3 東栄 (小林 56442, 1995-4-29)、6 設楽西部 (芹沢 85938, 2010-7-3)、8 鳳来北東部 (芹沢 85159, 2009-10-10)、9 鳳来南部 (小林 62667, 1997-10-18)。西：5 稲武 (芹沢 74880, 1998-8-23)。20 足助 (葛沢, 川合 s.n., 1931-8-15) で採集された標本もある。

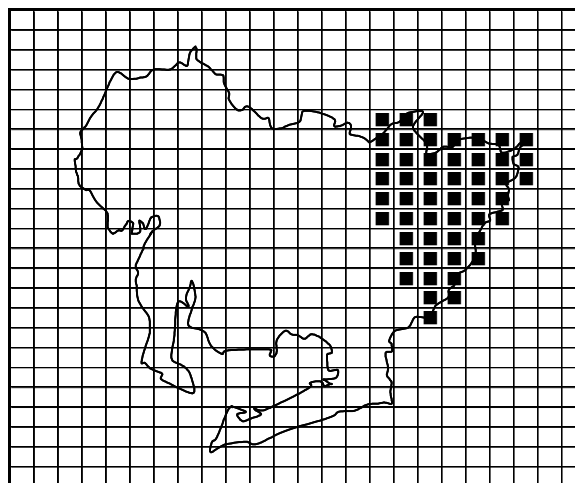
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸西部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹の樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地も個体数も少ない。どういうわけか盆栽の対象として珍重され、手の届くような所のはほぼ採り尽くされている。自然林が広範囲に伐採された時代にはそれにより激減したと思われるが、現在は園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県ではわずかに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の形によると言われている。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.103, 平木本Ⅰ p.160, 平新版Ⅱ p.193, SOS 旧版 p.57.

**アオベンケイ** *Hylotelephium viride* (Makino) H. Ohba

**【評価理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

多年生草本。茎は斜上し、高さ 20~50cm になる。葉は対生し、1~1.5cm の柄があり、葉身は卵形で長さ 3~6cm、幅 1.5~4cm、先端は円頭~鈍頭、辺縁には不明瞭な波状の鋸歯がある。花期は 9~10 月、茎の先端に散房状花序をつけ、淡黄緑色の花を半球形に密生してつける。がく片は 3 角形で長さ約 1.5mm、花弁は 5 枚で楕円状倒披針形、長さ約 4.5mm、裂開直前の葯は淡褐色である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

西：5 稲武 (小林 40047, 1992-10-7)。1 カ所に少数の個体が生育していたが、最近の状況は確認されていない。

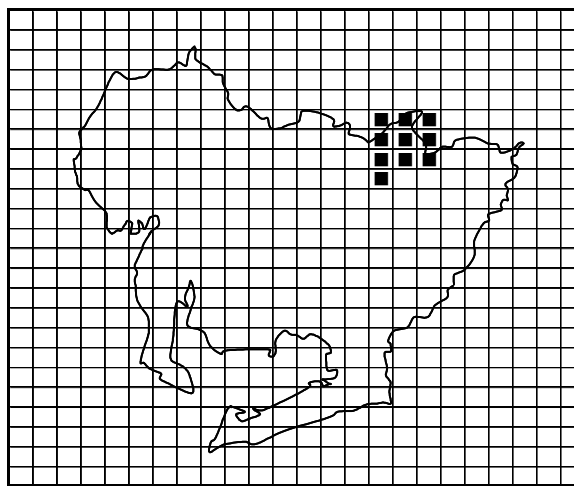
**【国内の分布】**

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本固有種。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

深山の落葉広葉樹林の、老木の樹上に着生する。岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

個体数は少なく、発育状態もあまりよくなかった。森林が衰退すれば絶滅する可能性が高い。

**【保全上の留意点】**

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県ではわずかに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**

ベンケイソウ類の中では数少ない、着生性の種である。

**【関連文献】**

保草本Ⅱ p.163, 平草本Ⅱ p.151, 平新版 2 p.217, SOS 旧版 p.55.

ハマナタマメ *Canavalia lineata* (Thunb.) DC. (図版 4)

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。暖地性の海浜植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

つる性の多年生草本。茎はよく伸長し、長さ 5m 以上に達する。葉は互生し、長さ 6~10cm の柄があり、葉身は 3 出葉、小葉は円形~広倒卵形で鋭頭または鈍頭、長さ 5~12cm、幅 4~10cm、革質で表面は黄緑色を帯び、やや光沢がある。花期は 6~8 月、花は総状花序につき、1 花序に長さ 2.5~3cm の淡紅色の蝶形花を十数個つける。がくは 5 裂し、上下 2 片にわかれ、長さ約 1cm である。豆果は大きく、長さ 5~10cm、幅 3~3.5cm、内部はスポンジ状で、2~5 個の種子が入っている。種子は褐色、楕円形で長さ 15mm 内外である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部(芹沢 80399, 2006-8-24)。  
尾：44b 南知多(芹沢 82131, 2007-8-30)。伊良湖岬周辺の狭い範囲に、少数の個体が生育しているだけである。

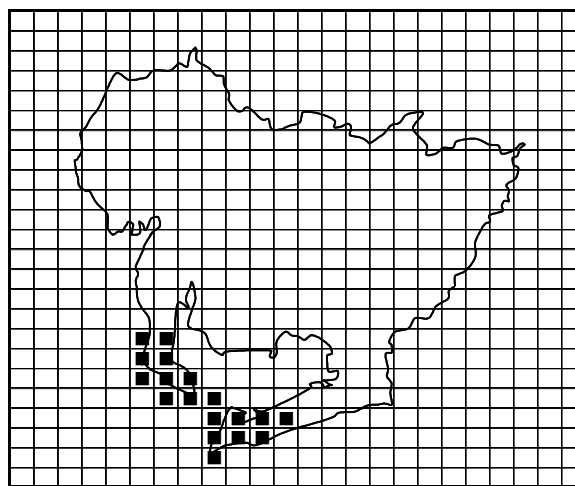
【国内の分布】

本州 (太平洋側は千葉県以西、日本海側は山形県以西)、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂浜やその背後の崖状地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところどちらの区画でもよく開花するが、個体数は少なく、観光開発や土木工事により消滅するおそれがある。生育地は訪れる人が多い場所で、花が大きく目立つため、摘まれることもある。

【保全上の留意点】

各種工事等の際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

大きな豆果が特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.118, 平草本Ⅱ p.210, 平新版 2 p.260, SOS 旧版 p.59.

ミヤマトベラ *Euchresta japonica* Hook.f. ex Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の半低木または低木。茎の下部は横にはって根を出し、上部は直立し、大きいものは高さ 80cm になる。葉は互生し、長さ 4~6cm の柄があり、葉身は 3 出葉、小葉は楕円形~倒卵形、先端は鈍頭~円頭、基部は円形、長さ 5~9cm、幅 3~5cm、薄い革質、表面は深緑色で光沢があり、辺縁は多少裏側に巻き込み全縁である。花期は 6~7 月、茎の先端の総状花序に、白色の蝶形花をつける。豆果は楕円形、長さ 12~15mm、幅 8~10mm、長さ 4~8mm の柄があり、黒紫色に熟し、中に 1 個の種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（芹沢 82574, 2007-10-6）、12 新城（鳥居栄一 s.n., 2004-9-12）。それぞれ小群落がある。

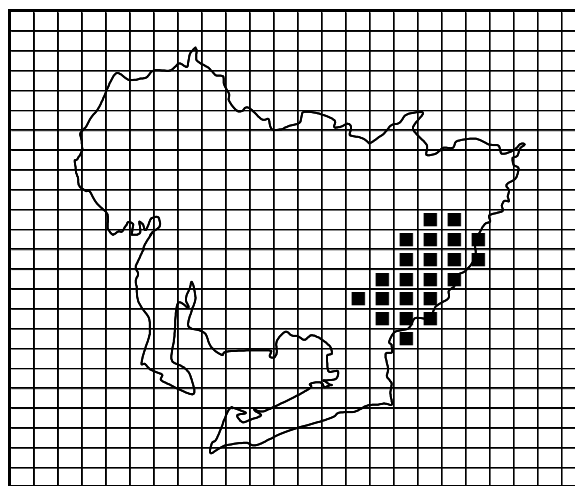
【国内の分布】

本州（関東以西の太平洋岸地域、兵庫県、山口県）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、済州島、中国大陸（広東省・広西省）。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹林内に生育する。時にはかなり暗い場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来北東部（鳳来寺山）は、昔からよく知られた自生地である。現地の森林は国指定天然記念物として保護されているが、観光地であるだけに攪乱も受けており、本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

それほど目立つ植物ではないが、個別的な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、光沢のある小葉がトベラの葉に似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.343, 平木本 I p.242, 平新版 2 p.267, SOS 旧版 p.59.

クロバナキハギ *Lespedeza bicolor* Turcz. var. *higoensis* (T.Shimizu) Murata

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 15。愛知県東三河地方の山地を特徴づける植物の一つで、本地域に著しい隔離分布をする。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

落葉性の半低木。高さ 2m に達する。葉は互生し、3 出葉、頂小葉は楕円形、円頭からやや鋭頭、長さ 1.5cm~4cm、裏面に短毛がある。花期は 7~9 月、葉腋の比較的短い総状花序に、長さ 11~15mm の暗赤紫色の蝶形花をつける。がく裂片は筒部より短く、円頭で毛が少ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 38794, 1992-8-16)、8 鳳来北東部 (芹沢 83292, 2008-9-14)。

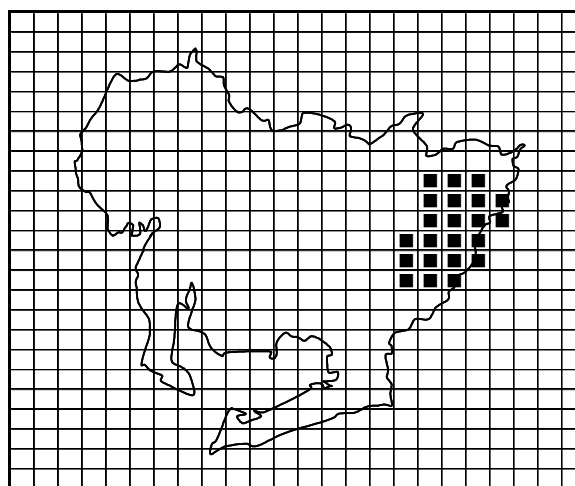
【国内の分布】

本州 (愛知県) と九州 (熊本県) に隔離的に分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少なく、またどの場所でも個体数は多くない。自然の岩場のほか、林道わきなどに生育していることもあり、後者の場合は道路の改修等により消滅するおそれがある。ハギ類としては花が少なく、まばらにつき、あまり見栄えがしないが、希少種とわかれば園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

道路の改修等が行われる場合、法面に岩肌が残されればそのうちに再度生育する可能性があるが、コンクリートで固められれば復活は不可能である。工事に際し、配慮が必要である。

【特記事項】

花は暗赤紫色であるが、「クロバナ」というほど暗色ではない。独立種 *L. melanantha* Nakai とする見解もある。

【関連文献】

平草本 II p.205, 平新版 2 p.278, SOS 旧版 p.60+図版 7, 環境省 p.479, SOS 新版 p.46,48.

ノハラクサフジ *Vicia amurensis* Oett.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。全国的に希少な大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。長さ 150cm に達する。葉は互生し、偶数羽状複葉、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉はほとんど葉の基部から互生してつき、10~16 枚、狭楕円形~卵状楕円形、鋭頭~円頭、長さ 1.5~3cm、幅 8~12mm である。花期は 6~8 月、葉腋に長さ 3~12cm の総状花序をつける。花は花序の一方に偏ってつき、青紫色、長さ 8~10mm の蝶形花である。豆果は短柄があり、長楕円形、長さ 1.5~2.5cm、幅 5~7mm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (山崎玲子 2717, 2002-8-18)、2 豊根 (小林 39356, 1992-9-15)。各 1 カ所に小群落がある。

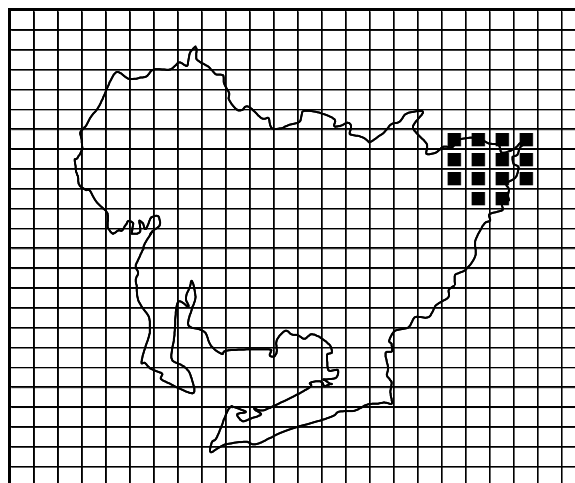
【国内の分布】

本州 (秋田県および中部地方)、九州 (薩摩半島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

道路沿いの林縁に少数個体が生育していたが、林の木に被陰されて、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

道路の拡幅に際しては配慮を要する。

【特記事項】

ノハラクサフジの名があるが、クサフジ自体草地性の植物である。クサフジは愛知県では津具 (面ノ木峠) の路傍に生育しているが、おそらく法面緑化の際に持ち込まれたものである。本種も法面緑化の際に持ち込まれた可能性があり、もしそうならば保全対象外となるが、移入と断定するだけの証拠もない。

【関連文献】

保草本 II p.108, 平草本 II p.198, 平新版 2 p.300.

## ビワコエビラフジ

*Vicia venosa* (Willd.)Maxim. subsp. *stolonifera* (Y.Endo et H.Ohashi) Y.Endo et H.Ohashi

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。分布域の限られた植物で、愛知県はその南東限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。長い地下茎で栄養的に繁殖する。茎は数本叢生し、分枝せず、高さ 50~80cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は偶数または奇数羽状複葉、長さ 8~12cm、先端の巻きひげは痕跡的である。小葉はほぼ対生し、3~5 対、広披針形~狭卵形、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、長さ 3~6cm、幅 0.8~1.5cm、辺縁は全縁である。花期は 6~8 月、花序は総状で葉腋につき、長さ 1~2cm で 2~3cm の柄がある。花は一つの花序に 3~15 個つき、紅紫色、長さ 13~15mm の蝶形花、小花柄は細く、1~3mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：37a 瀬戸 (芹沢 75789, 1999-6-17)。1カ所だけに生育している。

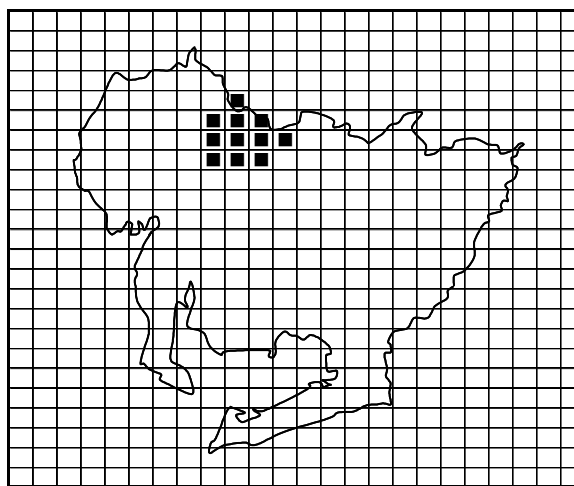
#### 【国内の分布】

本州中部 (愛知県、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府)。鈴鹿山脈北部には点々と生育していたが、ここではシカの食害により激滅している。種としては本州、四国、九州に分布し、いくつかの地理的な変種に分類される。

#### 【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林縁や林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

1カ所に小群落があるだけである。現在のところ栄養的にはよく繁殖しているが、林内であるためか開花結実する個体は少ない。自生地の近傍まで開発される予定であったが、計画が中止されて、とりあえず難を免れた。ただし現状のままでは、被陰により衰退してしまうものと思われる。

### 【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。有性繁殖による個体群の維持のためには、伐開などにより光条件を改善する必要がある。

### 【特記事項】

比較的近年になって記載された植物で、長い地下茎で栄養的にも繁殖することが特徴である。「植物からの SOS」(SOS 旧版)では、エビラフジとして掲載されている。

### 【関連文献】

平新版 p.301, SOS 旧版 p.60 (エビラフジとして), SOS 新版 p.75,77.

シモツケソウ *Filipendula multijuga* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。愛知県では希少な植物で、生育範囲が狭く、開発により減少している。

【形態】

多年生草本。高さ 30～80cm になる。葉は根生または茎上に互生し、奇数羽状複葉、頂小葉は大きく円形で幅 5～10cm、掌状に 5～7 に中～深裂し、基部は心形、裂片は鋭尖頭で、辺縁には鋸歯と欠刻がある。側小葉は 8～10 対あって、下部のものほど小さく、長さ 3～30mm である。托葉は膜質で、茎に沿って直立する。花期は 7～8 月、茎の先端に集散花序をつけ、花は紅色で直径 4～5mm、花弁は卵円形で、辺縁に小さい歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 55927, 1990-7-25)。  
分布範囲は狭いが、その範囲では比較的多い。

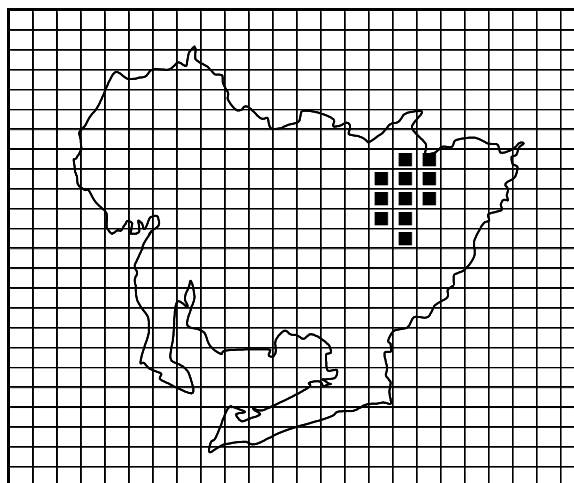
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州の主として太平洋側の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在の所はまだ比較的多いが、耕地整理等により山すその里草地が開発され、次第に減少している。開発を免れた場所でも、場所によっては周辺の樹木が生長して被陰され、ほとんど花が咲かない状態になっている。場所によっては、園芸目的で採取されている。

【保全上の留意点】

山間部の水田周辺の里草地 (いわゆるボタ) は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、花がシモツケに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.123, 平草本Ⅱ p.175, 平新版 3 p.28, SOS 旧版 p.57.



オオダイコンソウ *Geum aleppicum* Jacq.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限に近い。県内では、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 60~100cm になり、全草に開出した剛毛がある。根出葉は大きく、奇数羽状複葉で長さ 18~45cm、頂小葉はひし状卵形、長さ 5~10cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、辺縁には重鋸歯がある。側小葉は 3~4 対あって、下部のものほど小さく、長さ 1~5cm になる。茎葉は 3 小葉からなり、托葉は大きく、辺縁に粗い欠刻状の歯牙がある。花期は 7~9 月、花は黄色で枝の先に 1 個ずつつき、直径 15~20mm、花弁は 5 枚である。集合果は倒卵形、そう果は紡錘形で粗い毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (芹沢 67395, 1993-9-3)。

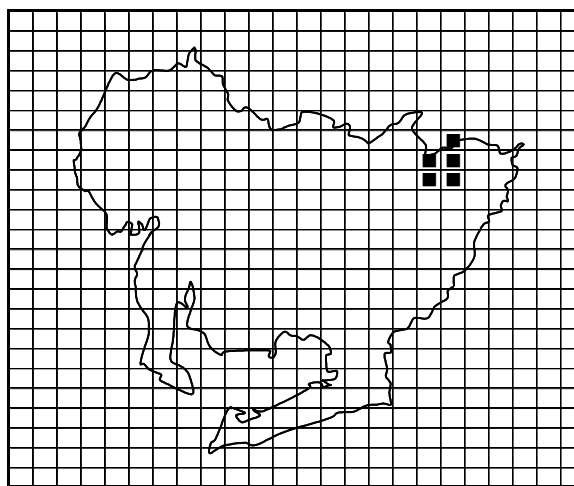
【国内の分布】

北海道および本州中北部に生育する。長野県まで行けば、稀な植物ではない。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリアからヨーロッパにかけて広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内では、1 カ所にごく少数の個体が生育しているにすぎない。現地は路傍で、道路工事等により消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

ダイコンソウの名は、葉の形がダイコンに似ているからである。

【関連文献】

保草本 II p.128, 平草本 II p.182, 平新版 3 p.32.

エチゴツルキジムシロ *Potentilla toyamensis* Naruh. et T.Sato

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。日本海系の、分布域の狭い種で、愛知県はその太平洋側の限界にあたる。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。高さ 5~30cm になる。根茎は太く、葉を束生し、長い匍枝を出す。葉は長い柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は 5 個、下方の 1 対は小さく、時に消失し、頂小葉は楕円形、長さ 1.5~5cm、先端は鈍頭、辺縁には鋸歯がある。花期は 4~6 月、花茎は細く、先端に分枝した花序をつけ、直径 15~20mm の黄色の花をまばらに咲かせる。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：45 犬山 (芹沢 85576, 2010-5-8)。1 カ所に小群落があるだけである。

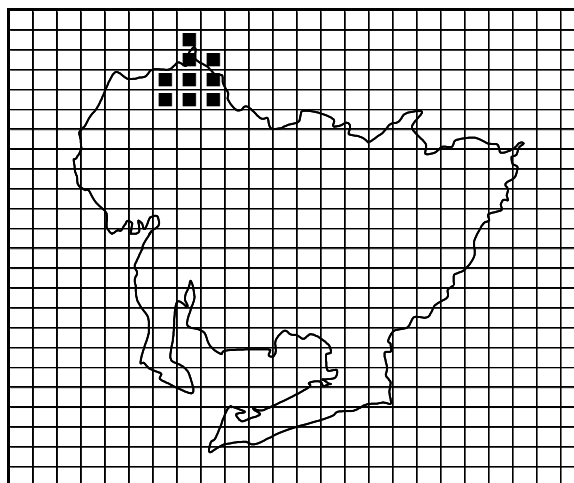
【国内の分布】

本州中部。富山県、石川県、岐阜県の山地に生育しており、愛知県は分布の南限である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丈の低い草地、林道わきの崩壊地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ特に減少してはいないが、生育地が 1 カ所だけなので何かあれば容易に絶滅する。

【保全上の留意点】

本種に関しては、むしろ関心を持たれない方が保全上好都合かもしれない。

【特記事項】

キジムシロに比べ、匍匐枝を出し、小葉は 5 枚であることで区別される。比較的近年になって記載された植物である。

【関連文献】

平草本 II p.179, SOS 旧版 p.58, 平新版 3 p.38.

ミヤマチョウジザクラ *Prunus apetala* (Siebold et Zucc.) Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。分布域の狭い植物で、愛知県はその南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木。幹は基部から分枝して樹形は傘状となり、高さ 4~7m になる。樹皮は灰褐色で皮目が点在する。葉は互生し、倒卵形、長さ 5~8cm、幅 2.5~4cm、先端は尾状に伸びた鋭尖頭、基部は円形または切形、辺縁には鋭く深い重鋸歯があり、表面に伏した毛を散生する。花期は 4~5 月、花は葉よりわずかに早く開き、前年の枝の葉腋に 1~3 個下向きにつき、白色。花弁は 5 枚で先端はへこみ、がく筒は長く、まばらに毛がある。果実は球形で直径 8mm 程度、黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:6 設楽西部 (畑佐武司 7881, 2011-5-4)。  
1 カ所 (段戸裏谷) に少数の個体が散在しているだけである。

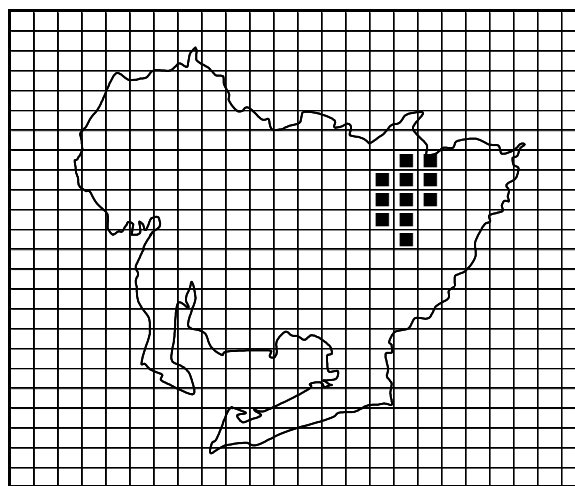
【国内の分布】

本州中部 (長野県、愛知県、岐阜県、滋賀県東部、三重県北部)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なく、しかも周囲の樹木の生長による被陰で衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地自体は学術参考林として保護されている。この保護措置により沢沿いの森林が生長したことが、本種の存続が困難な状況を作り出している。本種に関しては、周囲の木の伐採など、個別的な保護が必要と思われる。

【特記事項】

比較的近年になって注目された植物で、最近になって従来チョウジザクラにあてられていた学名の基準標本はこの植物であることが判明した。チョウジザクラからは、葉縁の鋸歯が深く欠刻状であることで区別できる。

【関連文献】

平木本 I p.192, 平新版 3 p.62.

キンキマメザクラ *Prunus incisa* Thunb. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。日本海系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の小高木。よく枝分かかれし、高さ 7~8m になる。若枝は無毛である。葉は互生し、倒卵形または広倒卵形、長さ 3~6cm、幅 2~4cm、先端は尾状鋭尖頭、基部は広くさび形または円形、辺縁には重鋸歯があり、両面に毛を散生する。花期は 4~5 月、花は葉と同時に下向きに咲き、直径 1.8~2cm、ほとんど白色。花弁は 5 枚、卵形または倒卵形で先端はへこみ、長さ 8~10mm、幅 4~9mm、がく筒は長い。果実は球形で直径 7mm 程度、黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 34166, 1990-4-22)、7 設楽東部 (芹沢 69000, 1994-4-26)。

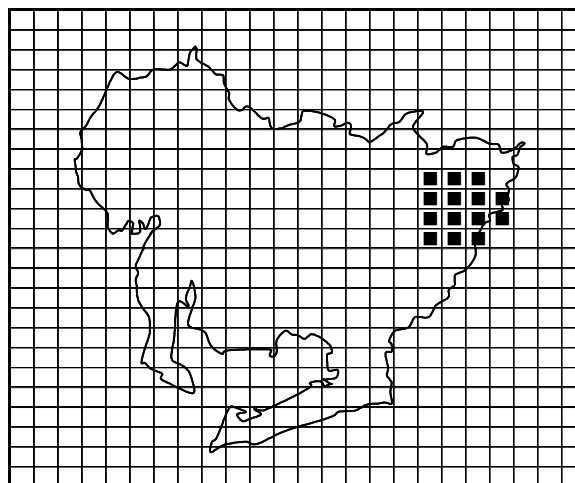
【国内の分布】

本州 (北陸地方西部、長野県南部、愛知県、岐阜県、近畿地方、中国地方東部)。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日本海側では丘陵地の二次林内などにやや普通に見られるが、太平洋側に近いところでは岩崖地などの急峻な地形の場所に遺存的に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2カ所に生育しているが、どちらも個体数は極めて少ない。刈り払いなどがあれば容易に絶滅する。

【保全上の留意点】

生育地は特に開発が想定されるような場所ではないが、希少種であることを意識しない不用意な伐採などによって失われるおそれがある。遊歩道の整備などに際しては、細心の注意が必要である。

【特記事項】

マメザクラの変種とされているが、実際にはチョウジザクラとの交雑に由来する植物の可能性があり、分類学的に再検討を要する。また、太平洋側の岩崖地に生育するものは、日本海側のものから、何らかの形で区別される可能性がある。その場合愛知県の植物は固有性階級が 3 になり、絶滅危惧 I A 類と評価される。

【関連文献】

保木本 II p.11, 平木本 I p.193, 平新版 3 p.63, SOS 旧版 p.58.

ミヤマワレモコウ *Sanguisorba longifolia* Bertol.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。最近種名を確定できた湿地性の植物である。最近の状況はほとんど確認できていないが、極めて危機的な状況にある可能性が高い。

【形態】

多年生草本。高さ 70~150cm になる。根出葉には長い柄があり、葉身は羽状複葉、小葉は 7~13 個で披針状長楕円形、長さ 3~7cm、幅 0.8~1.8cm、先端は鋭頭~円頭、基部は切形~心形で長さ 1~13mm の柄があり、辺縁には鋭い三角状の鋸歯がある。茎葉は互生し、茎の上部に向かって次第に小さくなり、柄も短くなる。花期は 8 月下旬~10 月、花序は茎や枝の先端に 1 個ずつつき、円柱形で長さ 1.2~4.4cm、直径 6~9mm、直立または斜めに傾き、花は密集してついて通常暗紅色、時に白色、花糸は短く花外に出る。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手（芹沢 56513, 1990-8-24）、13 豊川（芹沢 64468, 1992-10-30）、17 田原東部（芹沢 56704, 1990-8-28）、18 田原西部（小林 49252-白花, 1993-10-31）。西：24 豊田東部（佐藤久美子 841, 1993-9-11）、26 豊田南西部（落合鈴枝 933, 1996-9-16）、27 みよし（芹沢 63682, 1992-9-28）、30 岡崎南部（芹沢 67703, 1993-9-15）、32a 刈谷（芹沢 71366, 1994-10-25; 芹沢 38123-白花, 1983-9-17）、33 安城（堀田喜久 2064, 1992-10-25）。尾：39a 東郷（芹沢 64212, 1992-10-13）、39b 豊明（芹沢 59851, 1991-8-23）、40a 大府（中村裕治 1102, 1994-9-22）、47 小牧（村松正雄 16351, 1995-8-24）、50 名古屋北部（鳥居ちよ子 1522, 1998-10-19）。

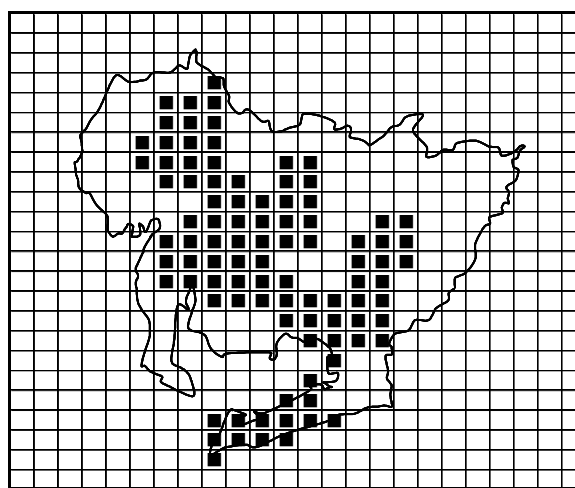
【国内の分布】

本州および北海道。本州中部では日本海側の山地に多い。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

作手では山地の湿原、それ以外の場所では標高 100m 程度またはそれ以下の浅い丘陵地にあるため池の岸の小湿地や堰堤、平野部の山すそに近い場所を流れる河川堤防の草地などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

刈谷では消滅したが、それ以外の場所でもごく最近の状況はほとんど確認できていない。開発等により、かなりの場所で極めて危機的な状況に追い込まれていると思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育する湧水湿地でも典型的な低湿地でもない湿性草地は、もともと開発圧力が高い上に、今まで保全上あまり重視されていなかった。そのため本種については、特に最近の情報が乏しい。上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。まずは詳細な現況を把握することが必要である。

【特記事項】

一時は、水田地帯の中に新設された道路の中央分離帯などに生育していることもあった。しかし現在では、そのような場所のものは全て消失してしまった。

【関連文献】

平新版 3 p.56.

鳴橋直弘・堀井雄治郎・岩坪美兼・酒井紀美栄・大西真都香・三島美佐子・須山知香. 2001. 日本産ミヤマワレモコウ *Sanguisorba longifolia* の形態、分布、及び染色体数. 植物地理・分類研究 49:129-135.

芹沢俊介. 2013. 愛知県のミヤマワレモコウ. シデコブシ 2:112-113.

**アイズシモツケ** *Spiraea chamaedryfolia* L. var. *pilosa* (Nakai)H.Hara

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の低木で、愛知県は本州での南限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

**【形態】**

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 2m くらいになる。葉は互生し、狭卵形～卵形、先端は鋭頭、基部はほぼ円形または広い切形、長さ 3～6cm、幅 1.5～3.5cm、辺縁は基部を除き重鋸歯があり、表面は緑色で裏面は淡緑色である。側脈は 4～6 本が目立ち、鋸歯の先端に達する。花期は 5～6 月、今年枝の先端の散房状花序に、10～20 個の白色の花をつける。花は直径約 10mm、花弁は 5 枚である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：3 東栄 (小林 34200, 1990-5-20)。

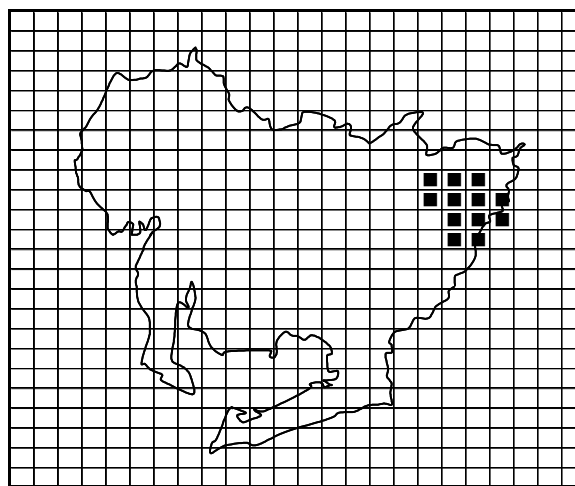
**【国内の分布】**

北海道、本州 (中部地方以北)、九州 (熊本県)。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の崖状地や林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

少数の個体が、標高約 900m の林内の岩場に点在しているという (小林 1992)。一般の登山者が入り込むような場所ではなく、そのため現状が維持されている。

**【保全上の留意点】**

自生地は、当面開発が想定されるような場所ではない。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**

基準変種は、ヨーロッパ、シベリアに分布している。

**【引用文献】**

小林元男. 1992. 三河地方の植物について第 1 報. レポート日本の植物(40):-202.

**【関連文献】**

保木本 II p.96, 平木本 I p.183, 平新版 3 p.86, SOS 旧版 p.59.

ヨコグラノキ *Berchemiella berchemiaefolia* (Makino) Nakai.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。分布域は比較的広いが、産地は少なく、希少な樹木である。愛知県では 1 カ所に生育しているだけで、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 10m くらいになり、枝は紫褐色である。葉は互生し、長さ 6~10mm の柄があり、葉身は披針状長楕円形、長さ 6~13cm、幅 3~5cm、先端は鋭尖頭、基部は狭いくさび形で多少不相称、薄い紙質で全縁、裏面は粉白色をおびる。側脈は鋭角に出て平行する。花期は 6 月、花序は枝先または上部の葉腋につき、集散状で長さ 1~5cm、花は黄色で小さく、直径 3~3.5mm である。果実は狭長楕円形、長さ 7~8mm、黄色から赤色を経て暗赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 79341, 2004-8-21)。

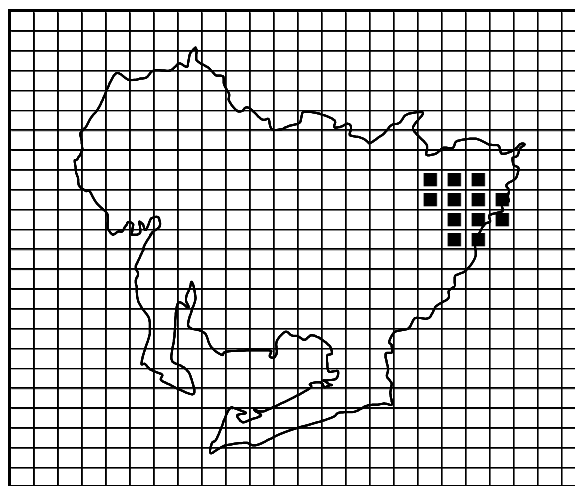
【国内の分布】

本州、四国、九州に点在する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般に岩崖地に生育し、特に石灰岩地に多い。愛知県の生育地は安山岩地で、沢沿いの急傾斜地の林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

本種としては珍しいまとまった群落で、現在のところよく生育しており、路傍に幼木も見られる。しかし、希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

重要な群落であり、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、最初の発見地である高知県横倉山に因む。

【関連文献】

保木本 I p.247, 平木本 II p.57, 平新版 2 p.319.

ケンポナシ *Hovenia dulcis* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 15。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の高木。大きいものは高さ 25m に達し、枝は紫褐色である。葉は互生し、長さ 2~5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 10~20cm、幅 6~14cm、先端は鋭尖頭または短尖頭、基部は全体として広いくさび形~浅い心形であるが最基部はしばしば三角形に突出し、脈は基部で 3 出し、辺縁には粗い鋸歯がある。葉の表面は深緑色でやや光沢があり、裏面はほとんど無毛である。花期は 6~7 月、枝先または上部の葉腋に集散状の花序をつけ、花は帯緑白色、直径約 7mm である。果実は球形で直径 7mm 内外、浅く 3 裂し、紫褐色で無毛、花序の枝の先は秋になると肥厚して甘くなり、食べられる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (小林 66622, 1999-7-2)。  
1 カ所だけに生育している。

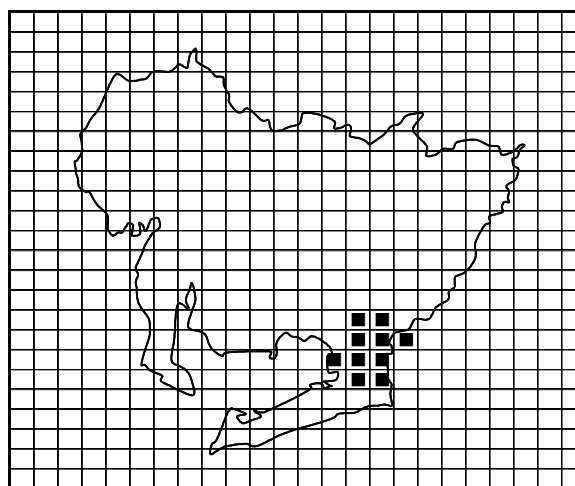
【国内の分布】

北海道 (奥尻島)、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般に沢沿いの落葉広葉樹林に生育するが、愛知県の自生地は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

遊歩道に近い場所に 4 株生育しているが、現地状況から判断して自生と思われる。

【保全上の留意点】

豊橋市の石灰岩地は、石巻山以外の場所でも注目すべき植物が多く生育しており、特に保全を要する。本種の場合は個体数が少なく、しかも遊歩道に近い場所に生育しているため、不用意に伐採されないよう、特に注意が必要である。

【特記事項】

過去の愛知県の植物に関する文献では本種の名が散見されるが、愛知県のケンポナシ類はほとんどが葉裏に褐色の毛があり、葉縁の鋸歯が不明瞭なケンポナシ *H. tomentella* (Makino) Nakai である。

【関連文献】

保木本 I p.244, 平木本 II p.53, 平新版 2 p.320.



コバノチョウセンエノキ *Celtis biondii* Pamp.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。大陸系の樹木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、また石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。

【形態】

落葉性の小高木。幹は高さ 10m くらいになる。樹皮は灰色、枝は灰褐色で、若時には黄褐色の短毛を密生する。葉は互生し、長さ 2~7mm の柄があり、葉身はやや硬くて厚く、倒卵形または広倒卵形で左右やや不相称、長さ 3~7cm、幅 2~3.5cm、先端は尾状にのび、基部は広くさび形、辺縁は中部以上に鋸歯がある。花期は 5 月、果実は球形で直径 5~6mm、黒褐色に熟し、核には顕著な網状紋がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 60080, 1996-9-14)、3 東栄 (芹沢 79334, 2004-8-21)、12 新城 (小林 59830, 1996-7-21)、15 豊橋北部 (小林 66564, 1999-7-2)。ただし豊根と新城は現在のところ幼木が確認されているだけなので、集団数から除外されている。

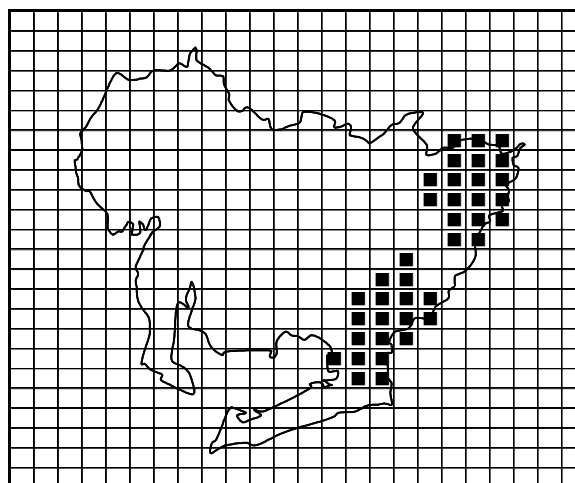
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

西日本の石灰岩地に点在する。愛知県豊橋市の自生地は石灰岩地、東栄町の自生地は流紋岩質火山岩のガレ場である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落がある場所ではよく開花結実するが、希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には、石灰岩の採掘も懸念される。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。国指定の天然記念物として保護されている石巻山以外の場所も、注意して保全する必要がある。東栄の自生地については、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

エノキに比べて葉がやや厚く、先端が長く伸びる。

【関連文献】

保木 II p.253, 平木 I p.81, 平新版 2 p.330, SOS 新版 p.50,52.

カジノキ *Broussonetia papyrifera* (L.) L.Her. ex Vent.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 15。原産地のよくわからない有用樹で、県内では生育地も個体数も少なく、石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。一般に栽培種とされているが、愛知県ではかなり自然度の高い場所に自生状に生育しているものがあるため、あえて選定の対象とした。明らかに植栽されたものは、評価の対象外である。

【形態】

落葉性の高木。高さ 15m、直径 50cm に達する。樹皮は灰色または淡灰褐色、縦に多くの割れ目ができる。若枝には開出する軟毛が密生する。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身はゆがんだ卵円形で長さ 10~15cm、幅 7~10cm、先端は鋭尖頭、基部は左右不相称で円形または広いくさび形、辺縁には先がやや鈍い多数の鋸歯がある。葉の表面はかたい短毛が密生し、裏面はピロード状の軟毛が密生して緑白色となる。若木の葉は、深く 3~5 裂する。雌雄異株で、花期は 5~6 月、雄花序は円筒形、長さ 3~9cm、雌花序は球形で直径 1cm 程度である。果実は直径 3cm ほどの集合果となり、赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (小林 66626, 1999-7-7) で確認されている。栽植・逸出株は 47 小牧、50 名古屋北部などでも見られる。

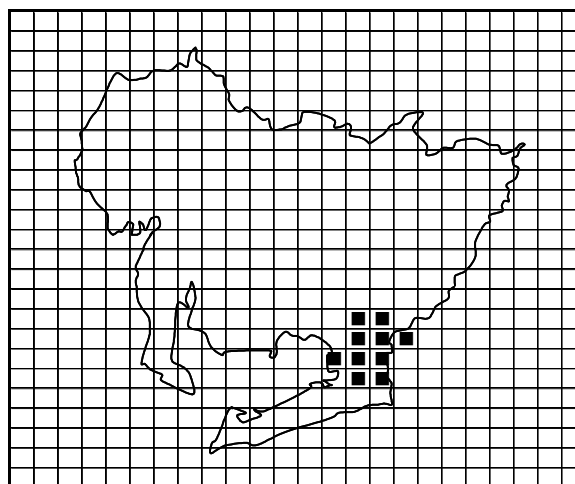
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州で栽培され、また逸出して野生化している。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中南部、ベトナム、タイ、ビルマ、インド、マレーシア、太平洋諸島に広く栽培され、野生化しているが、正確な原産地は不明である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

人里近くに見られることが多く、本来の生育環境はよくわからない。愛知県の生育地は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

石巻山の道沿いに 1 本大きい木があり、幼木もあるほか、近くの石灰岩地に小群落がある。希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には石灰岩の採掘も懸念される。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。石巻山は国指定の天然記念物として保護されているが、それ以外の場所も注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、コウゾ (カゾ) の木の意味だと言われる。豊橋北部以外のものは、さしあたり保全の対象にならない。

【関連文献】

保木 II p.243, 平木 I p.87, 平新版 2 p.333.

ミヤマミズ *Pilea angulata* (Blume) Blume subsp. *petiolaris* (Siebold et Zucc.) C.J.Chen

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。西日本系の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になる。葉は対生し、長さ 1～10cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7～15cm、幅 3～6cm、先端は短くとがり、基部はくさび形、3 脈が目立ち、辺縁には低い鋸歯がある。托葉は大きく長さ 10～15mm あるが、早く落ちる。花期は 7～10 月、雌雄同株で、上部 2～4 対の葉腋に雌花序、その下の葉腋に雄花序が、いずれも密な集散状につく。雄花被片は 4 個、雌花被片は 3 個である。果実はそう果で広卵形、長さ 1～1.3mm、緑褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (小林 65043, 1998-8-30)、13 豊川 (小林 77469, 2002-12-22)。

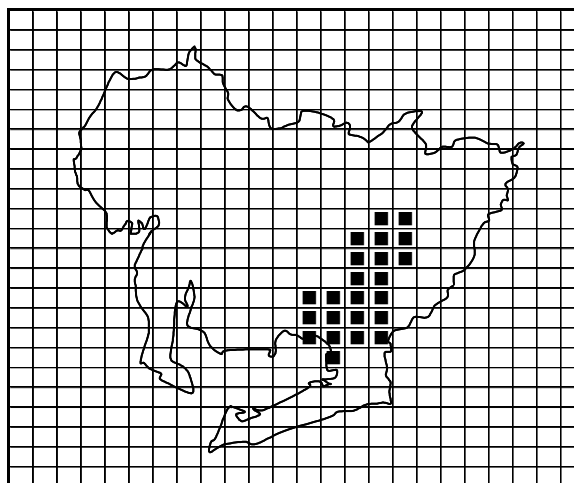
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。近畿地方以西には多いが、それより東では稀である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内や林縁に生育する。愛知県の生育地は、作手は道路沿いのスギの造林地内、豊川は河川敷の林内という。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所に小群落があるだけである。作手のものは生育地が道路沿いなので、道路の拡幅等により失われるおそれがある。ニホンジカの食害により壊滅的な影響を受ける可能性もある。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【関連文献】

保草本 II p.333, 平草本 II p.6, 平新版 2 p.350, SOS 旧版 p.46.

## ナラガシワ *Quercus aliena* Blume

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 15。自生の可能性があるものは県内では生育地も個体数も少なく、石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。植栽されたものは、評価の対象外である。

### 【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 25m、直径 90cm に達する。樹皮は黒褐灰色で、深く不規則に割れる。葉は互生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 12~30cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび状、辺縁には鋭頭の鋸歯がある。はじめは表裏とも有毛だが、やがて表面は無毛になり、裏面は通常星状毛が密生して白色を帯びるが、星状毛がほとんどなく緑色のもの（アオナラガシワ）もある。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：15 豊橋北部（小林 66634, 1999-7-7, 芹沢 42029-アオナラガシワ, 1985-9-9）。かなり自然度の高い場所に生育していることがあり、自生の可能性もあるので評価の対象に加えた。これ以外にも県内のところどころに生育しているが、それらの大部分は明らかに植栽されたものである。

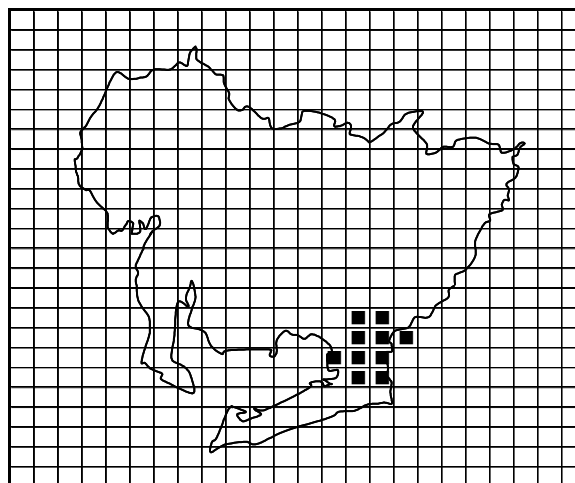
#### 【国内の分布】

本州（岩手県・秋田県以南）、四国、九州に産するが、どこまでが真の自然分布かはっきりしない。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

温帯下部の山野に生育する。愛知県の上記の場所は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

十数株がまとまって生育しており、周辺にも点在する。希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には石灰岩の採掘も懸念される。

### 【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。石巻山は国指定の天然記念物として保護されているが、それ以外の場所も注意して保全する必要がある。

### 【特記事項】

コナラに比べ、葉が大きく、側脈が多い。豊橋北部以外のものは、さしあたり保全の対象にならない。

### 【関連文献】

保木本 II p.267, 平木本 I p.72, 平新版 3 p.96.

ナガバノダケカンバ *Betula ermanii* Cham. var. *japonica* (Shirai) Koidz.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。山地性の樹木で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

落葉性の高木。幹は直立し、高さ 20m に達する。樹皮は淡赤褐色で、横に著しく紙状にはがれる。枝には長枝と短枝がある。葉は長枝には互生、短枝には 2 枚が対をなしてつき、葉柄は長さ 2~2.5cm、葉身はやや長い卵形、長さ 7~10cm、幅 3.5~6cm、先端は鋭尖頭、基部は切形~浅い心形、辺縁には不ぞろいな鋭鋸歯があるが明らかな重鋸歯にはならず、表面は深緑色、裏面は淡色で腺点が多い。葉の側脈は 10~13 対である。花と果実は未確認であるが、小林 (2010, 2012) によれば愛知県でも開花結実しているという。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 87702, 2012-7-7)。

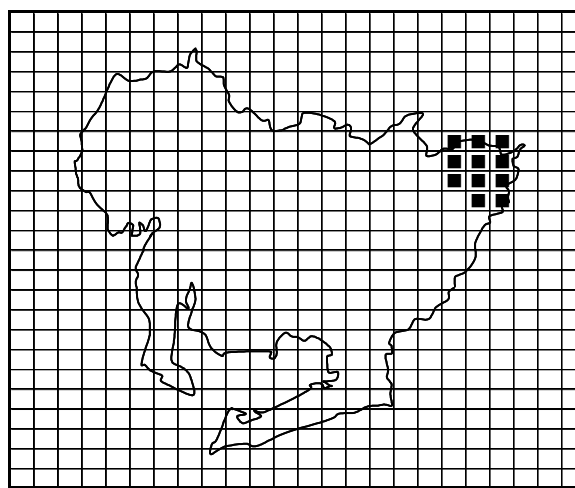
【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方)。中央部から太平洋側に多く、長野県南部や静岡県ではそれほど稀なものではないらしい。日本海側では、最近富山県にも生育していることが報告された (設楽・相原 2019)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部、ロシア沿海地方。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地帯の沢沿いに、点在して生育することが多い。基準変種のダケカンバは亜高山性の樹木で、葉は卵形、側脈は 8~11 対、葉縁には著しい重鋸歯があり、沢から離れた場所にも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

沢沿いの二次林内に、数本が生育している。伐採時に長野県方面から入ってきたものと思われ、最大の個体は樹高 15m 程度に育っている。比較的若い個体も見られる。林が伐採されなければ、しばらくは現状のまま存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

独立種と見なし、チョウセンミネバリと呼ぶ人もいる。小林 (2010, 2012) によりダケカンバとして愛知県に生育することが記録された植物で、レッドリストあいち 2015 およびグリーンデータブックあいち 2017 ではその名で収録した。以前から存在を知っていた個体であるが、まさか愛知県にダケカンバ系の植物が生育しているとは思わず、見逃していたものである。シラカンバからは、樹皮がやや赤味を帯び、葉の側脈が多く、果穂は上向きにつくことで区別される。シラカンバも愛知県が分布域の南限で、県内では三河山地に点在するほか、21 下山 (芹沢 61935, 1992-6-26)、38b 日進 (芹沢 62279, 1992-7-27) などでも確認されている。

【引用文献】

小林元男. 2010. 第 7 章第 2 節 愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県史編さん委員会(編), 愛知県史別編自然 574-596. 愛知県.  
小林元男. 2012. 愛知県樹木誌. 620 頁. 自刊.  
設楽拓人・相原隆貴. 2019. 富山県におけるチョウセンミネバリ *Betula costata* の分布の現状. 植物地理・分類研究 67:149-151.

【関連文献】

平木本 I p.58, 平新版 3 p.113.

シラヒゲソウ *Parnassia foliosa* Hook.f. et Thoms.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。湿地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は 3～8 本が束生し、分枝せず、高さ 15～30cm になる。根出葉は 2～13cm の長い柄があり、葉身は広卵形、長さ幅ともに 1.5～4cm、先端は円形で凸端に終わり、基部は深い心形である。花茎には 4～6 個の無柄で多少茎を抱く茎葉がつく。開花期は 8～9 月、茎の先端に直径 2～2.5cm の白い花を 1 個つける。花弁は 5 枚、卵形で長さ 9～12mm、縁は糸状に細裂し、基部は急に細まり、花時には斜開または平開する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：25 豊田北西部 (芹沢 50812, 1988-10-14)。1 カ所だけに自生しているが、市指定の天然記念物として保護されているため、近況は確認していない。岐阜県美濃地方には点在する。

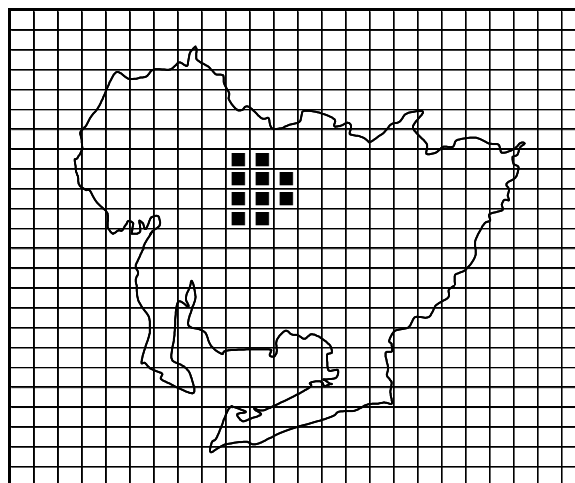
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の湿地やその周辺の林縁などに生育する。愛知県の生育地は、丘陵地の沢沿いの湧水のある場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地自体は保護されているはずだが、周囲の樹木が生長しており、次第に衰退しているのではないと思われる。水源となる丘陵地の保全も心もとない。台地の上が開発されれば、存続は困難である。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採して光条件を回復させると共に、水源部の保全を図る必要がある。

【特記事項】

同属のウメバチソウ *P. palustris* L. var. *multiseta* Ledeb. は、愛知県の湿地には比較的多く生育している。

【関連文献】

保草本 II p.143, 平草本 II p.154, 平新版 3 p.138, SOS 旧版 p.56.

オオタチツボスミレ *Viola kusanoana* Makino

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。日本海系の植物で、愛知県は太平洋側の分布の限界にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

一部常緑性の多年生草本。茎は数本束生し、花時に高さ 20~30cm、果期には高さ 40cm に達する。葉は束生するか茎上に互生し、下部の葉には長い柄があり、上部の葉は柄が短くなり、葉身は円心形、長さ幅ともに 3~6cm、先端は下部の葉は鈍頭、上部の葉は短くとがり、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は 4~5 月、花柄はふつう根生せず葉腋から出のみで、先端に 1 個の花をつける。花はやや大きく、淡紫色、花弁は 5 枚で長さ 15~18mm、側弁は無毛、距はほとんど白色で、長さ 6~8mm である。初夏以降に閉鎖花をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：47 小牧（芹沢 85586, 2010-5-8）。1カ所に小群落がある。

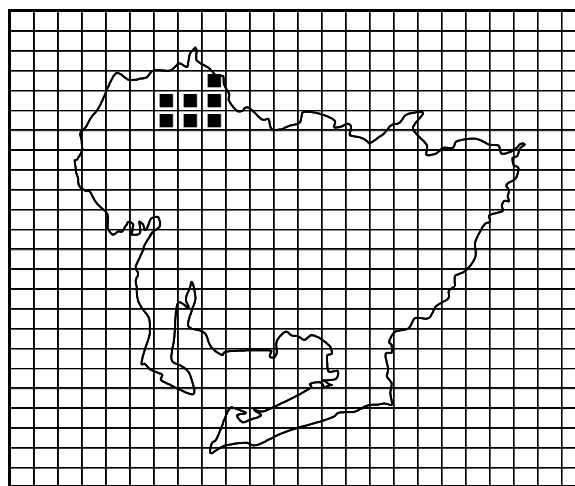
【国内の分布】

北海道、本州、九州北部に生育し、日本海側に多い。岐阜県美濃地方北部の山地には比較的多く見られる。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や山地の沢沿いの林縁に生育する。愛知県の生育地はアカマツ・コナラ林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、しかも砂防工事により、群落の相当部分が失われた。自生地はゴルフ場の駐車場に隣接しており、駐車場の拡張があれば消滅は必至である。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

タチツボスミレに似ているが、葉が大きくて丸く、花の距が白い。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.55, 平草本Ⅱ p.250, 平新版 3 p.225.

スミレサイシン *Viola vaginata* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。日本海系の植物で、愛知県は分布の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地上茎はなく、葉は少数が束生し、果期には 15cm に達する長い柄がある。葉身は円心形、長さ 5~14cm で日本産のスミレ類の中では最も大きく、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は一般に 4~6 月だが愛知県では 3 月、花柄は長さ 10~15cm で、先端に 1 個の淡紫色の花をつけ、花弁は 5 枚、長さ 10~15mm、側弁は無毛、唇弁には紫条がある。距は大きくて短く、長さ 4~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：37a 瀬戸 (芹沢 74426, 1998-3-14)。  
1 カ所に小群落がある。

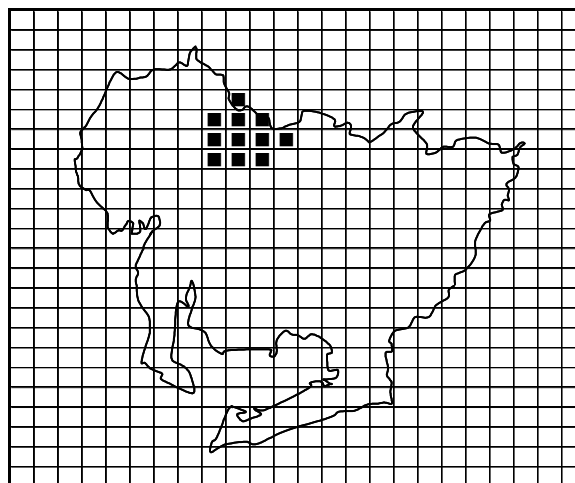
【国内の分布】

北海道 (西南部) および本州 (主として日本海側)。岐阜県美濃地方北部の山地には比較的多く見られる。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般に山地の沢沿いの林床や林縁に生育する。愛知県の生育地は丘陵地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

自生地は道路の建設により消滅しそうであったが、計画が頓挫して難を逃れた。現在では県の自然環境保全地域として保全されている。狭い範囲に本種としては異常なほどの高密度で生育していたが、タケノコ掘り (人間かイノシシかはよくわからない) の影響を受けて激減した。その後とりあえず柵で囲い、競合する他植物を除去した結果、個体数はある程度回復した。ただしこの場所は、明らかに一時水田として利用されたことがある場所で、本種の永続的な自生地ではないと思われる。

【保全上の留意点】

現在の自生地を保全することも重要であるが、それと共に自然地形下にある本来の自生地を探索する必要がある。

【特記事項】

遺伝的には、調べた限りでは全く変異の検出されない集団であることが確認されている。

【関連文献】

保草本 II p.57, 平草本 II p.249, 平新版 3 p.215, SOS 旧版 p.65, SOS 新版 p.75,77.



アゼオトギリ *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 13。全国的に見ても減少傾向が著しい低湿地性の植物で、愛知県では人為的影響を受けやすい場所に生育しており、生育地も個体数も極めて少ない。総点は 13 であるが、生育地の特性を考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

【形態】

多年生草本。茎は数本叢生し、よく分枝し、高さ 10~40cm になる。葉は対生、倒卵形または長楕円形、鈍頭、基部は多少茎を抱き、長さ 1.3~2.5cm、明点が密に入り、縁には黒点が並ぶ。花期は 7~9 月、少数の花からなる花序を茎や枝の先端につける。花弁は 5 枚、長楕円形で長さ 7~8mm、黄色、黒点と明点が入り、縁に黒腺がある。果実は丸みを帯び、長さ約 6.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部(小林 74194, 2001-11-17)。  
西：26 豊田南西部(近藤・矢川 10797, 2018-7-27)、33 安城(堀田喜久 7132, 1996-8-13)、35 西尾(堀田喜久 5419, 1996-8-13)。  
尾：43 常滑(梅田零奈 862, 2000-10-3)。各 1 カ所に、ごく少数の個体が生育しているだけである。9 鳳来南部(黄柳野, 鳥居喜一 3658, 1971-8-15, HNSM)、12 新城(平井, 鳥居喜一 6194, 1958-8-10, HNSM)、15 豊橋北部(下条, 恒川敏雄 2769, 1952-8-5, TMNH) で採集された標本もある。木曾三川の愛知県側ではまだ確認されていないが、岐阜県側には点在する。

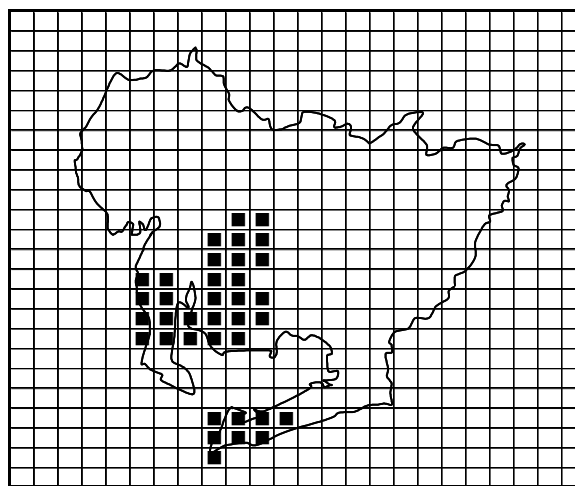
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地や水田のあぜなどに生育する。自然度の高い場所だけでなく、人為的攪乱のある場所にも生育している。愛知県の自生地は、攪乱地である。隣接する岐阜県側では、河川敷のやや自然度が高い場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県の生育地はいずれも不安定な立地で、個体数も少なく、将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

絶滅危惧種は自生地において野生状態で保全することが原則であり、移植や栽培は本来なら保全策にはならない。しかし、本種のような不安定な立地に生育する絶滅危惧植物の場合は、保険的措置として、現地での保全と平行して人為的な系統保存も行う必要がある。

【特記事項】

サワオトギリに似ているが、葉に柄がないこと、花が大きく、果実も大きいことなどで区別できる。

【関連文献】

平草 II p.118, 平新版 3 p.241, SOS 旧版 p.53, 環境省 p.292.

ミツバフウロ *Geranium wilfordii* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。山地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎の基部は地をはい、上部は立ち上がってよく分枝し、高さ 30~80cm になる。葉は対生し、長い柄があり、葉身は茎の下部のものは 5 深裂、上部のものは 3 深裂し、幅 3~10cm、裂片には大きな数個の鋸歯がある。托葉は離生し、細い。花期は 7~10 月、葉腋から長さ 3~4cm の花柄を出し、その先に 2 個の花をつける。花は淡紅色またはほとんど白色、直径 1~1.5cm、花弁は 5 枚である。茎の上部、葉柄、花柄には、下向きの屈毛と圧毛がある。果実は長さ約 2cm で、熟すと下方から裂開し、種子をはじき飛ばす。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 85024, 2009-9-22)、4 津具 (芹沢 93153, 2017-9-3)。

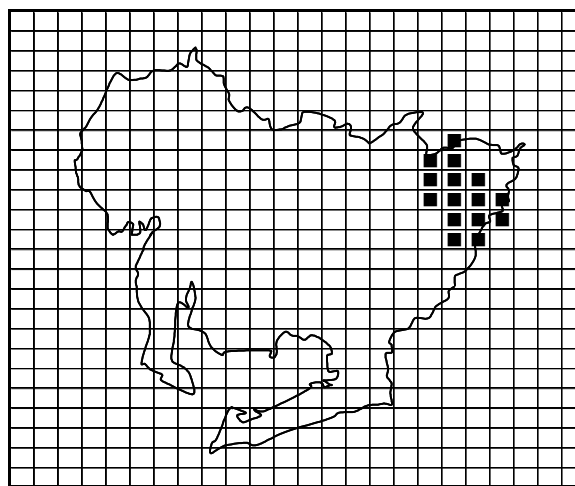
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

全国的に見ればそれほど希少な植物ではないが、愛知県では極めて少なく、2カ所に少数株が生育しているだけである。現地はスギが植林されており、そのうちに被陰されて衰退するおそれがある。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な管理が必要である。また道路を拡幅する際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

上部の葉が 3 深裂するのでミツバフウロと呼ばれるが、3 小葉にわかれるわけではない。

【関連文献】

保草本 II p.88, 平草本 II p.218, 平新版 3 p.251.

ビッチュウフウロ *Geranium yoshinoi* Makino ex Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。本州中西部の固有種で、愛知県は分布域の東限に近い。県内の生育地も少ない。

【形態】

多年生草本。茎はよく分枝し、高さ 40~70cm になる。葉は対生し、下方のものには長い柄があり、葉身は掌状に 5 深裂し、幅 5~8cm、裂片はさらに 1~2 回 3 出状に切れ込む。托葉は通常合生する。花期は 8~11 月、葉腋から長さ 3~8cm の花柄を出し、その先に 2 個の花をつける。花は淡紅紫色、直径約 2cm、花弁は 5 枚で濃色の脈があり、基部内面に白色の長毛がある。茎の上部、葉柄、花柄には下向きの圧毛がある。果実は長さ約 2cm で、熟すと下方から裂開し、種子をはじき飛ばす。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 56880, 1990-9-3)。  
西：5 稲武 (塚本威彦 2447, 1997-8-28)。

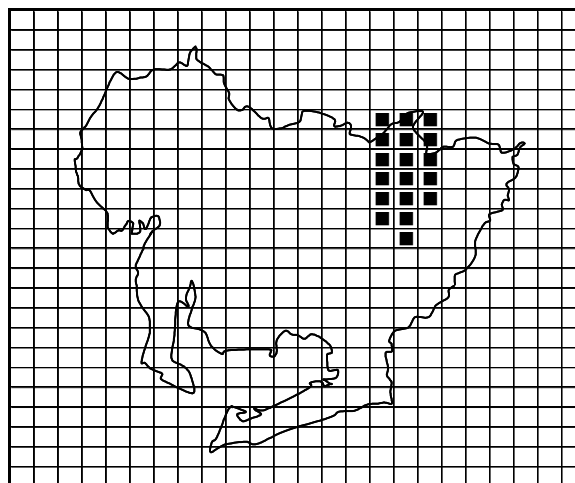
【国内の分布】

本州 (長野県南部、東海地方、近畿地方北部、中国地方)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山中の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

分布範囲は限られているが、その中では点々と生育している。しかし、森林化の進行に伴い湿地が縮小しており、その影響で本種も衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

東三河の山間部に点在する中間湿原は、大規模なものは耕地化、小規模なものは森林化により、著しく減少している。現在残存している場所は、地形を保全すると共に侵入している樹木を除去し、湿原状態を維持する必要がある。その一方で、園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

過去の県内の文献では、タチフウロ *G. kramerii* Franch. et Sav.とされていることがある。タチフウロは山地の草原に多い植物で、愛知県では 33 安城 (油ヶ淵、畔柳英夫 s.n., 1967-9-17) で採集された標本がある。これが真の自生ならば絶滅種であるが、シバなどについて持ち込まれたものである可能性が高いので、評価の対象から除外する。

【関連文献】

保草本 II p.90, 平草本 II p.220, 平新版 3 p.252, SOS 旧版 p.61, SOS 新版 p.63,65.

ヒメビシ *Trapa incisa* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

1年生の浮葉性水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長さ 0.5~5cm、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は広卵状ひし形、幅 1~2cm、上部の辺縁はあらい欠刻状の鋸歯となり、裏面の脈上にはまばらに毛がある。花期は 7~10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、淡紅色、直径 6~8mm、果実は石果で倒 3 角形、幅約 20mm、4 個の刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：24 豊田東部 (芹沢 83822, 2008-11-5)。  
尾：50 名古屋北部 (芹沢 89707, 2014-9-29, 発見は中村 肇氏)。

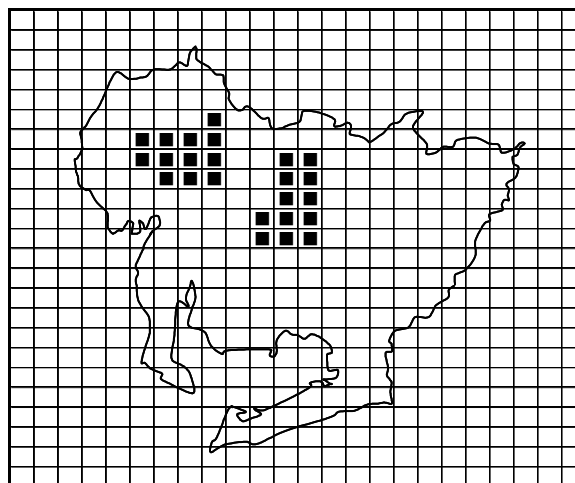
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、ウズリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

豊田東部は 3 カ所のため池で確認されている。ヒシ属は水草の中では比較的汚染に耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。名古屋北部では僅かな個体が見られるだけで、おそらく近年復活した集団と思われる。愛知県においてもかつては点在していたと思われるが、標本は残されていない。過去の記録はコオニビシと混同している可能性があり、再検討が必要である。

【保全上の留意点】

生育地のため池の改修を避け、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

ヒシ *T. japonica* Flerov. とされている植物の中にも、葉形が本種に似たものがある。日本産のヒシ属については、分類学的な再検討が必要である。

【関連文献】

保草本 II p.45, 平草本 II p.262, 平新版 3 p.261, 環境省 p.455.  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.129. 文一総合出版, 東京.

タチバナ *Citrus tachibana* (Makino) Tanaka

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。暖地性の樹木で、愛知県は分布の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の小高木。幹はよく分枝し、高さ 2~6m、枝は緑色で稜があり、太く鋭い刺がある。葉は互生し、葉柄は長さ 4~10mm でごく狭い翼があり、葉身は卵状長楕円形~卵状楕円形、長さ 4~8cm、幅 2~4cm、先端は鈍頭でややへこみ、基部は鋭形、辺縁は全縁または波状の浅い鋸歯があり、無毛で、表面に油点が散在する。花期は 6 月、花は新枝の葉腋に 1 個ずつつき、花弁は 5 枚で白色、長さ 8~10mm である。果実は扁平な球形で直径 2.5~3cm、6~8 室があり、黄色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：44b 南知多（中井三従美 s.n., 1994-1-22）。東：14 蒲郡（竹島, 加藤等次 s.n., 1951-9-6）、17 田原東部（土田大山, 加藤等次 s.n., 1958-1-15）、西：36 西尾南部（沖ノ島, 大原準之助 1289, 1951-9-23）で採集された標本もあり、小林・深谷（2008）によれば沖ノ島には現存するという。

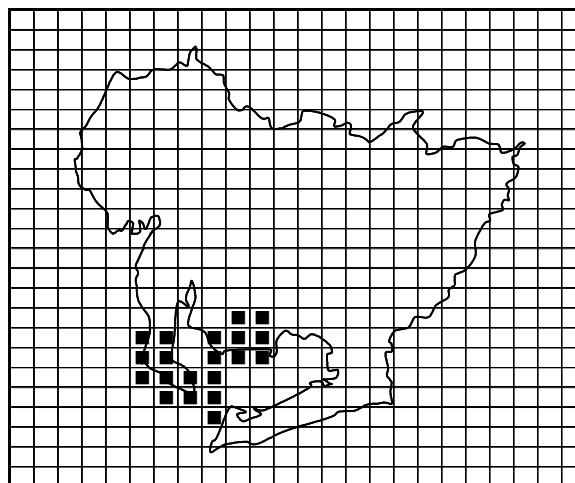
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球（南大東島）。

【世界の分布】

日本および台湾に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの常緑広葉樹林内に生育し、しばしば神社などに植栽される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

しばしば植栽される植物で、社寺林などにあるものは自生か植栽かよくわからないことが多い。小林・深谷（2008）は、「鳥居喜一氏と加藤等次氏が田原市大山で採集された標本以外、すべて社寺林内で採集されたもので植栽されたのであろう」と述べているが、そのとおりかもしれない。

【保全上の留意点】

植栽の可能性はあるが、それでも確認された場合は個別的に保全を図るべきである。

【特記事項】

ミカン属の野生種で、属の中では最も北に分布する。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.243. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保木本 1 p.318, 平木本 1 p.283, 平新版 3 p.301, SOS 旧版 p.62.

コンロンソウ *Cardamine leucantha* (Tausch.) O.E.Schulz

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部は分枝し、高さ 30～70cm になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は羽状複葉、小葉は 5～7 個で長楕円状披針形、長さ 7～12cm、幅 1.5～3cm、先は鋭尖頭、基部はくさび形、辺縁に鋸歯、両面に毛がある。花期は 4～7 月、枝の先端に総状花序を伸ばし、白色の花をつける。花弁は 4 枚で倒卵形～長倒卵形、長さ 5～10mm である。果実は線形で、長さ約 2cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 36956, 1992-5-4)。1 カ所にごく少数の個体が生育しているという。全国的には特に希少ではなく、鈴鹿山脈などでも比較的多い植物である。設楽町からも記録されている (国土交通省中部地方整備局 2006) が、まだ自生地を確認できない。

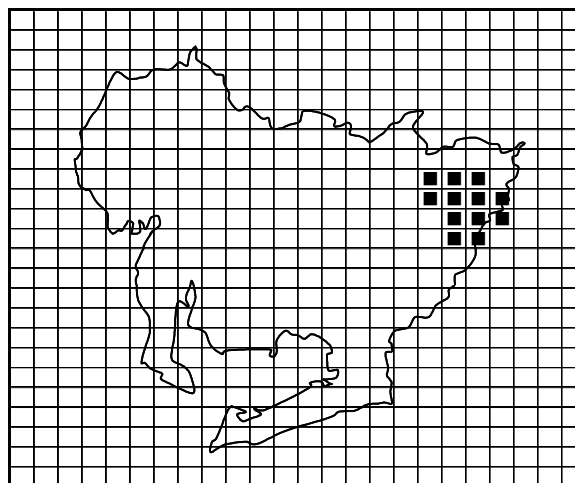
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部・東北部、アムール、ウスリー、シベリア東部など。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

沢沿いの若いスギ造林地に少数の個体が生育していただけで、「(現在は) 林縁に花のつかない衰弱した数株が残っていたにすぎなかった。おそらく近いうちに消滅すると思われる」と報告されている (小林 2006)。

【保全上の留意点】

造林地の適切な管理が必要である。手入れが継続されていれば、林内では消滅しても、林縁で存続できると思われる。

【特記事項】

和名は、白い花を崑崙山の雪に例えたものである。

【引用文献】

国土交通省中部地方整備局. 2006. 豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価準備書 6.1.6. 33-34. 同局, 名古屋.  
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.48. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱ p.175, 平草Ⅱ p.132, 平新版 4 p.58.

ナガバノヤノネグサ *Persicaria breviochreata* (Makino) Ohki

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。分布域は広いが生育地の少ない植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1 年生の草本。茎は根元から分枝して斜上し、高さ 30~50cm になる。葉は短い柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 2~7cm、幅 1~2cm、先端は鋭頭、基部は浅い矢じり形で 3 角形の耳部があり、辺縁には縁毛がある。托葉鞘は短く、長さ 2~6mm で、長い縁毛がある。花期は 8~10 月、枝の先に短い総状花序をつけ、まばらに 1~3 個の花をつける。がくは 5 深裂し、淡紅色で長さ 3~4mm である。そう果は 3 稜形、黄褐色で光沢があり、長さ 2.5~3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (芹沢 67056, 1993-8-23)。現在のところ 1 カ所で小群落が確認されただけである。15 豊橋北部 (石巻山, 恒川敏雄 s.n., 1960-10-23, TNS) で採集された標本もある。

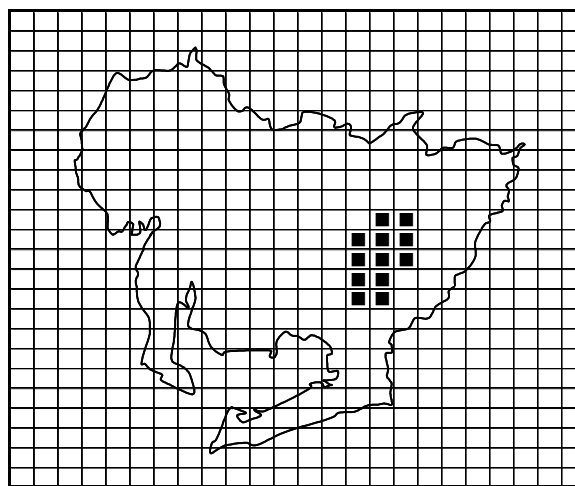
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ヤノネグサと異なり、山林下や林縁に生ずる。愛知県の自生地も、道路に近い沢沿いのスギ造林地内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。1 年生の草本なので、年変動により増加する可能性もある反面、消滅する可能性もある。また、造林地なのでそのうちに伐採される可能性が高く、その時に消滅するおそれもある。シカによる食害も懸念される。同じような環境の場所はあちこちにあるので、今後注意して探索する必要がある。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。特に、道路の拡幅の際には注意を要する。

【特記事項】

托葉鞘が短いことがよい特徴である。「日本の野生植物」II 18 図版に本種として掲載されている写真は、ホソバノウナギツカミである。

【関連文献】

保草 II p.307, 平草 II p.21, 平新版 4 p.93, SOS 旧版 p.47.

## マダイオウ *Rumex madaio* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。山地に点在しているが個体数は少ない。総点は 13 であるが、最近見かける機会が著しく減少しているため、絶滅危惧 I B類と評価する。

### 【形態】

大形の多年生草本。高さ 1m 以上になる。茎の基部の葉は大きく、長い柄があり、葉身は卵状楕円形～卵状長楕円形、長さ 40cm、幅 22cm に達し、先端は鈍頭、基部は心形、辺縁は波状、裏面脈上に短剛毛がある。茎の上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花果期は 6 月、果実をかこむ花被片は幅広い心形、長さ 5～6mm、幅 6～9mm、辺縁の特に下半部には長く鋭い歯状の欠刻があり、中肋の下部は小さくこぶ状になる。果柄には節がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：7 設楽東部（小林 59593, 1996-6-2）、11 作手（小林 59659, 1996-6-15）。西：5 稲武（日比野修 4468, 1998-5-14）、19 旭（芹沢 80614, 2006-7-15）、20 足助（芹沢 66506, 1993-7-6）、22 小原（日比野修 2949, 1995-6-28）。ただし一部の区画ではすでに絶滅しているかもしれない。以上のほか 6 設楽西部、15 豊橋北部、23 藤岡、37a 瀬戸などにもそれらしいものがあるが、開花株を確認できない。

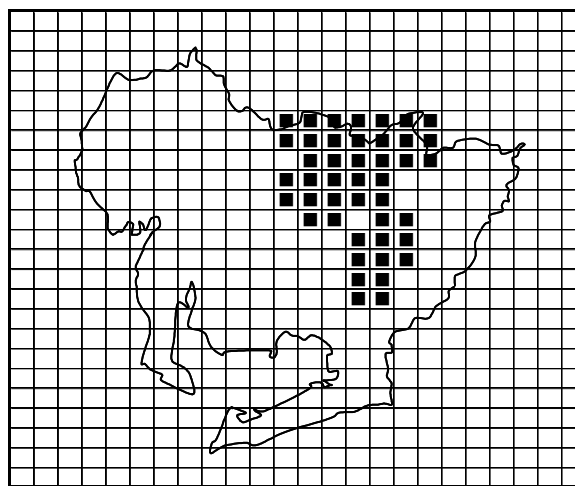
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の谷戸田わき草地や林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

点在しているが、もともと個体数の多いものではなかった。最近見かける機会が減少しているが、原因ははっきりしない。

### 【保全上の留意点】

まずは詳細な現況を把握することが必要である。生育地は多くの場合どうしても草刈りされやすい場所なので、状況によっては個別的な保全を考慮する必要もある。

### 【特記事項】

10 倍体と報告されている植物で、種子はあまり形成されない。

### 【関連文献】

保草Ⅱ p.298, 平草Ⅱ p.16, 平新版 4 p.103.



イシモチソウ *Drosera peltata* Smith var. *nipponica* (Masamune) Ohwi (図版 5)

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 14。全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい食虫植物である。

【形態】

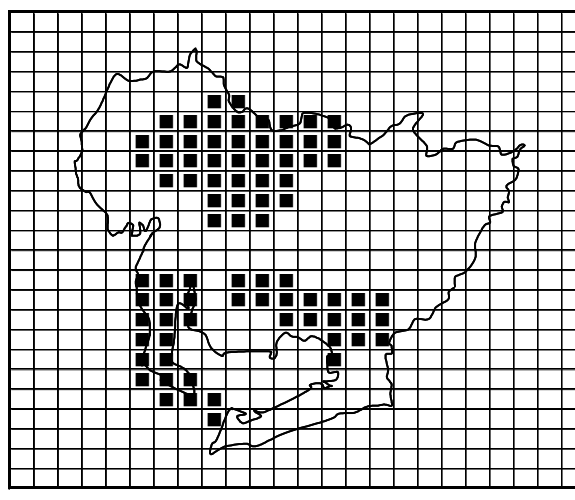
食虫性の多年生草本。地下に球形の塊茎がある。地上茎は高さ 10~30cm、はじめは根出葉があるが、花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、長さ 10~15mm の細い葉柄があり、葉身は三日月形で幅 4~6mm、基部は湾入し、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。花期は 5~6 月、茎の先端のまばらな総状花序に、2~10 個の白色の花をつける。花弁は 5 枚で広倒卵形、長さ 6~8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 37116, 1992-5-13)。西：22 小原(日比野修 2800, 1995-5-17)、23 藤岡 (塚本威彦 1537, 1995-6-16)、25 豊田北西部 (畑佐武司 4227, 2002-6-23)、27 みよし (臼井里華 476, 1992-6-21)、30 岡崎南部 (芹沢 52179, 1989-7-1)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 75733, 1999-6-11)、37b 尾張旭 (鳥居ちゑ子 900, 1995-6-8)、38a 長久手 (芹沢 89281, 2014-6-7)、38b 日進 (伊藤恭子 400, 1992-7-3)、42c 武豊 (芹沢 61652, 1992-6-12)、43 常滑 (芹沢 55093, 1990-5-25)、44a 美浜 (芹沢 77365, 2001-5-25)、48 春日井 (芹沢 55314, 1990-5-31)、50 名古屋北部 (鳥居ちゑ子 1313, 1998-5-9)。西三河と尾張の丘陵地に点在するが、東三河では極めて稀で、1カ所に少数の個体が生育しているだけである。16 豊橋南部 (大清水町, 小林 16724, 1977-6-5)、31 幸田 (六栗~桐山, 大原準之助 s.n., 1960-5)、39b 豊明 (桶狭間湿地, 瀧崎吉雄 s.n., 1953-6-14)、41a 東海 (加木屋町, 岡島錦也 157, 1977-8-19)、51 名古屋南東部 (天白, 井波一雄 s.n., 1941-5-22, CBM127121) などで採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球 (西表島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湿地やその周辺のやせ地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

主要な生育地が尾張、西三河の丘陵地であるだけに、かなりの自生地に開発が迫っている。豊明市では、廃棄物処分場として谷が埋められ絶滅したという。湿地の踏み荒らしにより消滅した例もある。その一方で、里山の利用停止に伴う遷移の進行も懸念材料である。園芸目的の採取も深刻で、たくさんの掘り跡が残されていたこともある。市町村誌などではっきり生育地が示されたことが、絶滅の引き金になったのではないと思われる例もある。

その一方で、名古屋市などの一部の湿地では、市民グループ等の手でももとはなかった場所への移入が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威となっている。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを忘れてはならない。

【保全上の留意点】

湧水湿地やその周辺のやせ山を、水源部の地形を含めて保全する必要がある。その一方で、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。もともとなかった場所への植え込みの防止も必要である。

【特記事項】

和名は、葉の腺毛に小石がつくからだと言われる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.167, 平草本Ⅱ p.121, 平新版 4 p.106, SOS 旧版 p.54, SOS 新版 p.111,113.

ヒゲネワチガイソウ *Pseudostellaria palibiniana* (Takeda) Ohwi

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、2列の軟毛があり、高さ10~20cmになる。根は1~4本がやや肥厚する。葉は対生し、上部の2対は広披針形~長卵形、長さ2.5~4cm、他の葉は倒披針形である。花期は4~5月、花は1個頂生し、2~3cmの柄がある。花弁は5~7個、白色、倒披針形で鈍頭、長さ6~7mmである。閉鎖花は茎の下部につく。蒴果は球形で、直径6mm程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 32923, 1988-4-24)。

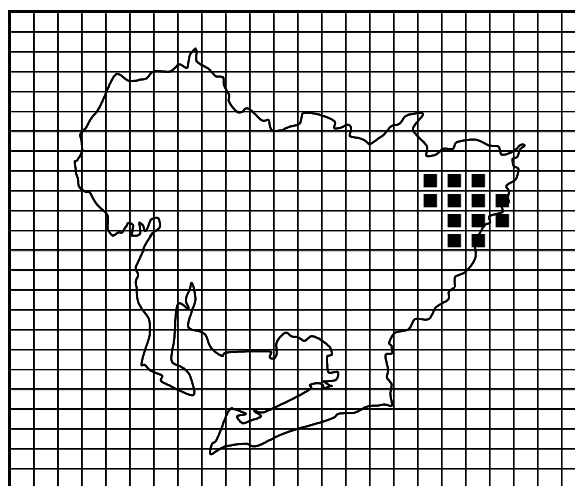
【国内の分布】

本州 (東北地方南部~中部地方)。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲に小群落があるという。林の伐採等があれば、容易に失われてしまう。シカの食害によって消滅するおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地の二次林を、いわゆる里山状態で保全することが必要である。目立つ植物ではないが、希少性につられて採取されたり、カメラマンや観察者に踏み荒されたりするおそれがあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ワチガイソウ *P. heterantha* (Maxim.) Pax は、三河山地に点在している。ワチガイソウの名は、当初種名不明の印として盆栽に輪違いの紋を付けたことに由来するといわれる。

【関連文献】

保草Ⅱ p.267, 平草Ⅱ p.34, 平新版 4 p.116, SOS 旧版 p.48.

コガクウツギ *Hydrangea luteovenosa* Koidz. (図版 6)

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。西日本系の植物で、愛知県は近畿地方以西と伊豆半島をつなぐ、地理的に重要な自生地である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

落葉性の小低木。高さ 1.5m 程度になる。樹皮は短冊状にはがれる。葉は対生し、長さ 2~5mm の柄があり、葉身は長楕円形~広倒披針形、先端は鋭頭、基部はくさび形、長さ 3~5cm、葉縁には 3~4 の低い鋸歯がある。表面はしばしば脈に沿って黄斑があり(愛知県のものはない)、裏面は淡緑色でやや光沢がある。花期は 6~7 月で、2~3 対の葉のある短枝の先端に、10~20 花からなる直径 2~7cm の集散花序をつけ、うち 1~2 個は白色の装飾花、残りは淡黄緑色の通常花である。装飾花のがく片は 3~4 枚で、卵形~ほとんど円形、大きいものは長さ 2cm に達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部(小林 66179, 1999-5-18)、  
尾：50 名古屋北部(芹沢 81345, 2007-5-20)。  
各 1 カ所に少数の個体が生育しているだけである。

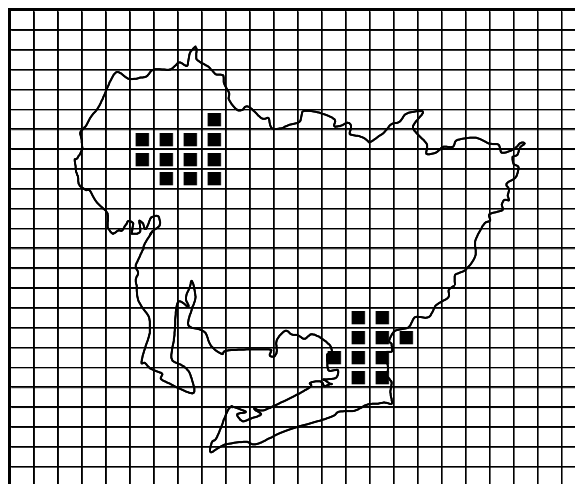
【国内の分布】

本州(伊豆半島、愛知県、近畿地方以西)、  
四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖帯域の丘陵地、低山地の斜面に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部では沢沿いのスギ造林地内に生育しているが、林内の光条件が悪化しており、今後衰退する可能性がある。名古屋北部は二次林内に数株が離散して生育しているが、近くまで開発が進んでいる。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐などの適切な管理が必要である。名古屋北部では僅かに残った丘陵地の地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保木本 II p.118, 平木本 I p.171, 平新版 4 p.167.

トウサワトラノオ *Lysimachia candida* Lindl.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。日本国内では希少な植物である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

越年生草本。茎は上方で少数の枝を分け、高さ 30～60cm になる。葉は互生し、葉身は倒披針形～へら形、長さ 2～4cm、幅 5～8mm、先端は鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁、基部は狭まって短い柄となる。花期は 4～5 月、茎の先端の枝先に総状花序を伸ばし、多数の花をつける。花は長さ 12～18mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、長さ 8～10mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (永田芳男 s.n., 2002-5-3)。

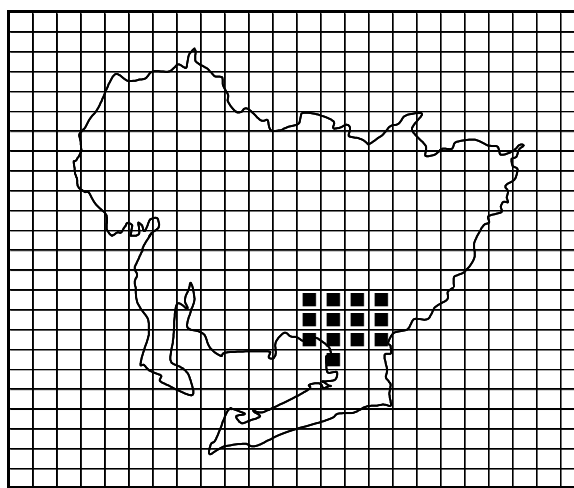
【国内の分布】

本州 (関東地方北部および愛知県) に稀に生育する。ただし、既知の生育地はいずれも自然度の高い場所ではなく、本種の永続的な自生地ではないと思われる。本種は、日本ではもともと大陸から偶発的に入ってくるだけの種かもしれない。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県の生育地は、山すその水田わきの土手や休耕田である。一般に多年生草本とされているが、地下茎は発達せず、越年生と判断される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1989 年に生育を確認して以来細々と存続していたが、2002 年に突然 1 枚の休耕田に 300 株ほどの大群落が出現した (永田 2003、写真も掲載されている)。しかしこの場所ではその後激減し、現在ではほぼ消失状態である。ところが最近になって、豊川市の別の場所の休耕田で、数十株が生育しているのが確認された。そのため個体数階級が今回は 3 となっているが、この場所も今後永続的に生育するかどうかは疑問である。

【保全上の留意点】

生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、それでも現地の状況から見て、永続的な保全は難しい。本種については、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

一般にサワトラノオ *L. leucantha* Miq. と比較されることが多いが、実際の見かけはサワトラノオとはかなり異なり、むしろ草むらに生えたハマボッサという感じの植物である。

【引用文献】

永田芳男(写真). 2003. 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ p.187. 山と溪谷社, 東京.

【関連文献】

平草本Ⅲp.19, 平新版 4 p.195, 環境省 p.267, SOS 旧版 p.69.

シロバイ *Symplocos lancifolia* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。西日本系の樹木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

常緑性の小高木。高さ 7~8m になり、枝は細く暗灰褐色である。葉は互生し、長さ 2~4mm の柄があり、葉身は披針形~卵状披針形、長さ 4~6cm、幅 1.5~3cm、両端は尖り、辺縁にはごく低い鋸歯がある。花期は 8~10 月、花序は上部の葉腋から出て、穂状で長さ 1~3cm、花は無柄で花序の基部からつく。花冠は 5 裂して平開し、白色、直径約 6mm である。果実は倒卵状球形、黒熟し、長さ 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：28 額田 (芹沢 86351, 2010-10-2)。1 カ所に生育しているだけである。

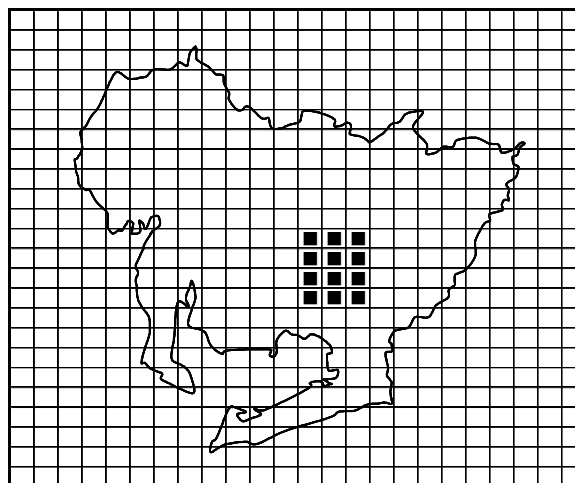
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ごく狭い範囲に、十数株がまとまって生育している。最大のものは、胸高直径 15cm ほどである。よく生育しているが、寺院の近くであり、開発等により林が伐採されれば消滅する。2014 年の調査では虫害により新葉がほとんど展開できない状態であったが、この状態はその後回復した。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は枝の色が明るいからで、クロバイに対する名である。

【関連文献】

保木本 I p.97, 平木本 II p.173, 平新版 4 p.211, SOS 旧版 p.70.

イワカガミ *Schizocodon soldanelloides* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。愛知県では希少な温帯性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く地上をはい、先端に数枚の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身は円形、長さ幅ともに 3~6cm、辺縁にはとがった鋸歯がある。花期は 4~7 月、葉の間から高さ 8~15cm の花茎を伸ばし、先端に 3~10 個の花をつける。花は紅紫色で直径 1~1.5cm、花冠は漏斗形で 5 裂し、辺縁は細かく裂ける。果実は球形で、直径 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 37265, 1992-5-23)、4 津具 (小林 56832, 1995-5-21)。

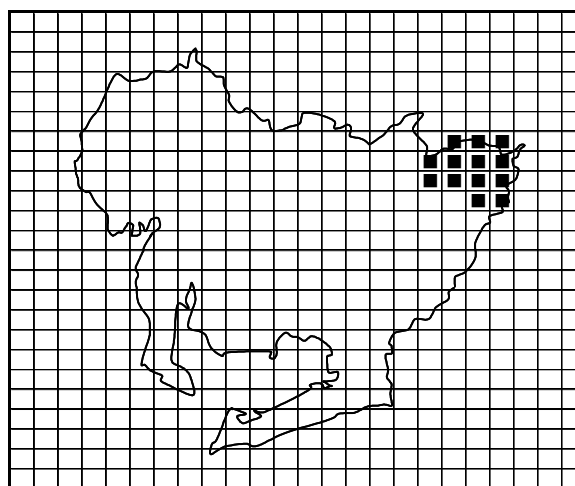
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の山地の岩場や高山に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩場や高山の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小さな岩場に少数株が生育しているだけで、しかも「ほとんどが葉柄のみで食害されていた。……ニホンカモシカによると推定された。このままでは数年のうちに衰退・絶滅する可能性が高い」と報告されている (小林 2006)。近くを遊歩道が通っているため、園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。

【特記事項】

葉の先端が丸く、辺縁の鋸歯が小さいことが特徴である。愛知県のイワカガミ類は大部分がヤマイワカガミ系のものであるが、変異が大きく、分類学的な再検討が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.61. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.240, 平草本 III p.1, 平新版 4 p.214, SOS 旧版 p.67.

## ジングウツツジ *Rhododendron sanctum* Nakai

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。東海地方の蛇紋岩地を代表する固有種で、愛知県では生育地が少ない。

### 【形態】

落葉性の低木。高さ 2~4m になる。葉は枝先に 3 枚輪生し、長さ 5mm 程度の柄があり、葉身は卵円形~ひし状円形、長さ 4~7cm、幅 3~6cm、先端は短くとがり、基部は円形または鈍形、やや厚くて表面に光沢があり、辺縁は全縁である。花期は 5 月中旬~6 月上旬、新葉が展開した後に開花し、1 個の花芽から 2~3 個の花が咲く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で 5 中裂し、直径 3~4cm、花柱は無毛のものが多いが、有毛のものもある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (芹沢 65621, 1993-5-28)、  
12 新城 (小林 56995, 1995-5-28)。

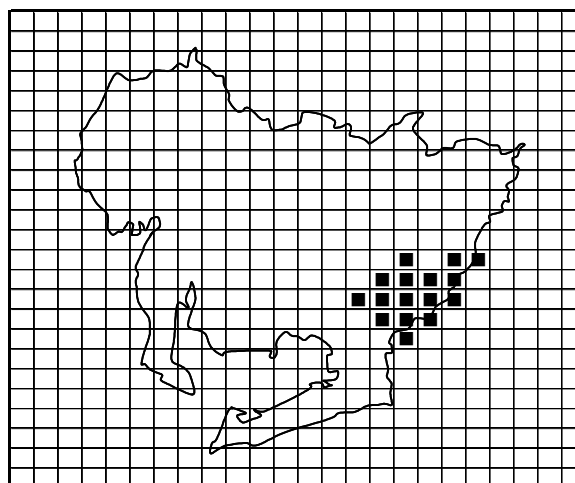
#### 【国内の分布】

本州中部 (静岡県西部、愛知県、三重県)。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

蛇紋岩地の疎林に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

成木はあるが幼木は少なく、周辺の樹木の生長に伴い衰退傾向にある。園芸目的の採取も深刻で、盗掘して販売している人もいるらしい。

### 【保全上の留意点】

疎林に生育する植物なので、適度に伐採等を行い、森林化の進行を抑える必要がある。生育地は比較的よく知られている場所であるが、それでもこれ以上の園芸目的の採取を助長しないよう、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

ミツバツツジの類であるが、花は葉が展開してから咲く。シブカワツツジ var. *lasiogynum* Nakai ex Sugim. は花柱に毛がある型と考えれば、愛知県にはジングウツツジもシブカワツツジもある。しかし、「日本の野生植物」木本編 II のように枝は上に伸びる傾向が強くてほうき状の樹形になり、葉はやや大きく、中部よりやや下で最も幅広くなり、辺縁があまり巻かないものをシブカワツツジとするならば、狭義のジングウツツジは三重県に固有で、愛知県と静岡県のものは全てシブカワツツジになる。環境省のレッドリストではこの見解に従って評価が行われているが、こうするとジングウツツジとシブカワツツジが区別できるかどうかはかなり疑わしい。

### 【関連文献】

保木本 I p.156, 平木本 II p.138, 平新版 4 p.245, 環境省 p.467, SOS 旧版 p.68+図版 11, SOS 新版 p.58,60.

## ナガバジュズネノキ

*Damnacanthus macrophyllus* Siebold ex Miq. form. *giganteus* (Makino) T.Yamaz.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 14。暖地性の低木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

常緑性の低木。高さ 0.7~1.5m になる。根は細長い数珠状に肥厚する。葉は対生し、短い柄があり、葉身は長楕円状披針形~狭楕円形、長さ 7~13cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁は全縁、両面無毛である。葉の基部には短い刺があることが多いが、ないこともある。花期は 4~5 月、花は枝先または葉腋に出る短い花序に 2 個ずつつき、下向きに咲く。花冠は白色、筒部は長さ約 9mm、先は 4 裂し、裂片は三角状卵形で先端がややとがり、長さ約 2mm である。果実は液果で球形、直径 3~5mm、赤熟する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 43419, 1993-5-29)、8 鳳来北東部 (小林 50127, 1994-3-20)、15 豊橋北部 (小林 55783, 2005-2-11)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 82774, 2007-11-3)。

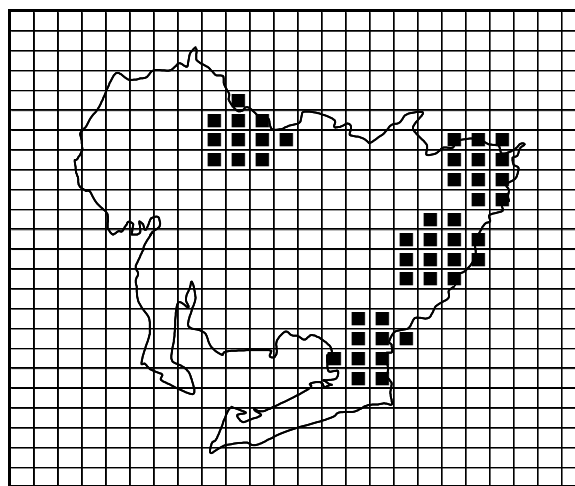
#### 【国内の分布】

本州 (愛知県および静岡県西部以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有品種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

4 区画の各 1 カ所で確認されているだけで、どの場所も個体数は少ない。林床性の低木なので、伐採などにより林が破壊されれば絶滅する可能性が高い。園芸目的で採取されることもある。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

アリドオシ類の中では、最も葉が大きい。

### 【関連文献】

保木本 I p.59, 平木本 II p.200, 平新版 4 p.270, SOS 旧版 p.73.



**オオキヌタソウ** *Rubia chinensis* Regel et Maack form. *mitis* (Miq.) Kitag.

**【評価理由】**

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

多年生草本。細い地下茎がある。茎は直立し、高さ 30~60cm になる。葉は 4 枚輪生し、長さ 5~20mm の柄があり、葉身は卵形~広披針形、長さ 6~10cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、基部は円形、全縁でほとんど無毛である。花期は 5~7 月、茎の先端および葉腋につく集散花序に、まばらに多数の花をつける。花冠は緑白色で直径 3~4mm、4~5 裂し、裂片は卵形である。果実は球形で、黒熟する。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

西：5 稲武 (小林 47211, 1993-8-29)。

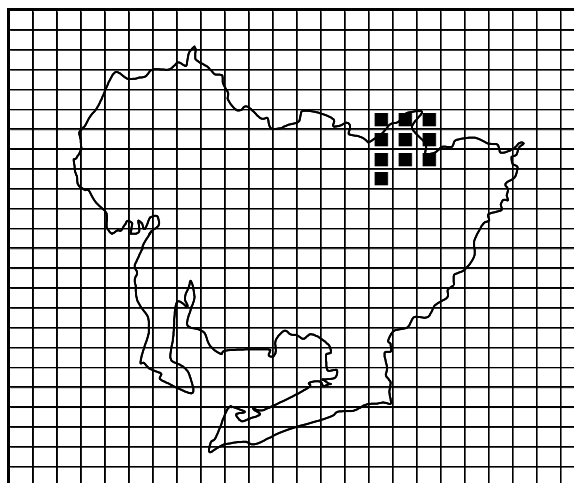
**【国内の分布】**

北海道、本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸 (北部、東北部)。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

通常は明るい落葉広葉樹林内に生育している。愛知県の生育地は造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

2カ所にごく少数の個体が生育しているという。造林地の管理不足のために光条件が悪化しているらしく、衰退が危惧される。

**【保全上の留意点】**

生育地の造林地について間伐などの適切な管理を行い、林床の光条件を回復させる必要がある。

**【特記事項】**

基準品種は茎や葉にやや密に毛があるもので、マンセンオオキヌタソウと呼ばれ、本州中部のほか朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウスリーに分布する。

**【関連文献】**

保草本 I p.108, 平草本 III p.51, 平新版 4 p.289, SOS 旧版 p.74.

ホソバツルリンドウ *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。全国的に希少なつる性の草本で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

つる性の多年生草本。茎は細く、緑色で紫色を帯びない。葉は対生し、長さ 3~8mm の柄があり、葉身は披針形、長さ 2~5cm、幅 5~10mm、先端は長くとがり、辺縁は全縁、裏面は紫色にならない。花期は 9~10 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、がく筒は長さ 1.5~2cm で 4 条の翼がある。花冠は筒状で長さ 3~3.5cm、白色で淡紫色を帯び、先は 4 裂し、裂片の間に副片はない。果実は蒴果で狭楕円形、長さ 1cm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 32193, 1987-9-9)、2 豊根 (小林 40011, 1992-10-17)。西：5 稲武 (小林 32418, 1987-11-1)。ただし富山と稲武は小さい株である。4 津具 (面ノ木峠, 芹沢 38540, 1983-10-6) で採集された標本もある。

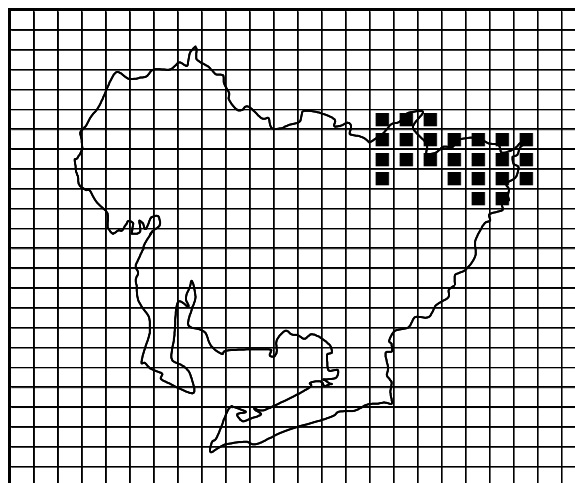
【国内の分布】

北海道、本州、四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズリ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や草地、明るい林内などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

もともと散発的に出現することが多い植物で、愛知県でもどの場所も個体数が少なく、確実に観察するのは困難である。拡大造林などによって減少し、現在の状態に至っているものと思われる。

【保全上の留意点】

林縁部に生育していることが多いので、林道の整備などの際には注意が必要である。

【特記事項】

葉が細く、茎葉が紫色を帯びないことで、花がなくてもツルリンドウから区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.218, 平草本 III p.29, 平新版 4 p.300, 環境省 p.479, SOS 旧版 p.71, SOS 新版 p.54,56.

フナバラソウ *Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。草地性の植物で、愛知県では個体数が少なく、減少傾向も著しい。

【形態】

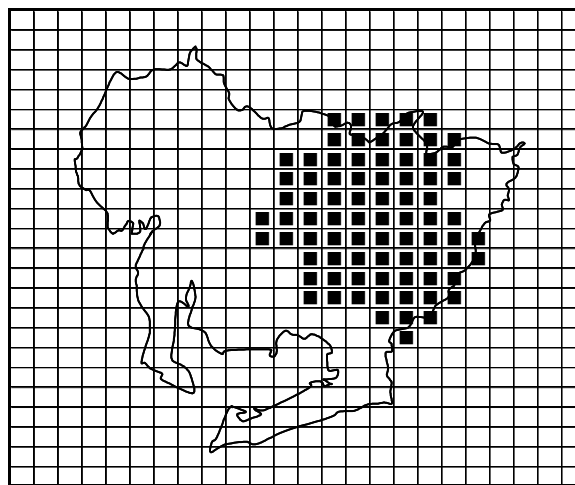
多年生草本。茎は直立し、全体に密に毛があり、高さ 40~80cm になる。葉は対生し、1cm 程度の柄があり、葉身は楕円形~卵形、長さ 6~14cm、幅 3~8cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部は円形、辺縁は全縁、裏面は脈が隆起する。花期は 6 月、茎の上部の葉腋から出る短い総花柄の先にやや密に花をつけ、小花柄は 5~10mm、密に毛がある。花冠は濃褐紫色または緑色（アオフナバラソウ）で直径 12~14mm、5 裂する。袋果は広披針形で長さ 7~8cm、密に毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（小林 37985, 1992-6-27）、6 設楽西部（小林 37995, 1992-6-27; 44608-アオフナバラソウ, 1993-6-20）、12 新城（芹沢 58520, 1991-5-18）。西：5 稲武（日比野修 4513, 1998-5-31）、19 旭（日比野修 1869, 1993-9-24）、20 足助（山崎玲子 2828, 2003-5-19）、21 下山（長谷川朋美 416, 1992-5-27）、24 豊田東部（畑佐武司 3662, 2002-5-20）、28 額田（福岡義洋 541, 1990-5-15）。鳳来（区画不明）にもあるという（小林 2000）。ただしこのうちいくつかの区画では、すでに絶滅している可能性が高い。上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。22 小原（北永太郎, 井波一雄 s.n., 1961-6-4, CBM70869）で採集された標本もある。尾張では現在のところ発見されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。しばしば谷戸田周辺の里草地（いわゆるボタ）に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在しているが、どの場所でも群生せず、個体数は少ない。採草地の利用停止に伴う遷移の進行によって確認できなくなった場所も多い。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

和名は、果実が舟の胴体に似ているからだと言われる。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.131. 愛知県, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.207, 平草本 III p.41, 平新版 4 p.317, 環境省 p.481, SOS 旧版 p.72.

スナビキソウ *Heliotropium japonicum* A.Gray

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。海浜性の植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。茎はよく分枝し、高さ 25～30cm、密に圧毛がある。葉は互生し、無柄、葉身はへら形で長さ 2.5～6cm、厚くて両面に圧毛がある。花期は 5～8 月、枝の先に短い集散花序をつける。花柄は短く、花冠は白色、長さ 6～7mm の花筒があり、先は 5 裂して直径約 8mm である。果実はコルク質で、長さ 8mm、幅 5～7mm、先に短い花柱が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：43 常滑 (芹沢 77373, 2001-6-1)。1 カ所に生育しているだけである。大原 (1971) は県内の産地として常滑のほかに梶島をあげているが、現存は確認できず、確実な資料も残されていない。18 田原西部の記録は誤認らしい。

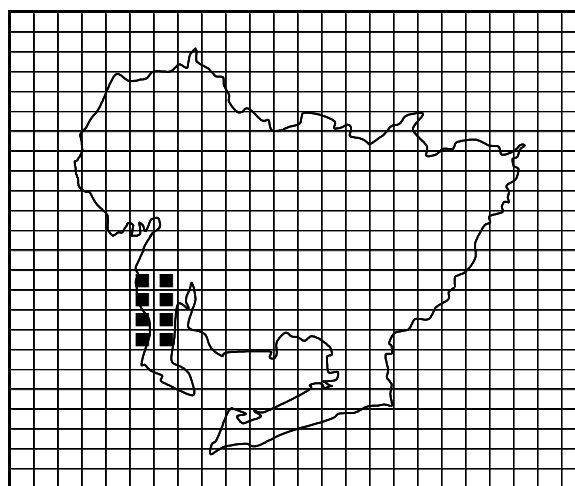
【国内の分布】

北海道、本州、九州。北日本には多いが、西南日本では希少である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部。種としてはシベリア、中央アジア、ヨーロッパまで分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1 カ所の砂浜に、範囲は狭いが群落がある。生育状況は良好であるが、20 年前に比べれば生育範囲はやや縮小している。隣接して空港とその前島ができたため、潮流の変化等で砂浜が縮小または消失することが懸念されたが、少なくとも 10 年ほど前までは、顕著な影響はなさそうであった。しかし、砂浜に立ち入る人が増加すれば、踏み荒らしなどの影響も懸念される。

【保全上の留意点】

重要な群落であり、生育地の個別的な保全が必要である。当面は砂浜を保全し、生育に負荷を与える行為を避けるべきである。

【特記事項】

和名は、地下茎が砂中を伸びて繁殖することによる。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.103. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.200, 平草本 III p.63, 平新版 5 p.51, SOS 旧版 p.75, SOS 新版 p.151,153.

ホタルカズラ *Lithospermum zollingeri* A.DC.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 13。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。総点は 13 であるが、もともと個体数が少なく、どの区画でも消失と判断しにくいことを考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

【形態】

多年生草本。茎は細く、開出した粗い毛があり、高さ 15~25cm、花後基部から横にはう長い枝を出し、翌年の新苗をつける。葉は互生し、葉身は狭楕円形~広倒披針形、長さ 2~6cm、幅 0.6~2cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、濃緑色で表面に剛毛があり、辺縁は全縁である。花期は 4~5 月、花は上部の葉腋につき、青紫色で直径 15~18mm、花冠は 5 裂し、各裂片の中央には縦の白色の隆起がある。分果は白色で平滑である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (芹沢 93983, 2018-5-12)、18 田原西部 (小林 42454, 1993-5-5)。西：24 豊田東部 (瀧崎吉伸 7231, 1983-5-1)。尾：44b 南知多 (芹沢 89172, 2014-5-10)、45 犬山 (山田果与乃 214, 1997-4-26)。15 豊橋北部にもあるという (小林 2001)。ただしこれらの区画の一部では、すでに絶滅しているかもしれない。安原 (1990) によれば名古屋市内でも愛知用水の岸にあったが、用水の改修により消滅したという。13 豊川 (一宮町, 加藤等次 s.n., 1957-4-29) で採集された標本もある。

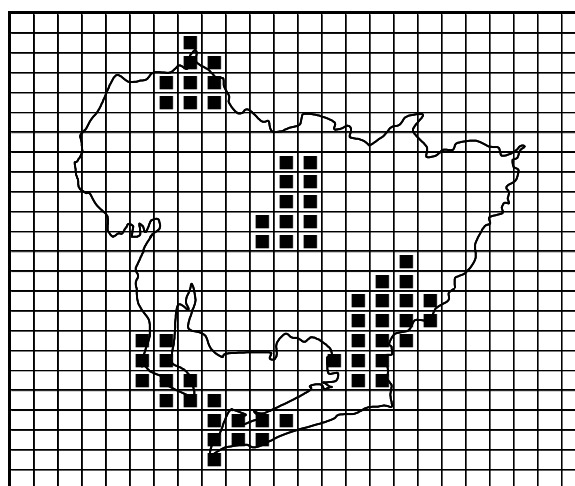
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地や丘陵地の日当たりのよい草地、林道わきの崖状地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつてはところどころに点在していたが、植生遷移の進行によって激減し、現在では容易に見ることができない植物になってしまった。もともと遷移途中のやや不安定な場所に生育していることが多く、どこでも個体数は少なく、再度同じ場所に行っても確認できないこともしばしばである。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地 (いわゆるボタ) に生育しているものについては、草刈りを続け、丈の低い草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

和名は、点々と咲く青い花をホタルの光にたとえたものと言われる。彩色画は、2009 年版図版 7 に掲載されている。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.40. エフエー出版, 名古屋.  
小林元男. 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.116. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本 I p.195, 平草本III p.64, 平新版 5 p.52.

ハマネナシカズラ *Cuscuta chinensis* Lam.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。減少傾向の著しい海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生でつる性の寄生植物。茎は黄色で細く糸状となり、寄主にからみつく。茎上には薄膜質で卵形の鱗片葉がある。花期は 8～10 月、花はマメダオシに似るが、花冠が果実より長く、果実は花冠を被ったままで、その基部を破って大きくなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (芹沢 87126, 2011-7-17)。

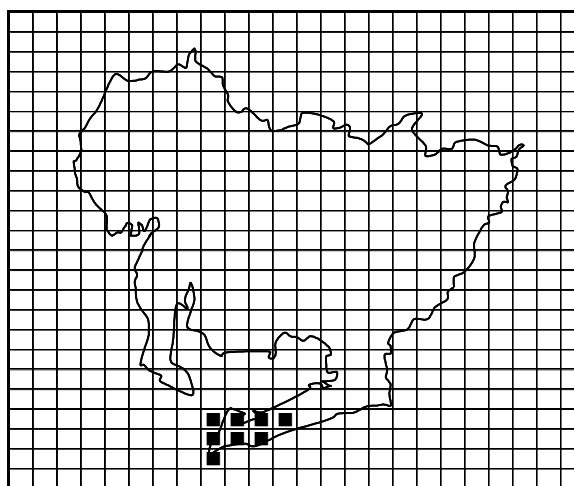
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸、東南アジア、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海浜の砂地に生育し、ハマゴウなどに寄生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少ない。海浜においても近年はアメリカネナシカズラ *C. pentagona* Engelm. が急増しており、ハマゴウに寄生しているものも大部分はアメリカネナシカズラである。しかし、本種とアメリカネナシカズラとの間に直接の競合関係があるかどうかははっきりしない。

【保全上の留意点】

砂浜や砂丘を、本来の状態のまま保全することが必要である。

【特記事項】

花冠が長く、そのため果実の先端に花冠が残存することが特徴である。植物体は鮮黄色で、慣れれば遠くからでも識別できる。

【関連文献】

保草本 I p.202, 平草本 III p.58, 平新版 5 p.26, 環境省 p.488, SOS 旧版 p.74.

## ヒトツバタゴ *Chionanthus retusus* Lindl. et Paxton

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 1、固有性階級 4、総点 15。本地域に著しい隔離分布をする植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。シデコブシ、ハナノキと共に、伊勢湾周辺の湿地を代表する樹木である。

### 【形態】

落葉性の高木。高さ 30m、直径約 70cm に達する。枝は灰褐色で、若い時は通常有毛である。葉は対生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は長楕円形～広卵形、長さ 4～10cm、辺縁は全縁である。ただし若木の葉は細鋸歯または重鋸歯が現れ、長さ 15cm、幅 8cm に達することがある。花期は 5 月、雌雄異株で、新枝に長さ 7～12cm の円錐花序を頂生する。花冠は白色で 4 裂し、裂片は線状倒披針形、長さ 1.5～2cm である。果実は楕円形、黒熟し、長さ約 1cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：37a 瀬戸 (芹沢 54787, 1990-5-12)、  
45 犬山 (塚本威彦 2779, 1999-5-13)。

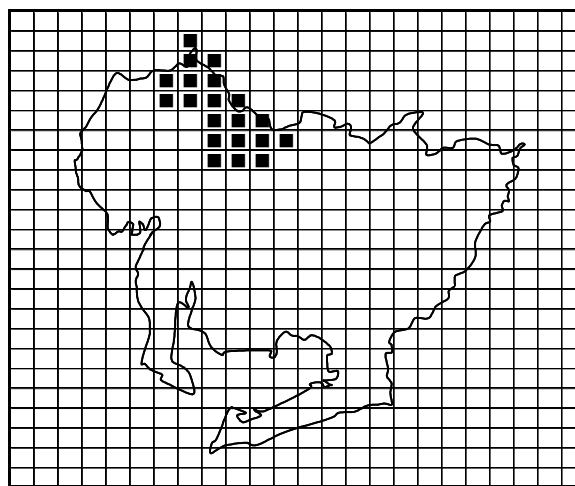
#### 【国内の分布】

本州中部 (長野県、岐阜県、愛知県の一部)  
および九州 (対馬) に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸の一部に  
隔離的に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

本州中部では沢沿いの湧水がある場所の周りに生育していることが多いが、対馬の自生地は海岸の崖地である。瀬戸の現存する自生地も、川沿いの急傾斜地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

犬山市池野の自生地は数株がまとまって生育しており、国の天然記念物に指定されている。八曾のヒノキ林内にも少数が点在しているが、ほとんどは被陰されて衰退している。瀬戸では内田町に 1 株生育していた (標本：芹沢 54781, 1990-5-12) が、この場所は宅地造成のため破壊された。

### 【保全上の留意点】

岐阜県東濃地方ではまだ点在しているが、愛知県では個体数が少なく、個別的な保全が必要である。瀬戸市内田町の場合、株は瀬戸市野外活動センターに移植された。しかし、本来の自生地から離された個体は、それ自体は生存できても、後継樹を作ることができない。移植は、緊急避難や保険的措置としての意味はあっても、本来保全策にはならないものである。

### 【特記事項】

本地域では「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれ、昔から注目されてきた。

### 【関連文献】

保木本 I p.77, 平木本 II p.179, 平新版 5 p.60, 環境省 p.476, SOS 旧版 p.70+図版 16, SOS 新版 p.103,105.

トネリコ *Fraxinus japonica* Blume ex K.Koch

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の樹木で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の高木。高さ 15m、直径 60cm 以上に達する。葉は対生し、奇数羽状複葉、葉柄の上面上には多少縮れた毛がある。小葉は 5~7 個、広卵形~長楕円形、長さ 5~15cm、幅 3~6cm、先端は急鋭頭、辺縁には鋸歯があり、基部はゆがんだ広くさび形またはやや円形で、長さ 5~10mm の小葉柄がある。花期は 4~5 月、雌雄異株で、新枝の先端に円錐花序をつけ、花には花冠がない。翼果は倒披針形、長さ 3~4cm、幅 6~7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 77557, 2001-8-26)。  
西：5 稲武 (村松正雄 24147, 2013-10-13)。

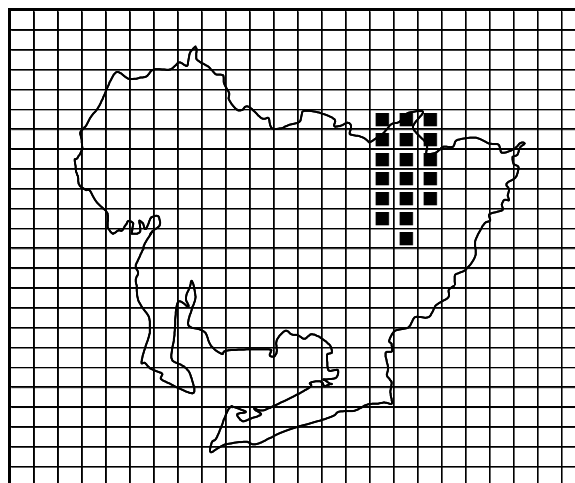
【国内の分布】

本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の川岸や湿地周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

稲武では、川に沿って十数株が生育しており、よく開花・結実する。現地は自然地形が維持されており、また当面は開発等が想定されにくい場所であるが、伐採の危険はある。設楽西部では、個体数は少なく、しかも現在見られるのは幼木だけである。過去の状況はよくわからないが、本種が生育するような山間部の湿地は第二次世界大戦後の耕地化によって激減し、更に比較的近年の耕地整理によって残存していた部分も削られて、現在に至っている。

【保全上の留意点】

稲武のものは重要な群落であり、個別的な保全が必要である。希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがあるので、特に注意が必要である。

【特記事項】

地方によっては、稲架木として水田周辺に 1 列に植栽されることがある。

【関連文献】

保木本 I p.91, 平木本 II p.177, 平新版 5 p.62.



トウオオバコ *Plantago japonica* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、減少傾向も著しい。

【形態】

多年生草本。葉は束生し、長さ 7~20cm の柄があり、葉身は卵形で長さ 8~25cm、幅 5~18cm、先は鈍頭、基部は次第に狭まり、やや厚い革質、辺縁には不規則な波状の歯牙がある。花期は 7~8 月、長さ 40~80cm の花茎を 1~5 個のぼし、多数の白色の花を穂状につける。果実は蒴果で、上部は半円形、中に 8~12 個の種子があり、成熟した種子は長さ約 1mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (小林 46444, 1993-8-13)。  
尾：41a 東海 (清水政美 s.n., 1999-11-9)。44b 南知多 (篠島, 沢井輝男 s.n., 1934-7-18) の標本は貧弱だが、これもトウオオバコでよいと思われる。

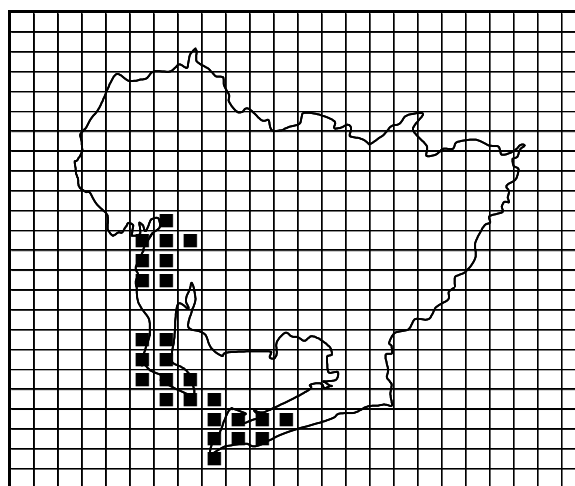
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの草地や、やや塩湿地状の場所に生育する。東海では、旧海岸線の水たまりに生育していたという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				○
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ、安定した生育地は渥美半島の三河湾側だけである。しかし、ここでも埋立てやゴミの投棄により生育地が破壊され、危機的な状況である。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。本種の場合はハマツナやフクドが生育するいかにも塩湿地という場所ではなく、どちらかと言えば単なる荒れ地にしか見えないような場所に生育していることが多いので、とりわけ注意が必要である。

【特記事項】

オオバコに似ているが、大型で全体無毛である。海岸以外の場所にも似たものがあるが、これらは帰化植物のセイヨウオオバコ *P. major* L. である。海岸部にもセイヨウオオバコらしい植物が生育していることがあり、その場合は識別がかなり難しくなる。

【関連文献】

保草本 I p.116, 平草本 III p.141, 平新版 5 p.81, SOS 旧版 p.83.

ヤマクワガタ *Veronica japonensis* Makino

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 15。分布域の狭い温帯性植物で、愛知県はその南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は分枝し、根を出して広がり、先端は斜上して長さ 10~20cm になり、開出毛がある。葉は対生し、長さ 2~10mm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 12~25mm、幅 9~20mm、先端はややとがり、基部は切形状の円形で、辺縁には 3~8 対の鋭鋸歯があり、両面に白毛がある。花期は 7~8 月、上部の葉腋から花序を出し、まばらに 3~8 個の花をつける。花冠はやや紅色を帯びた白色で 4 裂し、広く開いた皿形、直径約 8mm である。蒴果は菱形の扇形で、基部は広くさび形となり、長さ 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 82900, 2008-6-7)。1 カ所に小群落がある。

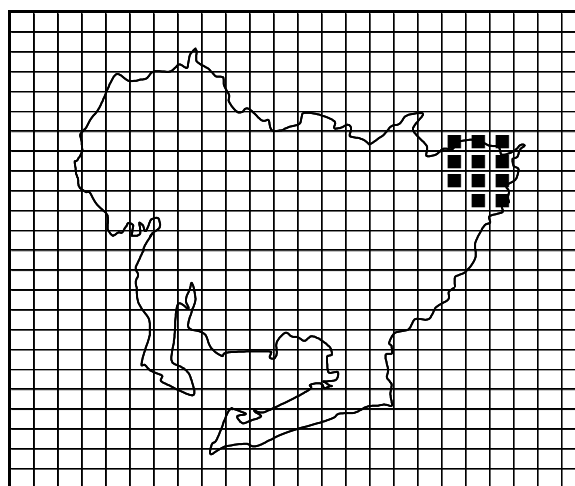
【国内の分布】

本州 (関東地方北部、中部地方中部)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県の生育地は、落葉広葉樹に覆われた沢沿いの湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

確認した範囲ではパッチ状の小群落が 3 つあった。しかし、ニホンジカによる食害が著しく、ほとんどの茎は先端がなくなっていた。生育地の森林が伐採されても容易に絶滅すると思われる。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。本種の場合生育地が沢沿いなので、防護柵は設置しにくい。

【関連文献】

保草本 I p.144, 平草本 III p.112, 平新版 5 p.86, SOS 旧版 p.81.

## ヒヨクソウ *Veronica laxa* Benth.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、補正+1 (シカ食害)、総点 14。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は斜上して立ち上がり、上部で分枝し、高さ 25~70cm、密に軟毛がある。葉は対生し、茎の上部のものが大きく、下部に向かって小さくなり、ほとんど無柄、葉身は卵形、長さ 2~4.5cm、幅 1~3cm、先端は鋭頭、基部は円形、縁にあらく不規則な鈍鋸歯がある。花期は 6~7月、茎の上部の葉腋から長さ 5~20cm の細い花序を出し、多くの花をつける。花冠は淡紅紫色または淡青紫色で 4 裂し、皿形、直径 6~8mm、蒴果は倒心形で幅 5~6mm、扁平である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 94229, 2018-6-18)。1 カ所に生育しているだけである。

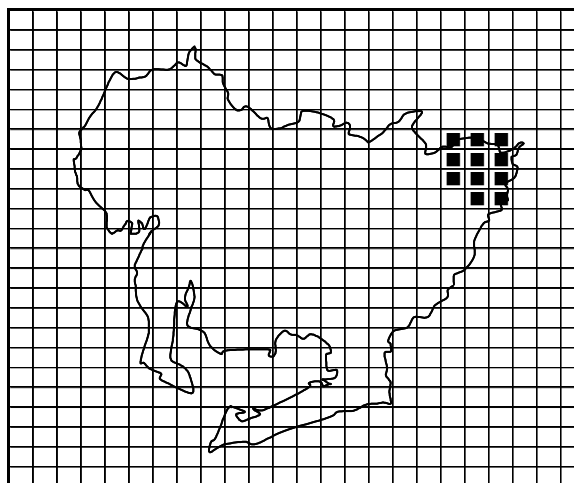
#### 【国内の分布】

北海道 (西南部)、本州、四国。

#### 【世界の分布】

日本から中国大陸、ヒマラヤ、小アジアにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地や明るい林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊根村では 3 カ所にあつたらしいが、うち 2 カ所ではキャンプ場の設置、遷移の進行などによって見られなくなり、現在では茶臼山周辺に生育しているだけである。現地は適度に草刈りが行われているが、個体数は少なく、ニホンジカによる食害も目立つ。

### 【保全上の留意点】

茶臼山は、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

### 【特記事項】

和名は、対になった花序に由来する。

### 【関連文献】

保草本 I p.144, 平草本 III p.111, 平新版 5 p.85, SOS 旧版 p.81.

ヒロハスズメノトウガラシ *Lindera antipoda* (L.) Alston var. *vervenaefolia* (Colsm.) Ohba

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。水田雑草で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

1 年生草本。茎は長さ 15~20cm、分枝して地表に広がる。葉は対生し、狭楕円形または線状楕円形、長さ 2~5.5cm、幅 4~15mm、先端は鈍頭、基部はくさび形に細まってほとんど無柄、両面とも無毛、辺縁には低い明瞭な鋸歯がある。花期は 8~10 月、花は茎の上部に総状花序状につき、上部の花の苞葉は線状で目立たない。花冠は白色に近い淡紅色、長さ、幅とも約 1cm で、エダウチスズメノトウガラシ var. *grandiflora* (Hook.f.) Tuyama よりずっと大きい。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：36 西尾南部 (芹沢 83521, 2008-10-8)。  
尾：53 一宮東部 (芹沢 70405, 1994-8-24)。

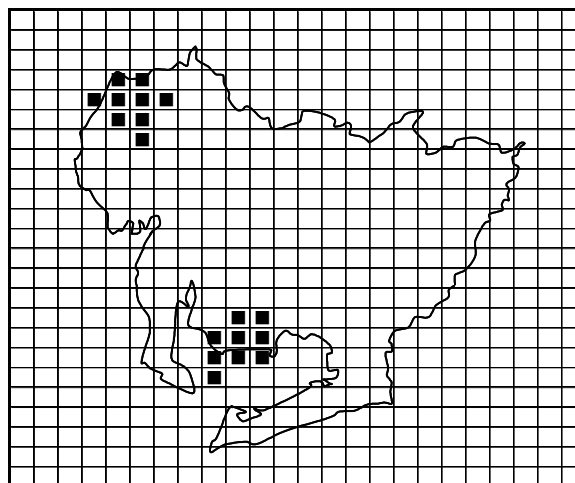
【国内の分布】

最近までエダウチスズメノトウガラシと混同されていたためはっきりしないが、多いものではない。本州のほか、少なくとも九州には分布している。

【世界の分布】

詳細は不明である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水田雑草として、水田の周辺部やあぜに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

西尾南部では 1 枚の耕地整理されていない水田に群生していた。一宮東部では木曾川河川敷の水辺に少数個体が生育していた。後者の生育状況は明らかに不安定で、毎年出現するとは思えないが、一方で他の場所に出現する可能性もある。

【保全上の留意点】

平野部に残存する湿地や未整理耕地は、本種を含め、多くの現在では希少になってしまった生物の生育・生息場所になっている。過去の農業形態を示す文化財としても重要である。現に生産活動が行われている場所であるため難しい問題はあるが、代表的な場所については保全を図る必要がある。

【特記事項】

愛知県で従来「スズメノトウガラシ」とされてきた植物は、ほとんどがエダウチスズメノトウガラシである。エダウチスズメノトウガラシとの関係は、大場 (2003) に説明されている。花の小さいエダウチスズメノトウガラシの変種小名が *grandiflora* なのは、皮肉なことである。

【引用文献】

大場達之(編). 2003. 千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌 p.540. 千葉県, 千葉.

## ケブカツルカコソウ

*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。草地性の植物で、愛知県の里山を特徴づける植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。花茎は単生して直立し、高さ 10~30cm、基部から葉をつけた長い走出枝を出す。根出葉は広倒披針形~倒卵形、長さ 2~5cm、先端は鈍頭、辺縁は少数の波状の鋸歯があり、基部はくさび状に細まって葉柄となる。茎葉は対生し、1~2 対、その上に 5~10 対の苞が続き、腋に仮輪をつくって淡紫色の花をつける。花期は 5~6 月、花冠は唇形、花筒は背面で長さ約 7mm、上唇はごく小さく、下唇は 3 裂して開出する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：25 豊田北西部（畑佐武司 1907, 2001-5-26）、27 みよし（芹沢 61316, 1992-5-22）。尾：37b 尾張旭（村松正雄 21216, 2002-4-28）、39a 東郷（浜島育子 310, 1995-5-18）、39b 豊明（浅野守彦 2003, 2005-5-7）、47 小牧（日比野修 4732, 1999-5-2）、48 春日井（山田果与乃 793, 2002-5-6）。38a 長久手（長湫, 芹沢 61305, 1992-5-22）、50 名古屋北部（守山区下志段味, 鳥居ちゑ子 621, 1994-5-8）にもあったが絶滅した。他の場所でも既に絶滅している可能性があり、そのため集団数階級が 3 と評価されている。32a 刈谷（井ヶ谷町, 大原準之助 s.n., 1958-5-23）、51 名古屋南東部（有松, 井波一雄 s.n., 1941-5-6, CBM 251395）で採集された標本もある。

#### 【国内の分布】

種としては南千島（色丹島）と本州に分布する。

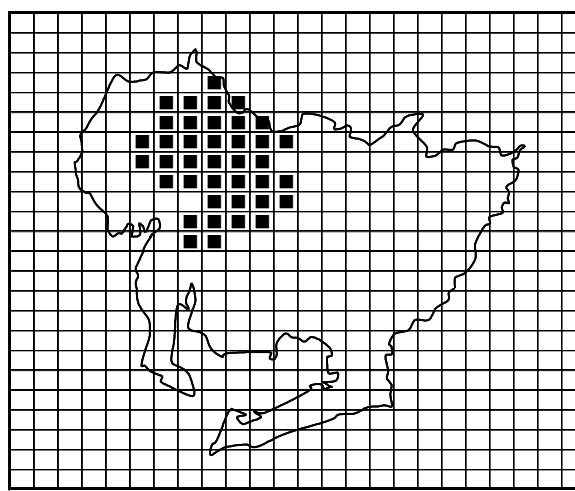
#### 【世界の分布】

日本固有種。

### 【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県では、丘陵地の水田のまわりの土手、草の生えた農道など、一昔前の谷戸田景観を象徴するような場所に生育している植物である。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

尾張東部と、それに接した西三河西部の丘陵地に点在しているが、都市近郊なので、一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で谷戸田の放棄による植生遷移の進行により、急激に減少している。名古屋市では、耕地整理により生育地が削られ絶滅し、長久手市や東郷町でも宅地化により生育地が破壊された。水田の周辺にあるため除草剤が散布されることも多く、小牧ではその影響で個体数が激減した。

### 【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、本種以外にも多くの絶滅危惧植物が生育しており、生物多様性を保全する上で重要性の高い場所である。谷戸田とそこでの農薬を使用しない水稲耕作の価値を、一つの文化遺産として認める必要がある。

### 【特記事項】

基準品種のツルカコソウ form. *shikotanensis* は全体に毛が少ないもので、愛知県には自生しない。カコソウは夏枯草の意味で、ウツボグサのことである。

### 【関連文献】

保草本 I p.189, 平草本 III p.73, 平新版 5 p.109, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.82,84.

## タニジャコウソウ *Chelonopsis longipes* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。山地性の植物で、愛知県では限られた範囲だけに生育しており、個体数も少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は下部が直立して上部は斜上し、高さ 50~100cm、開出する粗い毛があり、多くは紅紫色をおびる。葉は対生し、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は広披針形または狭倒卵状長楕円形、長さ 8~15cm、幅 2.5~5cm、先端は鋭尖頭、基部は細まって耳状心形となり、質はやや薄く、両面の特に脈上に毛がある。花期は 9~10 月、花は上部の葉腋から出る長さ 2~3cm の柄の先に 1~3 個つき、がくは花時で 7~8mm、果時には球鐘形で長さ 15~18mm となる。花冠は紅紫色、長さ 3.5~4cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城 (小林 55051, 1994-11-2)、15 豊橋北部 (小林 39749, 1992-9-27)。

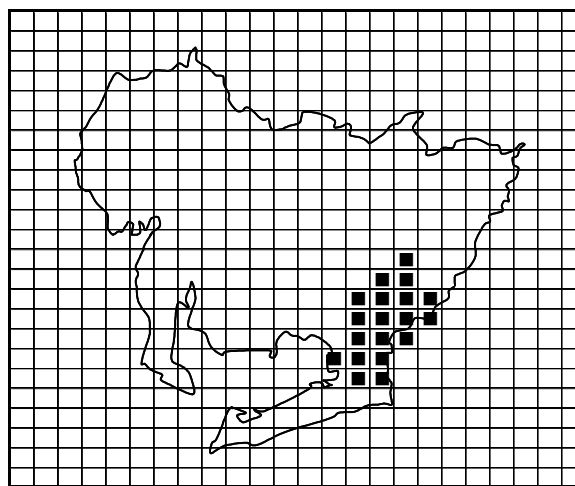
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

低山地の沢沿いの林内や林縁に生育する。二次林内のほか、造林地や伐採跡地などにも多少は生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、その中では点在するが、もちろどこにでもあるというものではない。遷移の進行や造林地の手入れ不足などにより、被陰されて衰退するおそれがある。園芸目的で採取されることもある。

### 【保全上の留意点】

間伐や沢沿いの低木の除去など、林地の適切な手入れが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

花はジャコウソウ *C. moschaeta* Miq. より濃色である。

### 【関連文献】

保草本 I p.178, 平草本 III p.89, 平新版 5 p.122, SOS 旧版 p.76.

アシタカジャコウソウ *Chelonopsis yagiharana* Hisauti et Matsuno

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 14。分布域の限られた希少な植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は匍匐する。地上茎は高さ 30~50cm になる。葉は 5~7 対が対生し、長さ 5~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5~10cm、幅 1.5~4cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細まってくさび形~円形となり、質はやや薄く、両面の脈上に毛がある。花期は 8~9 月、花は上部の葉腋から出る長さ 4~10mm の柄の先に 1~2 個つき、がくは花時で長さ 6~8mm、花冠はやや薄い紅紫色で、長さ 3~4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 34284, 1990-8-4)、9 鳳来南部 (小林 65183, 1998-9-19)。

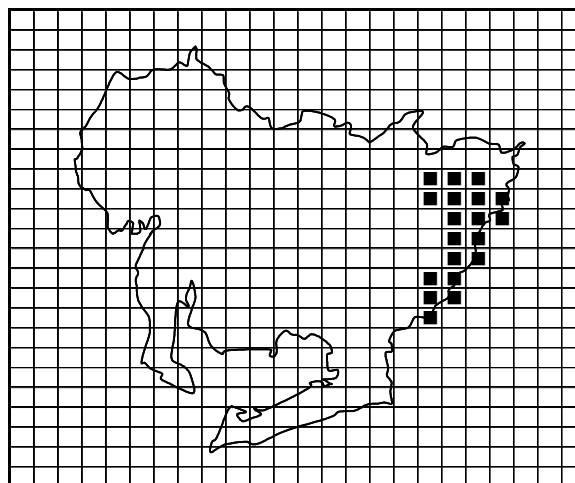
【国内の分布】

本州 (中部地方) および四国 (愛媛県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。愛知県の生育地はスギの造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落がある。造林地の手入れ不足により林床の光条件が悪化し、花のつく株は少なく、衰退傾向にあるという。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。

【特記事項】

ジャコウソウ *C. moschaeta* Miq. に似ているが、全体に小型で、茎が丸く、葉の基部は心形にならない。しかし、どちらともつかないようなものもある。一般の図鑑等では、あまり取り上げられていない植物である。

【関連文献】

保草本 I p.178, 平新版 5 p.122, SOS 新版 p.30,32.

**ダンドタムラソウ** *Salvia lutescens* Koidz. var. *stolonifera* G.Nakai

**【評価理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、補正+1 (シカ食害)、総点 14。自然度の高い森林に依存する植物で、分布域が狭く、愛知県はその西限にあたる。県内の自生地も少ない。

**【形態】**

多年生草本。茎は高さ 25~50cm になり、花後倒れて途中から根を出し、茎の基部からも長い走出枝を出す。葉は対生し、大きいものは 2~3 対で茎の中部につき、1~3 回羽状複葉、小葉は卵形~倒卵形、長さ 1.5~3cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広い、または狭いくさび形、辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 6~8 月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ 5~6mm、花冠は淡青紫色、長さ 1cm 内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出す。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：2 豊根 (永田芳男 s.n., 2010-7-19)、4 津具 (芹沢 78754, 2003-8-24)、6 設楽西部 (芹沢 83176, 2008-9-6)。

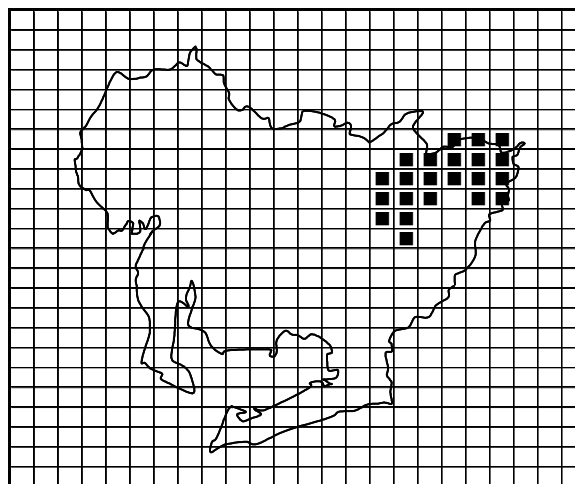
**【国内の分布】**

本州 (愛知県、岐阜県、長野県および伊豆半島の一部)。

**【世界の分布】**

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

生育地は少ない。ただし栄養的に繁殖するため、ある場所では群落を作ることもある。段戸山では、2012 年に最大の群落があった場所が伐採された。その一方で、被陰により衰退している場所もある。ニホンジカによる食害も目立つ。

**【保全上の留意点】**

沢沿いの森林を保全することが必要である。ただし、若木が茂りすぎて光条件が悪化した場所では、樹木を部分的に除去する必要もあると思われる。

**【特記事項】**

設楽町段戸山で鈴木釘次郎氏が 1933 年 6 月 21 日に採集した標本をもとに記載された植物で、基準標本は京都大学総合博物館 (KYO) に保管されている。ナツノタムラソウ (広義) に含まれる種内分類群間の関係については、更に分類学的な検討が必要である。

**【関連文献】**

保草本 I p.169, 平草本 III p.81, 平新版 5 p.140, SOS 旧版 p.77, SOS 新版 p.23,25.



コナミキ *Scutellaria guilielmii* A.Gray

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に減少傾向の著しい植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下に細く長い走出枝が出る。茎は細く直立し、分枝して高さ 20~40cm になる。葉は対生し、茎の下部のものは 1~2cm の、他はごく短い柄があり、葉身は卵形で、長さ幅ともに 1~2cm、先端は円頭、辺縁には 2~4 対の鋸歯がある。花期は 4 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、花冠は白色で長さ 7~8mm、筒部はわずかに曲がる。がくは果時に長さ 5~6mm で、先端に腺のある開出した軟毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部 (永田芳男 s.n., 2000-5-8)、18 田原西部 (小林 50856, 1994-4-30)。現在のところ渥美半島で確認されているだけだが、三河湾の佐久島と姫島 (小林・深谷 2008)、西尾、一色、武豊 (大原 1971) などからも記録されている。佐久島や姫島の記録が事実ならば個体数階級は 2、集団数階級は 3 になり、愛知県での評価は絶滅危惧 II 類になる。

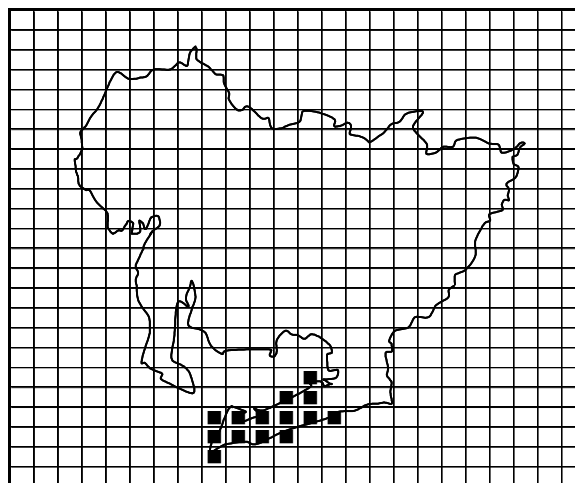
【国内の分布】

本州 (千葉県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸に近い草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所で確認されているが、どちらの場所でも個体数は少ない。草刈りがよく行われる場所では、存続してはいるがなかなか開花できない。草刈りが行われなくなった場所では、大型の草本に覆われて衰退している。またどちらの生育地も、開発などの影響を受けやすい場所である。

【保全上の留意点】

希少な植物であるが特に自然度が高い場所に生育しているわけではなく、それだけに保全対策が難しい。生育地の個別的な保全が必要である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.193, 257. 佐久島会, 刈谷.  
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.109. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.187, 平草本 III p.76, 平新版 5 p.116, 環境省 p.494, SOS 旧版 p.78.

セリバシオガマ *Pedicularis keiskei* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。茎は根ぎわで分枝して直立し、高さ 25～35cm、花時には根出葉はない。葉は対生し、長さ 4～10mm の柄があり、葉身は卵状長楕円形で羽状に全裂し、長さ 4～8cm、幅 2～4cm、質は薄く、裂片は披針形で羽状に中裂する。花期は 8～9 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は筒部が淡緑色、裂片は白色で、長さ約 2cm、上唇は先が細長く嘴状にとがる。果実は蒴果で 3 角状披針形、鋭尖頭、長さ約 12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 77991, 2002-8-25)。西：20 足助(大多賀, 大原準之助 s.n., 1953-7-29) で採集された標本もある。

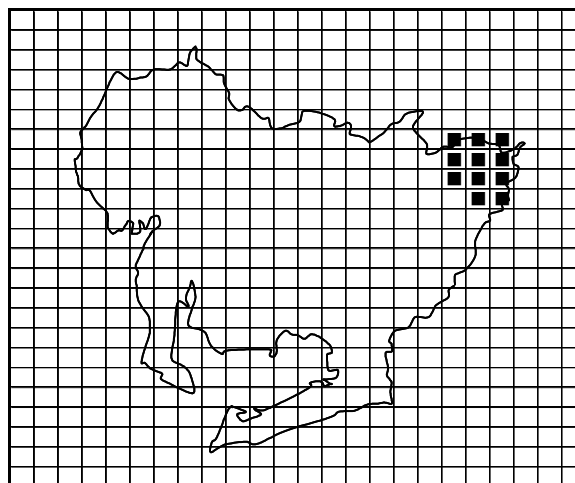
【国内の分布】

本州中部 (中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳、秩父山地)。長野県では、それほど少ない植物ではない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は亜高山帯の針葉樹林内に生育する。愛知県の生育地はクロベ林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

隣接する長野県側にはまとまった群落があるが、愛知県側では生育範囲は限られており、個体数も少ない。過去の状態ははっきりしないが、おそらくは牧場の造成や観光開発により減少し、辛うじて残存しているものと思われる。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では希少な温帯性植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

和名は、葉が細かく切れ込むからである。

【関連文献】

保草本 I p.135, 平草本III p.116, 平新版 5 p.157.

**シオガマギク** *Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。愛知県では個体数が少なく、しかも草地の減少により激減している。

**【形態】**

多年生草本。茎は基部で分枝し、斜上して高さ 25～60cm になる。葉は下部で対生、中部以上は少しずれて互生し、長さ 5～10mm の柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭、基部は円みのある切形、辺縁には重鋸歯がある。花期は 8～9 月、花は枝先に集まった広卵形の苞の腋につき、花冠は紅紫色で長さ約 2cm、上唇は鎌形に曲がって嘴状にとがり、下唇は斜めに広がる。果実は蒴果で 3 角状卵形、先端はとがり、長さ 10～12mm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：3 東栄 (小林 64923, 1998-9-22)、4 津具 (芹沢 70686, 2010-9-19)、9 鳳来南部 (小林 62066, 1997-8-30)、15 豊橋北部 (小林 58421, 1995-10-13)。西：5 稲武 (塚本威彦 2705, 2706\*, 1998-9-11)、28 額田 (福岡義洋 1624, 1990-10-10)。\*は花が白色のものである。ただし、ほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、そのため集団数階級が 3 と評価されている。2 豊根 (新野峠, 加藤等次 1595, 1966-9-11)、6 設楽西部 (段戸山, 岡田善敏 s.n., 1945-10-19)、12 新城 (本宮山, 稲垣貫一 s.n., 1924-10-17, CBM110704)、20 足助 (葛沢, 川合 s.n., 1931-7-26)、21 下山 (黒坂～神殿, 井波一雄 s.n., 1958-10-5, CBM72204) などで採集された標本もある。

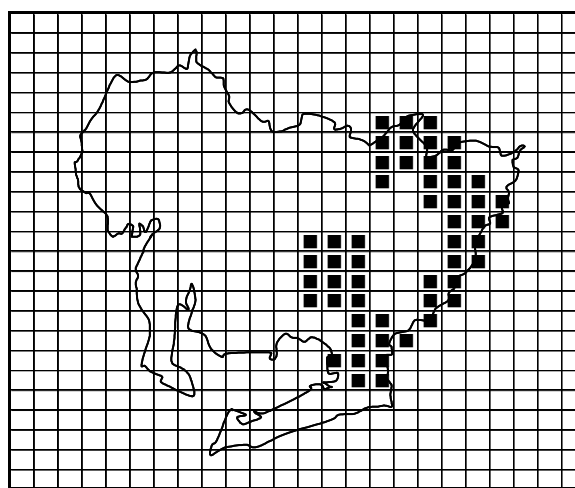
**【国内の分布】**

北海道 (中部以南)、本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の尾根沿いの草地、谷戸田周辺の草地などに生育する。湿地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

生育地は比較的多いが、どの場所でも個体数は少ない。豊橋北部には比較的多かったが、尾根の草地がなくなり、ほとんど見られなくなった。

**【保全上の留意点】**

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地 (カヤ場) は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。また、谷戸田周辺の里草地 (いわゆるボタ) も、多くの草地性植物の生育場所になっている。文化遺産としての意義もあり、特に保全に配慮する必要がある。

**【特記事項】**

和名は、花だけでなく葉まで (=浜で) 美しいからだと言われる。

**【関連文献】**

保草本 I p.134, 平草本 III p.116, 平新版 5 p.157.

## ミカワシオガマ

*Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz. var. *microphylla* Honda

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。本地域の湧水湿地に固有の植物で、開発や園芸目的の採取により減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。シオガマギク (前頁) の変種とされており、それから葉が小さく長さ 10~20mm、幅 4~7mm で、多数つき、ほとんど互生することで区別される。「花冠上唇の先が特に短い」と記述されている文献もあるが、花部の形態はシオガマギクと異なる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (小林 65375, 1998-10-18)。西：23 藤岡 (芹沢 53939, 1989-10-13)、24 豊田東部 (村松正雄 25441, 2010-10-11)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 2568, 1997-10-16)、37b 尾張旭 (飯尾俊介 64, 1993-10-10)。16 豊橋南部 (野依町, 芹沢 57911, 1990-10-23)、29 岡崎北部 (小呂町, 芹沢 50877, 1988-10-22)、45 犬山 (善師野, 芹沢 53734, 1989-10-6) にもあったが絶滅した。9 鳳来南部 (吉川峠, 加藤等次 s.n., 1958-10-12)、31 幸田 (須美, 瀧崎吉伸 382, 1978-10-22)、35 西尾北部 (室場村茶臼山麓, 石川 s.n., 1949-10-15, CBM 114396, 実際は幸田町側かもしれない)、38b 日進 (愛知池, 井波一雄 s.n., 1961-9-25, CBM136206) で採集された標本もある。27 みよしにもあったらしいが、あったという湿地はすでに破壊されており、確実な資料も残されていない。11 作手にはシオガマギクとの中間型 (標本：芹沢 57422, 1990-9-28) がある。

#### 【国内の分布】

本州中部 (愛知県、岐阜県)。広島県からの報告は誤りである。

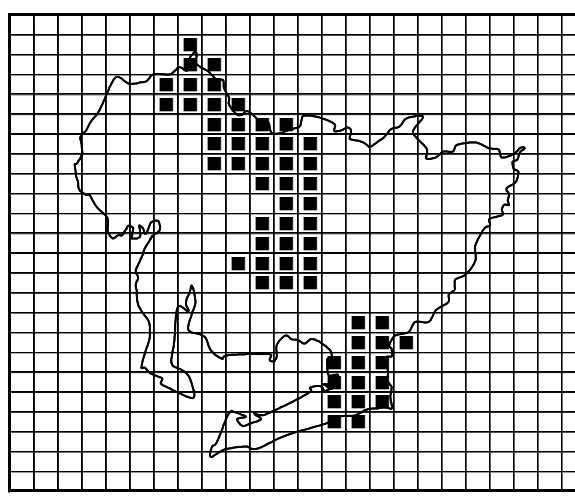
#### 【世界の分布】

日本固有。

### 【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の日あたりのよい場所や林縁に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊田東部にはまだ比較的多い場所が残されていると思うが、他はいずれも個体数が少なく、危機的な状況である。幸田と犬山では道路建設に伴う湿地の破壊、岡崎北部では園芸目的の採取により絶滅した。

### 【保全上の留意点】

栽培は困難なはずであるが、それでも花が美しいため、しばしば採取される。カメラマンや観察者による踏み荒らしもある。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

基準標本は酒井忠壽氏が豊橋市岩崎町で 1938 年 10 月 19 日に採集されたもので、東京大学総合研究博物館 (TI) に保管されている。国の絶滅危惧 II 類という評価は、広島県のものを含めているからかもしれない。

### 【関連文献】

保草本 I p.134, 平草本 III p.116, 平新版 5 p.158, 環境省 p.500, SOS 旧版 p.80+図版 14, SOS 新版 p.91,93.

ミカワタヌキモ *Utricularia exoleta* R.Br.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

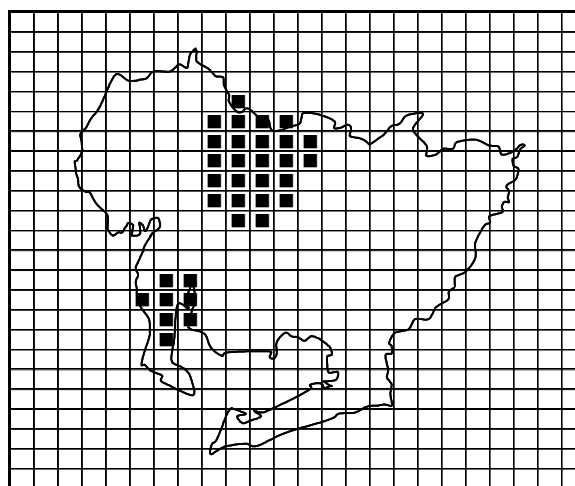
多年生の食虫性水草。茎は糸状で泥上をはい、捕虫囊をつけた地中葉で固着するが、水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し、長さ 1cm 程度、1~5 個の裂片に分裂し、まばらに捕虫囊をつける。裂片は幅 0.1~0.2mm である。花期は 8~9 月、高さ 5~8cm の花茎を水上に伸ばし、1~3 花をつける。花冠は黄色で直径 5~6mm、距は前向きで下唇と同長かやや長く、がくは長さ約 2mm である。殖芽は形成しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：23 藤岡 (畑佐武司 s.n., 2016-8-11)、25 豊田北西部 (芹沢 53943, 1989-10-13)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 2743, 1998-11-8)、38a 長久手 (芹沢 74371, 1997-10-12)、42c 武豊 (中井三従美 20, 1995-10-15)。ただし瀬戸では見られなくなり、武豊でもごく最近の状況が確認されていない。以前はあちこちに生育していたらしく、東：15 豊橋北部 (二川, 稲垣貫一 s.n., 1925, CBM98768)、西：30 岡崎南部 (戸崎町七ツ池, 大原準之助 s.n., 1952-11-3)、32a 刈谷 (小堤西池, 浜島繁隆 1082, 1974-8-9)、39b 豊明 (豊明村, 井波一雄 s.n., 1940-9-30, CBM 135455)、44a 美浜 (野間青山池, 井波一雄 s.n., 1956-11-14, CBM192283)、47 小牧 (池田~小木, 稲垣貫一 s.n., 1949-11-13, CBM 116157)、50 名古屋北部 (田代, 井波一雄 s.n., 1937-3-18, CBM195716)、51 名古屋南東部 (滝の水, 浜島繁隆 1075, 1968-11-2) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾からインド、オーストラリア、アフリカにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

長久手では現在のところはよく生育している。しかし、生育地が道路計画にかかるなど、開発圧力は極めて高い。瀬戸では、1カ所は生育地のため池が埋立てられて絶滅し、他の1カ所でも最近見られなくなった。ため池自体が保全されることになっている場所でも、将来周辺部の開発が進んだときの対策は検討されていない。藤岡では最近確認されたが、その池にオオバナイトタヌキモ *U. gibba* L.が入ったため、将来が危惧される。

【保全上の留意点】

ため池自体を現状のまま保全し、水質を悪化させないことが必要である。外来のタヌキモ類を移入しないことも重要である。本種の場合は特に、オオバナイトタヌキモに対して注意が必要である。

【特記事項】

植物体が糸状で繊細なため、イトタヌキモとも呼ばれる。オオバナイトタヌキモは花が大きく、直径約 1cm あるもので、愛知県では武豊、常滑、名古屋南東部などに帰化している。本種を、オオバナイトタヌキモの亜種とする見解もある。

【関連文献】

保草本 I p.122, 平草本 III p.139, 平新版 5 p.165, 環境省 p.508, SOS 旧版 p.82, SOS 新版 p.127,129.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京.

## ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。温帯性の水草で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生の食虫性水草。茎は長さ 15~20cm、水中を浮遊するか泥上をはい、後者の場合は多数の捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉はまばらに互生し、長さ 1cm 程度、3~4 回二叉状に分岐し、捕虫囊は少なく、裂片は幅 0.2~0.4mm で先に刺状の突起がある。開花することは少ないが、開花する場合花期は 8~9 月、高さ 10cm 程度の花茎を水上に伸ばし、4~8 花をつける。花冠は黄緑色で直径約 8mm、距は短く円錐状で下を向く。がくは長さ約 2mm である。秋には茎の先端に直径 3~7mm の球状の殖芽を作り、越冬する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 3101, 2005-9-4)、48 春日井 (芹沢 78018, 2002-9-2)。瀬戸市内では数カ所に生育していたが、最近の状況は十分確認されていない。春日井では 1 カ所に生育してただけである。32a 刈谷 (富士松村, 井波一雄 s.n., 1941-10-6, CBM220846)、37b 尾張旭 (新居森林公園, 飯尾俊介 s.n., 1964) で採集された標本もある。

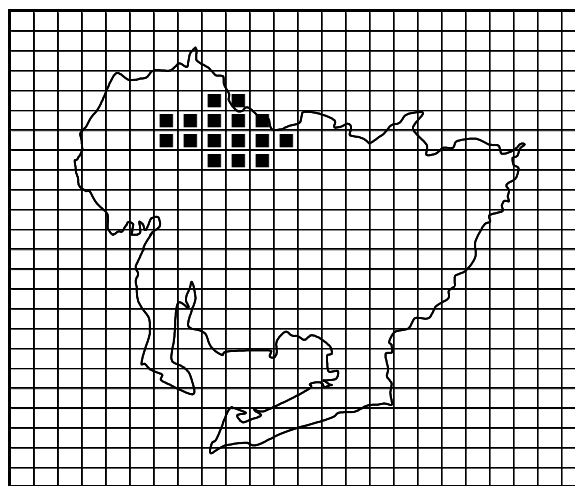
#### 【国内の分布】

北海道および本州。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯~亜寒帯に広く分布する。ミカワタヌキモと異なり、寒冷地性の種である。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育状態には年変動があり、年によってはほとんど見られないこともある。開発圧力が高いことは、ミカワタヌキモと同様である。一部の生育地は近くまで造成が進み、消滅寸前である。ある池では一面に生育していたが、池の下側が造成され、水が干上がって絶滅した。水質の悪化により絶滅した場所もある。

### 【保全上の留意点】

ため池自体を現状のまま保全し、水質を悪化させないことが必要である。外来のタヌキモ類を移入しないことも重要である。

### 【特記事項】

愛知県では、開花は極めて稀である。

### 【関連文献】

保草本 I p.122, 平草本 III p.139, 平新版 5 p.165, SOS 旧版 p.83.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京.

## ヒメミミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 15。国内では本地域だけに分布する小型の食虫植物で、減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生の食虫性草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉は線形、長さ 1~3mm である。花期は 8~10 月、花茎は直立し、高さ 1~3cm、1~3 花をつける。がくは長さ約 1mm、裂片は円形で花後も大きくならない。花冠は淡紅色で直径 2~2.5mm、距は前向きで下唇より長い。蒴果は長さ約 1mm、がくとほぼ同長である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：25 豊田北西部（芹沢 77970, 2002-8-6）。尾：37b 尾張旭（村松正雄 11993, 1992-9-15）、38b 日進（芹沢 57236, 1990-9-25）、39b 豊明（芹沢 59857, 1991-8-23）、42c 武豊（芹沢 80853, 2006-8-29）。ただし尾張旭では、最近の確認できない。51 名古屋南東部（緑区滝ノ水、芹沢 30792, 1979-11-11）にも生育していたが、宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。東：16 豊橋南部（天伯町、小林 19888, 1978-9-9）で採集された標本もある。

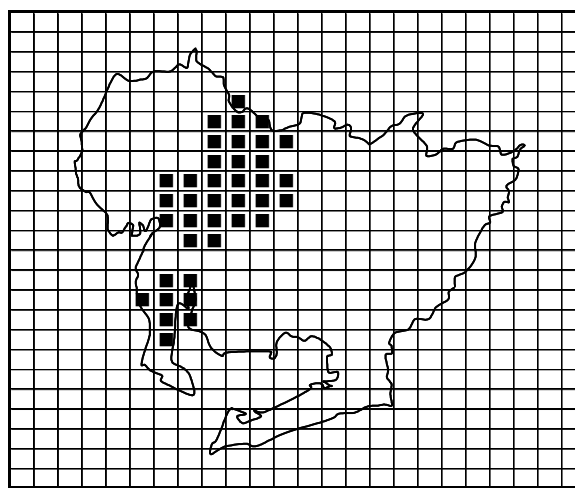
#### 【国内の分布】

本州中部（愛知県、三重県）。

#### 【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

武豊の自生地（老町田湿地）は、町指定の天然記念物および県の自然環境保全地域として保護されている。この場所では個体数が比較的多く、そのため個体数階級が 2 となっているが、とにかく小型の植物であるから個体数階級 3、総点 16、絶滅危惧 I A 類と評価する方がよいかもしれない。他の場所では、個体数は極めて少ない。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、水源部に森林が発達すると富栄養化が進むので、適宜伐採・搬出を行い、貧栄養状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

とにかく小さい植物で、地面をほうようにして探さないとなかなか発見できない。通り一遍の調査ではまず見落としてしまうので、調査時には特に注意が必要である。

### 【関連文献】

保草本 I p.121, 平草本 III p.138, 平新版 5 p.164, 環境省 p.286, SOS 旧版 p.83+図版 19, SOS 新版 p.106,108.

ヒメシロアサザ *Nymphoides coreana* (H.Lev.) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生の水草。茎は細くて長く、1～3個の葉をつける。葉柄は茎と接続して長さ1～10cm、葉身は水面に浮かび、卵状円形で直径2～6cm、基部は深く湾入し、辺縁は全縁である。花期は7～9月、花は葉柄の基部に束生するが、茎と葉柄が似ているため葉柄の途中につくように見え、花冠は白色で直径約8mm、5裂し、裂片の縁に毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (加藤等次 3838, 1993-9-26)、  
15 豊橋北部 (小林 57787, 1995-8-5)。

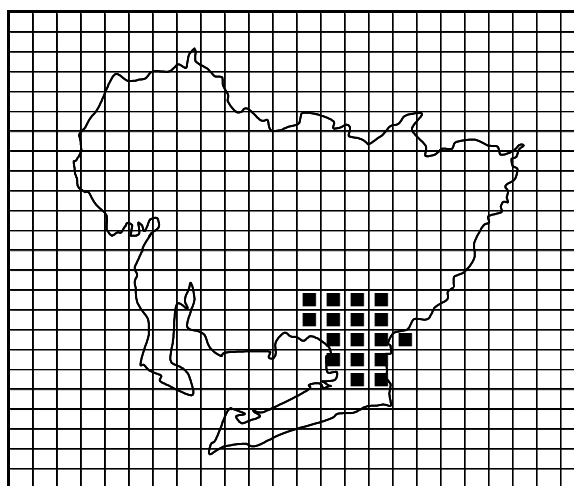
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球 (石垣島、西表島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

池沼や水田に生育する浮葉植物。愛知県の生育地は水田である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況／減少の要因】

休耕田や耕作中の水田に生育していたが、最近の状況は十分確認されていない。個体数は年による変動が著しかった。当時でも、農地改良によって乾田化が進み、また水稲耕作様式の変化によって早目に水を落とすようになったため、生育状態はあまりよくなかった。

【保全上の留意点】

湿田のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。また、本種が生育できるような湿田は、過去の稲作様式を示す文化遺産としても重要である。

【特記事項】

日本産本属 3 種の中では最も小型で、他の 2 種と異なり、水田雑草になることがある。

【関連文献】

保草本 I p.213, 平草本 III p.37, 平新版 5 p.196, 環境省 p.480, SOS 旧版 p.72, SOS 新版 p.142,144.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.141. 文一総合出版, 東京.



**アサザ** *Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

多年生の水草。根茎は泥の中を長くはい、長い水中茎を出す。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かび、卵形または円形、直径 5~10cm、辺縁には通常波状の歯牙があり、表面は緑色、裏面は紫褐色、基部は深く湾入し、葉柄はやや楕状につく。花期は 6~8 月、花は水上に出て開き、長さ 3~12cm の柄があり、花冠は黄色で直径 3~4cm であるが、愛知県の自生集団ではまだ開花が確認されていない。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

尾：58b 弥富 (芹沢 81746, 2007-7-13)。1カ所に生育しているだけである。東：2 豊根 (芹沢 91492, 2016-9-11)、西：29 岡崎北部 (杉田一記 2256, 2011-9-9)、30 岡崎南部 (芹沢 87337, 2011-9-11)、37b 尾張旭 (村松正雄 25263, 2010-7-10)、51 名古屋南東部 (天白区島田町, 芹沢 88052, 2012-10-8) などにも生育しているが、これらの多くはよく開花し、移入と思われる。

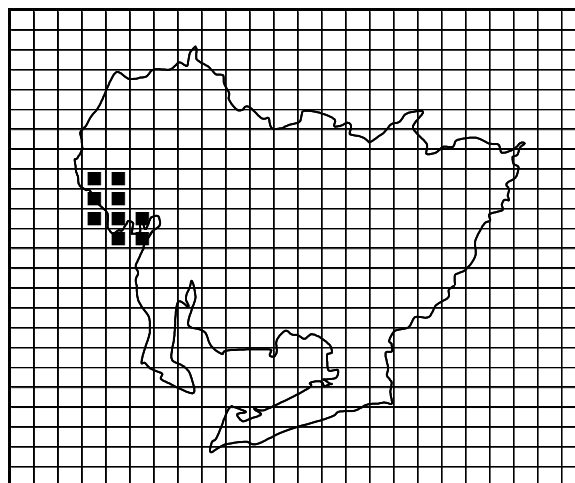
**【国内の分布】**

北海道、本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

ユーラシアの温帯に広く分布する。

要配慮地区図



**【生育地の環境／生態的特性】**

平野部の池沼に生育する浮葉植物である。愛知県では流れのゆるい水路に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

**【現在の生育状況／減少の要因】**

範囲は限られているが、そこでは比較的繁茂している。過去には水の汚染等によって激減したと思われるが、多少回復傾向にある。

**【保全上の留意点】**

生育地の水質の維持に努めることが必要である。水面に浮かぶ邪魔な草と思われる可能性もあるので、保全上重要な植物であることを多くの人に知ってもらうための施策も必要である。

**【関連文献】**

保草本 I p.213, 平草本 III p.36, 平新版 5 p.196, SOS 旧版 p.72.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.

フクド *Artemisia fukudo* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。西日本系の塩湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

1 回開花性の草本。強いメロンの香りがある。根出葉は短い主軸の先に束生し、ロゼット状で長い柄があり、葉身は扇形で 2~3 回掌状に深裂し、裂片は線形で円頭、幅約 2mm である。茎葉は側枝に互生する。花期は 9~10 月、主軸には花をつけず、側枝が高さ 30~50cm に伸び、上部の大きい円錐花序に多数の頭花をつける。総苞は長さ 3~5mm、幅 5~7mm、総苞片は 3~4 列に並ぶ。そう果は長さ 1.2~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部 (花井隆晃 5195, 2015-10-15)、18 田原西部 (芹沢 81142, 2006-10-14)。各 1 カ所に生育しているだけである。

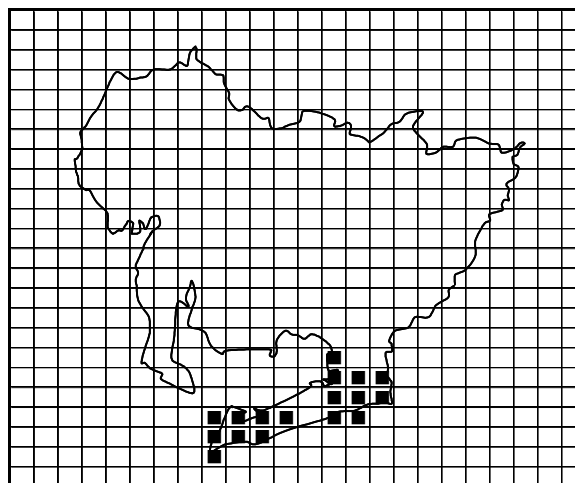
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海浜の塩湿地に群生し、満潮時には海水中につかることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

確認できた生育地は 2 カ所だけであるが、そこでは個体数は多かった。しかし、生育範囲は限られており、開発等があれば容易に絶滅するものと思われる。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

和名の語源は不明。ハマヨモギとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本 I p.53, 平草本III p.170, 平新版 5 p.330, SOS 旧版 p.85+図版 32, SOS 新版 p.158,160.

オオガンクビソウ *Carpesium macrocephalum* Franch. et Sav.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎はよく分枝し、高さ 1m 内外になる。根出葉は開花時には枯れる。茎葉は互生し、下部のものは大きく、葉柄を含め長さ 30~40cm、葉身は卵形で幅 10~13cm、先端は鋭頭、基部はくさび形で葉柄に流れ、辺縁にはふぞろいな重鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなる。花期は 8~10 月、頭花は枝の先端に下向きにつき、基部に多数の葉状苞がある。総苞は椀形、長さ 8~10mm、直径 25~30mm、総苞外片は葉状苞に移行する。小花はすべて筒状花で、花冠は汚れた黄色である。そう果は長さ 5.5~6mm で、冠毛はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 88860, 2013-9-20)。1 カ所に少数個体が生育している。

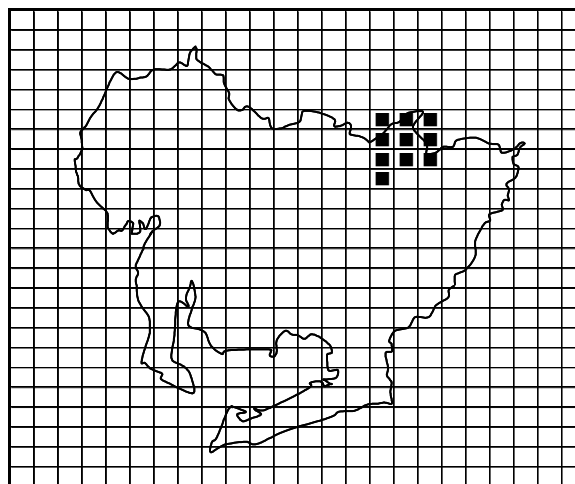
【国内の分布】

北海道、本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの、湿った林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

造林地内の沢沿いの草地に少数株が生育している。周辺ではシカによる食害が顕在化しており、近いうちに本種にも被害が及ぶ可能性が高く、補正項+1 (シカ食害) を加えて総点 16、絶滅危惧 I A類と評価する方が適切かもしれない。森林化の進行により、被陰されて消滅する可能性もある。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。防護柵の設置も検討されるべきである。その一方で、間伐など造林地の適切な手入れも必要である。

【特記事項】

日本産の他のヤブタバコ属植物に比べ、頭花が著しく大きい。

【関連文献】

保草本 I p.72, 平草本III p.202, 平新版 5 p.352, SOS 新版 p.19,21.

シロバナタカアザミ *Cirsium pendulum* Fisch. var. *albiflorum* Makino

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。分布域の狭い低湿地性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

大型の越年生草本。高さ 2~3m、時には 4m に達し、上部で多くの枝を分ける。根出葉は長い柄があるが、花時には枯れる。茎葉は互生し、葉身は長さ 40cm、幅 20cm に達し、羽状に深裂し、基部は茎を抱き、羽片は 4~6 対、線形で鋭頭、通常前側に 1~2 個の裂片を出し、辺縁には針状のとげがある。花期は 5 月末~6 月、頭花は枝の先端に點頭して咲き、淡紅紫色、直径 3~3.5cm、総苞片は針形で多数つき、先端は短く反曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：37b 尾張旭(村松正雄 19571, 2000-7-9)、53 一宮東部(遠藤浩三 738, 2002-6-9)、54 一宮西部(渡辺幸子 3130, 1997-6-17)。ただし、尾張旭は貧弱な個体が 1 回採集されただけで、おそらく偶産であり、集団数には含まれていない。

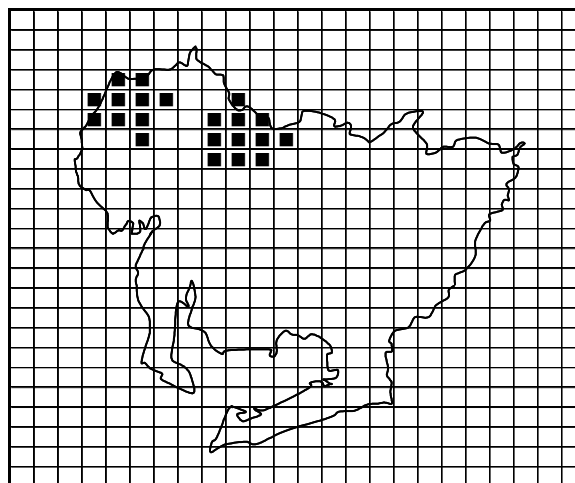
【国内の分布】

本州(関東地方~滋賀県)に分布する。関東地方のものは花がほとんど白色であるが、愛知県や岐阜県のものはうすい紅紫色である。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷の湿った草地に生育する。どちらかと言えばやや攪乱された場所に多いが、ヤナギ林の林縁などにも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

木曾三川の岐阜県側には比較的多いが、愛知県側では少ない。一宮西部にはややまとまった集団があったが、河川敷の開発により土地が乾燥化し、減少している。一宮東部では、狭い範囲に数株が生育していたという。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全の重要性が高い。ただし河川敷の植物は、もともと洪水などの攪乱に耐えてきたものであり、本種の場合も個体群の存続には適度の攪乱が必要と思われる。

【特記事項】

基準変種のタカアザミ var. *pendulum* は、秋に開花し、花が紅紫色のもので、北海道、本州(中部地方以北)、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー、ダフリアに分布する。愛知県では尾：49d 清須(新川町五条川, 芹沢 77153, 2000-11-5)、51 名古屋南東部(緑区鳴海町, 渡辺幸子 3253, 1997-10-19)、52 名古屋南西部(中村区城屋敷町, 芹沢 68945, 1993-11-1)で採集されているが、いずれも土木工事跡地に 1 株だけ生育していたもので、県内に定着しているとは言い難い。

【関連文献】

SOS 旧版 p.85 (タカアザミとして)。

フジバカマ *Eupatorium japonicum* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、愛知県においても生育地、個体数共に少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は横にはう。茎は多く集まって直立し、高さ 1~1.5m になる。葉は対生し、短い柄があり、葉身はふつう 3 深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形、長さ 8~13cm、幅 3~4.5cm、鋭尖頭、質はやや硬く、表面は多少光沢があり、裏面は腺点がない。花期は 8~9 月、頭花は枝の先端に散房状に集まってつき、ほとんど白色、総苞は長さ 7~8mm、小花は 5 個で、すべて筒状花である。そう果は長さ 3mm で、冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：44b 南知多 (芹沢 60650, 1991-10-3)、49c 北名古屋 (芹沢 76429, 1999-9-26)、57b 愛西 (芹沢 88010, 2012-10-3)。ただし南知多は路傍の攪乱地に生育していたもので、本来の自生でない可能性が高い。東：11 作手 (赤羽根, 鳥居喜一 5557, 1973-9-9, HNSM)、12 新城 (新城町, 鳥居喜一 22680, 1932-8-24, HNSM)、15 豊橋北部 (今橋町豊城, 恒川敏雄 2009, 1951-10-10, TMNH) で採集された標本もある。

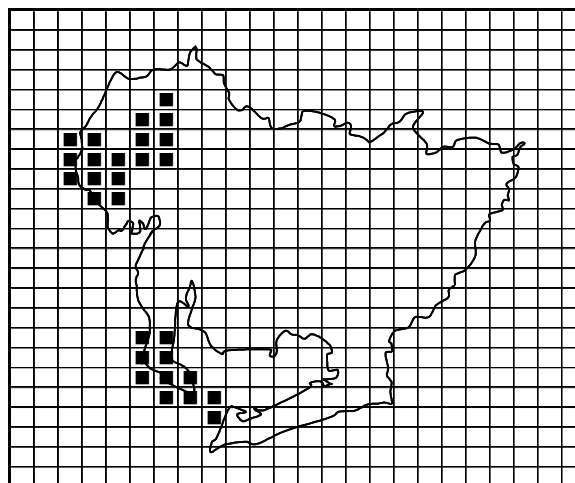
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。帰化説もあるが、実際には在来のものである。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷の低湿地の、ヤナギ林の林縁などに生育する。堤防の湿った草地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛西では木曾川の河川敷に点在していたが、河川敷の開発により生育地が破壊されて減少し、現在ではわずかに残存するだけである。北名古屋には比較的大きな群落があったが、この場所も堤防の改修により激減し、改修されていない部分に残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。本種の場合は特に減少傾向が著しく、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

秋の七草の一つとして有名な植物である。ただし、他の 6 種が乾いた草地に生育する植物なので、万葉のフジバカマが本種だけを指すのか、ヒヨドリバナ類の総称であるのかについては検討の余地がある。中国大陸原産の栽培品が時に逸出しているが、在来系統からは葉が小さく花が紫色を帯びることで容易に区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.88, 平草本 III p.211, 平新版 5 p.367, SOS 旧版 p.86+図版 27, SOS 新版 p.135,137.

カセンソウ *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 14。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、硬くて細く、上部で分枝し、高さ 60～80cm になる。葉は互生し、葉身は長楕円状披針形で、長さ 5～8cm、先端は鋭頭、基部は無柄で茎を抱き、質は洋紙質で硬く、脈が目立ち、辺縁には凸状の小歯牙がある。花期は 7～9 月、頭花は分枝した枝端に 1 個ずつ上向きにつき、基部に苞葉があり、黄色、直径 3.5～4cm である。総苞は半球形、総苞片は 4 列に並び、すべてほぼ同長、そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面は無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (中西普佐子 3400, 2009-9-25)、13 豊川 (小林 76793, 2002-10-26)、15 豊橋北部 (小林 67029, 1999-9-2)。尾：38b 日進 (半田多美子 1984, 1995-7-10)、41a 東海 (岡島錦也 571, 1992-8-17)。42a 阿久比 (草木, 渡邊麻子 569, 1995-7-9) と 43 常滑 (大谷, 芹沢 76035, 1999-8-3) にもあったが絶滅した。東海も最近の状況は確認されていないが、すでに絶滅した可能性が高い。50 名古屋北部にもあったという (安原 1990) が、ここでも絶滅した。他にもすでに絶滅した区画があると思われる、そのため集団数階級が 4 とされている。

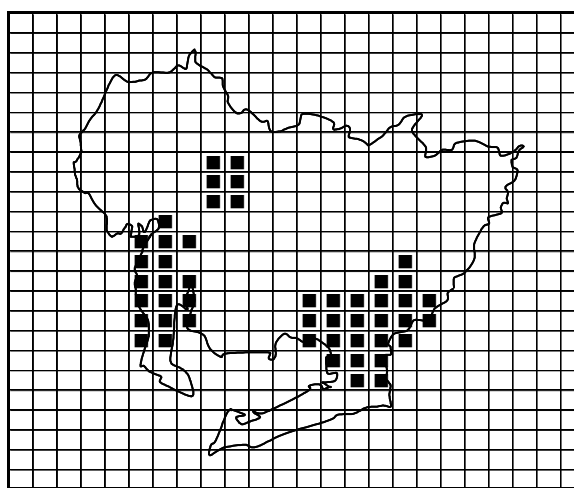
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。基準変種は茎に毛が少ないもので、ヨーロッパからシベリア西部にかけて分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい乾いた草地に生育する。「湿地に生育する」と書かれている文献もあるが、通常湿地に生育することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。生育地の多くは幹線用水路わきの草地であり、水路の改修によって次々と消滅している。名古屋北部でも、愛知用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

オグルマ *I. britanica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam. はやや湿った草地に生育し、葉が薄く、そう果の表面に毛がある。愛知県では丘陵地などの人里周辺に点在している。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.87. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.70, 平草本 III p.203, 平新版 5 p.354, SOS 旧版 p.87.

## オクヤマコウモリ

*Parasenecio maximowiczianus* (Nakai et F.Maek. ex H.Hara) H.Koyama var. *alatus* (F.Maek.) H.Koyama

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。温帯性の植物で、分布域は狭く、愛知県はその南西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、また衰退傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は横に短くはう。茎は細く高さ 30~70cm になる。葉は互生し、翼のついた柄があり、その基部は茎を抱く。葉身は 3 角状ほこ形で 5 浅裂し、長さ 8~10cm、幅 13~15cm、頂裂片は最も大きくて鋭尖頭である。花期は 8~10 月、頭花は茎の先端のまばらな円錐花序につき、総苞は長さ 7.5~10mm、小花は 6~10 個あり、すべて筒状花、花冠は白色である。そう果は長さ約 4mm で、白色の冠毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 83173, 2008-9-6)。点在しているが、個体数は少ない。

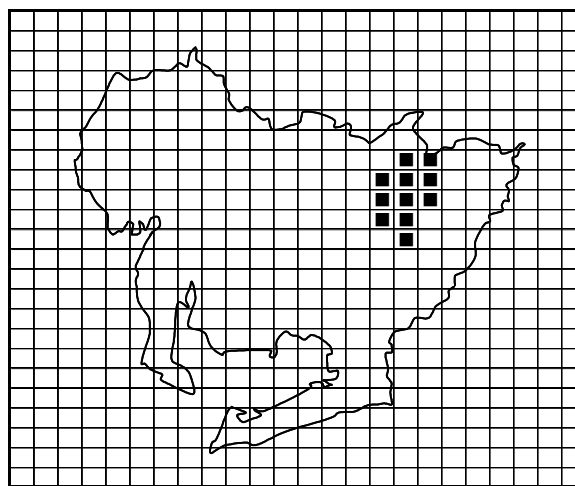
#### 【国内の分布】

本州 (中部地方の太平洋側)。

#### 【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

本来は落葉広葉樹の自然林内に生育していたものと思われるが、現在では造林地内の沢沿いに辛うじて残存している。造林地の手入れ不足により林内が暗くなり、林道沿いなどの他はほとんど開花できない状態に追い込まれている。

### 【保全上の留意点】

造林地は、木材価格の低迷によって間伐や枝打ちなどの手入れが行われなくなり、荒廃が進んでいる。もとはといえば無理な拡大造林が原因であるが、適切な管理を行い、林床の植生を維持する必要がある。

### 【特記事項】

基準変種のコウモリソウは葉柄の翼があまり発達せず、基部が茎を抱かないもので、本州 (関東地方~近畿地方) に分布しているが、愛知県からは知られていない。

### 【関連文献】

保草本 I p.48, 平草本III p.196, 平新版 5 p.305, SOS 旧版 p.85.

ハマコウゾリナ *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* (Thunb.)Krylov var. *littoralis* Kitam.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。分布域の狭い海浜性の植物で、愛知県はその西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

1年生草本。茎は下部からよく分枝し、高さ 10~25cm、全体に剛毛がある。葉は互生し、下部のものは倒披針形で長さ 12~20cm、幅 2~4cm、基部はしだいに狭まり、翼のある柄となる。茎の中部の葉は披針形で、基部は茎を抱く。葉の辺縁には、浅い歯状の鋸歯がある。花期は 10~11 月、頭花はまばらな散房花序につき、黄色、直径約 2cm である。そう果は赤褐色、紡錘形で長さ 3.5~4.5mm、冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (芹沢 73274, 1996-9-28)。

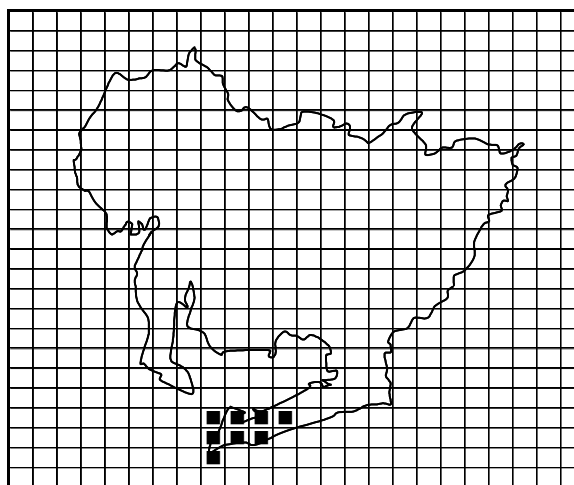
【国内の分布】

本州 (関東地方南部~愛知県) の海岸に分布する。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の草地や林縁に生育する。砂浜の後背地に見られることが多い。多少攪乱された場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は局限されており、個体数も少ない。本種の場合、地形の改変を伴わない軽度の攪乱は個体群の維持にとってかえって好都合と思われるが、大規模な開発行為があれば消滅は避けられない。

【保全上の留意点】

生育地周辺は観光地であり、今後も各種開発が想定される。個別的な配慮が必要である。

【特記事項】

コウゾリナ var. *japonica* に似ているが、秋に開花する。

【関連文献】

平草本III p.226, 平新版 5 p.284, SOS 旧版 p.88.



**アキノハハコグサ** *Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Burt

**【評価理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 13。全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県でも同様の状況である。総点は 13 であるが、出現状況が不安定であることを考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

**【形態】**

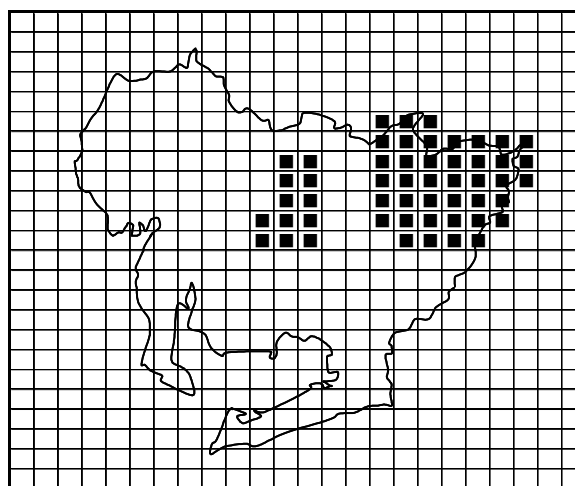
1 年生草本。茎は上部で分枝し、高さ 30~60cm、白い綿毛がある。葉は多数ついて互生し、披針形、長さ 4~5cm、幅 2.5~7mm、表面は緑色、裏面は密に白い綿毛があり、基部はやや茎を抱く。花期は 9~11 月、頭花は茎の先端に散房状に密集してつき、黄色、総苞は球鐘形で長さ 4mm、幅 6~7mm、小花はすべて筒状花である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：1 富山 (小林 54686, 1994-10-22)、2 豊根 (村松正雄 14659, 1993-10-23)、3 東栄 (小林 62281, 1997-9-14)、6 設楽西部 (小林 48561993-10-103)。西：5 稲武 (芹沢 85168, 2009-10-10)、24 豊田東部 (畑佐武司 6915, 2005-10-15)。7 設楽東部でも見たことがある。8 鳳来北東部 (塩瀬, 鳥居喜一 4342, 1978-9-28, HNSM)、10 鳳来北西部 (七郷町大島, 鳥居喜一 22382, 1940-9-29, HNSM)、11 作手 (鳥居喜一 22383, 1941-10-5, HNSM)、19 旭 (小馬山, 大原準之助 1315, 1951-10-7)、21 下山 (黒坂~神殿, 井波一雄 s.n., 1958-10-5, CBM71982)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 818, 1958-9-14)、29 岡崎北部 (上六名町, 高橋 孝 s.n., 1950-9-10)、50 名古屋北部 (東山公園, 稲垣貫一 s.n., 1936-10, CBM 115188) で採集された標本もある。

要配慮地区図



**【国内の分布】**

本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インド。

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地のやや乾いた日当たりのよい場所に生育する。しばしば林道わきの崖状地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況／減少の要因】**

点在しているが、どの場所でも個体数は少ない。大抵はどうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができない植物である。出現状況もしばしば不安定で、観察した翌年には消えてしまうことも多い。残されている標本から判断すれば、草地が広く存在していた時代には、あちこちに生育していたものと思われる。

**【保全上の留意点】**

本種が生育できる林道わきの安定した崖状地は、改修や拡幅により急速に失われている。過去に生育が確認されている場所の周辺では、林道の拡幅に際し配慮が必要である。

**【特記事項】**

ハハコグサも秋に開花することがあるが、それからは全体に大型で茎の上部で分枝し、葉が多数つき、表面が緑色であることで区別できる。ハハコグサは茎の下部で分枝することはあるが、上部で大きく分枝することはない。

**【関連文献】**

保草本 I p.73, 平草本III p.207, 平新版 5 p.349, 環境省 p.299, SOS 旧版 p.87.

キクアザミ *Saussurea ussuriensis* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。大陸系の植物で、愛知県では個体数が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30~120cm になる。根出葉や茎の下部の葉には長さ 5~20cm の柄があり、葉身は卵形で羽状に浅~中裂し、長さ 7~18cm、先端は鋭頭、基部は心形、質は硬い。茎葉は互生し、上のものほど小さく、細く、葉柄が短くなる。花期は 9~10 月、頭花は茎の先端に散房状につき、紅紫色、花柄は短く、総苞は長さ 12~13mm、総苞片は 5~7 列で、最外片は長楕円形または卵形で、先端は急に短くとがる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (小林 40438, 1992-10-14, 12 新城 (小林 65476, 1998-11-8)、15 豊橋北部 (小林 40450, 1992-11-14)、17 田原東部 (芹沢 53602, 1989-9-27)。ただし田原東部は、その後の調査では確認できなかった。11 作手 (野郷~本宮山, 鳥居喜一 4656, 1959-6-14, HNSM) で採集された標本もある。

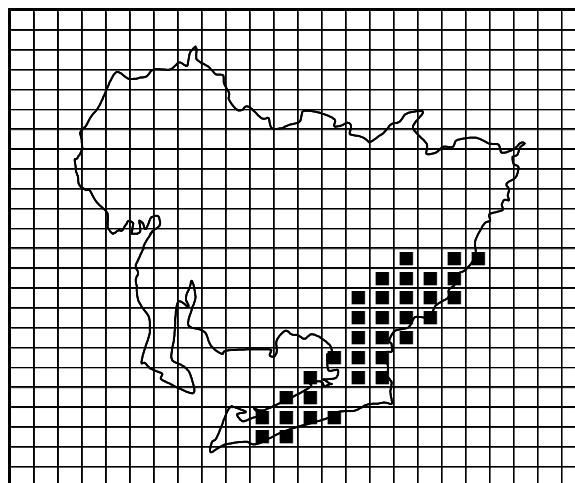
【国内の分布】

本州 (福島県以南)、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地や、明るい疎林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、個体数は極めて少なかった。草地の減少や二次林の生長により減少傾向が著しく、ほとんどの場所ですでに絶滅していると思われる。個体数階級と集団数階級は共に 4、総点 16、絶滅危惧 I A 類と評価する方が適切かもしれない。

【保全上の留意点】

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地 (カヤ場) は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。

【特記事項】

和名は、葉がキクのように切れ込むからである。

【関連文献】

保草本 I p.25, 平草本 III p.222, 平新版 5 p.260, SOS 旧版 p.88.

ミヤマシグレ *Viburnum urceolatum* Sieb. et Zucc. form. *procumbens* (Nakai) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。温帯性の低木で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の低木。茎は下部が這って根を出し、高さ 50cm 以下である。葉は対生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は卵形、長楕円形または卵状披針形、長さ 5~12cm、幅 3~6cm、先端は鋭頭、基部は円形または広くさび形、草質で、辺縁には低い鋸歯がある。花期は 6~7 月、当年枝の先端に直径 2.5~6cm の平らな散房花序をつくり、花冠はつぼ形または筒形、長さ 3~3.5mm、白色で上部は紅色である。核果はほぼ球形、長さ 6~8mm、赤く、のちに黒く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (芹沢 74845, 1998-8-22)。6 設楽西部 (段戸山, 岡田善敏 s.n., 1946-8-21) で採集された標本もある。

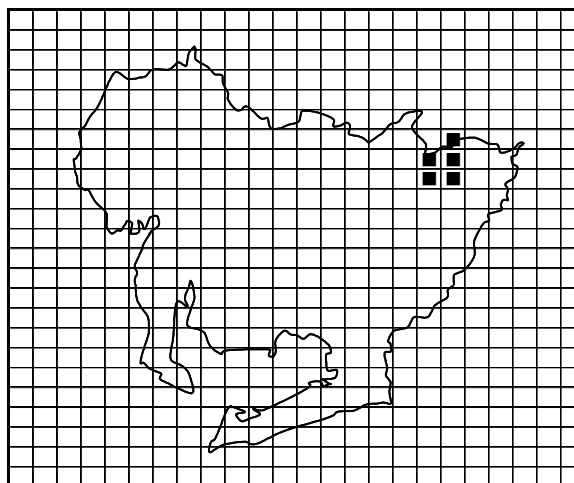
【国内の分布】

本州 (東北地方南部以西)、四国、九州の山地に生育する。西日本の山地の落葉広葉樹林内には、比較的多い植物である。

【世界の分布】

日本固有品種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内や崖状地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、ごく狭い範囲に少数の貧弱な個体が生育しているにすぎない。当面開発が想定される場所ではなく、採取圧もなさそうであるが、とにかく個体数が少なく、周辺ではニホンジカ (またはニホンカモシカ) による食害も顕在化しており、存続が危惧される。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。防護柵の設置も検討されるべきだが、本種の場合は生育地が林道から離れているので、資材の運搬が大変である。

【特記事項】

基準品種のヤマシグレは、茎が匍匐せず、高さ 2m 位になるもので、愛知県では確認されていない。

【関連文献】

保木本 I p.35, 平木本 II p.230, 平新版 5 p.408.

コウグイスカグラ *Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 14。愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ 2m くらいになる。葉は対生し、長さ 2~5mm の柄があり、葉身は楕円形、卵形または長楕円形、長さ 2~5cm、幅 1~2.5cm、先端は鋭頭、基部は広くさび形~円形、全縁で、両面に軟毛が多い。花期は 4~5 月、葉腋から細い柄をだし、その先に 2 個の花を下向きにつける。花冠は長い漏斗状で長さ 15~20mm、淡黄緑色、先端は 5 裂し、裂片は卵形で長さ 3~5mm である。果実は液果で、2 個ついてほとんど離生し、6~7 月に赤く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 36369, 1992-4-11)、8 鳳来北東部 (小林 64480, 1998-7-5)。

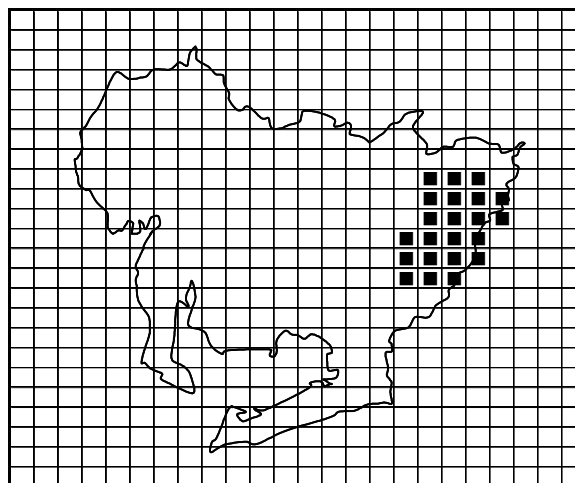
【国内の分布】

本州 (新潟県、宮城県以南)、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩場やガレ場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

造林地の中の岩場やガレ場に小群落があるという。近年の夏の高温乾燥により衰退傾向にあったようだが、それに加えて、「最近ニホンカモシカによる食害がひどく、盆栽状になった株も多くほとんど開花・結実は見られなくなってしまい、近い将来の絶滅が危惧される」と報告されている (小林 2006)。

【保全上の留意点】

最近の夏期の高温乾燥傾向は、岩場に生育する植物に多大な影響を与えている。自然現象には違いないが、追い打ちをかけないような配慮が必要である。また、草食獣の増加に対しては個体数調整などの対策が必要である。防護柵の設置も検討されるべきだが、本種の場合は生育地が林道から離れているので、資材の運搬が大変である。

【特記事項】

愛知県のものは葉がやや細く、キンキヒョウタンボク var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi に近づいた型である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.69. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本 I p.13, 平木本 II p.244, 平新版 5 p.420, SOS 旧版 p.84.

イワツクバネウツギ *Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino ex Ikuse et H.Kuros.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。やや隔離的に分布する植物で、県内では生育地も個体数も少ない。総点は 13 であるが、近年衰退傾向が著しいことを考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ 1~2m、枝には 6 条の縦溝がある。葉は対生し、長さ 4~7mm の柄があり、葉身は倒卵形、卵形または披針状長楕円形、長さ 2.5~7cm、幅 1~3.2cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は次第に細まり、辺縁は全縁または粗い鋸歯があり、両面に毛がある。花期は 5~6 月、若枝の先端に 2 花をつけ、花柄は長さ 3~6mm で、多くは合着する。がく片は倒披針形で 4 個、花冠は僅かに紅色を帯びた白色、筒部は長さ 8~15mm、先端は 4 裂し、裂片は半円形で長さ 2~3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 34187, 1990-5-20)、7 設楽東部 (小林 59968, 1996-8-11)、8 鳳来北東部 (小林 57740, 1995-8-12)、15 豊橋北部 (小林 51553, 1994-5-20)。

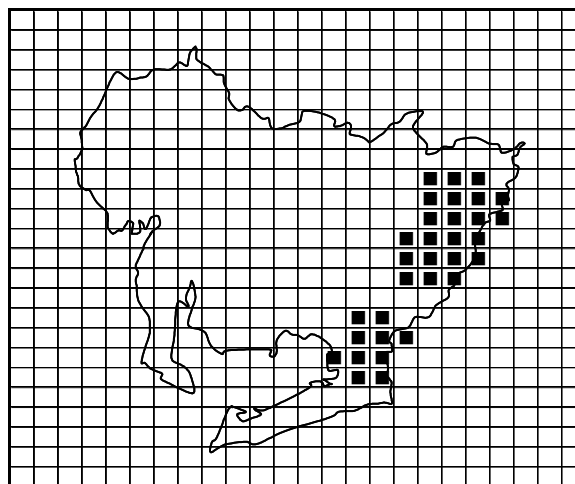
【国内の分布】

本州 (中西部)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。しばしば石灰岩地に見られる。愛知県では、流紋岩地か石灰岩地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するだけで、どの場所でも個体数は少ない。近年の夏の高温と乾燥により、相当衰退している。豊橋北部 (石巻山) では、岩登りなどの登山者によって枝が折られ、衰退に追い打ちをかけている。

【保全上の留意点】

最近の夏期の高温乾燥傾向は、岩場に生育する植物に多大な影響を与えている。自然現象には違いないが、追い打ちをかけないような配慮が必要である。また、希少な植物が生育する場所でのロックライミングには、細心の注意が必要である。

【特記事項】

ツクバネウツギ属に比べ、花冠筒部は途中でふくらまず、先は 4 裂し、ほぼ放射相称である。石巻山で撮影された写真が、「日本の野生植物」木本編 II 254 図版に掲載されている。

【関連文献】

保木本 I p.24, 平木本 II p.234, 平新版 5 p.428, 環境省 p.513, SOS 旧版 p.84.

ミシマサイコ *Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。全国的に減少傾向の著しい大陸系の草地性植物で、愛知県でも同様の状況である。

【形態】

多年生草本。茎は上部で分枝し、高さ 30~70cm になる。葉は根出するか互生し、根出葉には長い柄があるが茎葉は無柄、葉身は単葉で狭披針形~線形、長さ 4~15cm、幅 0.5~15mm、硬く全縁で平行脈がある。花期は 8~10 月、花序は複散形で小形、枝の先端につき、花は黄色で小花序に 5~10 個つく。果実は球形で、熟すと褐色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (芹沢 87902, 2012-9-21)、15 豊橋北部 (芹沢 67031, 1993-8-23)、17 田原東部 (芹沢 53019, 1989-9-1)、18 田原西部 (小林 48362, 1993-10-3)。西：36 西尾南部 (吉良町宮崎, 岡田 速 43, 1991-8-24) にもあったが絶滅した。9 鳳来南部 (吉川峠, 鳥居喜一 3604, 1970-9-6, HNSM) で採集された標本もある。

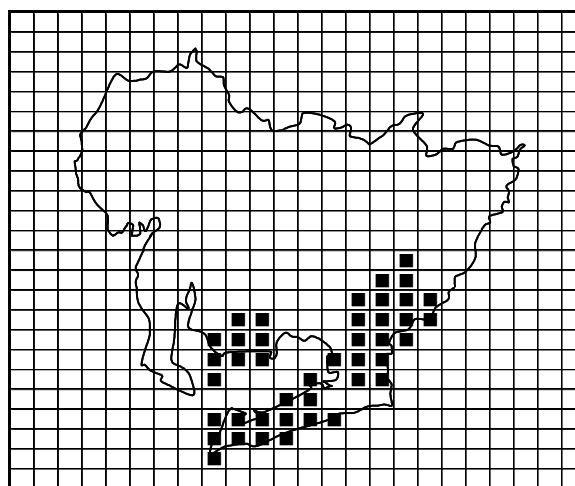
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。基準変種はサハリン、アムール、ウスリー、シベリア東部、中国大陸東北部、モンゴルに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少なく、しかも採草地の減少や超塩基性岩地の森林化の進行により減少している。西尾南部 (旧吉良町岡田) では、草地に大形の草本が密生し、見られなくなった。愛知県の場合、薬用目的の採取は減少の主要な要因というほどではない。

【保全上の留意点】

愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、本種を含めて多くの草地性植物の生育地になっているが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

漢方では根を解熱剤として用いる。

【関連文献】

保草本 II p.8, 平草本 II p.280, 平新版 5 p.392, 環境省 p.462, SOS 旧版 p.67.

ボタンボウフウ *Peucedanum japonicum* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 15。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は分枝して、高さ 60~100cm となる。葉は根生するか茎上に互生し、長い柄があり、葉身は 3 出葉か 1~2 回 3 出複葉、小葉は倒卵状くさび形、先端は 2~3 裂し、全縁または先端部だけに少数の鋸歯があり、無毛で蒼白色をおびる。花期は 7~9 月、花序は複散形で枝の先端につき、直径 4~10cm で、白色の花をつける。果実は楕円形で長さ 4~6mm、表面には短毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：44b 南知多（高木順夫 10996, 2003-7-20）。1 カ所に小群落がある。

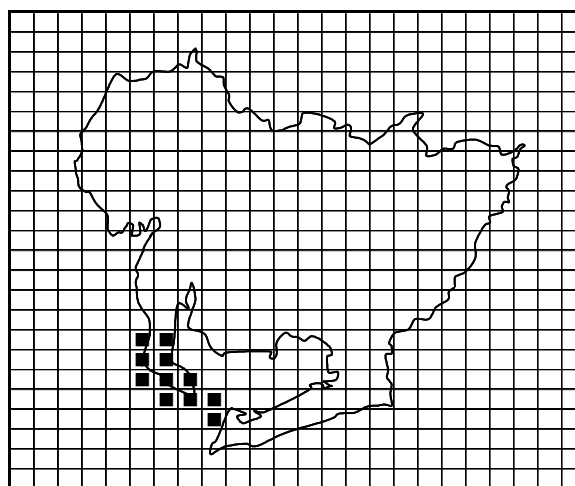
【国内の分布】

本州（関東地方南部および石川県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸、フィリピン。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の草地、崖状地などに生育する。愛知県の生育地は海岸の林縁である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数は少なく、しかも周辺に草木が茂っているため、開花する個体はほとんどなかった。観光開発により生育地のすぐそばまで土地が削られており、危機的な状況である。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、白緑色の葉がボタンに似ているからである。

【関連文献】

保草本 II p.30, 平草本 II p.290, 平新版 5 p.397, SOS 新版 p.146,148.

スギラン *Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 12。自然度の高い森林に依存する植物で、全国的に見ても減少傾向が著しい。伐採などの影響を受けやすく、園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。茎はまばらに叉状に分岐し、斜上して先端が下向きに垂れることも、斜め下に出て先端が立ち上がることもあり、長さは大きいもので 30cm をこえ、直径 3~5mm、わら色か緑色で、多数の葉をらせん状につける。葉は開出または斜上し、線形~狭披針形、長さ 1~2cm、全縁、革質で緑色~深緑色である。胞子のうは枝端近くの葉の基部につき、胞子葉は栄養葉よりやや小さい。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 57087, 1995-6-10), 6 設楽西部 (芹沢 34361, 1982-11-11)、8 鳳来北東部 (村松正雄 14910, 1993-12-24)。西：5 稲武 (芹沢 82141, 2007-9-1)、19 旭 (塚本威彦 561, 1993-5-16)。2 豊根 (茶臼山, 加藤等次 s.n., 1966-6-9)、4 津具 (石田雄吉 2, 1979-10-23)、12 新城 (富岡, 加藤等次 s.n., 1963-9-8)、13 豊川 (本宮山, 鳥居喜一 30071, 1955-10-30, HNSM) で採集された標本もある。これらのうち津具の標本は、他に比べ葉がやや幅広い。

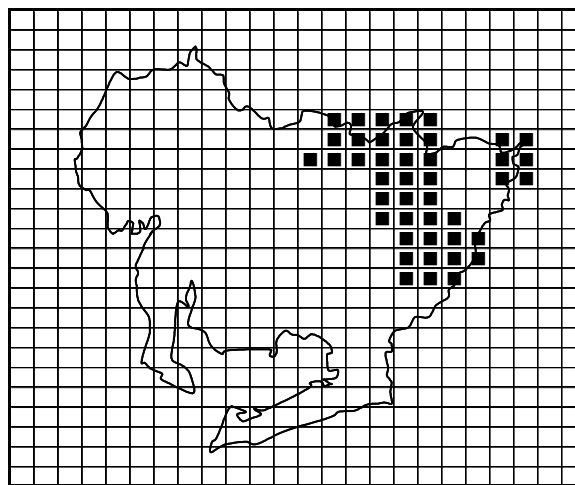
【国内の分布】

北海道東部から屋久島にかけて分布する。

【世界の分布】

日本、濟州島、台湾。インドからも記録されている。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常深山の沢沿いの自然林の樹幹に着生するが、岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの生育地も個体数が少なく、ある程度の量があって確実に観察できるのは愛知県内では 1 カ所だけである。第二次大戦後の自然林が広範囲に伐採された時期には、それにより著しく減少したものと思われるが、現在は園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存するだけである。現在残っている林は、嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、スギの枝に似た形の着生植物だからである。樹幹に着生するヒカゲノカズラ類としては、最も北まで分布する。

【関連文献】

保シダ p.10, 平シダ p.45, 学シダ I p.265, 環境省 p.364, SOS 旧版 p.35+図版 2.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 58-62. 東京大学出版会, 東京.